

# 第50回 市政世論調査

(令和5年度)



新 潟 市



## < 目 次 >

I 調 査 概 要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の項目	3
3. 調査の設計	3
4. 集計・分析にあたって	3
5. 回収結果	4
6. 区（行政区）の範囲	5
7. 回答者の特性	6
8. 回答者の特性（地区別集計）	7
II 調 査 結 果	9
1. 新潟市子ども条例について	11
（1）新潟市子ども条例の認知度	11
（2）守られている子どもの権利	13
（3）お子さんの考えや意見の理解と尊重	17
（4）子どもを取り巻く課題	19
（5）子どもの権利を守るために必要なこと	24
2. 新潟市の公共施設のこれからについて	28
（1）公共施設の利用頻度と主な交通手段	28
（2）公共施設を取り巻く課題等の認知度	48
（3）公共施設を維持する取り組み	51
（4）公共施設を利用する場合の自宅からの範囲	57
3. 音楽とのかかわりについて	63
（1）音楽とのふれあい	63
（2）ふれている音楽	66
（3）音楽に関する環境の充実度	69
（4）「スポーツと音楽都市」として必要なもの	71
（5）音楽とともに楽しみたいもの	76
4. こころの健康について	79
（1）日常生活の悩みやストレス	79
（2）悩みやストレスを感じる原因	81
（3）最近1年以内に死にたいと思ったこと	84

(4) 悩みがあるときや死にたいと思ったときの相談相手 .....	86
(5) 相談機関の認知度 .....	89
5. 空き家について .....	92
(1) 地域の空き家の今後 .....	92
(2) 空き家対策の取り組みの認知状況 .....	95
(3) 必要だと思う空き家対策 .....	98
(4) 空き家の所有者（管理者）になる可能性の認知度 .....	101
(5) 空き家にしないための話し合い .....	103
6. 市政全般と区政について .....	105
(1) 新潟市として良くなっているもの .....	105
(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの .....	113
(3) 区として良くなっているもの .....	121
(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの .....	129
Ⅲ 調査票様式 .....	137



# I 調 査 概 要



## 1. 調査の目的

この調査は、市民生活の現状、市民の市政に対する意識、満足度、要望などを把握し、今後の市政運営の基礎資料を得る目的で実施する。

## 2. 調査の項目

(1) 新潟市子ども条例について	本質問	5問
(2) 新潟市の公共施設のこれからについて	本質問	4問
(3) 音楽とのかかわりについて	本質問	5問
(4) こころの健康について	本質問	5問
(5) 空き家について	本質問	5問
(6) 市政全般と区政について	本質問	1問
(7) 対象者属性	本質問	5問

## 3. 調査の設計

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：令和5年3月末現在の住民基本台帳に登録されている15歳以上の市民
- (3) 標本数：4,000人
- (4) 抽出方法：単純無作為抽出法
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付、回収とも）、インターネット回答法（回答のみ）
- (6) 調査期間：令和5年8月10日～8月31日

## 4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

## 5. 回収結果

### (1) 区（行政区）について

新潟市は平成19年4月の政令指定都市移行にともない8つの区（行政区）を設置している。

今回の調査では、対象者の居住地を8つの「区（行政区）」（次頁区分図参照）に分け、集計・分析を行った。

### (2) 回収結果

	母集団 (人)	母集団 構成比	標本数 (人)	有効 回収数	有効 回収率
市全体	682,105	100.0%	4,000	2,093	52.3%
北 区	63,612	9.3%	391	190	48.6%
東 区	117,350	17.2%	623	318	51.0%
中央区	153,429	22.4%	923	479	51.9%
江南区	59,467	8.7%	363	180	49.6%
秋葉区	66,128	9.7%	378	198	52.4%
南 区	38,152	5.6%	251	131	52.2%
西 区	135,447	19.9%	787	430	54.6%
西蒲区	48,520	7.1%	284	147	51.8%
区名無回答				20	

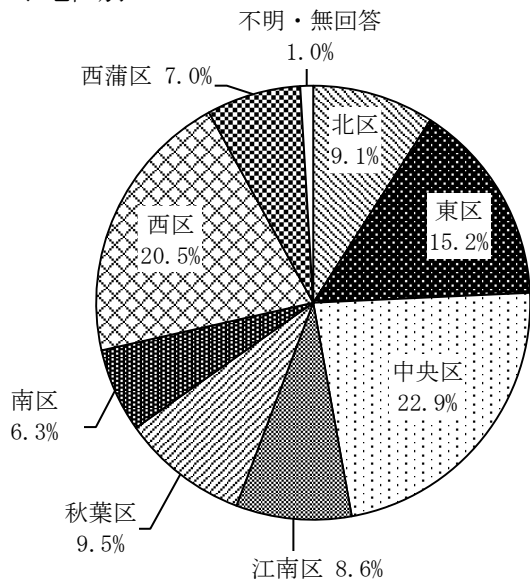
## 6. 区（行政区）の範囲

<区分図>

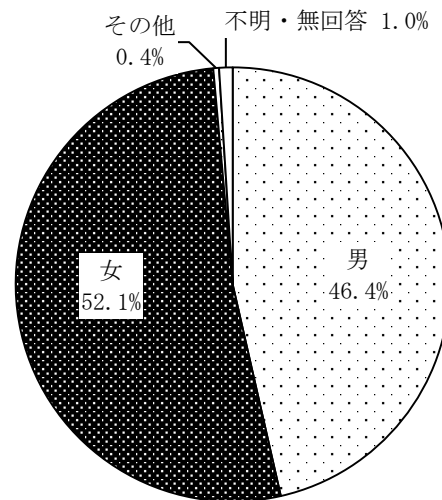


## 7. 回答者の特性

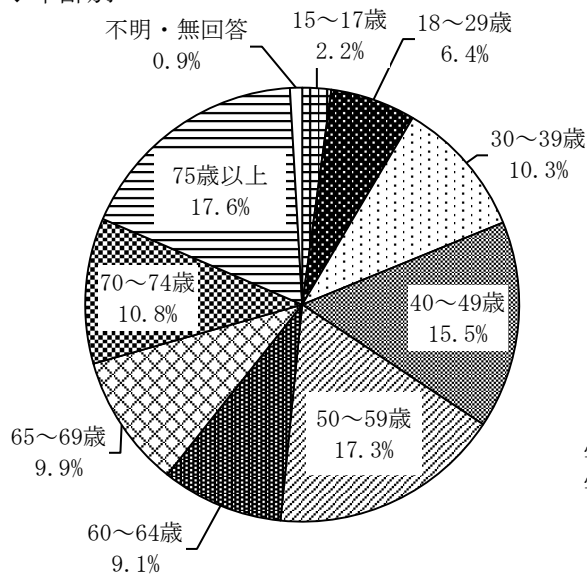
◆地区別



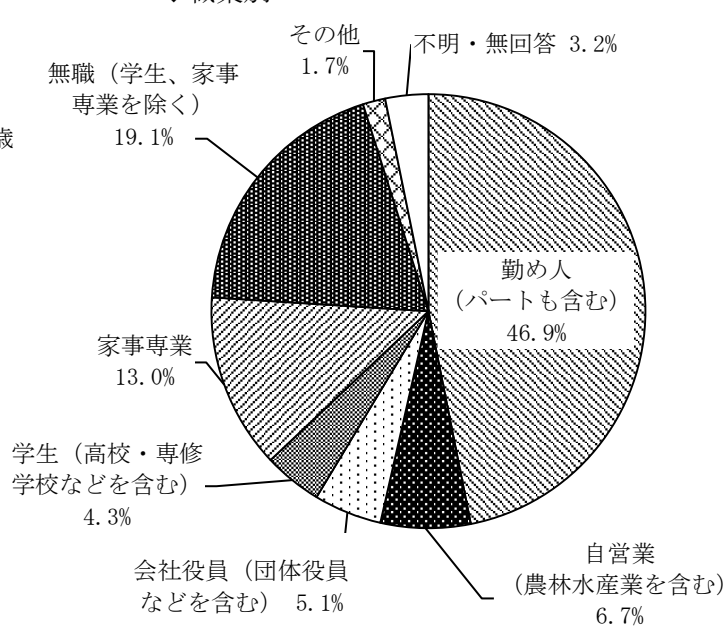
◆性別



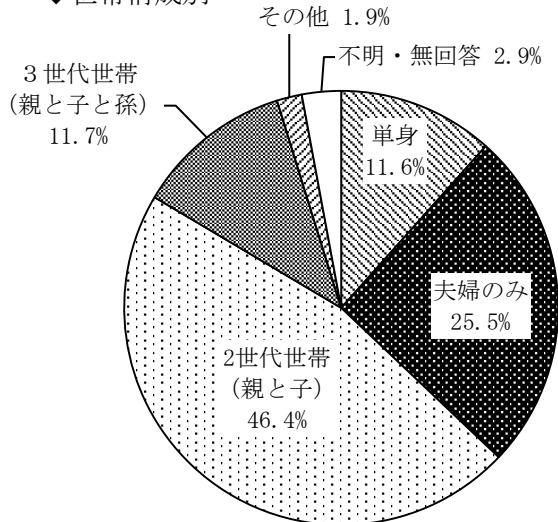
◆年齢別



◆職業別

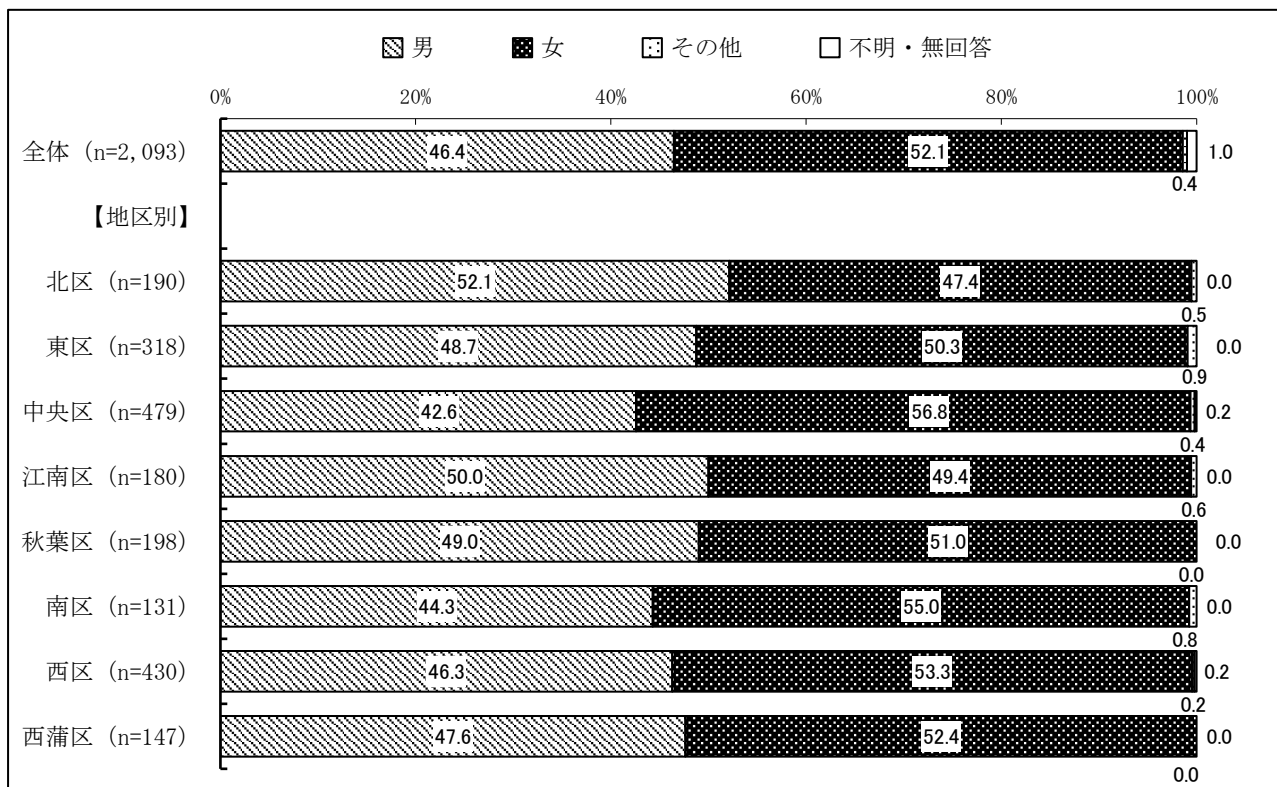


◆世帯構成別

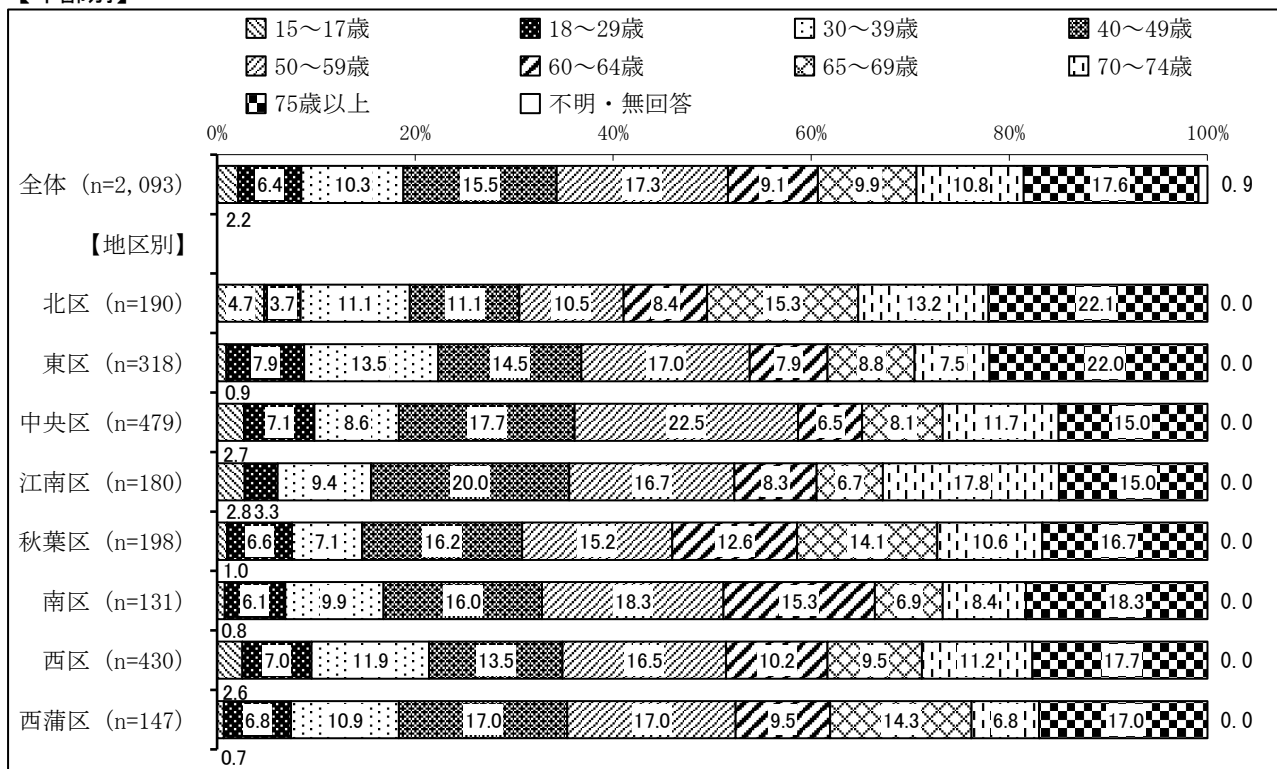


## 8. 回答者の特性（地区別集計）

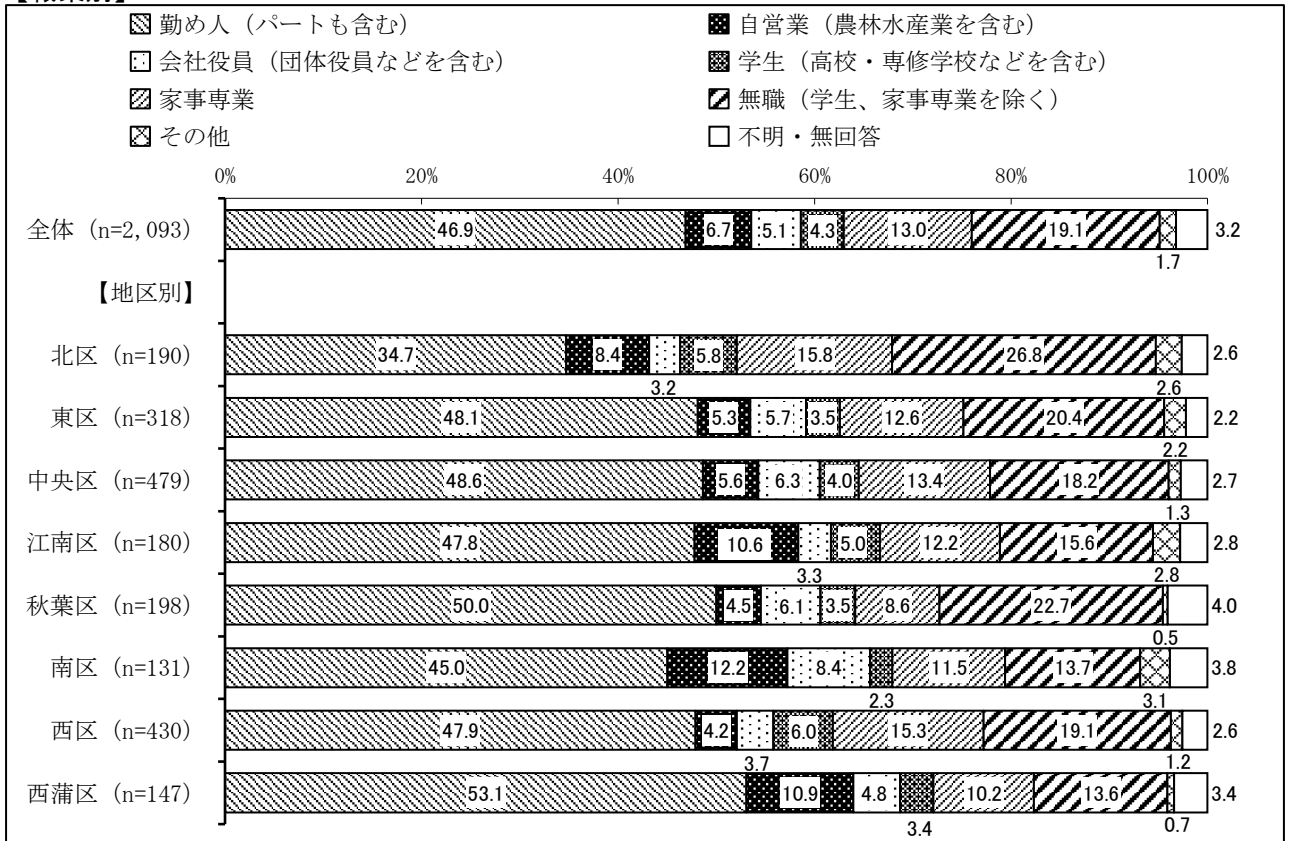
### 【性別】



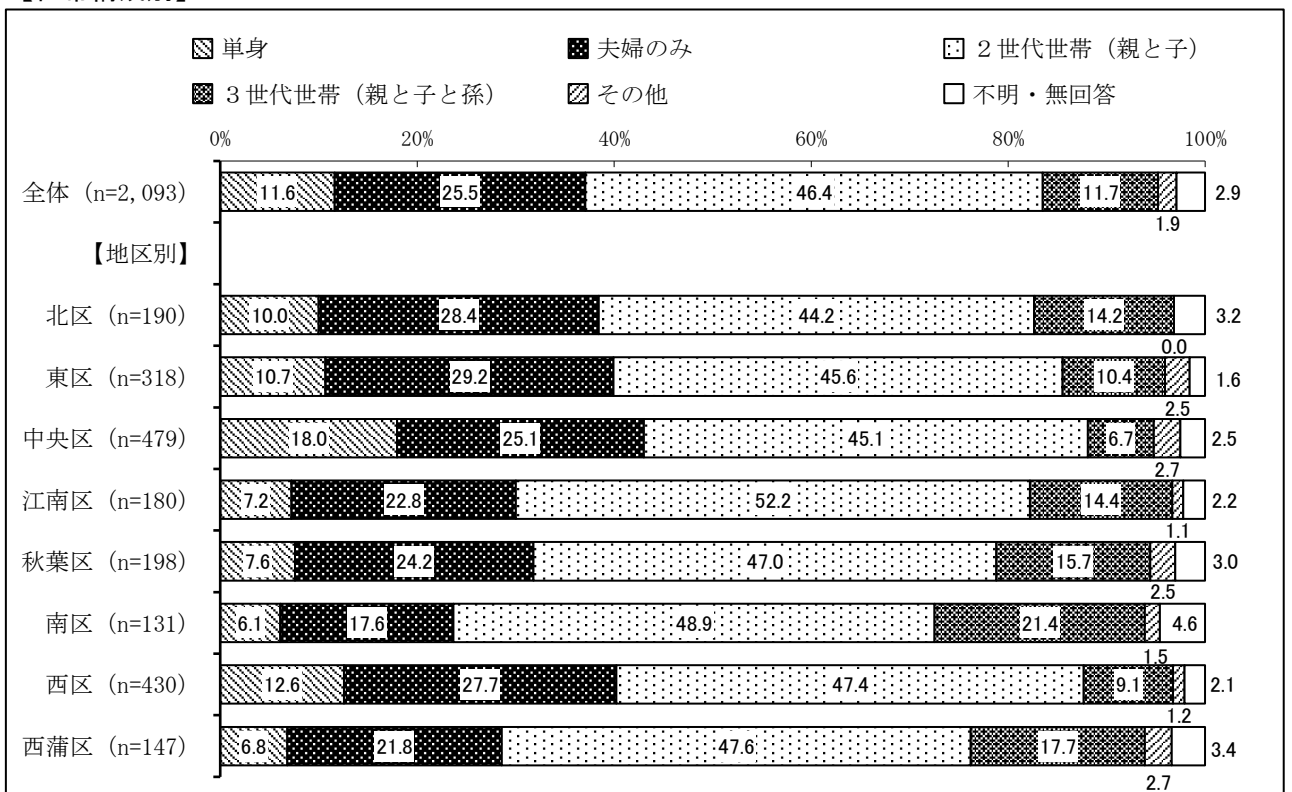
### 【年齢別】



【職業別】



【世帯構成別】





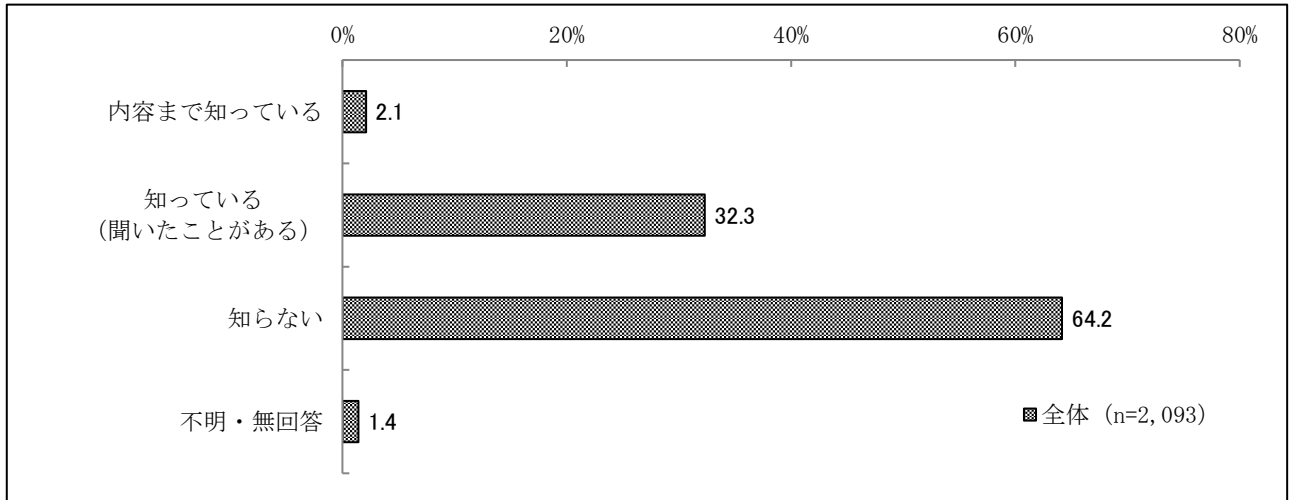
## II 調查結果



# 1. 新潟市子ども条例について

## (1) 新潟市子ども条例の認知度

問1 あなたは「新潟市子ども条例」を知っていますか。(○は1つだけ)



— 3割半ばが子ども条例に関する情報を「知っている」 —

### 【全体結果】

「内容まで知っている」と「知っている (聞いたことがある)」を合わせた『知っている』 (34.4%) は、3割半ばとなった。「知らない」 (64.2%) は、6割半ばとなった。

### 【属性別結果】 (次ページ図 1-1 参照)

#### ① 地区別

『知っている』の割合は、秋葉区 (37.4%)、西区 (36.5%) で高かった。

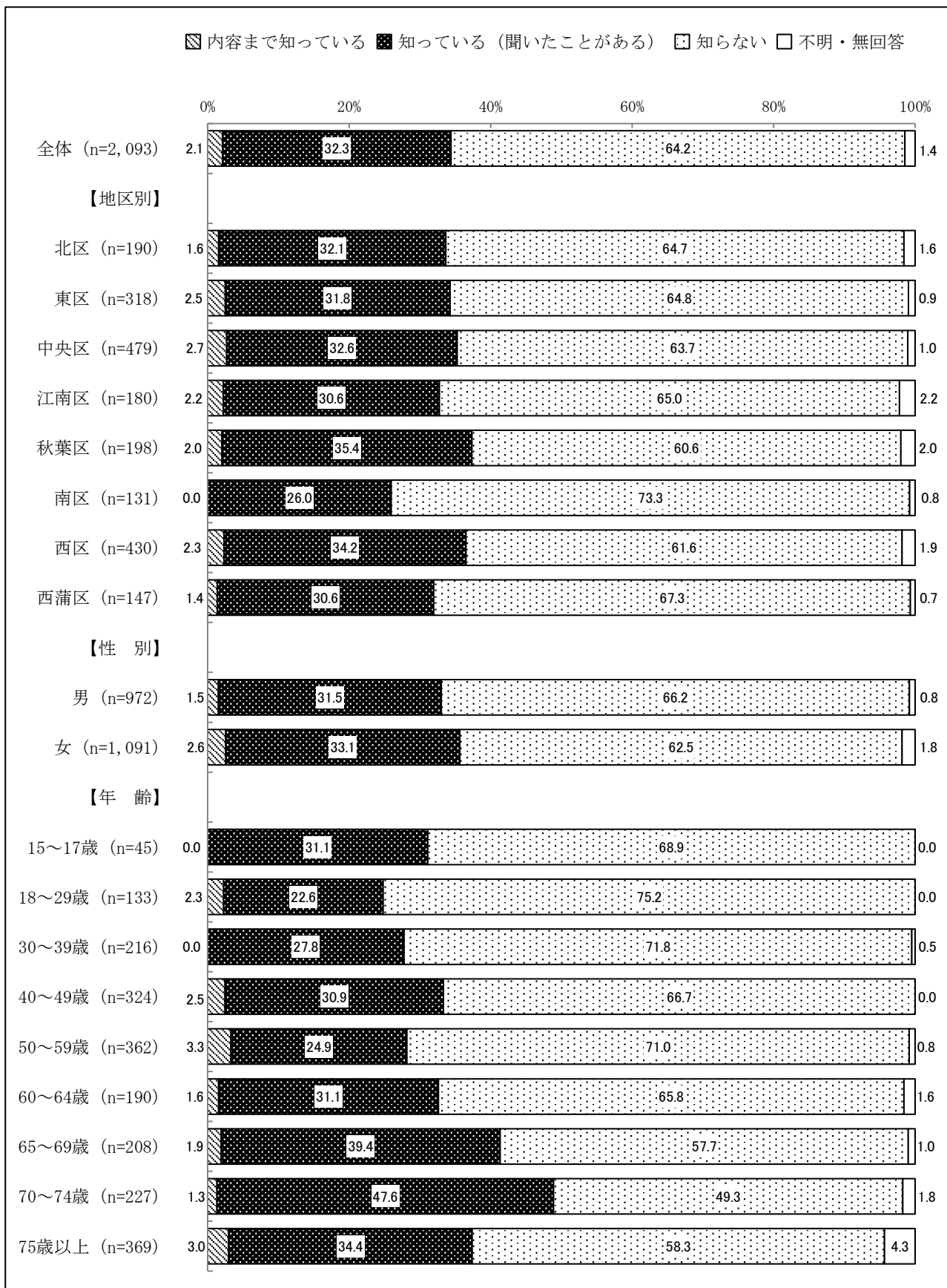
#### ② 性別

『知っている』は、男性 (33.0%) と比較して女性 (35.7%) で割合がやや高かった。

#### ③ 年齢別

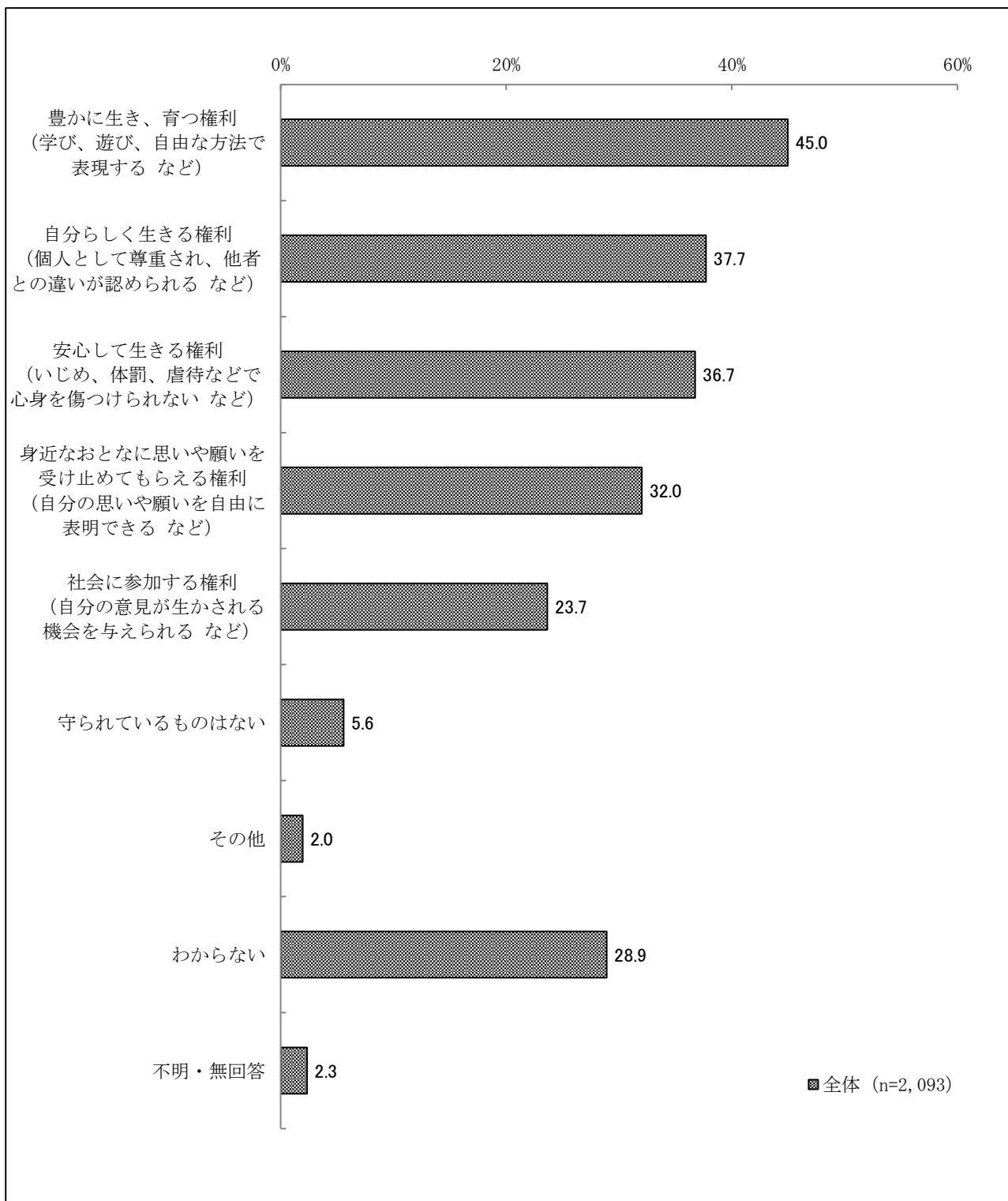
年齢別では、『知っている』の割合が70～74歳 (48.9%) で最も高かった。最も低いのは18～29歳で (24.8%) となっている。

図 1-1 新潟市子ども条例の認知度（地区別/性別/年齢別）



## (2) 守られている子どもの権利

問2 あなたのお子さんや周りのお子さん(18歳未満の方が回答する場合は「あなた自身」)について、日々の生活のなかで、以下の子どもの権利は守られていると思いますか。  
(○はいくつでも)



## — 守られている権利は「豊かに生き、育つ権利」が4割半ばでトップ —

### 【全体結果】

「豊かに生き、育つ権利（学び、遊び、自由な方法で表現する など）」（45.0%）の割合が高く、4割半ばとなった。一方、割合が低かったのは「社会に参加する権利（自分の意見が活かされる機会を与えられる など）」（23.7%）であった。

### 【属性別結果】（次ページ図 1-2 参照）

#### ① 地区別

南区以外の地区で「豊かに生き、育つ権利（学び、遊び、自由な方法で表現する など）」の割合が最も高かった。南区では「安心して生きる権利（いじめ、体罰、虐待などで心身を傷つけられない など）」の割合が最も高かった。

#### ② 性別

性別での大きな差はみられなかった。

#### ③ 年齢別

「豊かに生き、育つ権利（学び、遊び、自由な方法で表現する など）」は15～17歳（77.8%）の割合が最も高く、8割弱となった。15～17歳は「守られているものはない」以外、すべての項目で他の世代より割合が高く、差が大きかった。

図 1-2 守られている子どもの権利（地区別/性別/年齢別） 1/2

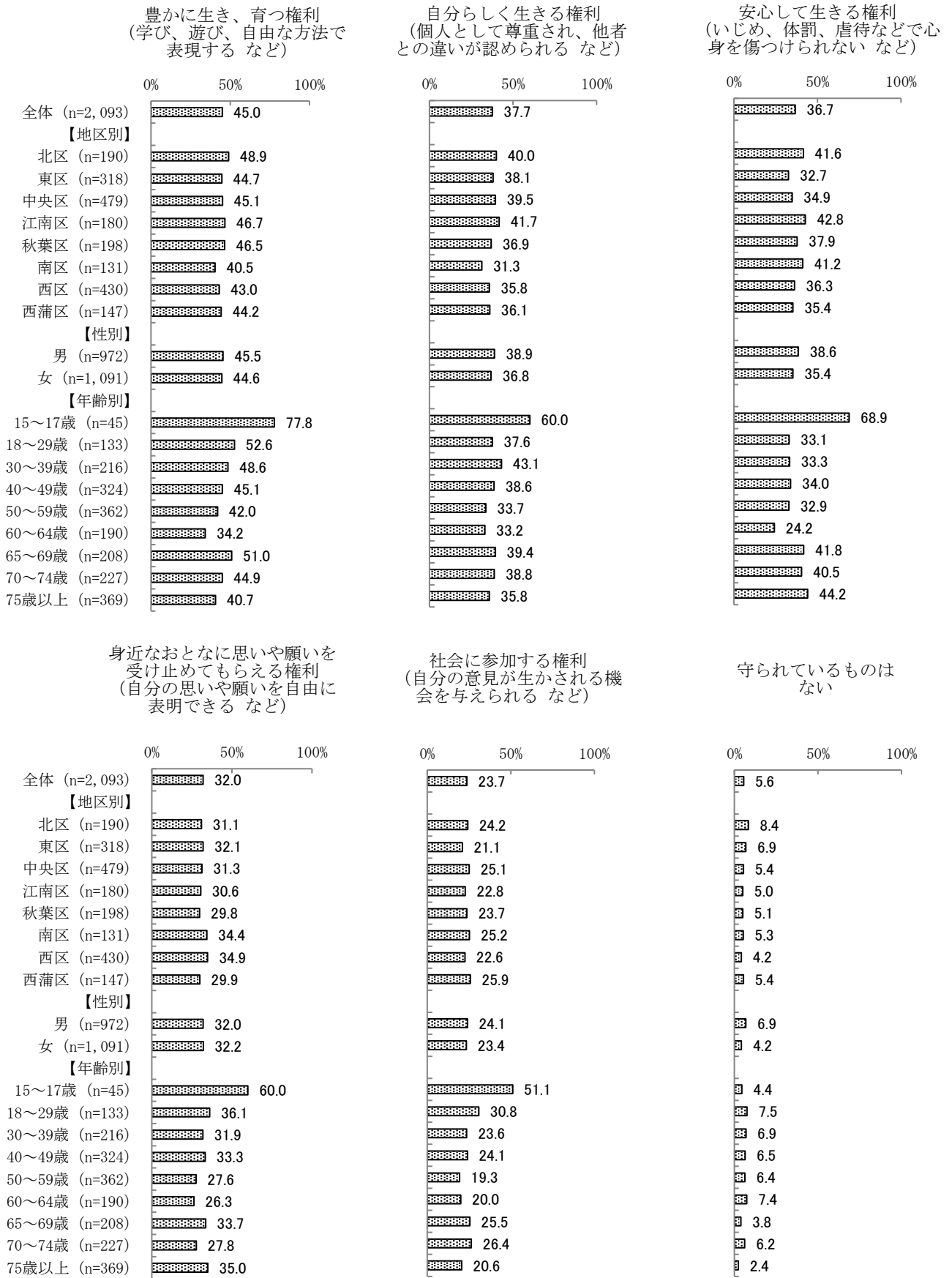
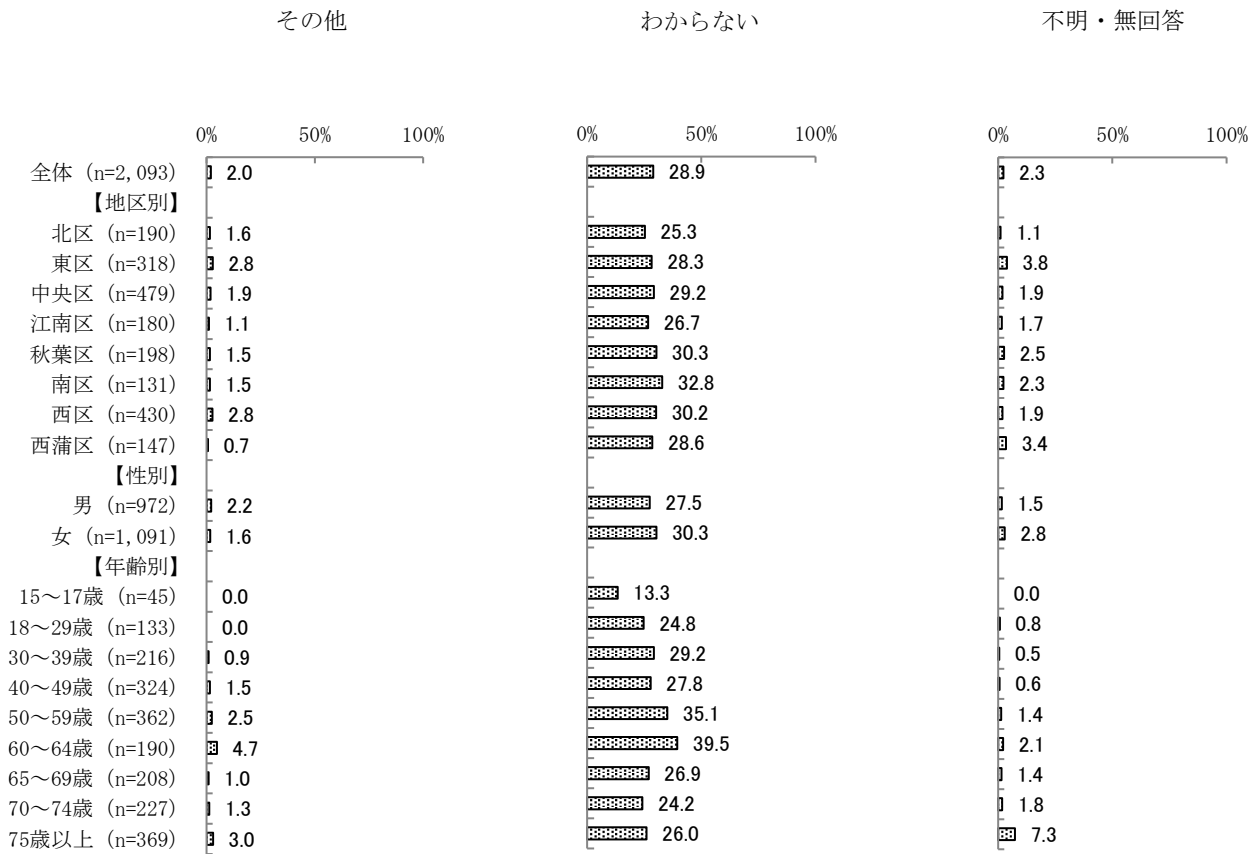


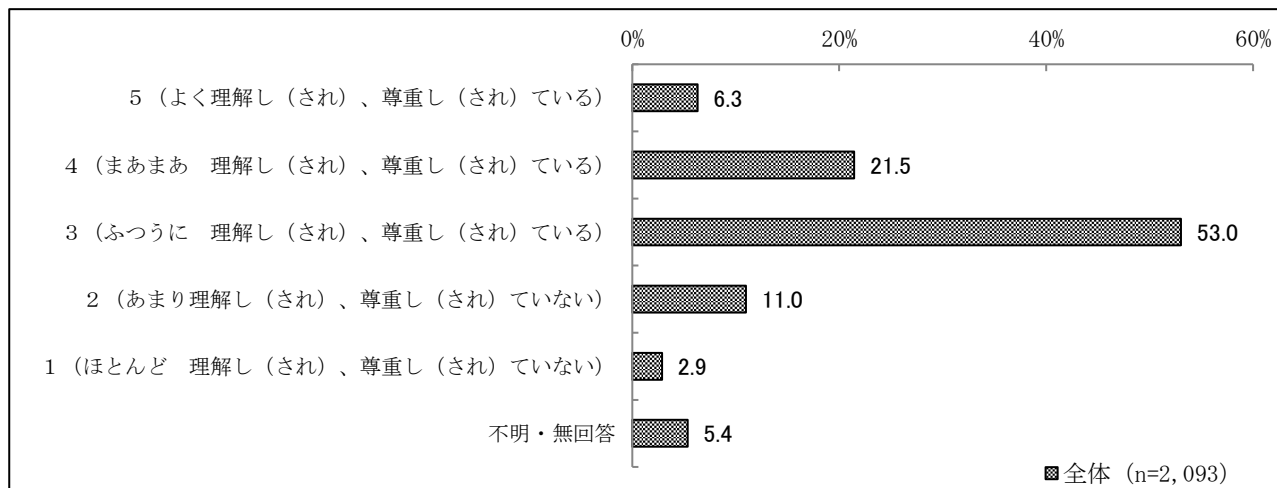
図 1-2 守られている子どもの権利（地区別/性別/年齢別） 2/2





### (3) お子さんの考えや意見の理解と尊重

問3 あなたのお子さんや周りのお子さんについて、お子さんの考えや意見を理解し、尊重して（18歳未満の方が回答する場合は、「あなた自身の考えや意見が、理解され、尊重されて」と）いると思いますか。  
「よく理解し（され）、尊重し（され）ている」を「5」とする5段階評価で、一番あてはまるものを1つだけ選択してください。



— 『理解し（され）、尊重し（され）ている』が約8割 —

#### 【全体結果】

「よく理解し（され）、尊重し（され）ている」（6.3%）、「まあまあ理解し（され）、尊重し（され）ている」（21.5%）、「ふつうに理解し（され）、尊重し（され）ている」（53.0%）を合わせた『理解し（され）、尊重し（され）ている』（80.8%）は全体の約8割となった。「あまり理解し（され）、尊重し（され）ていない」（11.0%）、「ほとんど理解し（され）、尊重し（され）ていない」（2.9%）を合わせた『理解し（され）、尊重し（され）ていない』（13.9%）は1割強となった。

#### 【属性別結果】（次ページ図1-3参照）

##### ① 地区別

全ての地域において『理解し（され）、尊重し（され）ている』の割合が高く、7割を超えた。『理解し（され）、尊重し（され）ていない』の割合は、中央区（15.4%）で最も高かった。

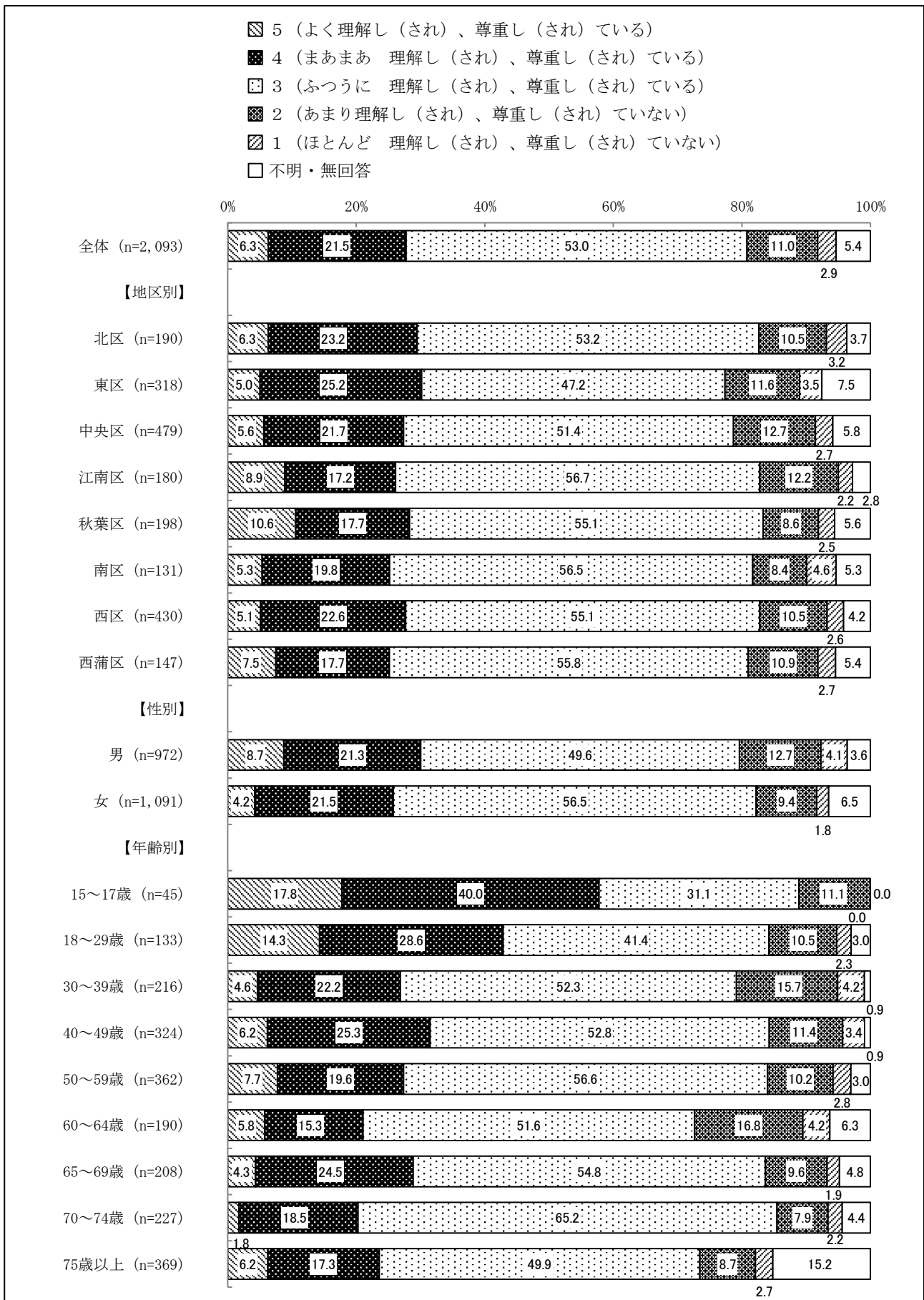
##### ② 性別

『理解し（され）、尊重し（され）ている』の割合は、男性（79.6%）と比較して女性（82.2%）で高かった。

##### ③ 年齢別

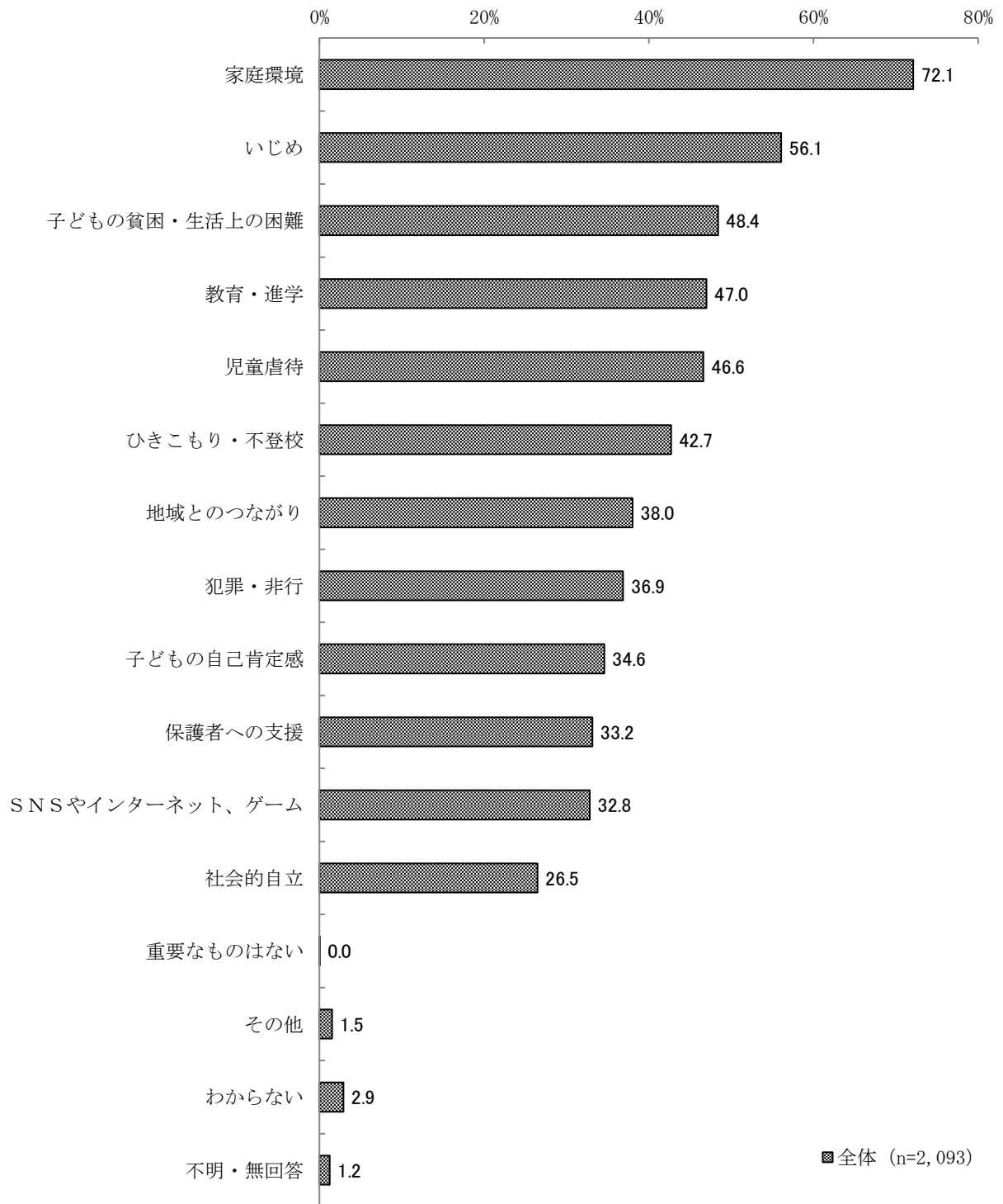
『理解し（され）、尊重し（され）ている』の割合は、15～17歳（88.9%）で最も高く、約9割となった。

図 1-3 お子さんの考えや意見の理解と尊重（地区別/性別/年齢別）



#### (4) 子どもを取り巻く課題

問4 子どもを取り巻く課題として重要だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)



## — 子どもを取り巻く課題は「家庭環境」が約7割でトップ —

### 【全体結果】

子どもを取り巻く課題として重要だと思うものとして「家庭環境」（72.1%）の割合が最も高く、約7割となった。次いで、「いじめ」（56.1%）、「子どもの貧困・生活上の困難」（48.4%）、「教育・進学」（47.0%）、「児童虐待」（46.6%）の順となった。

「重要なものはない」と答えた人はわずかに1人（0.05%）だった。

### 【属性別結果】（次ページ図1-4参照）

#### ① 地区別

「家庭環境」の割合は西区（76.7%）、中央区（73.3%）、東区（72.0%）、南区（71.0%）、北区（70.5%）で7割を超えている。「いじめ」の割合は、西蒲区（46.9%）で低く、唯一5割に満たなかった。

#### ② 性別

「子どもの自己肯定感」の割合は、男性（30.6%）よりも女性（38.5%）で高かった。

#### ③ 年齢別

「保護者への支援」の割合は、30～39歳（49.5%）で最も高かった。「家庭環境」、「保護者への支援」、「地域とのつながり」以外は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられた。

図 1-4 子どもを取り巻く課題（地区別/性別/年齢別） 1/3

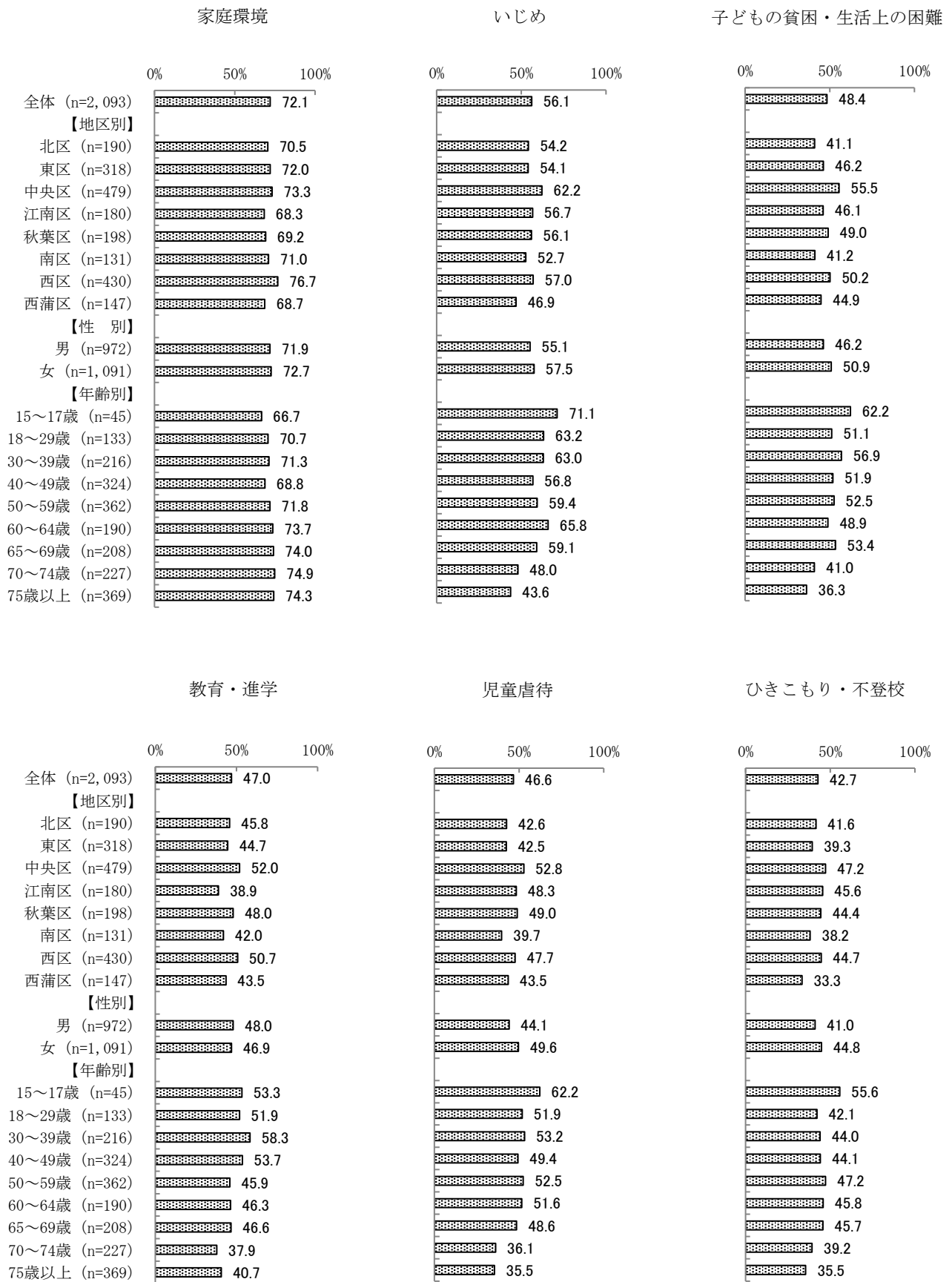


図 1-4 子どもを取り巻く課題（地区別/性別/年齢別） 2/3

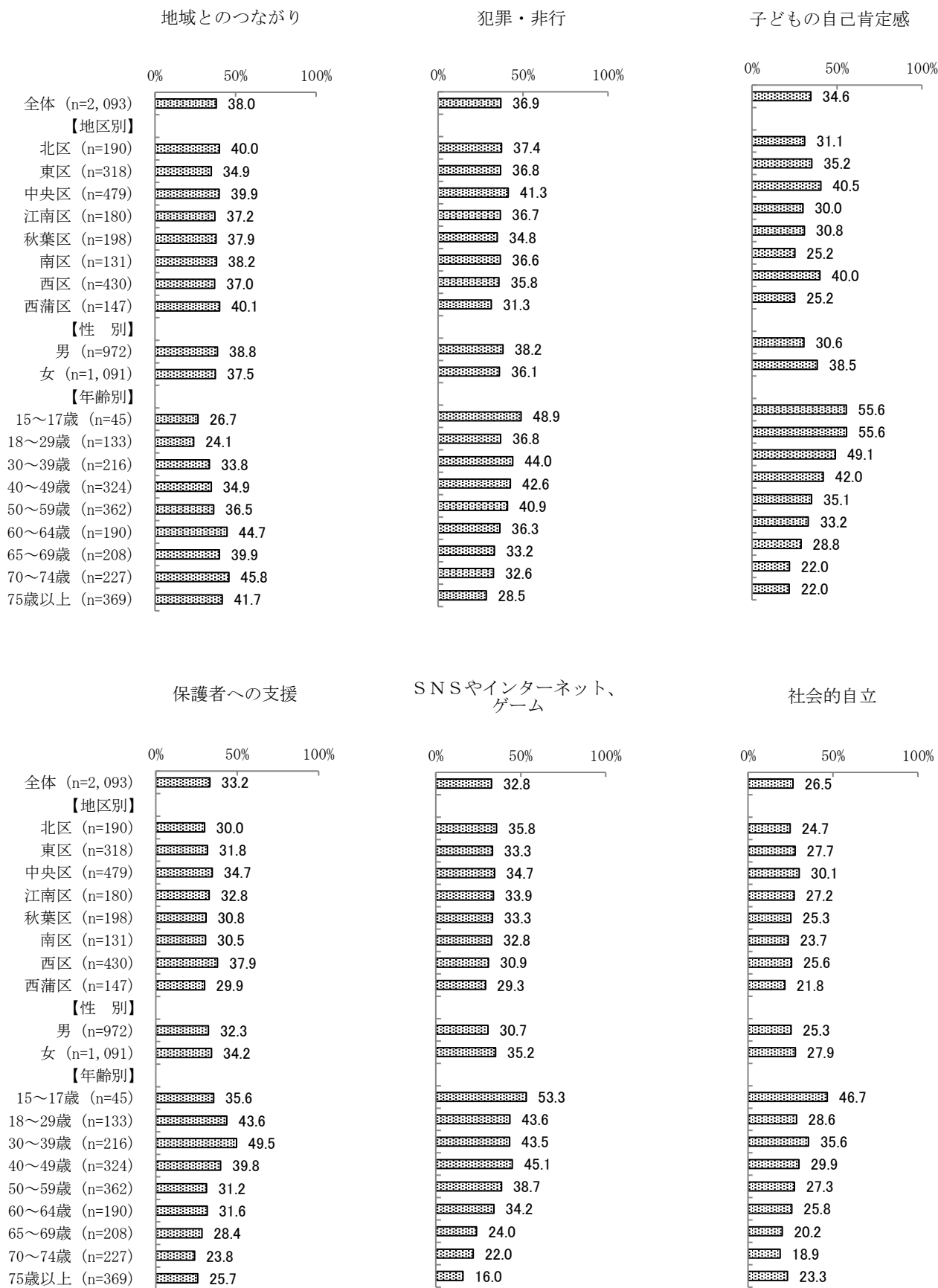
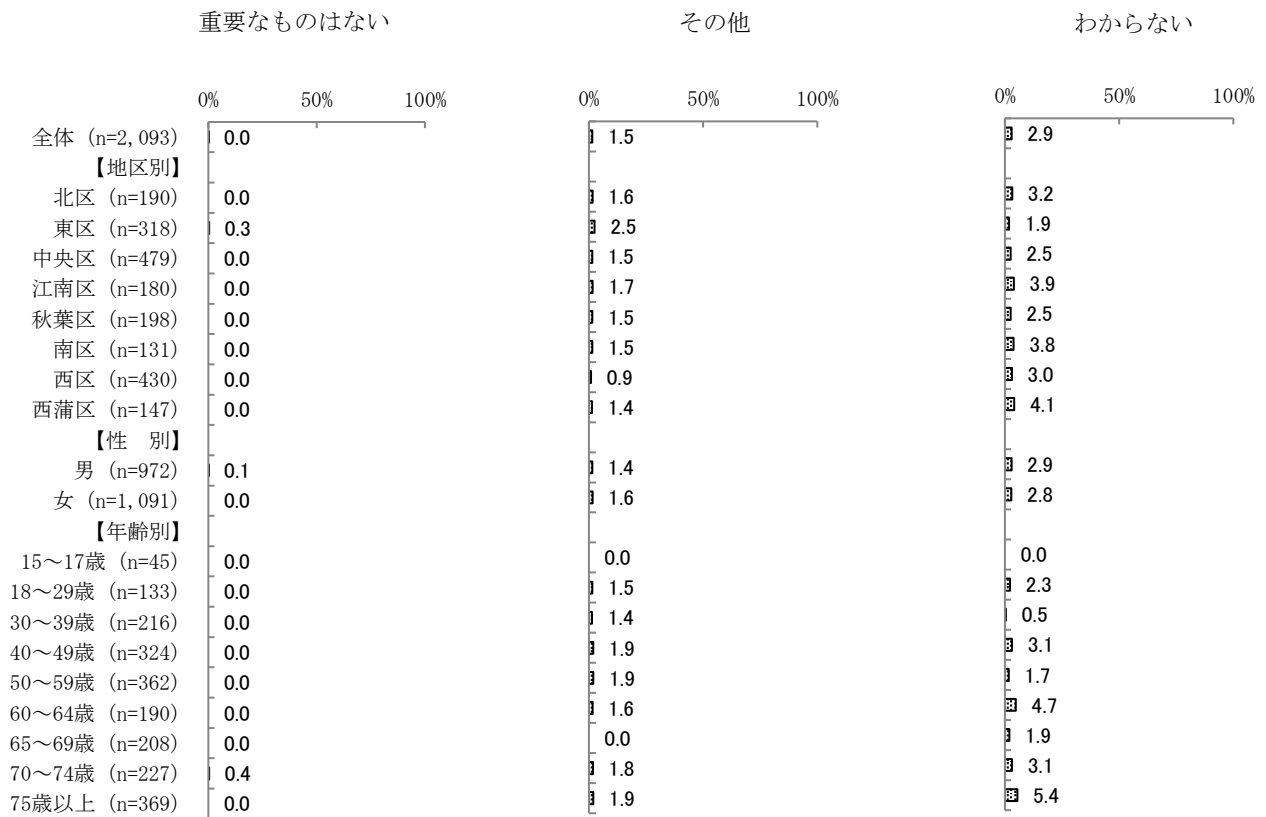
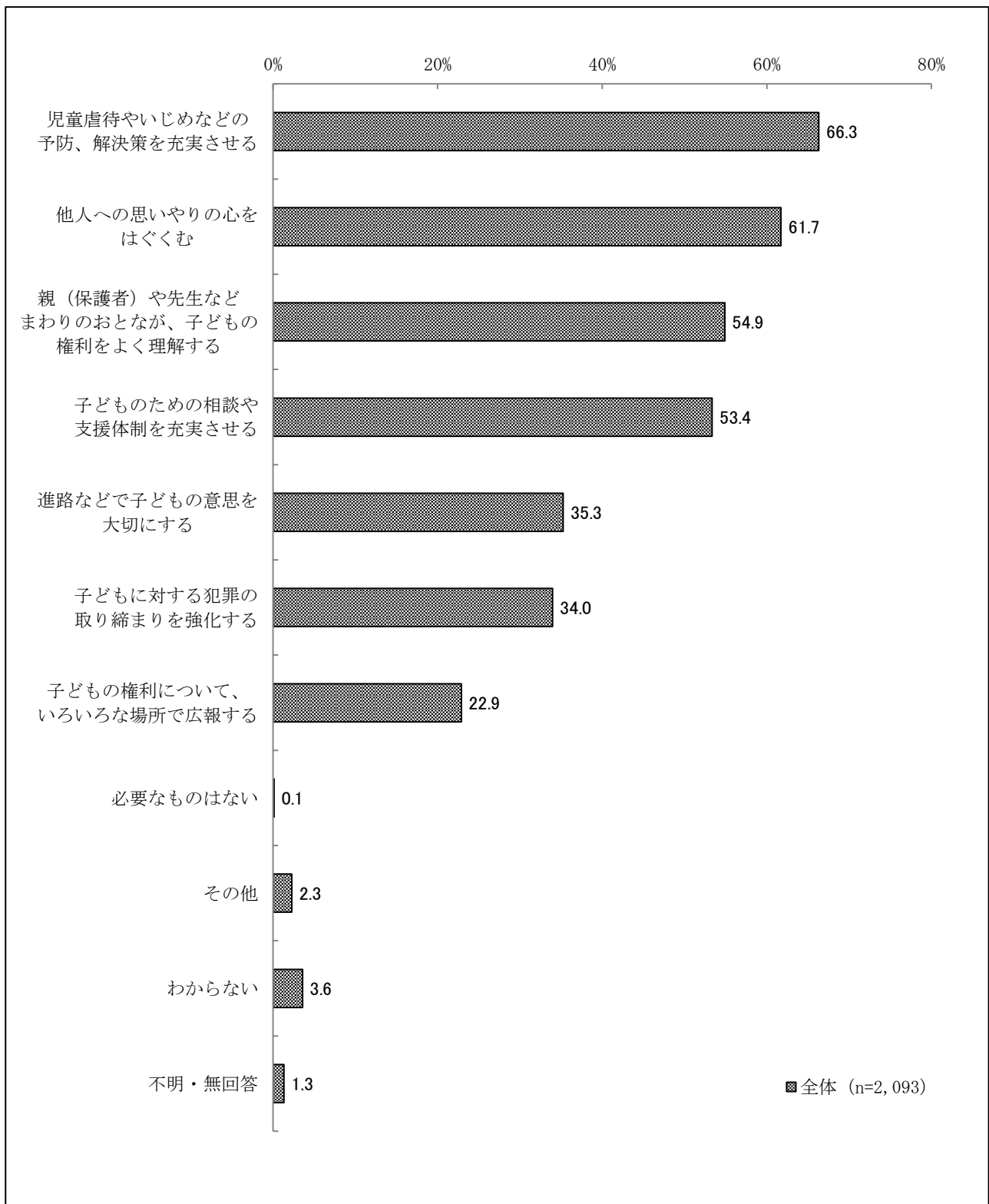


図 1-4 子どもを取り巻く課題（地区別/性別/年齢別） 3/3



### (5) 子どもの権利を守るために必要なこと

問5 子どもの権利を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)





## — 「児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる」が6割半ばでトップ —

### 【全体結果】

「児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる」（66.3%）の割合が最も高く、6割半ばとなった。次いで、「他人への思いやりの心をはぐくむ」（61.7%）、「親（保護者）や先生などまわりのおとなが、子どもの権利をよく理解する」（54.9%）、「子どものための相談や支援体制を充実させる」（53.4%）の順で割合が高かった。

### 【属性別結果】（次ページ図 1-5 参照）

#### ① 地区別

北区では「他人への思いやりの心をはぐくむ」（67.4%）の割合が最も高く、他の区は「児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる」の割合が最も高かった。どの区でも、この2つの項目の割合が高かった。

#### ② 性別

「親（保護者）や先生などまわりのおとなが、子どもの権利をよく理解する」の割合は、男性（52.3%）と比較して女性（57.6%）で高かった。他は、性別での大きな差はみられなかった。

#### ③ 年齢別

15～17歳は、「他人への思いやりの心をはぐくむ」（71.1%）の割合が最も高く、次いで、「親（保護者）や先生などまわりのおとなが、子どもの権利をよく理解する」（64.4%）、「子どものための相談や支援体制を充実させる」、「進路などで子どもの意思を大切にする」（いずれも 62.2%）の順に高く、他の世代との違いが見られた。

図 1-5 子どもの権利を守るために必要なこと（地区別/性別/年齢別） 1/2

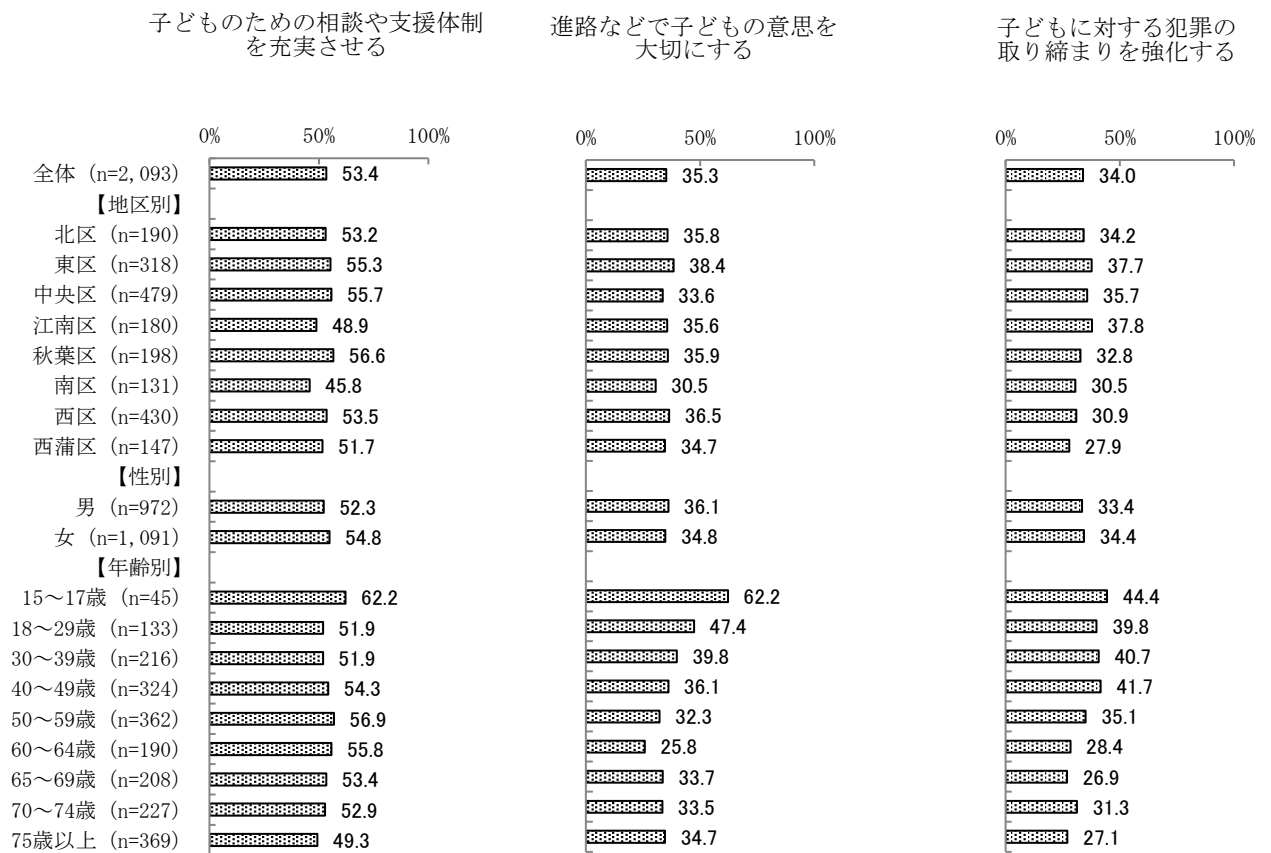
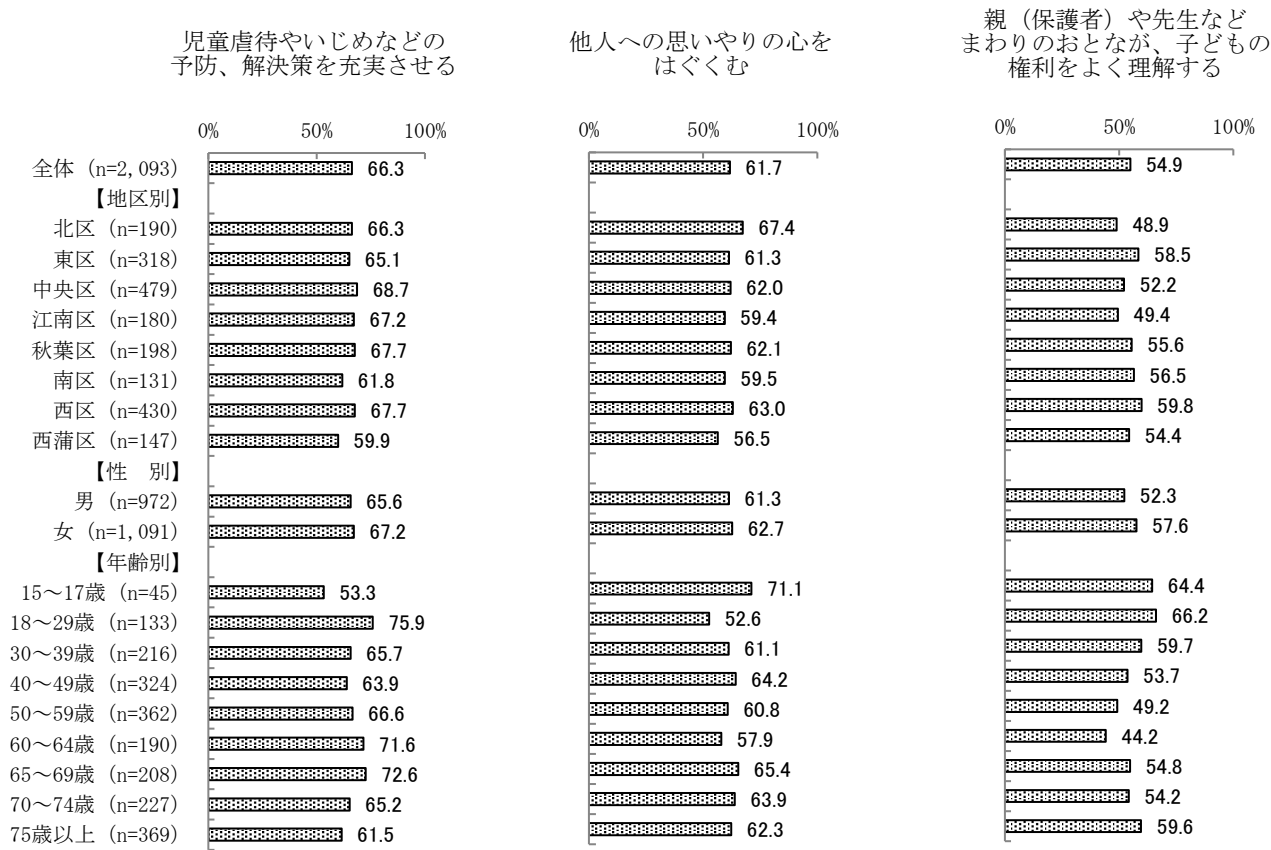
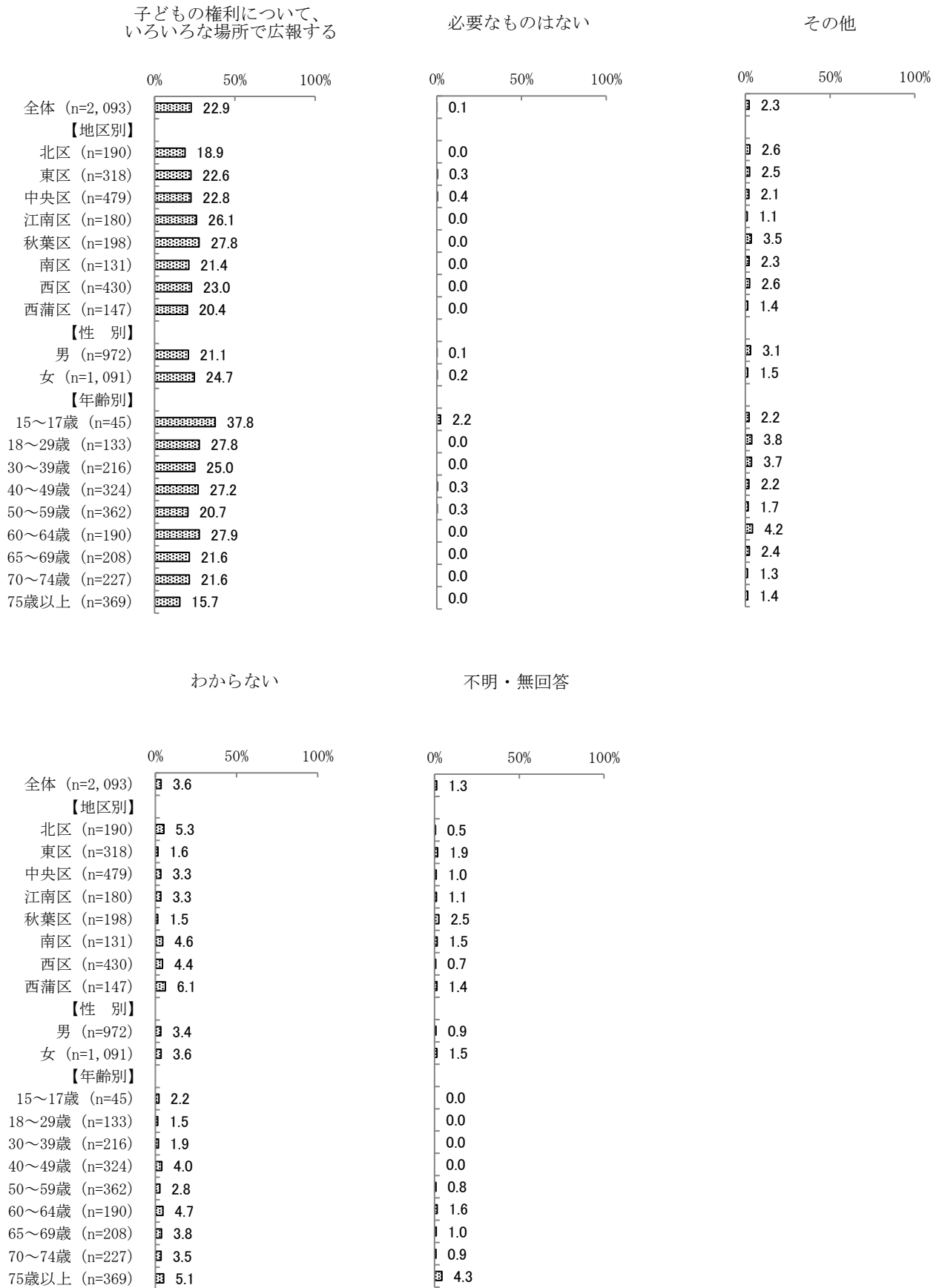


図 1-5 子どもの権利を守るために必要なこと（地区別/性別/年齢別） 2/2

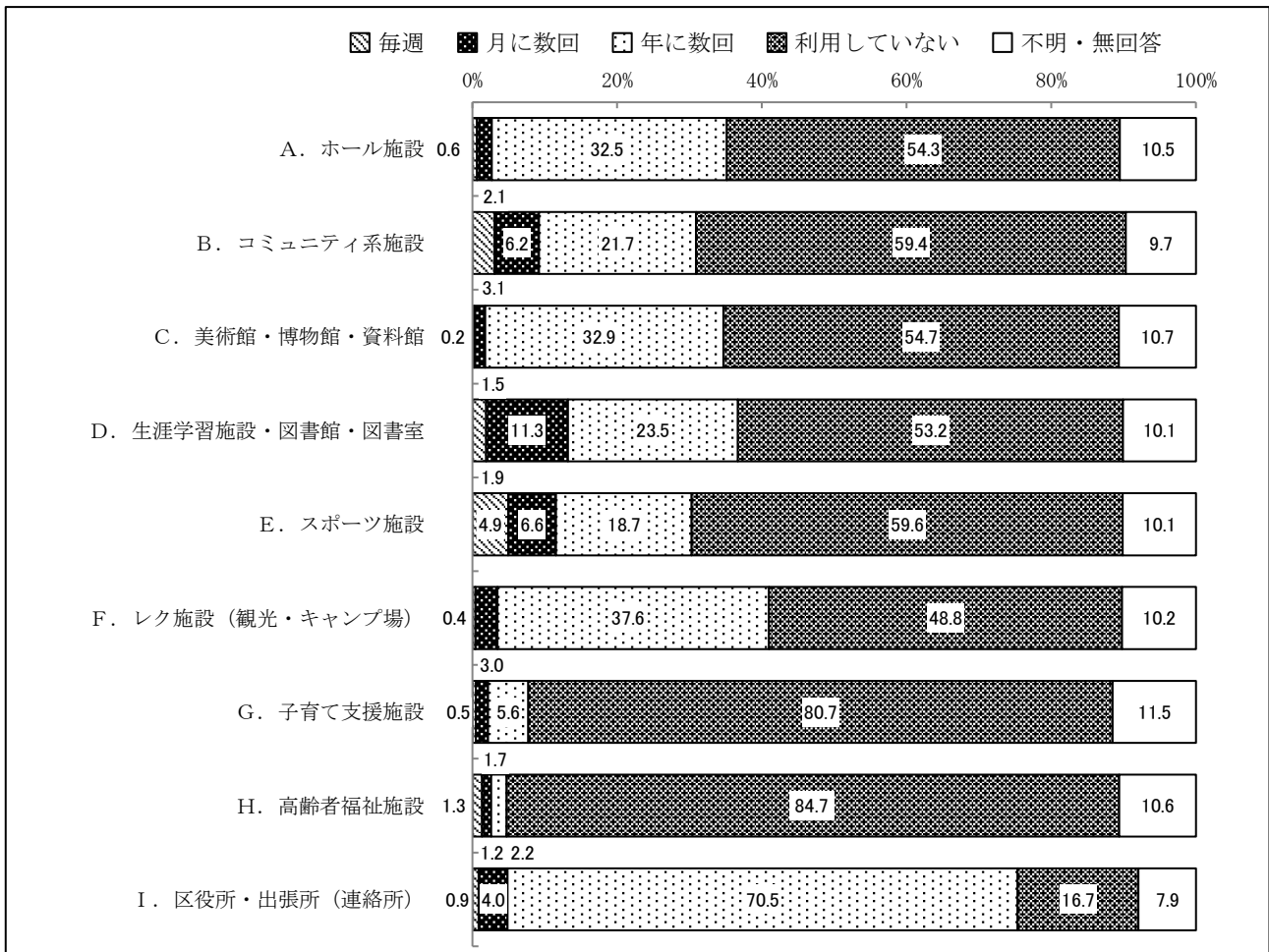


## 2. 新潟市の公共施設のこれからについて

### (1) 公共施設の利用頻度と主な交通手段

問6 あなたは新潟市が所有する以下の公共施設について、最近1年間（R4.4～R5.3）にどのくらいの頻度で利用しましたか。また、利用する時は、主にどのような交通手段を使いましたか。

#### ① 年間の利用頻度



— 最も『利用する』のは「区役所・出張所（連絡所）」で7割半ば —

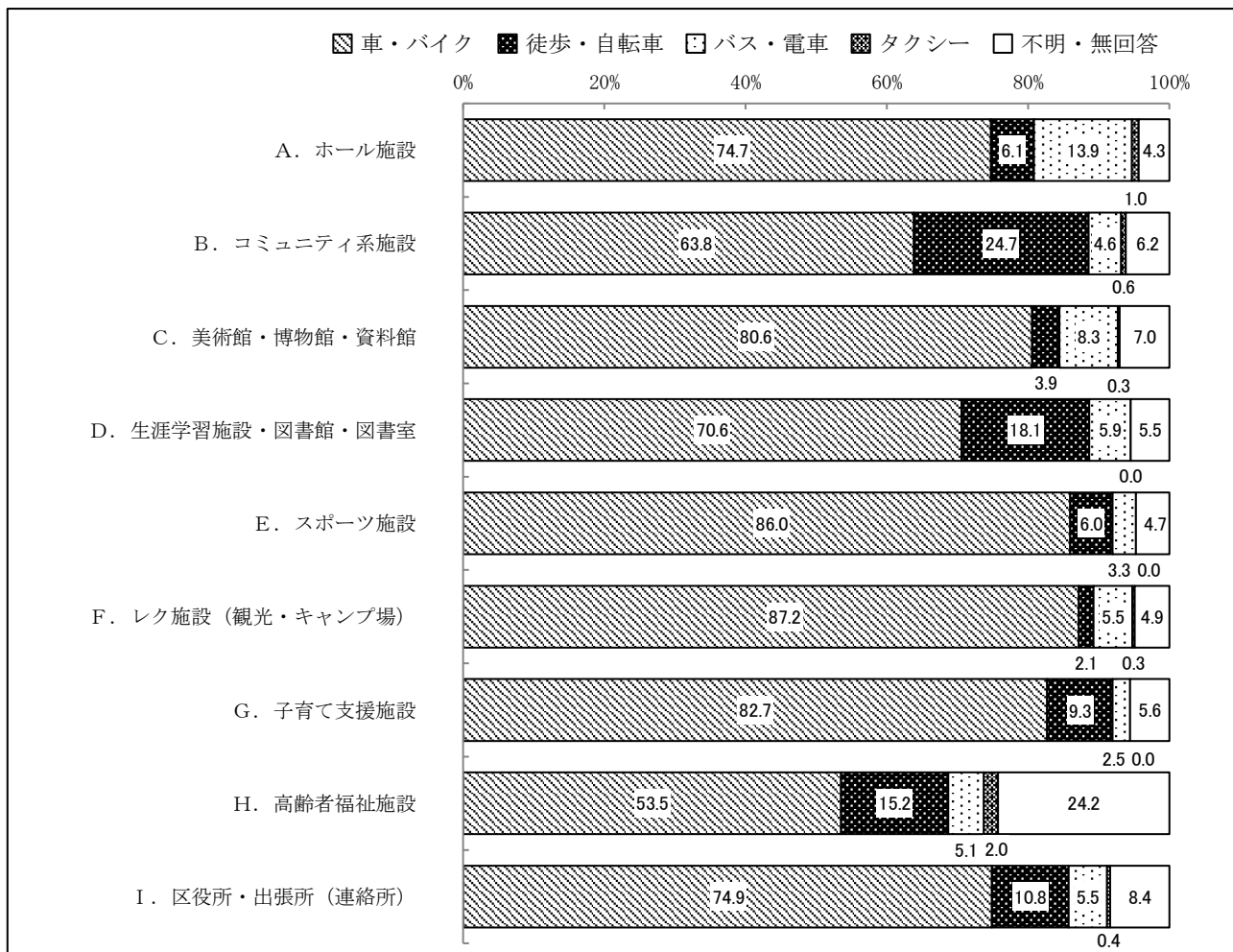
#### 【全体結果】

「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた『利用する』の割合は、「区役所・出張所（連絡所）」（75.3%）で最も高く、7割半ばとなった。次いで「レク施設（観光・キャンプ場）」（41.0%）、「生涯学習施設・図書館・図書室」（36.7%）と続き、「利用していない」の割合は「高齢者福祉施設」、「子育て支援施設」で8割を超えた。

#### 【属性別結果】

30 ページ以降に項目ごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

② 主な交通手段



— 主な交通手段は「車・バイク」が全ての施設種類でトップ —

【全体結果】

施設利用の交通手段はすべての施設で「車・バイク」が最も高かった。「車・バイク」の利用の割合が高いのは、「レク施設（観光・キャンプ場）」（87.2%）、「スポーツ施設」（86.0%）、「子育て支援施設」（82.7%）の順で、いずれも8割を超えている。

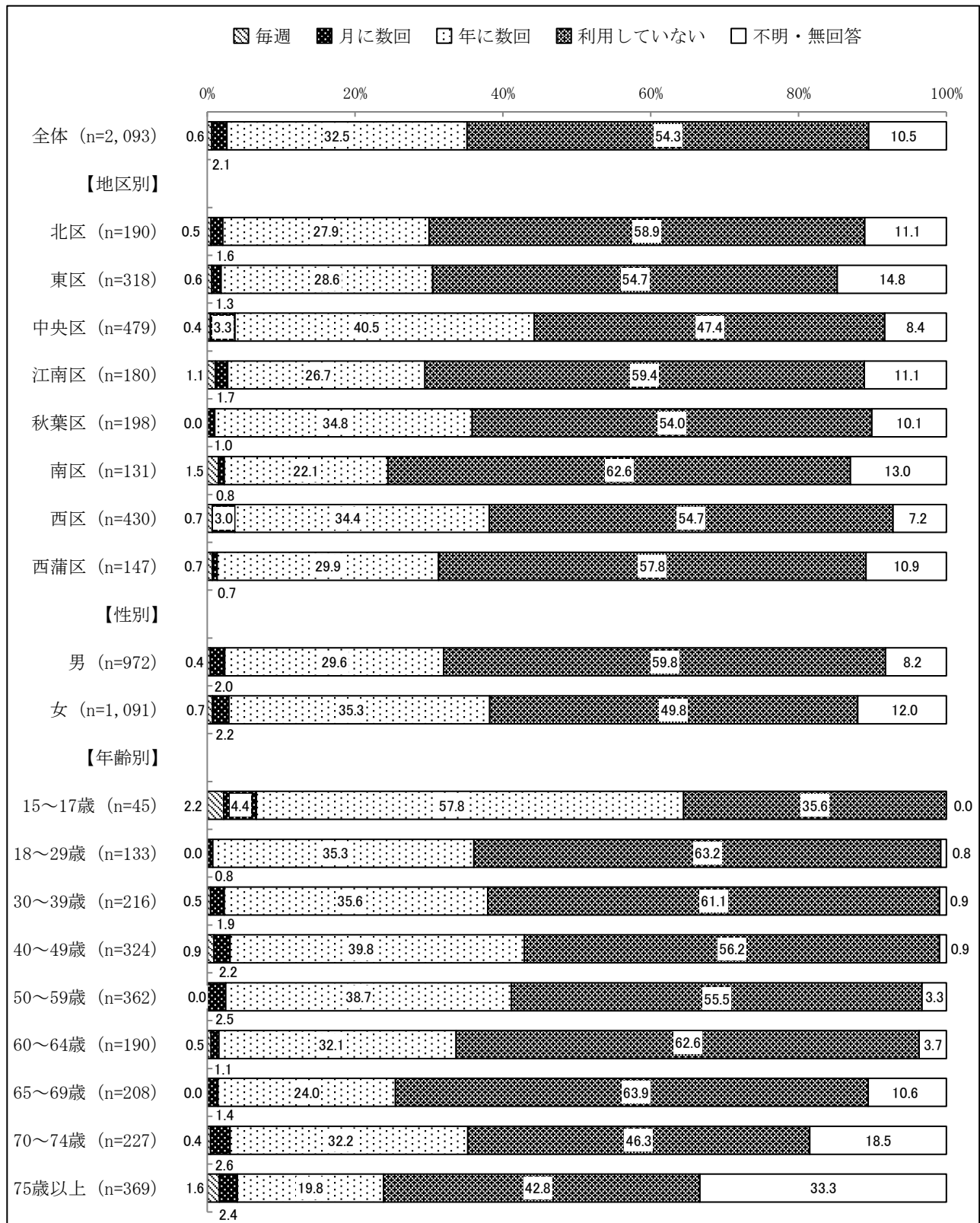
「コミュニティ系施設」では、「徒歩・自転車」（24.7%）の割合も高く2割半ばとなった。

【属性別結果】

次ページ以降に項目ごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

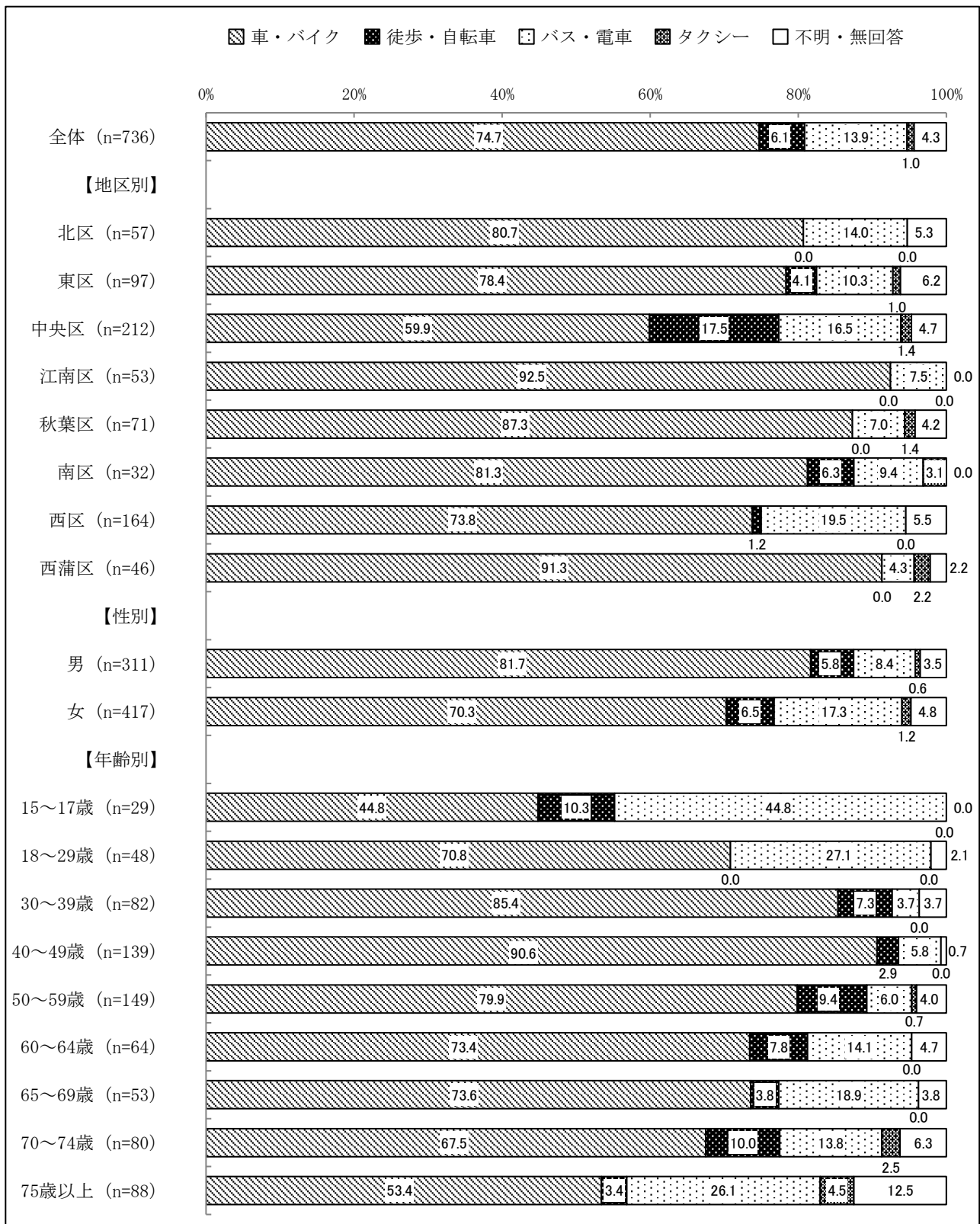
## A. ホール施設

### ①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、中央区（44.3%）、西区（38.1%）で高く約4割となった。性別では、男性（32.0%）と比較して女性（38.2%）で割合が高かった。年齢別では15～17歳（64.4%）で最も高かった。

## ②主な交通手段

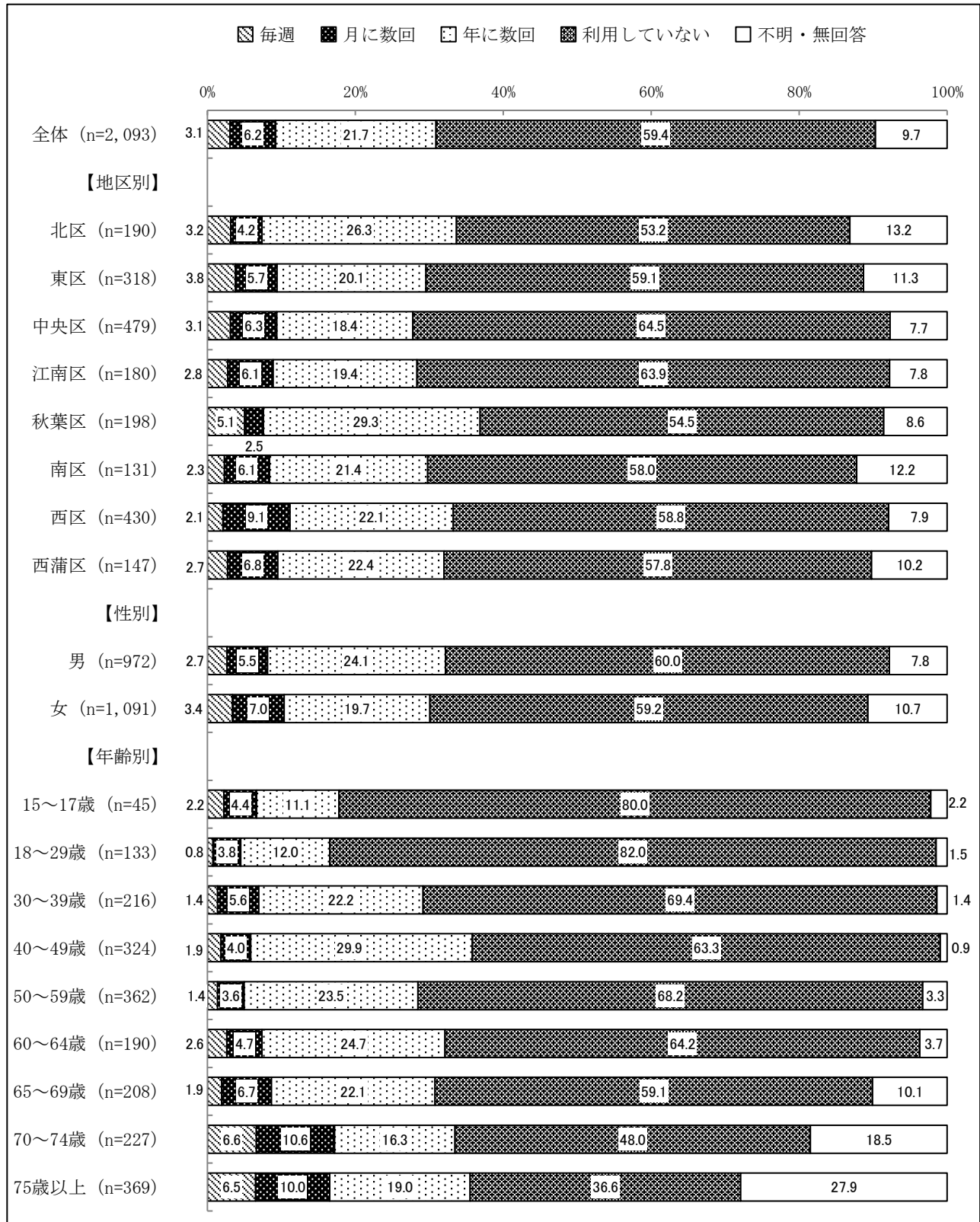


地区別、性別ともに「車・バイク」の割合が高かった。地区別では、「徒歩・自転車」の割合が中央区 (17.5%) で高かった。性別では、「バス・電車」の割合が男性 (8.4%) と比較して女性

(17.3%) で高かった。年齢別では40歳以上では、年齢が高くなるほど「車・バイク」の割合が低くなり、「バス・電車」の割合が高くなる傾向がみられた。

## B. コミュニティ系施設

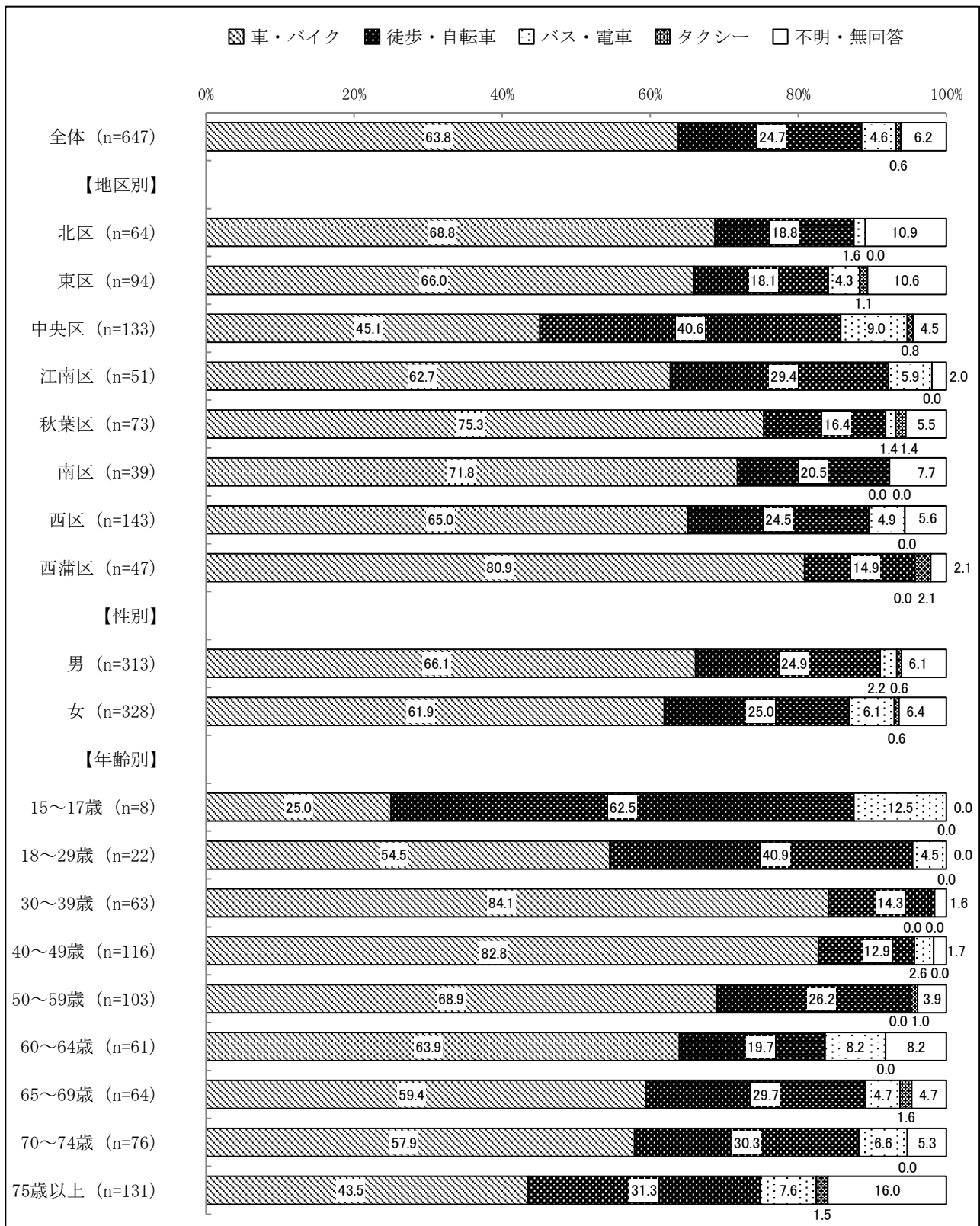
### ①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、秋葉区（36.9％）で高く3割半ばとなった。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では40～49歳（35.8％）、75歳以上（35.5％）で高かった。



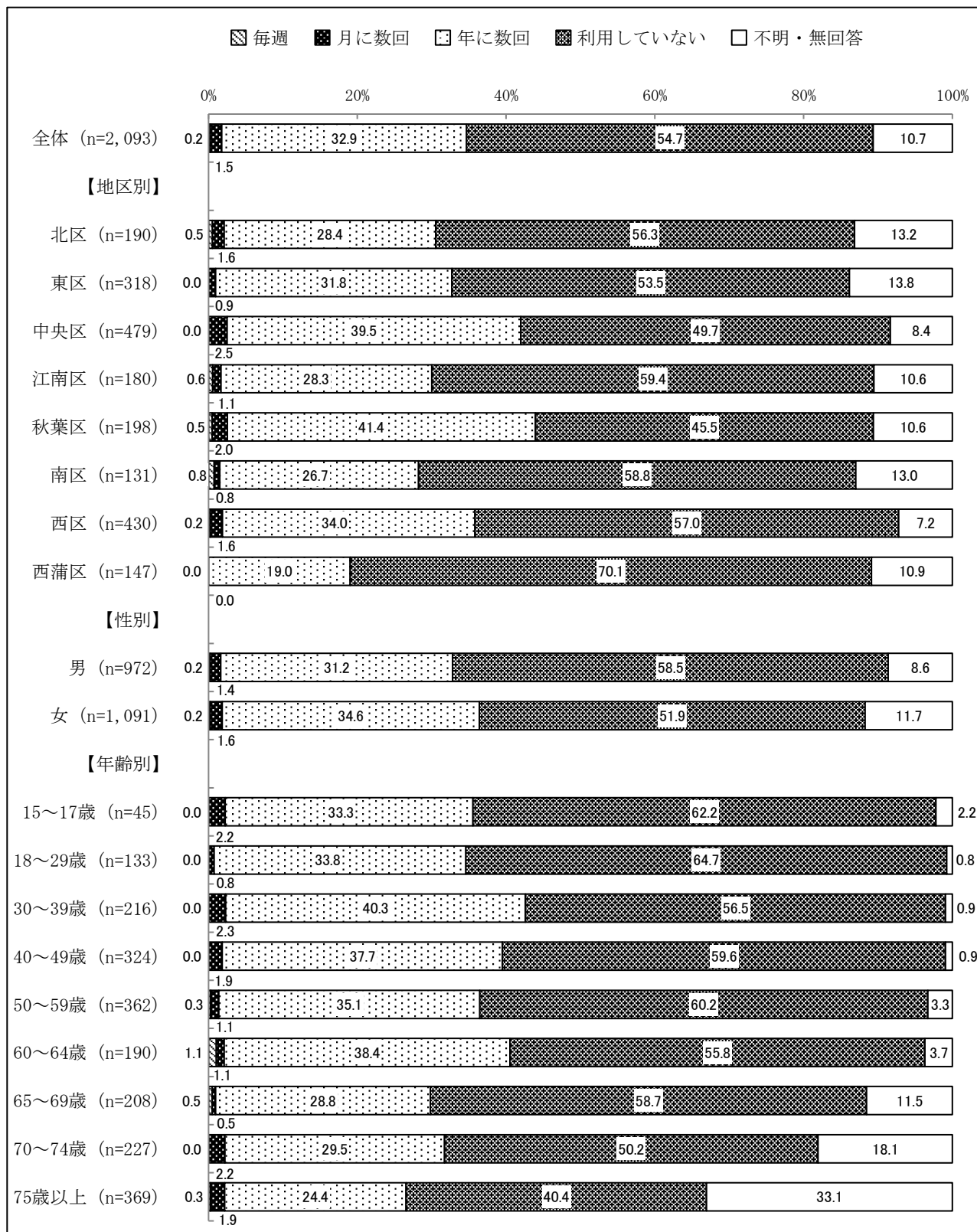
## ②主な交通手段



地区別では、中央区で「車・バイク」(45.1%)の割合が4割半ばで唯一5割以下となり、他の地区と差がみられた。性別では、「車・バイク」の割合は女性(61.9%)と比較して男性(66.1%)で高かった。年齢別で「車・バイク」の割合は30～39歳(84.1%)で最も高く、30歳以上では年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向がみられた。

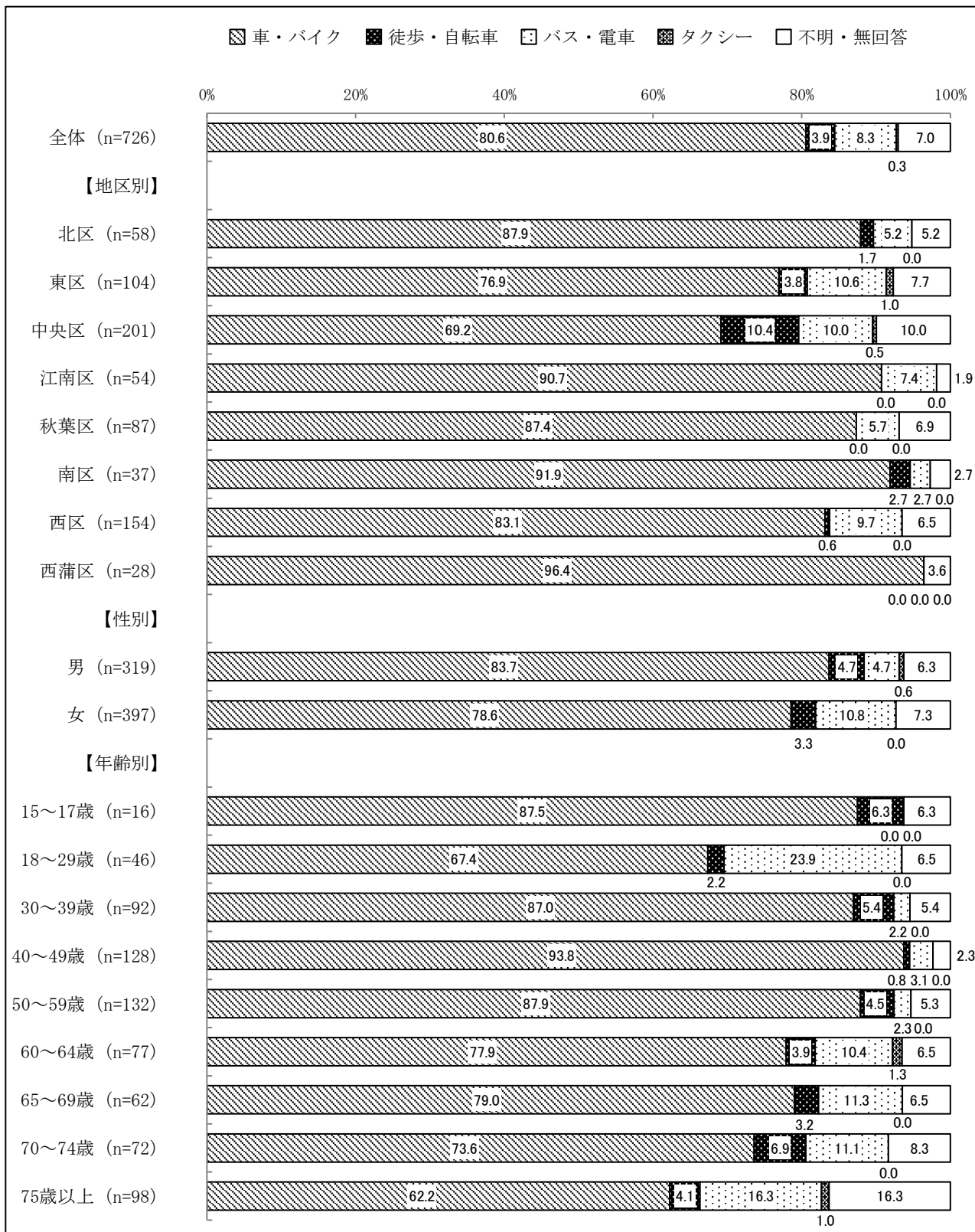
C. 美術館・博物館・資料館

①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、秋葉区 (43.9%)、中央区 (42.0%) で高く 4 割を超えた。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では 30～39 歳 (42.6%) で最も高く、60～64 歳 (40.5%) が次いで高かった。

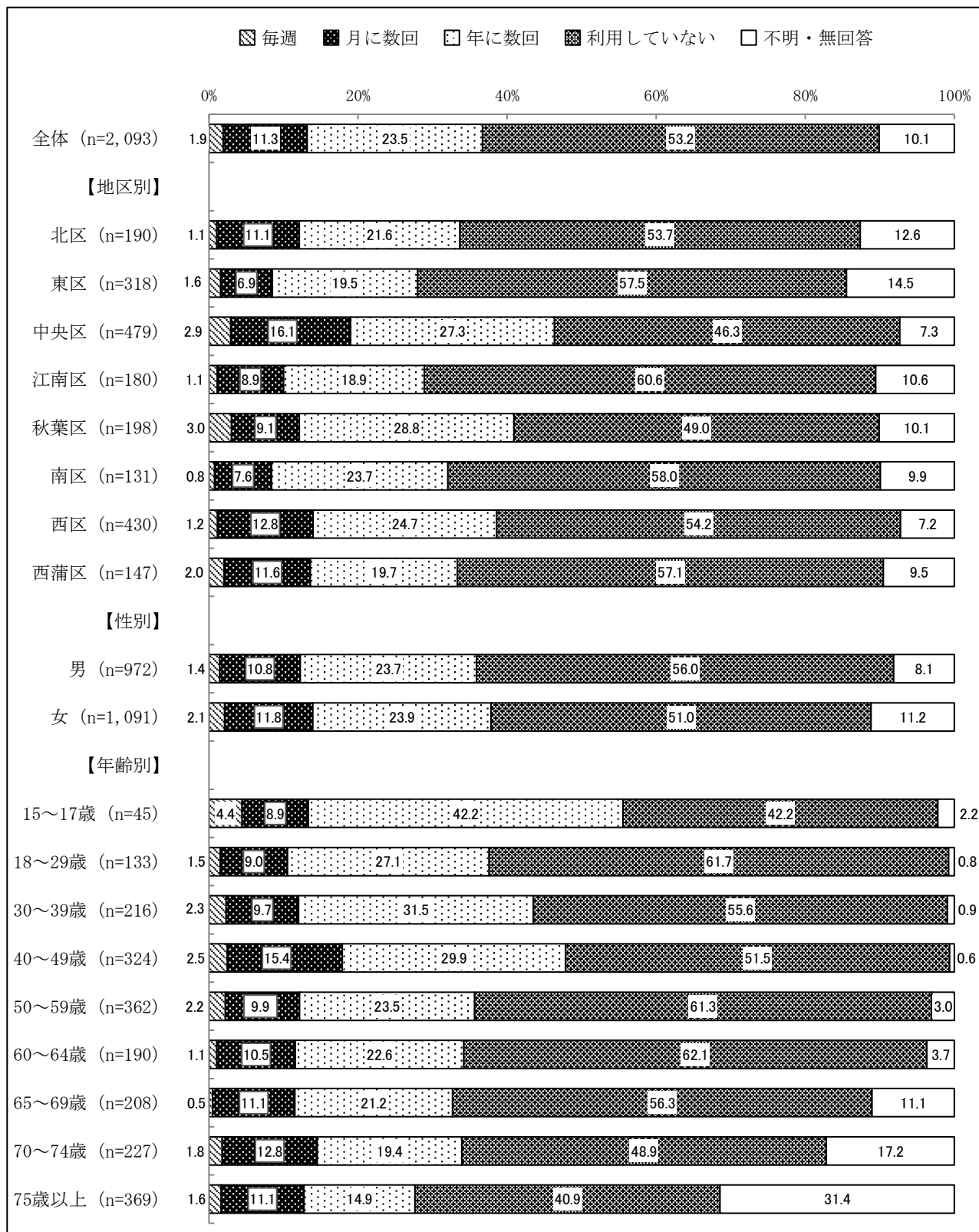
②主な交通手段



地区別では、中央区で「車・バイク」の割合が低く、他の地区と差がみられた。性別では、「バス・電車」の割合が男性（4.7%）と比較して女性（10.8%）で高かった。年齢別では18～29歳（23.9%）で「バス・電車」の割合が高かった。

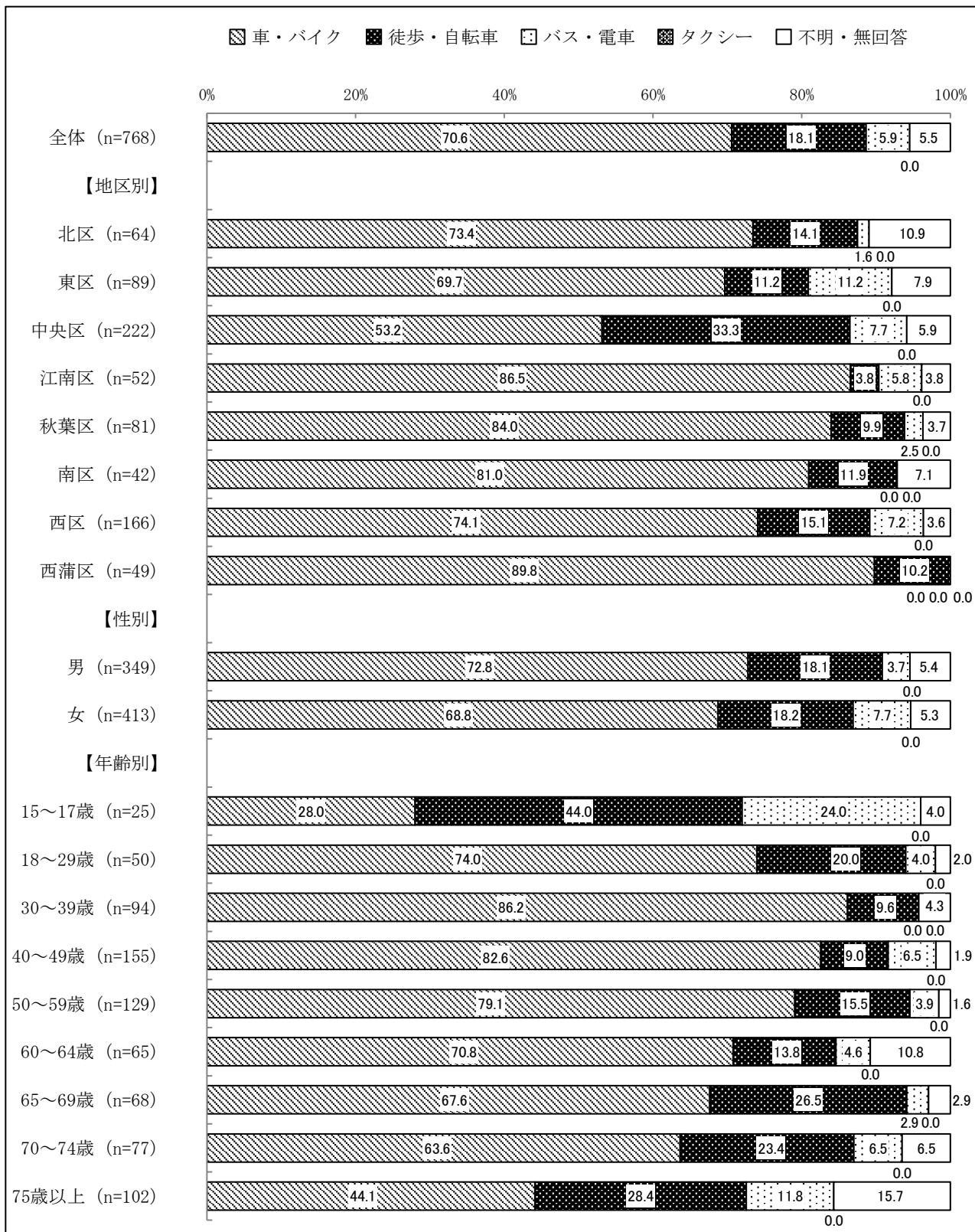
D. 生涯学習施設・図書館・図書室

①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、中央区（46.3%）、秋葉区（40.9%）で高く4割を超えた。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では15～17歳（55.6%）で最も高く、次いで40～49歳（47.8%）で約5割となった。

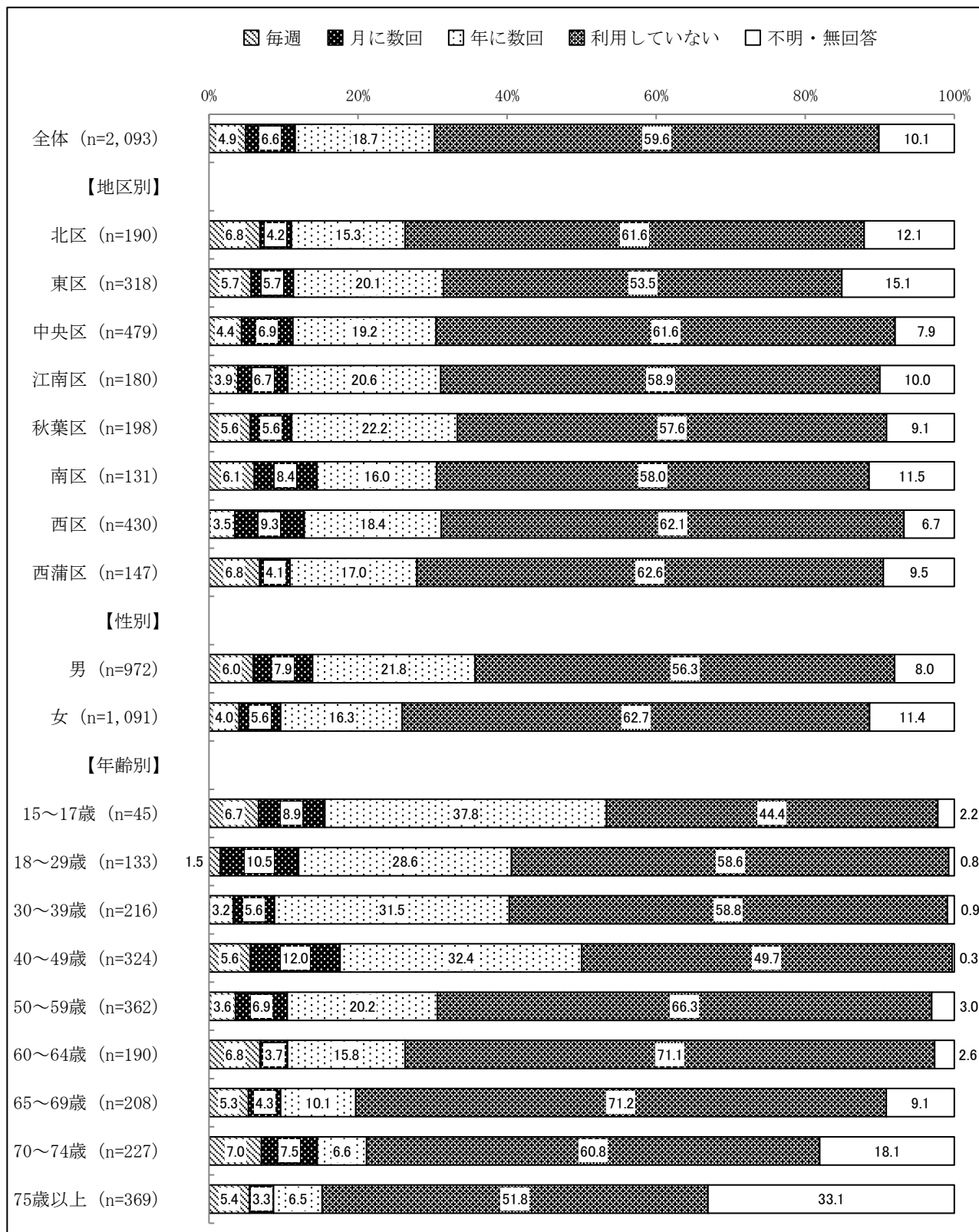
②主な交通手段



地区別では、中央区で「車・バイク」の割合が低く、他の地区と差がみられた。性別では、「車・バイク」の割合が女性（68.8%）と比較して男性（72.8%）で高かった。年齢別では「徒歩・自転車」が15～17歳（44.0%）で最も高かった。

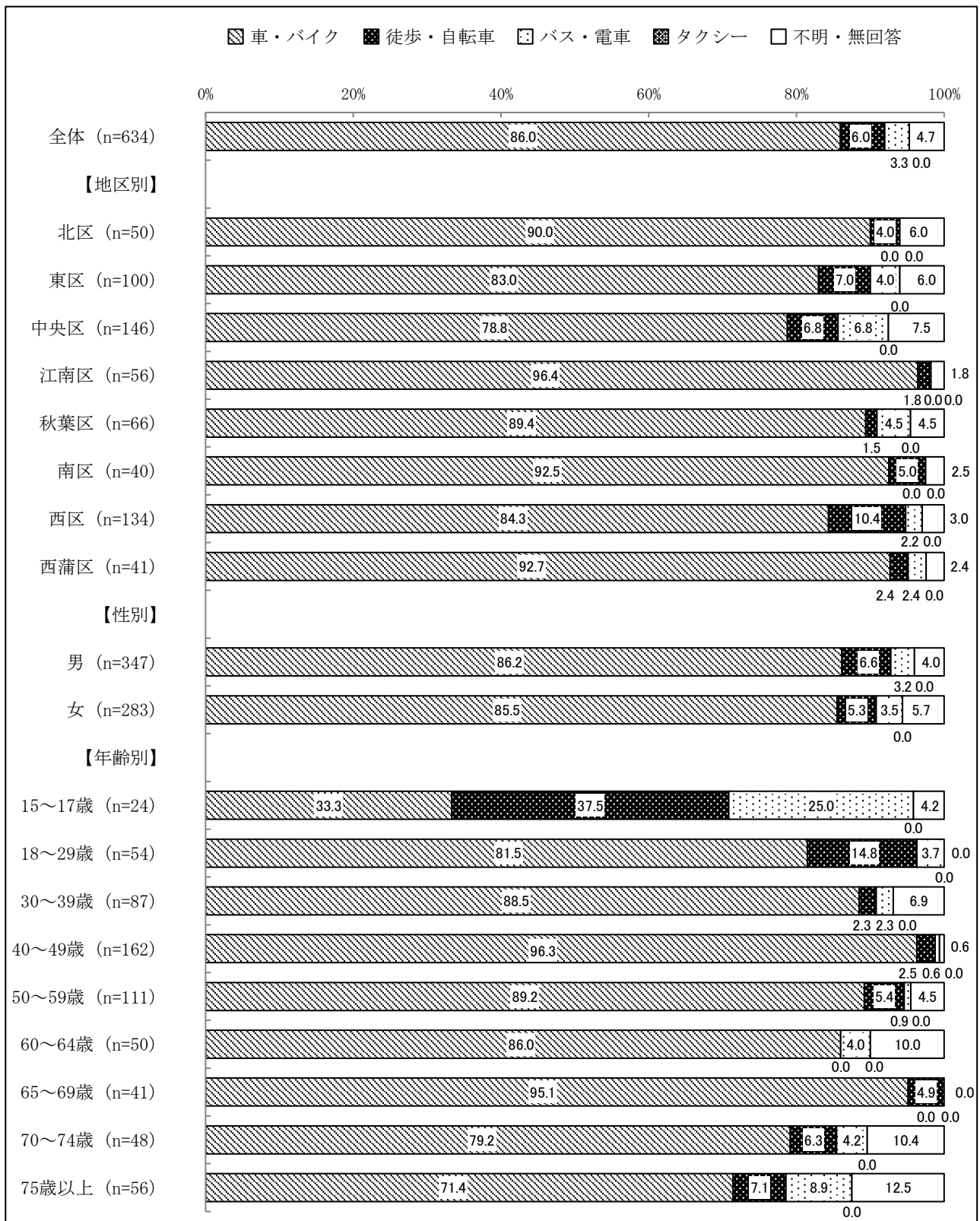
## E. スポーツ施設

### ①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、秋葉区（33.3%）で最も高かった。性別では、女性（25.9%）と比較して男性（35.7%）で割合が高かった。年齢別では15～17歳（53.3%）、40～49歳（50.0%）で高く、約5割となった。

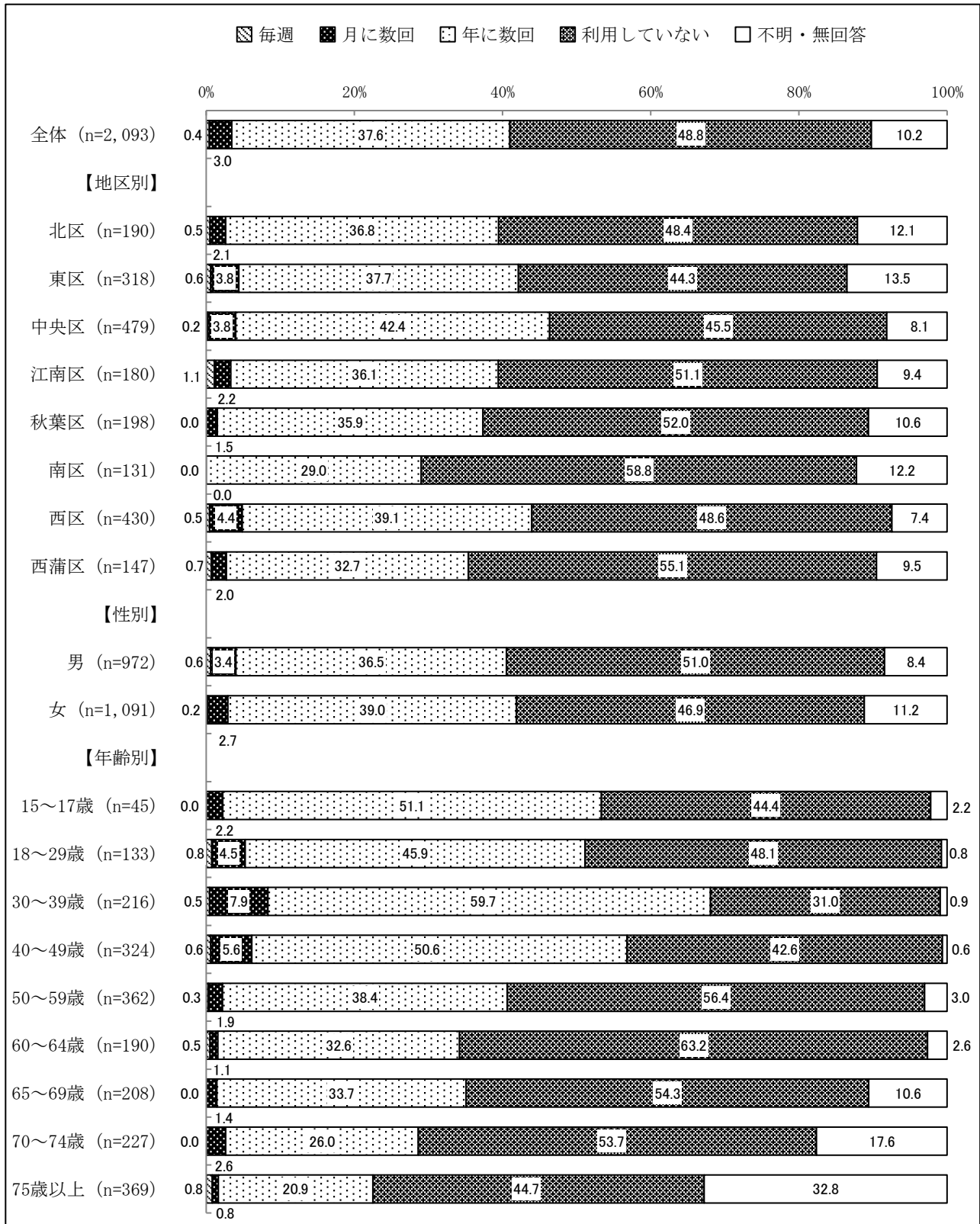
## ②主な交通手段



地区別で「車・バイク」の割合が低いのは、中央区（78.8%）、東区（83.0%）、西区（84.3%）の順となった。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では「徒歩・自転車」が15～17歳（37.5%）で最も高かった。

F. レク施設（観光・キャンプ場）

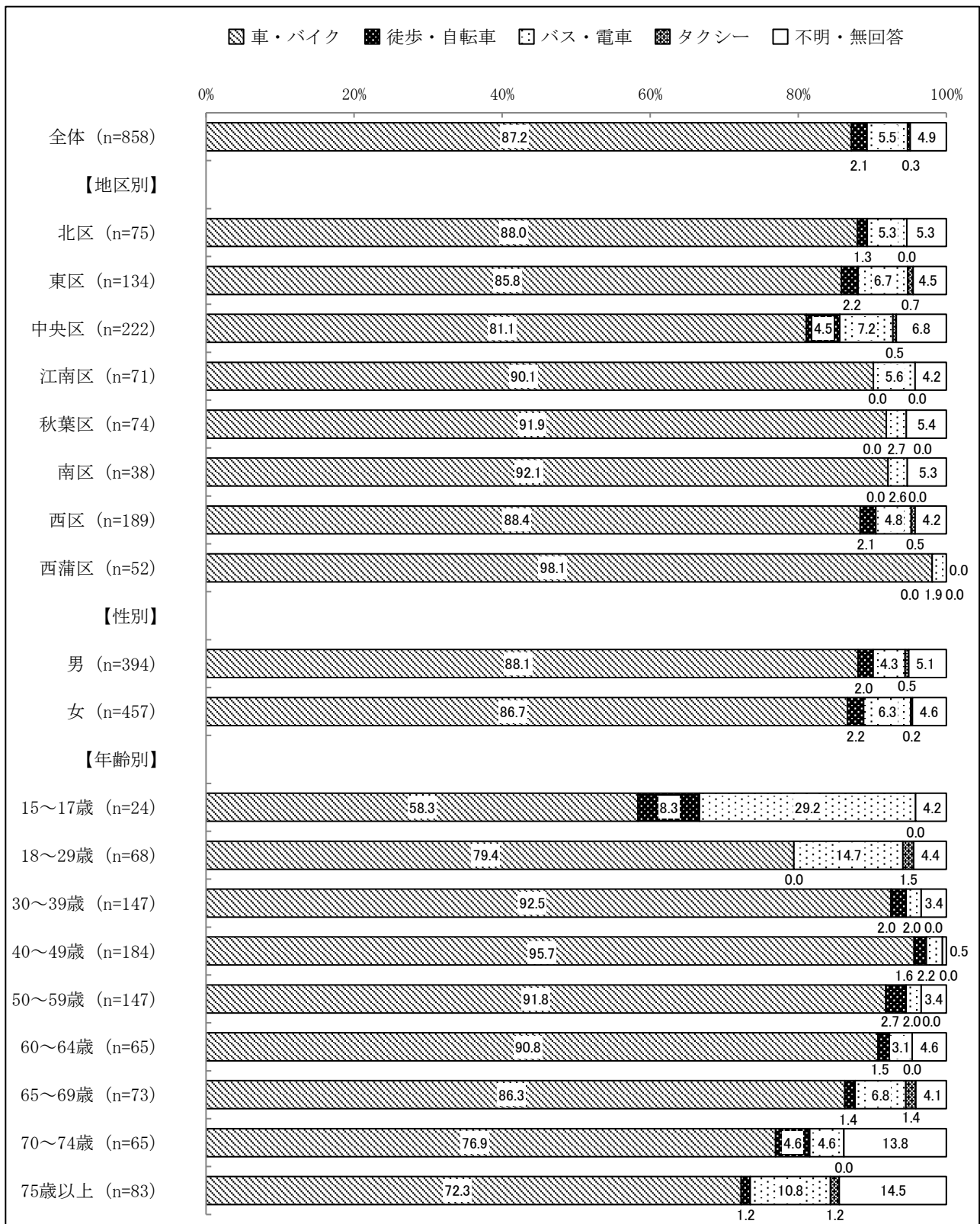
①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では中央区（46.3%）、西区（44.0%）、東区（42.1%）で高く4割を超えた。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では30～39歳（68.1%）で最も高かった。



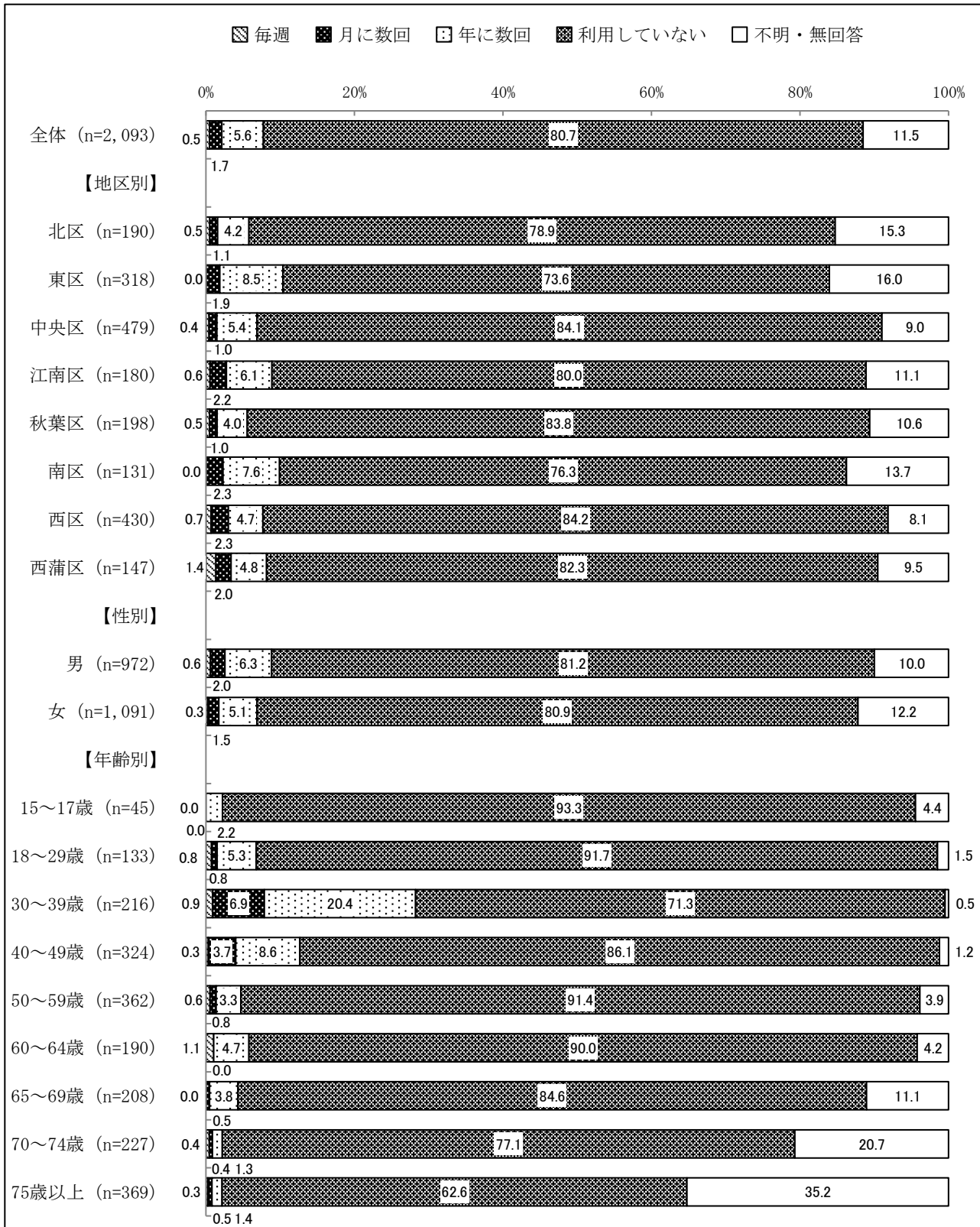
## ②主な交通手段



全ての地区において「車・バイク」の割合が最も高く、最も低い中央区（81.1%）でも8割以上となった。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では「車・バイク」が40～49歳（95.7%）で最も割合が高かった。

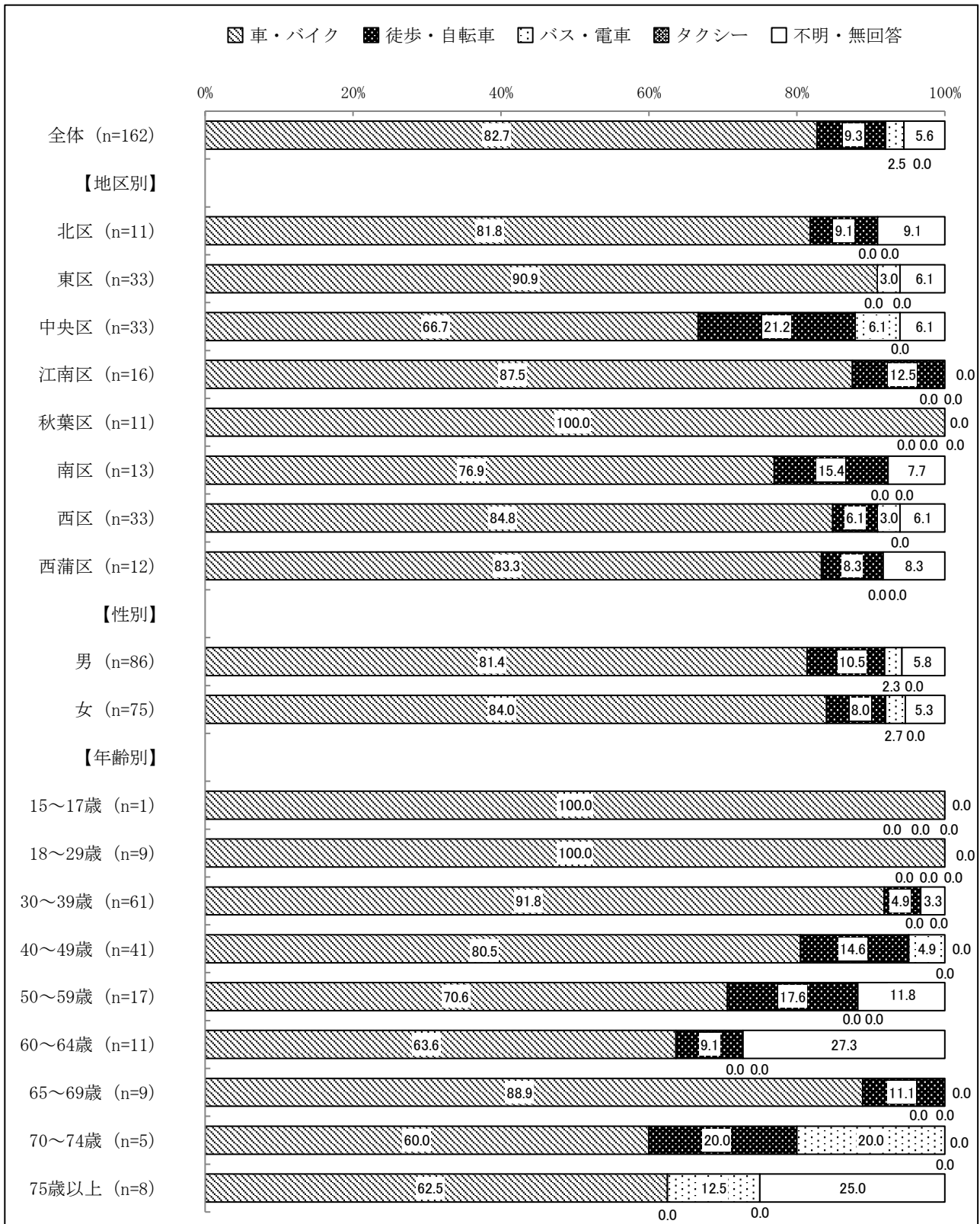
## G. 子育て支援施設

### ①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、東区（10.4%）、南区（9.9%）で高く約1割となった。性別では、女性（6.9%）と比較して男性（8.8%）で割合が高かった。年齢別では30～39歳（28.2%）で最も高かった。

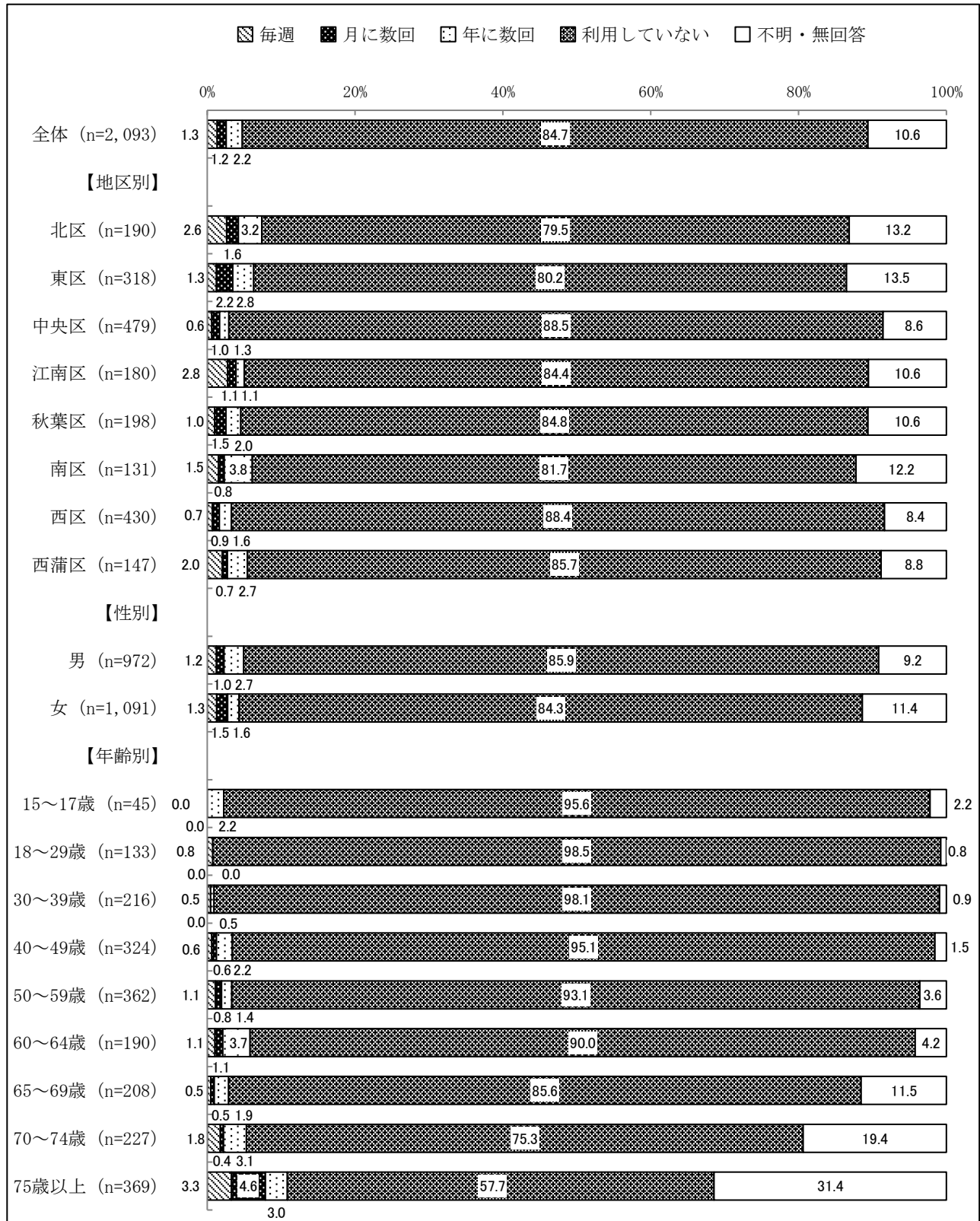
②主な交通手段



回答者が少ないため、参考に図のみ掲示する。

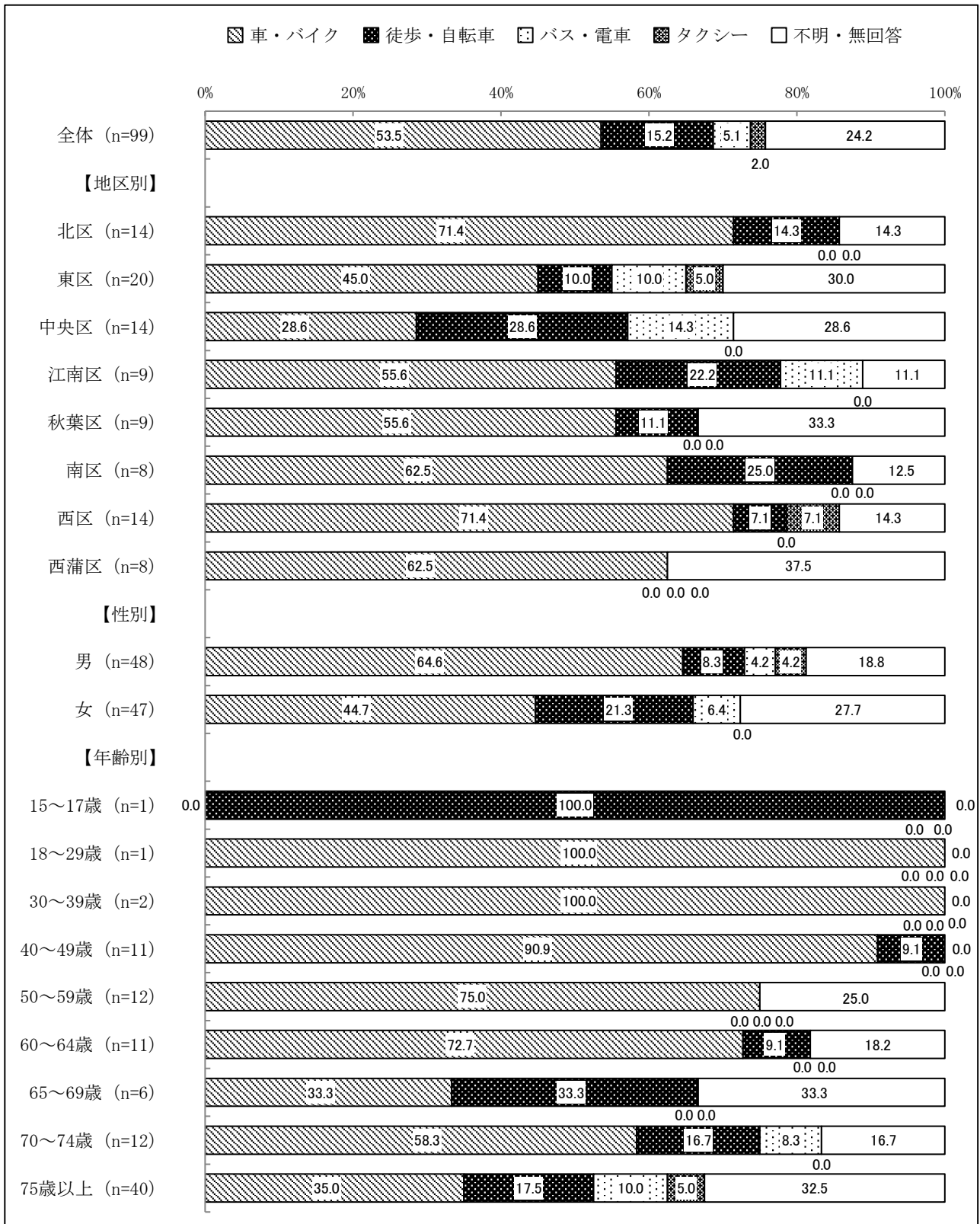
## H. 高齢者福祉施設

### ①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、北区（7.4%）が最も高かったが、いずれの地区においても1割未満となった。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では75歳以上（10.8%）で最も高かった。

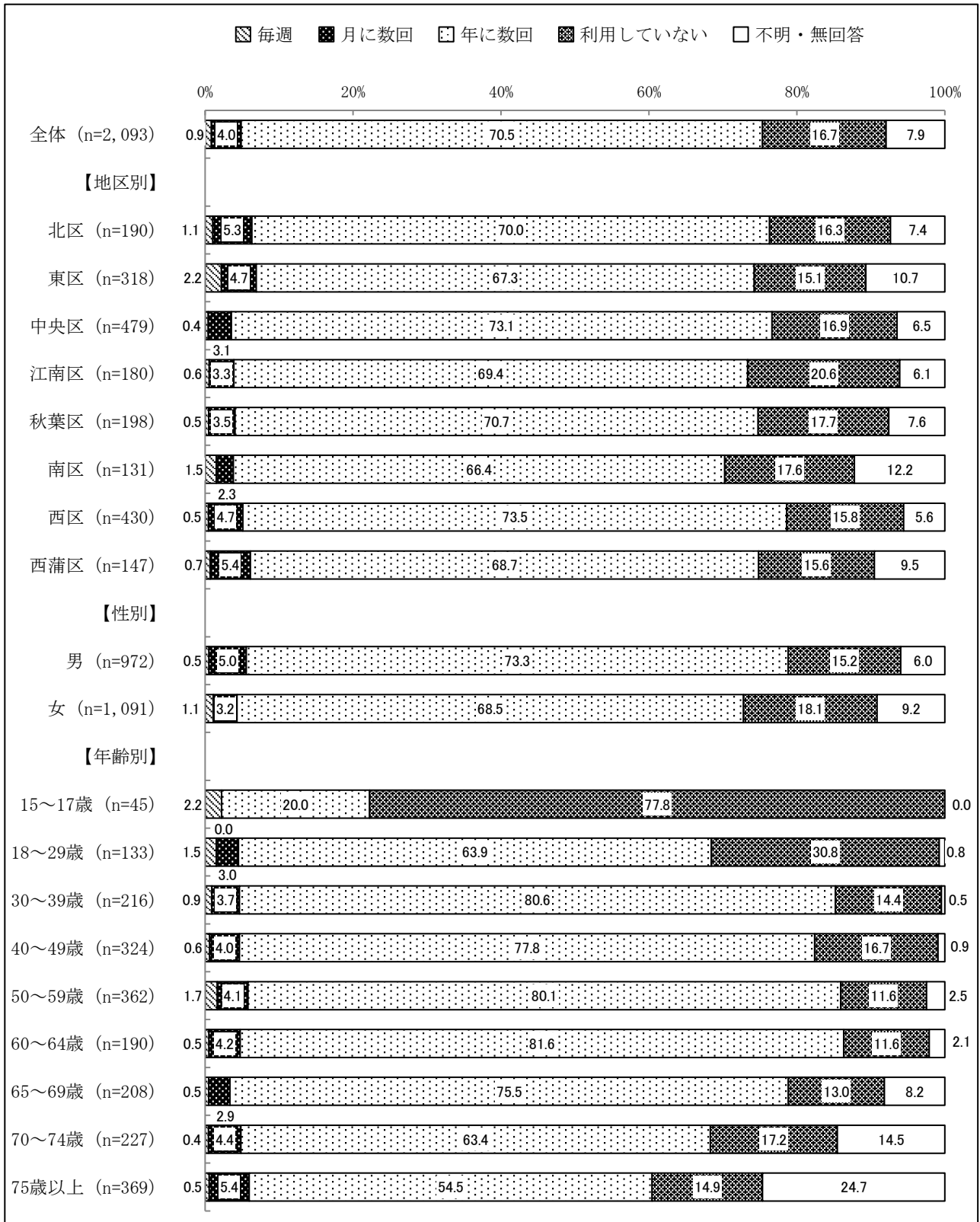
②主な交通手段



回答者が少ないため、参考に図のみ掲示する。

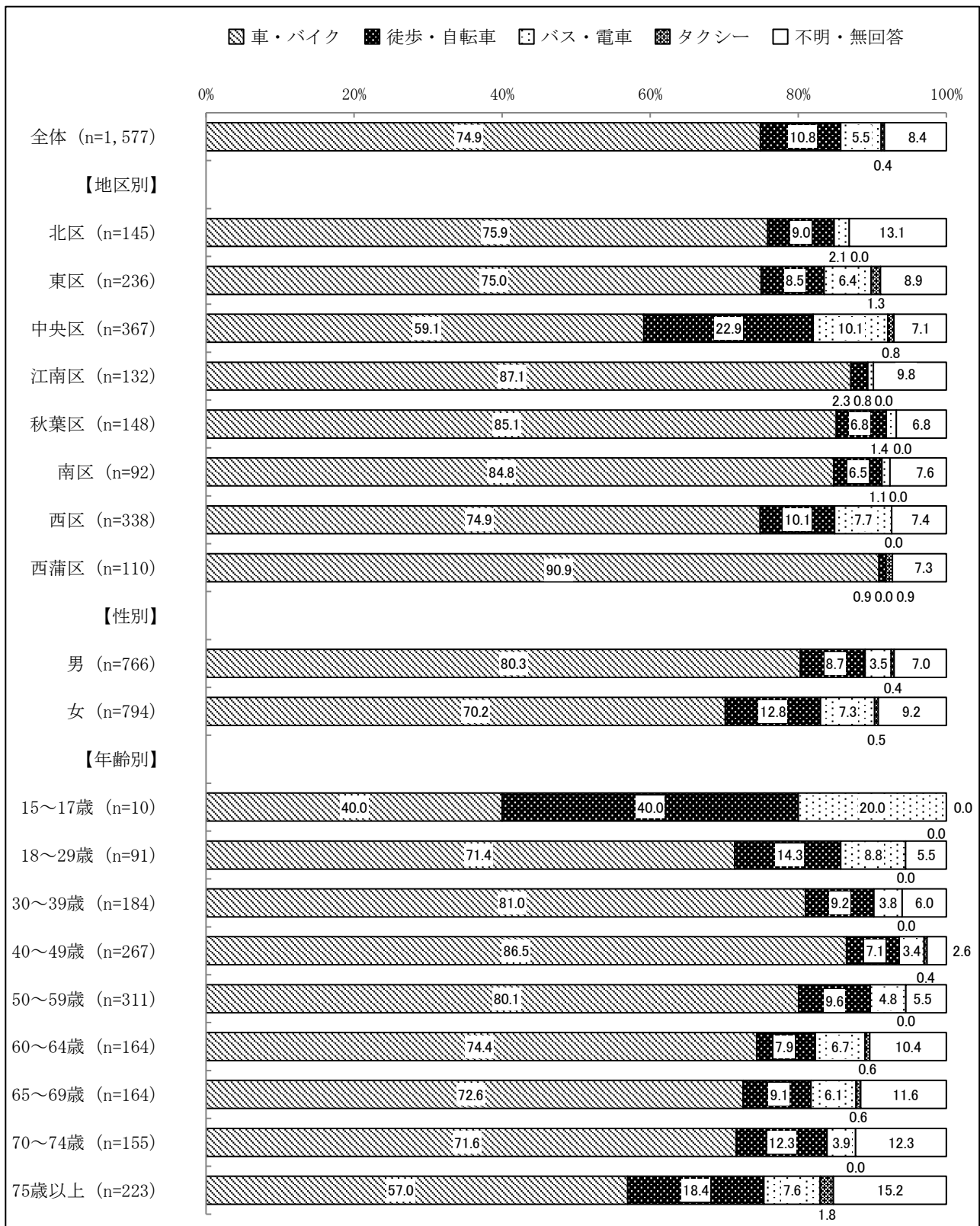
I. 区役所・出張所（連絡所）

①年間の利用頻度



「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた割合は、地区別では、西区（78.6%）、中央区（76.6%）、北区（76.3%）、で高く7割半ばとなった。性別では、女性（72.8%）と比較して男性（78.8%）で割合が高かった。年齢別では60～64歳（86.3%）で最も高かった。

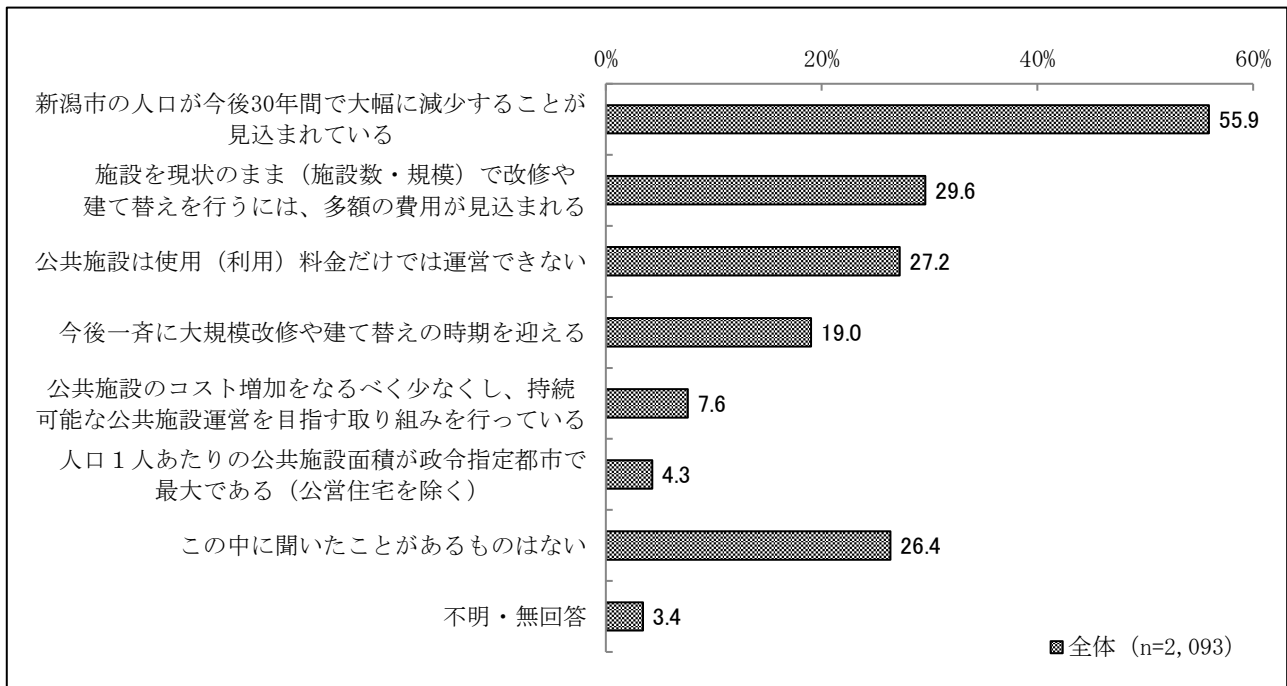
## ②主な交通手段



地区別では、「車・バイク」が西蒲区（90.9%）で最も高く9割を超えた。性別では、「車・バイク」の割合が女性（70.2%）と比較して男性（80.3%）で高かった。年齢別では「車・バイク」の割合が最も高いのは40～49歳（86.5%）で、40歳以上は年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向がみられた。

## (2) 公共施設を取り巻く課題等の認知度

問7 あなたは、新潟市の公共施設に関する以下のことについて聞いたことがありますか。  
(○はいくつでも)



— 「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」が5割半ばでトップ —

### 【全体結果】

「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」(55.9%)が最も割合が高く、5割半ばとなった。次いで、「施設を現状のまま（施設数・規模）で改修や建て替えを行うには、多額の費用が見込まれる」(29.6%)が約3割となった。「この中に聞いたことがあるものはない」(26.4%)は3割未満であった。

### 【属性別結果】(次ページ図2-1参照)

#### ① 地区別

「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」の割合は、江南区(60.0%)が最も高く、西蒲区(47.6%)で最も低くなっている。

#### ② 性別

「この中に聞いたことがあるものはない」は女性で割合が高く、他はすべて男性で割合が高かった。

#### ③ 年齢別

年齢別では、「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」、「施設を現状のまま（施設数・規模）で改修や建て替えを行うには、多額の費用が見込まれる」、「公共施設は使用（利用）料金だけでは運営できない」は、75歳以上を除き年齢が高いほど割合が高くなる傾向がみられた。



図 2-1 公共施設を取り巻く課題等の認知度（地区別/性別/年齢別） 1/2

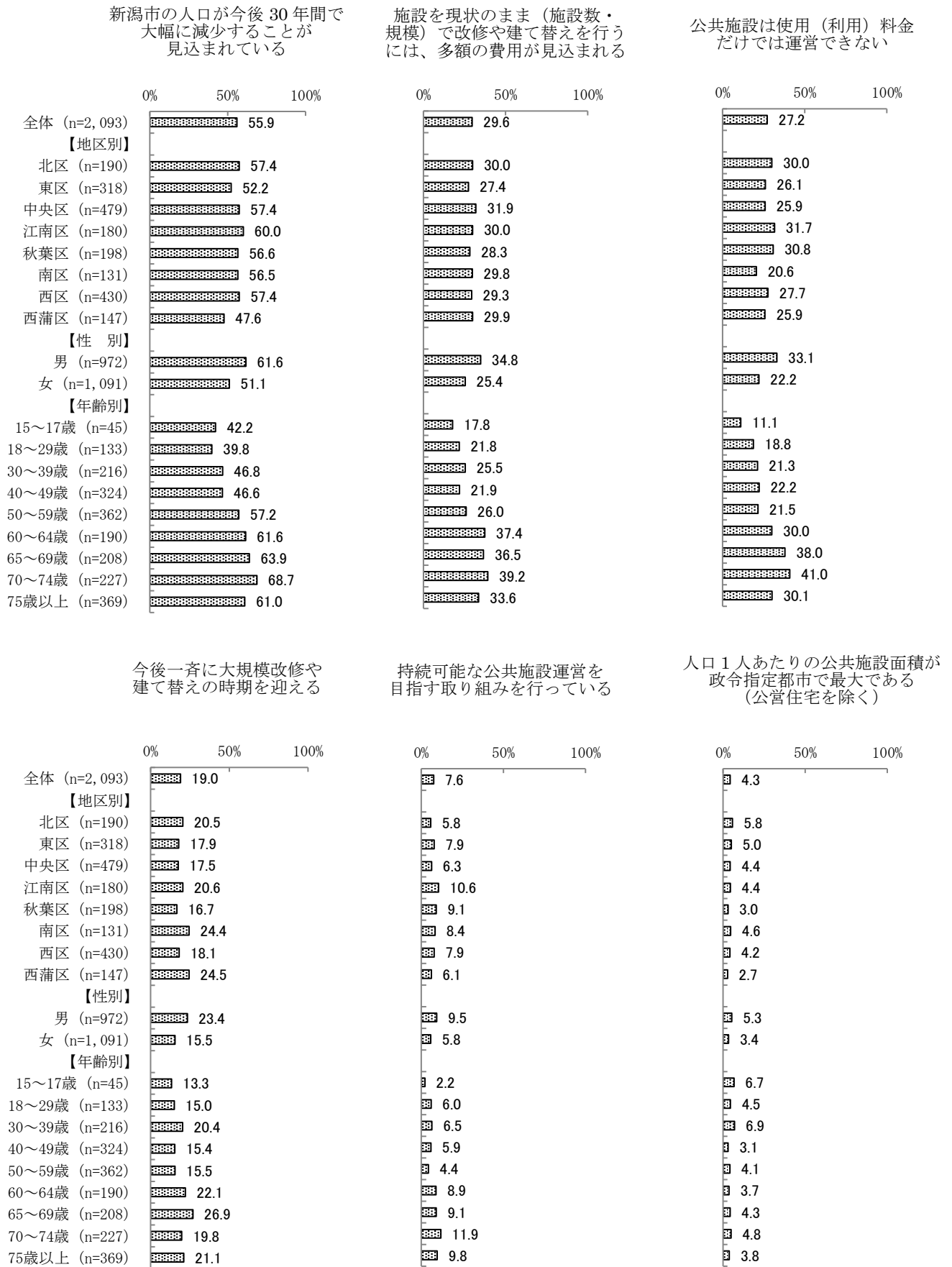
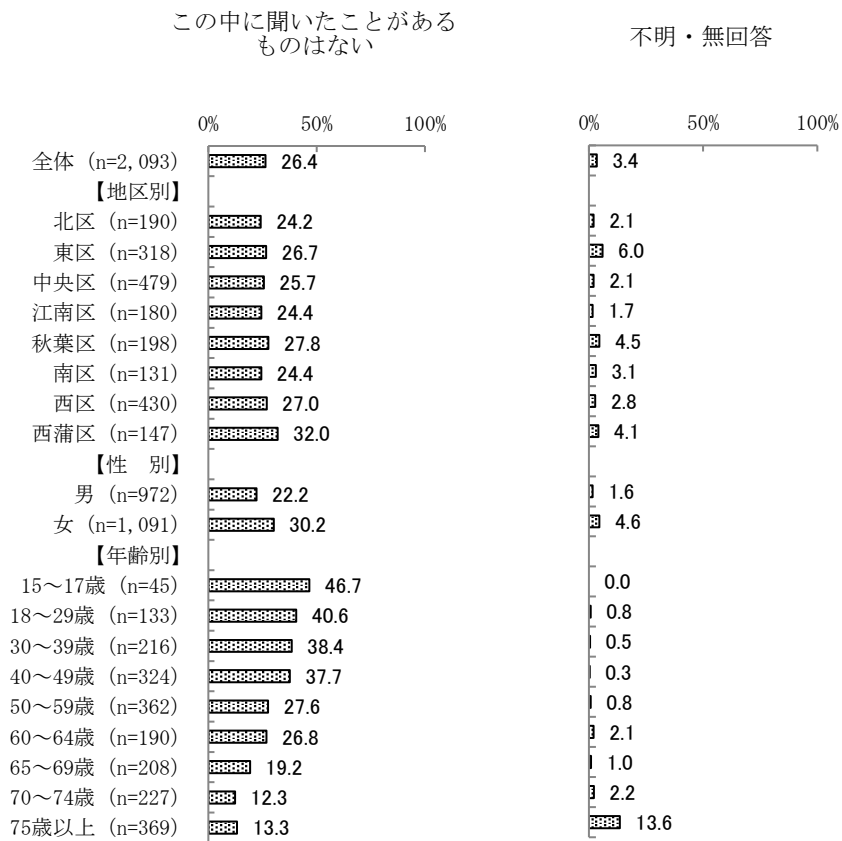
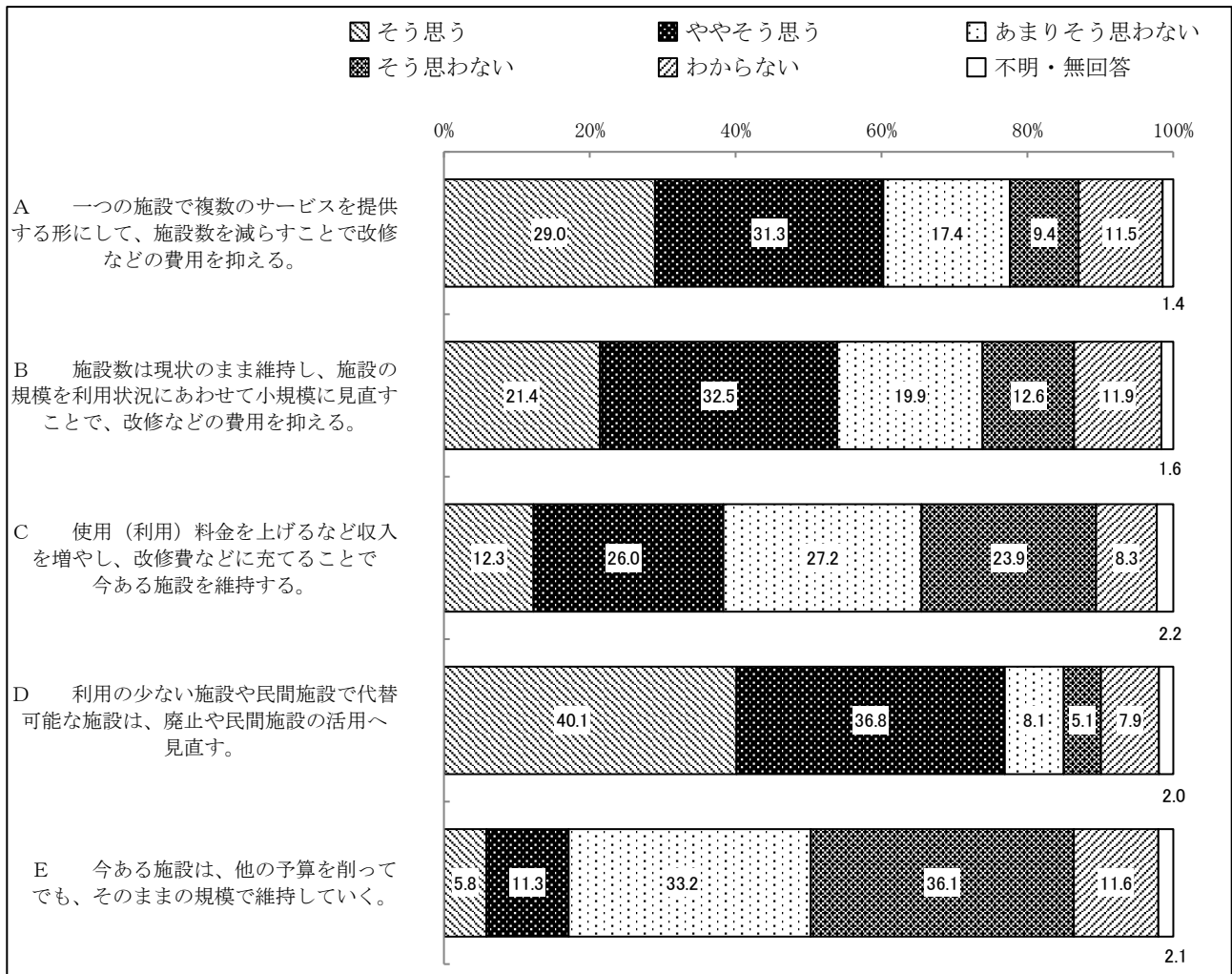


図 2-1 公共施設を取り巻く課題等の認知度（地区別/性別/年齢別） 2/2



### (3) 公共施設を維持する取り組み

問8 新潟市の公共施設を維持していくために、どのように取り組んでいくべきだと思いますか。  
A～Eの各取り組みに対して、どう思うかそれぞれ○をつけてください。



— 『そう思う』は「D 利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す。」が7割半ばでトップ —

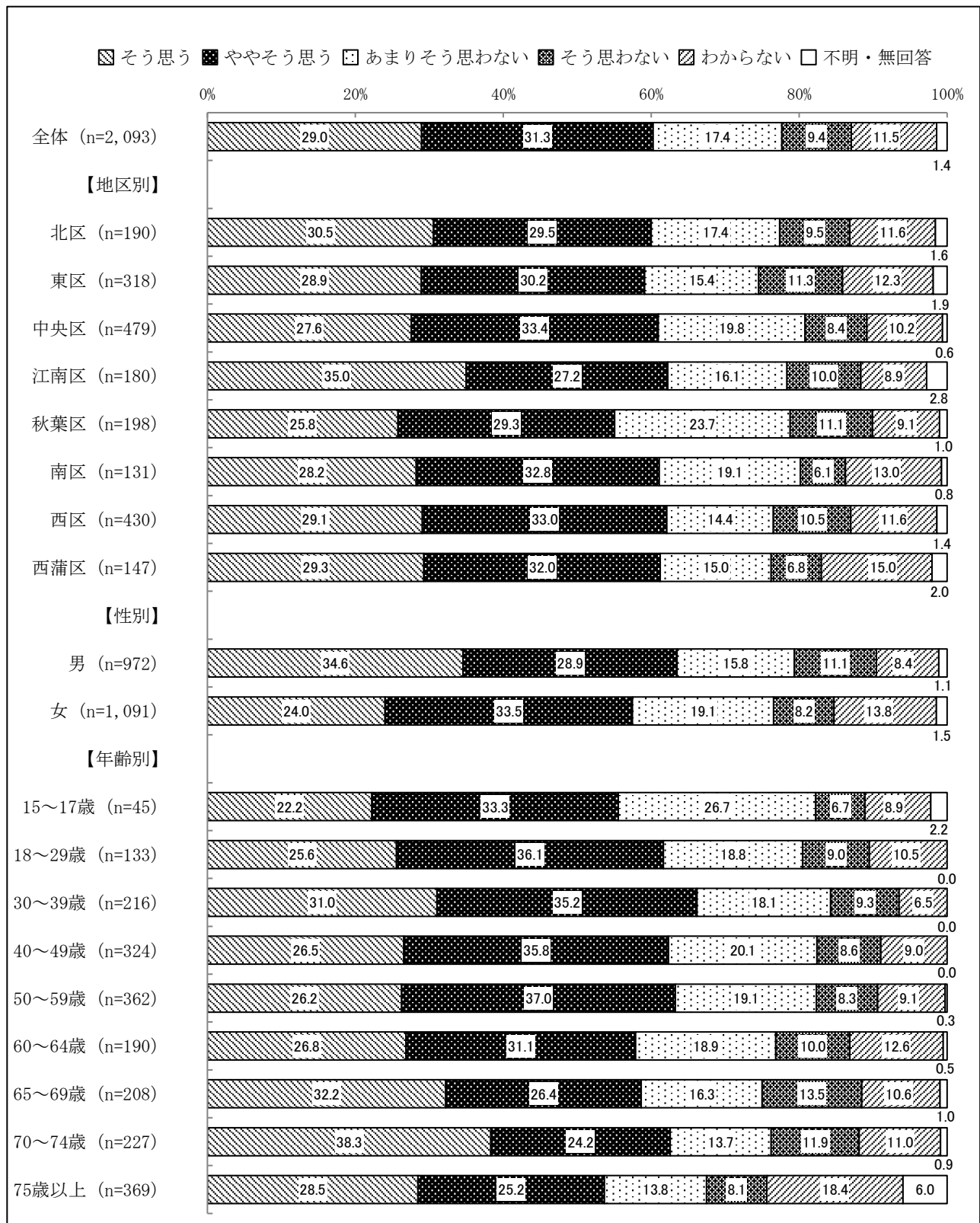
#### 【全体結果】

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が「D 利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す。」(76.9%)で最も高かった。次いで、「A 一つの施設で複数のサービスを提供する形にして、施設数を減らすことで改修などの費用を抑える。」(60.2%)、「B 施設数は現状のまま維持し、施設の規模を利用状況にあわせて小規模に見直すことで、改修などの費用を抑える。」(53.9%)、「C 使用（利用）料金を上げるなど収入を増やし、改修費などに充てることで今ある施設を維持する。」(38.3%)、「E 今ある施設は、他の予算を削ってでも、そのままの規模で維持していく。」(17.1%)の順に続いた。

#### 【属性別結果】

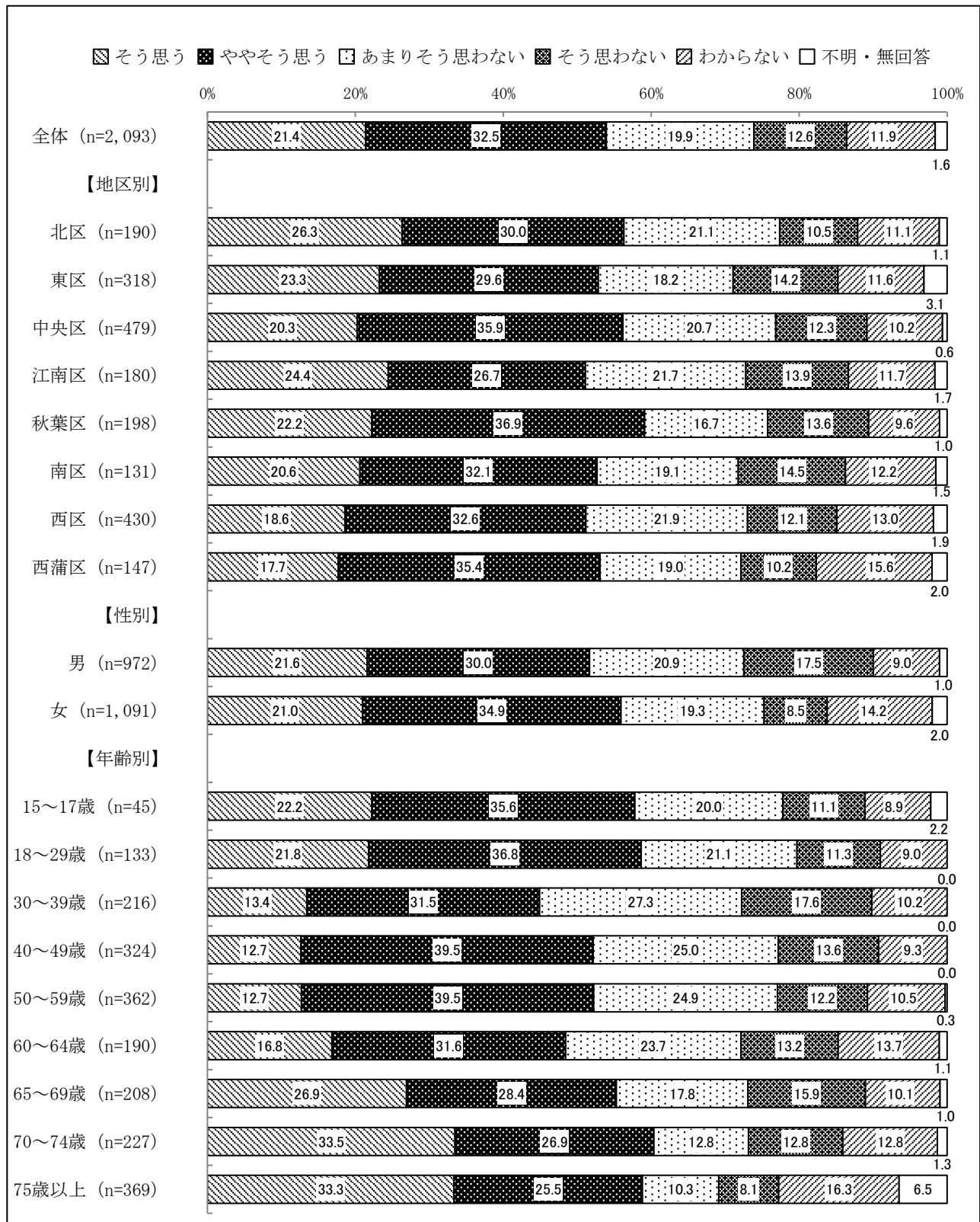
次ページ以降に項目ごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

A 一つの施設で複数のサービスを提供する形にして、施設数を減らすことで改修などの費用を抑える。



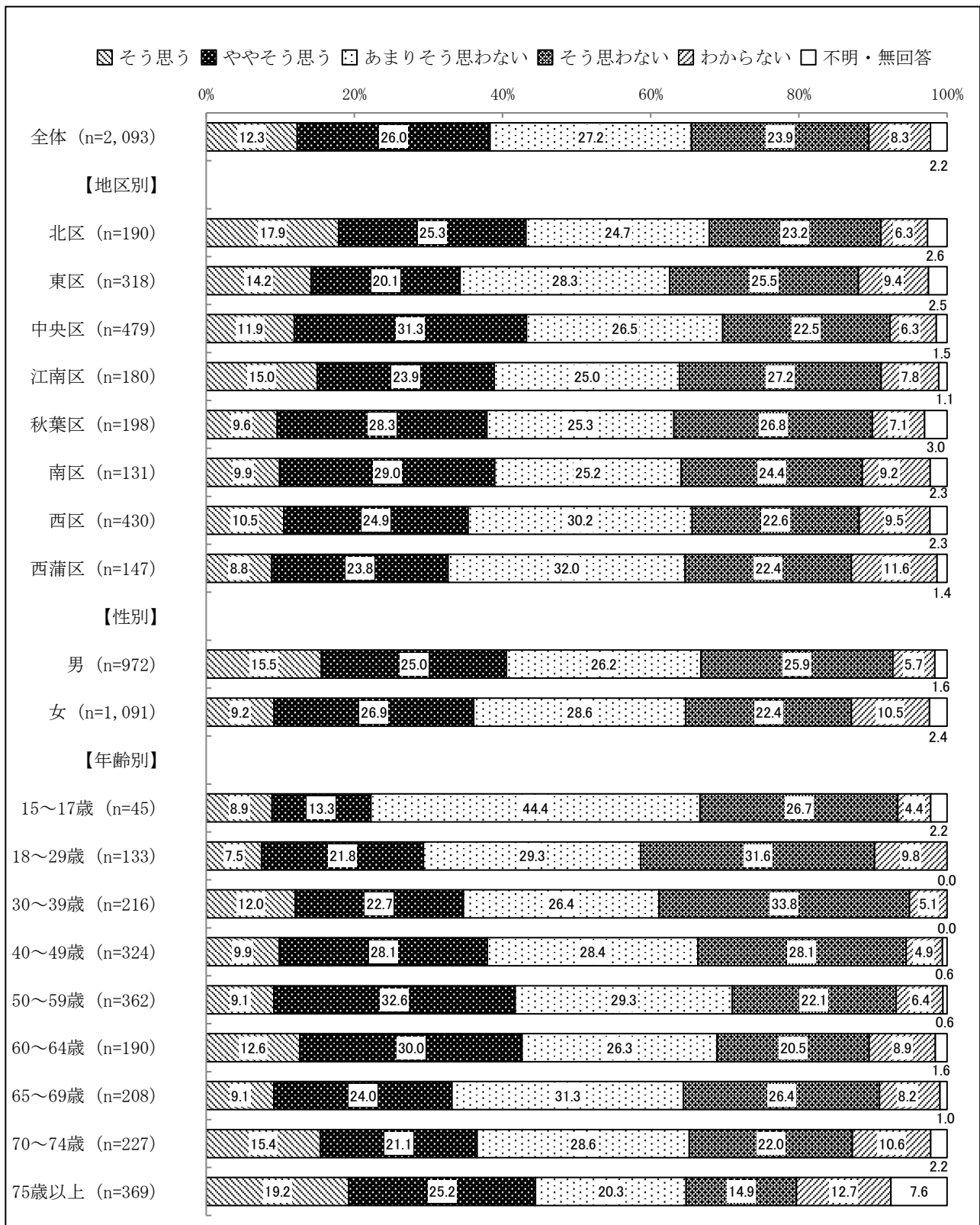
「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、地区別では、江南区（62.2%）、西区（62.1%）で高かった。最も低いのは秋葉区（55.1%）で唯一6割未満となった。性別では、女性（57.5%）と比較して男性（63.5%）で割合が高かった。年齢別では30～39歳（66.2%）で最も高く、6割半ばを超えた。

B 施設数は現状のまま維持し、施設の規模を利用状況にあわせて小規模に見直すことで、改修などの費用を抑える。



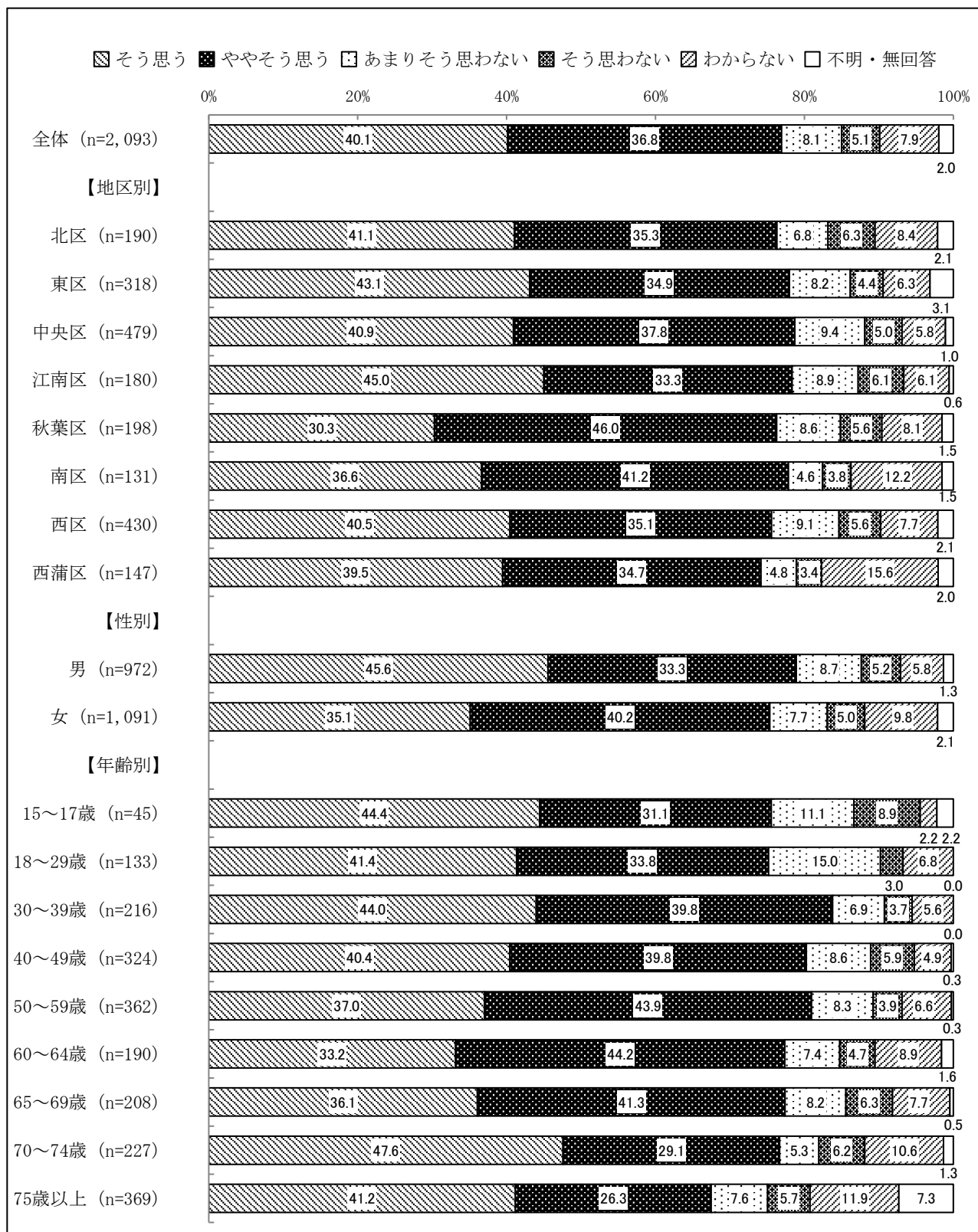
「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、地区別では、秋葉区 (59.1%)、北区 (56.3%)、中央区 (56.2%) で高かった。性別では、男性 (51.6%) と比較して女性 (55.9%) でやや高かった。年齢別では30～39歳 (44.9%) で最も低かった。

C 使用（利用）料金を上げるなど収入を増やし、改修費などに充てることで今ある施設を維持する。



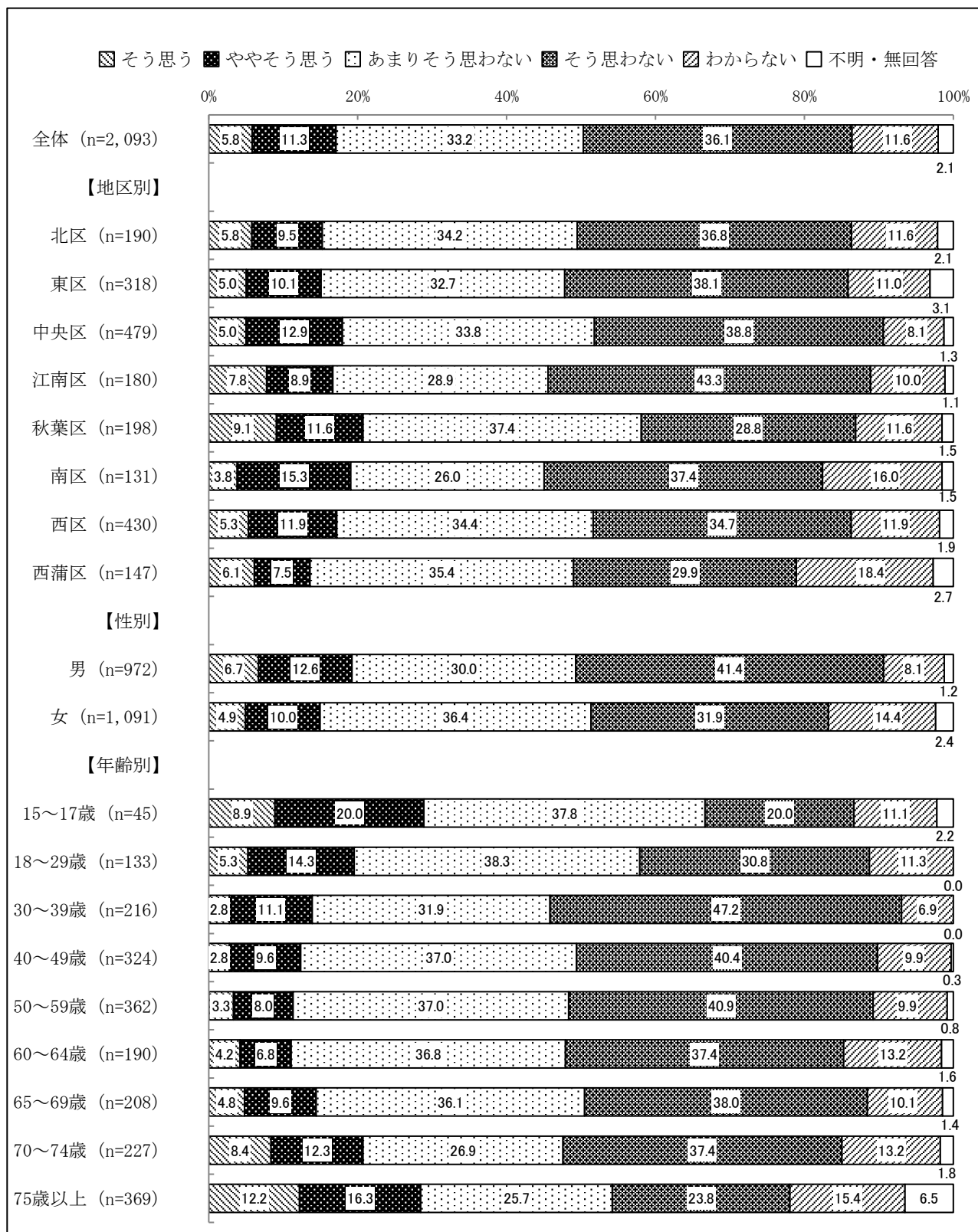
「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、地区別では、北区と中央区（いずれも43.2%）で高く、西蒲区（32.7%）で最も低かった。性別では、女性（36.1%）と比較して男性（40.5%）でやや高かった。年齢別では75歳以上（44.4%）で最も高く、15～17歳（22.2%）で最も低かった。

D 利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す。



「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、地区別では、中央区（78.7%）、江南区（78.3%）、東区（78.0%）で高かった。性別では、女性（75.3%）と比較して男性（78.9%）でやや高かった。年齢別では30～39歳（83.8%）で最も高かった。

E 今ある施設は、他の予算を削ってでも、そのままの規模で維持していく。

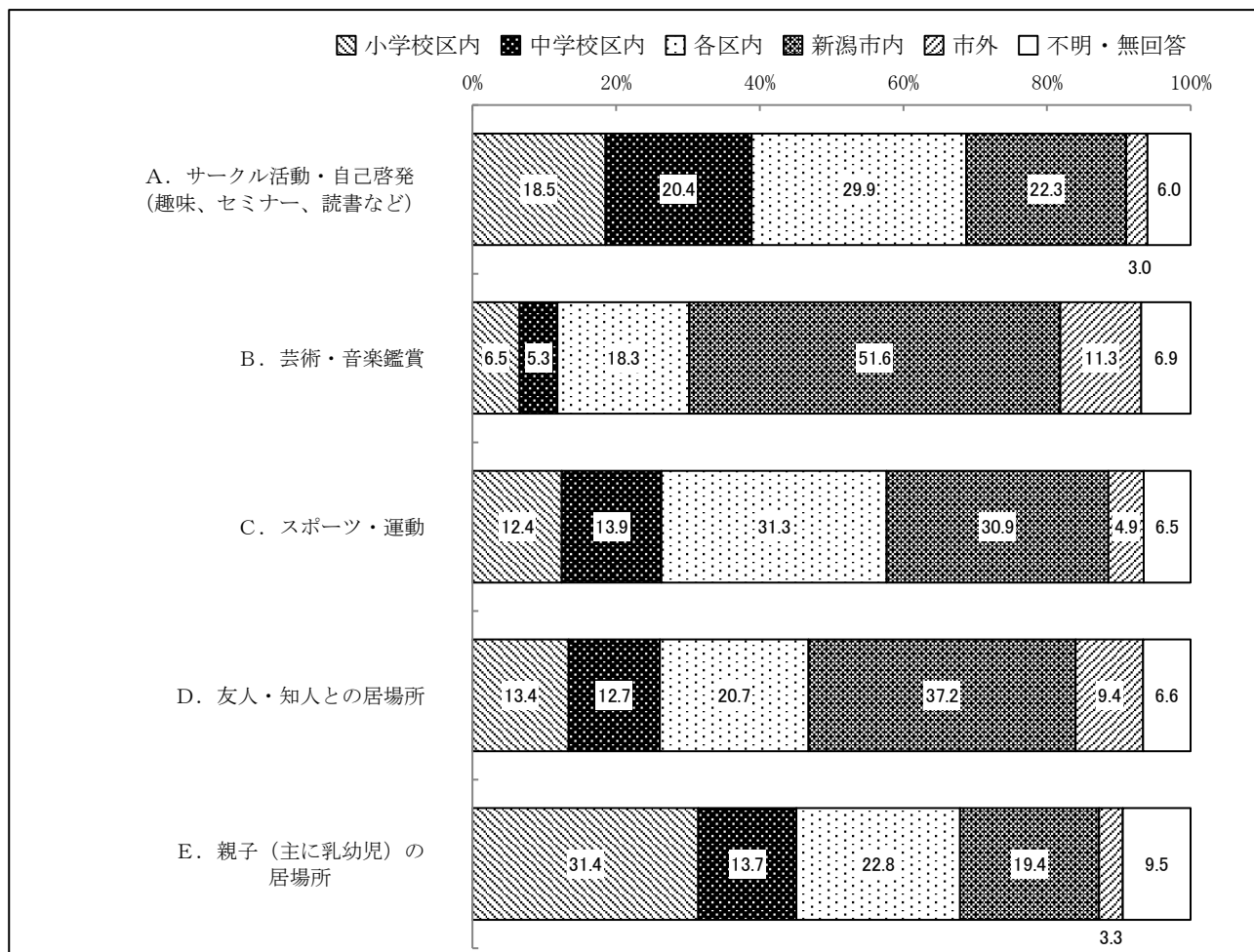


「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、地区別では、秋葉区（20.7%）で最も高く、次いで南区（19.1%）、中央区（18.0%）の順に高かった。性別では、女性（14.9%）と比較して男性（19.2%）で割合がやや高かった。年齢別では15~17歳（28.9%）、75歳以上（28.5%）で高かった。



#### (4) 公共施設を利用する場合の自宅からの範囲

問9 あなたが以下の目的で公共施設を利用する場合に、自宅からどのくらいの範囲までならその施設を利用しますか。A～Eについて、あてはまるものを1ずつ選んで○をつけてください。



#### — 利用目的によって移動範囲に違いが見られた —

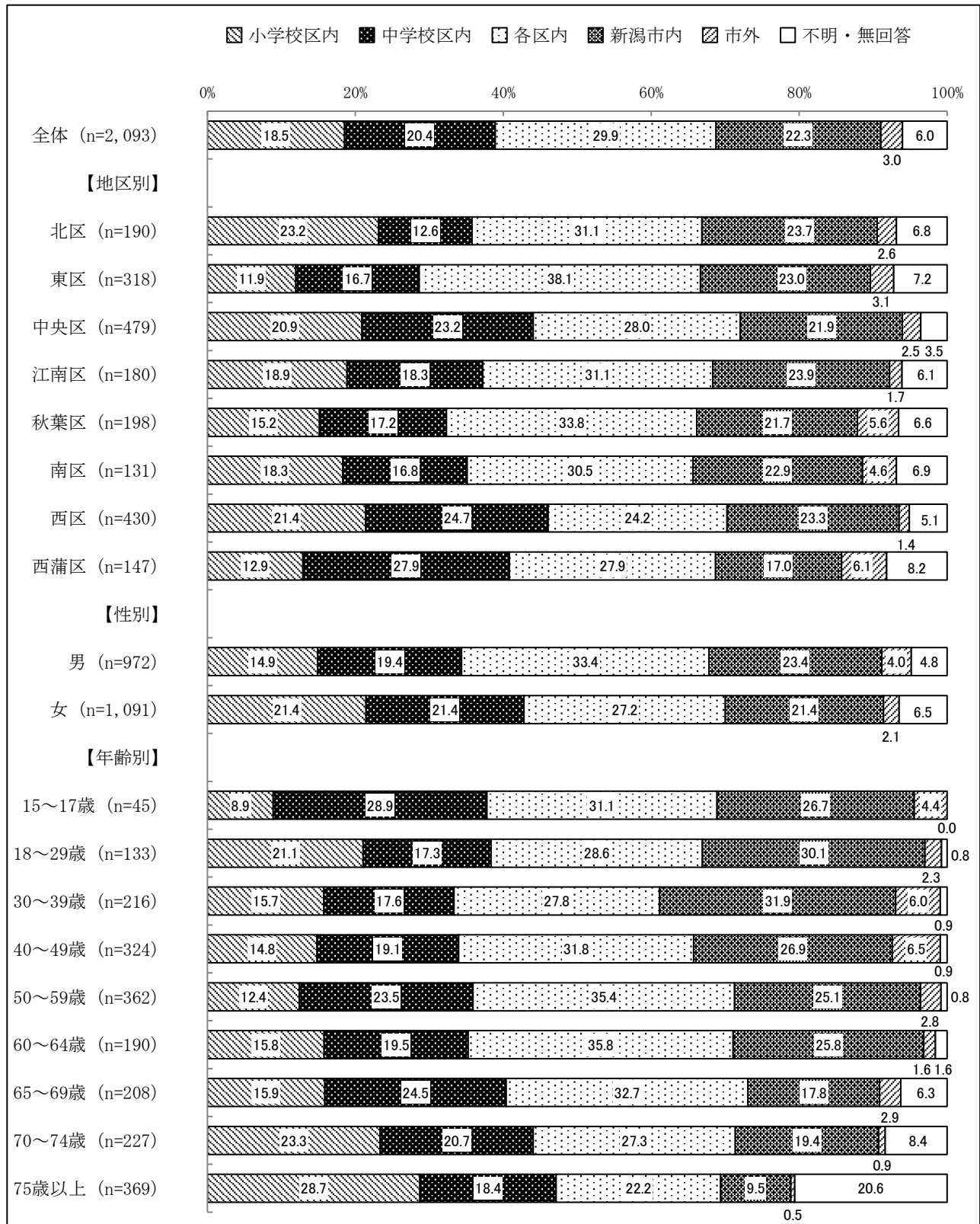
##### 【全体結果】

「A. サークル活動・自己啓発(趣味、セミナー、読書など)」は「各区内」(29.9%)、「B. 芸術・音楽鑑賞」は「新潟市内」(51.6%)、「C. スポーツ・運動」は「各区内」(31.3%)、「D. 友人・知人との居場所」は「新潟市内」(37.2%)、「E. 親子(主に乳幼児)の居場所」は「小学校区内」(31.4%)が高かった。

##### 【属性別結果】

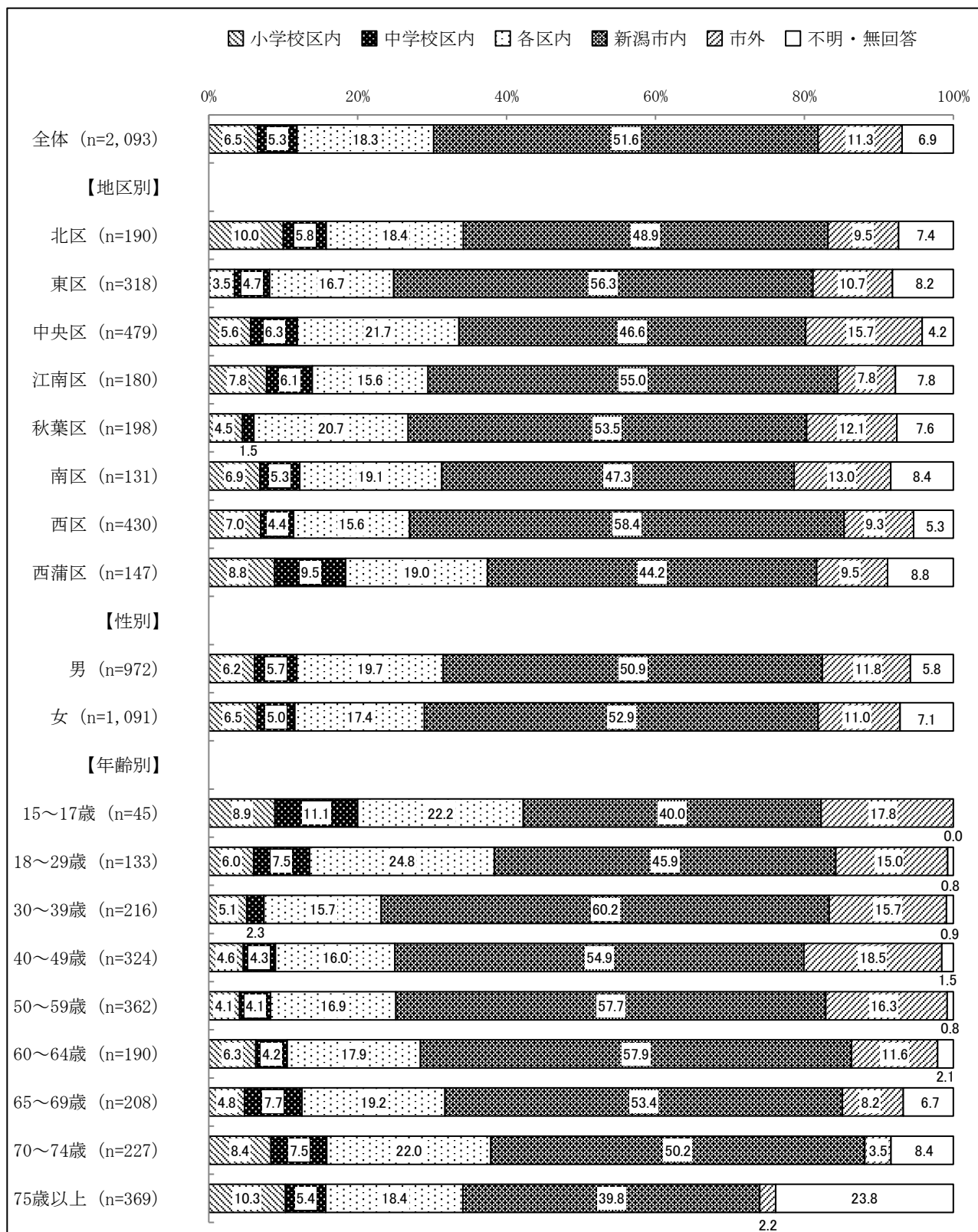
次ページ以降に項目ごとの地区別・性別・年齢別の集計結果をまとめた。

A. サークル活動・自己啓発（趣味、セミナー、読書など）



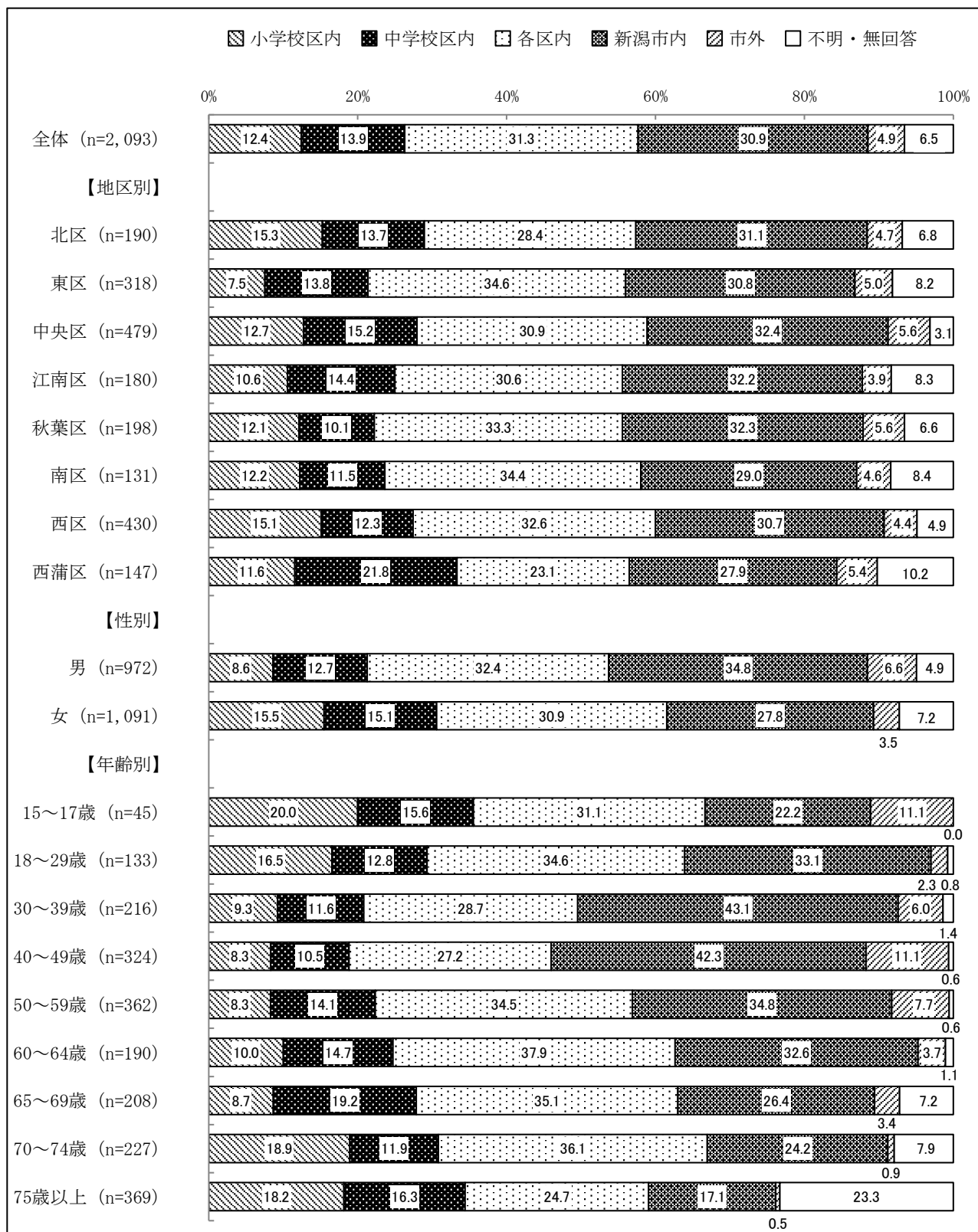
「小学校区内」と「中学校区内」を合わせた割合は、地区別では西区（46.0%）、中央区（44.1%）で高く、東区（28.6%）で最も低く差がみられた。性別では男性（34.4%）と比較して女性（42.8%）で割合が高かった。年齢別では65歳以上で年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられた。

B. 芸術・音楽鑑賞



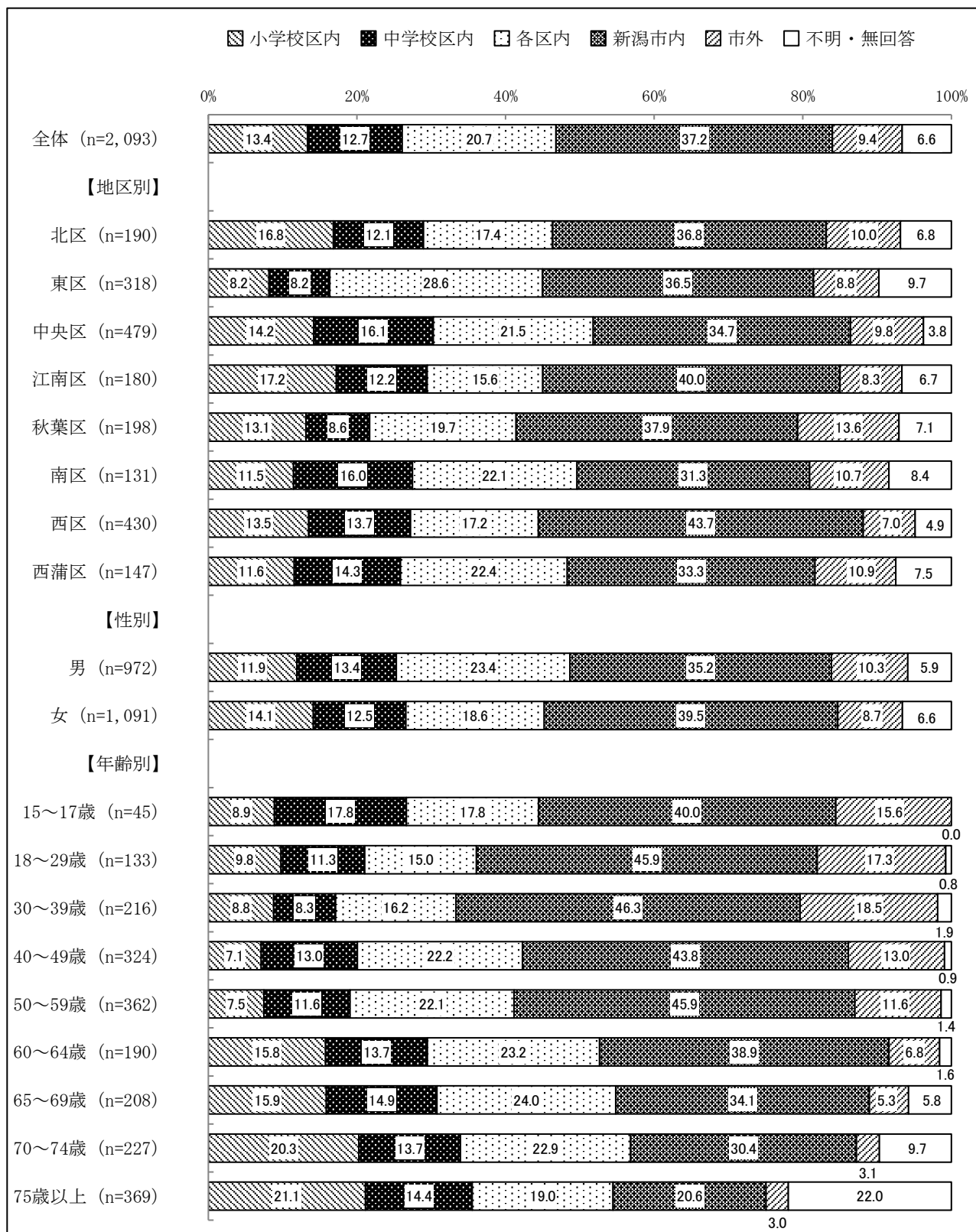
「小学校区内」、「中学校区内」、「各区内」を合わせた割合は、地区別では西蒲区（37.4%）で最も高く、最も低い東区（24.8%）と差がみられた。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では29歳以下で割合が高く、30歳以上では年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられた。

C. スポーツ・運動



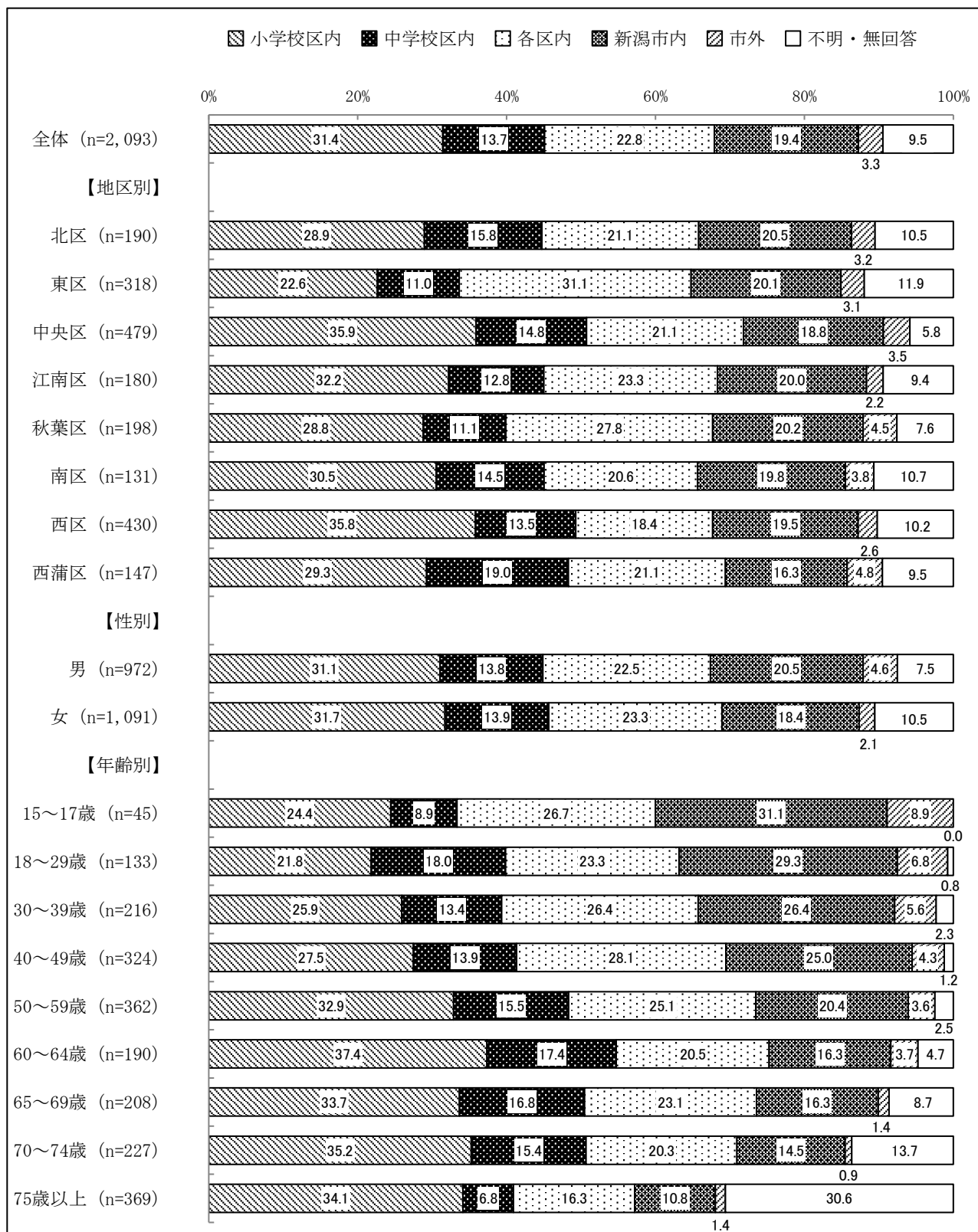
「小学校区内」と「中学校区内」を合わせた割合は、地区別では西蒲区（33.3%）で最も高く、最も低い東区（21.4%）と差がみられた。性別では男性（21.3%）と比較して女性（30.6%）で割合が高かった。年齢別では15~17歳（35.6%）で最も高く、最も低い40~49歳（18.8%）と差がみられた。

D. 友人・知人との居場所



「小学校区内」の割合は、地区別では江南区（17.2%）、北区（16.8%）で高く2割弱となった。逆に低かったのは東区（8.2%）で、唯一1割以下となった。性別では男性（11.9%）と比較して女性（14.1%）で割合がやや高かった。年齢別では年齢が高くなるにつれて高くなり、逆に「市外」の割合が低くなる傾向がみられた。

### E. 親子（主に乳幼児）の居場所

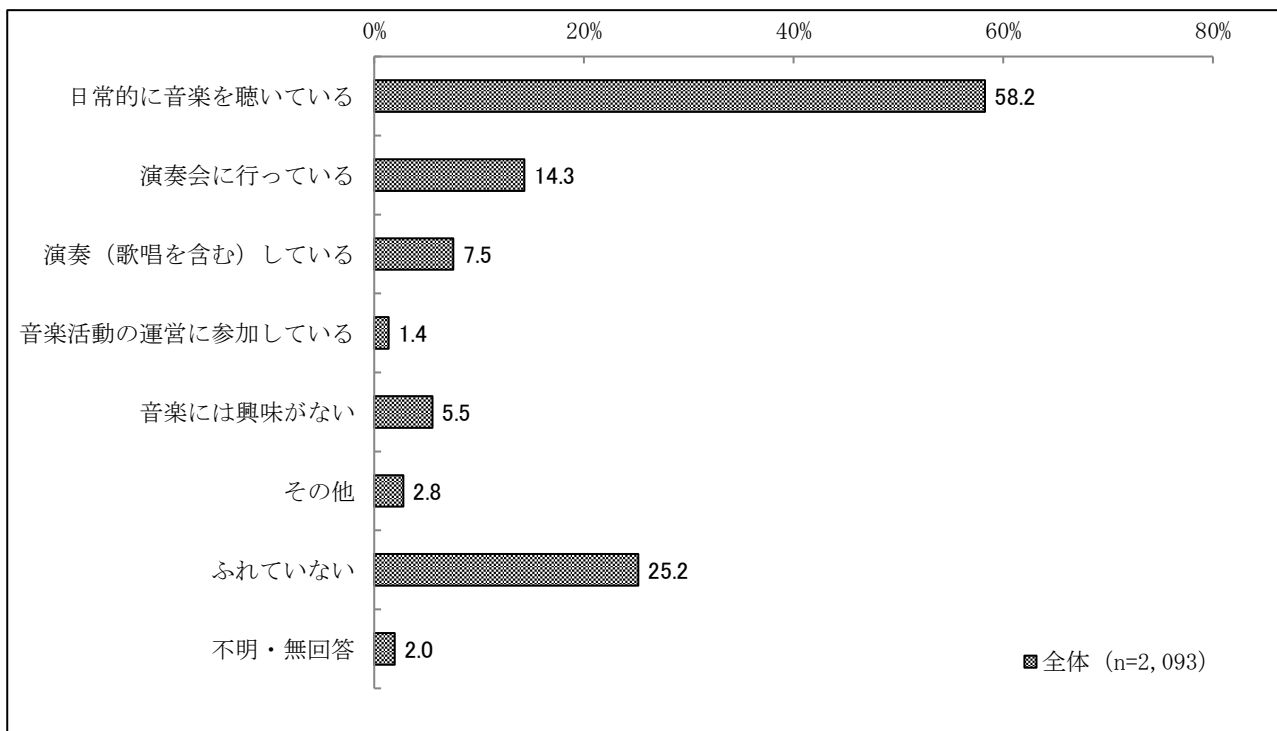


「小学校区内」の割合は、地区別では中央区（35.9%）と西区（35.8%）で高く、最も低い東区（22.6%）と差がみられた。性別での大きな差はみられなかった。年齢別では60～64歳（37.4%）で最も高く、最も低い18～29歳（21.8%）と差がみられた。

### 3. 音楽とのかかわりについて

#### (1) 音楽とのふれあい

問10 あなたは、音楽にふれていますか（○はいくつでも）



— 6割弱が「日常的に音楽を聴いている」 —

#### 【全体結果】

「日常的に音楽を聴いている」（58.2%）の割合が最も高く、6割弱となった。一方、割合が低かったのは「音楽活動の運営に参加している」（1.4%）であった。

#### 【属性別結果】（次ページ図3-1参照）

##### ① 地区別

すべての地区で「日常的に音楽を聴いている」の割合が最も高かった。

##### ② 性別

「演奏会に行っている」の割合は、男性（10.1%）と比較して女性（18.3%）で高かった。

##### ③ 年齢別

すべての年代で「日常的に音楽を聴いている」の割合が最も高かった。「ふれていない」を除くと、次いで割合が高かったのは、50～59歳では「演奏会に行っている」（18.5%）、18～29歳では「演奏（歌唱を含む）している」（14.3%）が多い結果となった。

図 3-1 音楽とのふれあい（地区別/性別/年齢別） 1/2

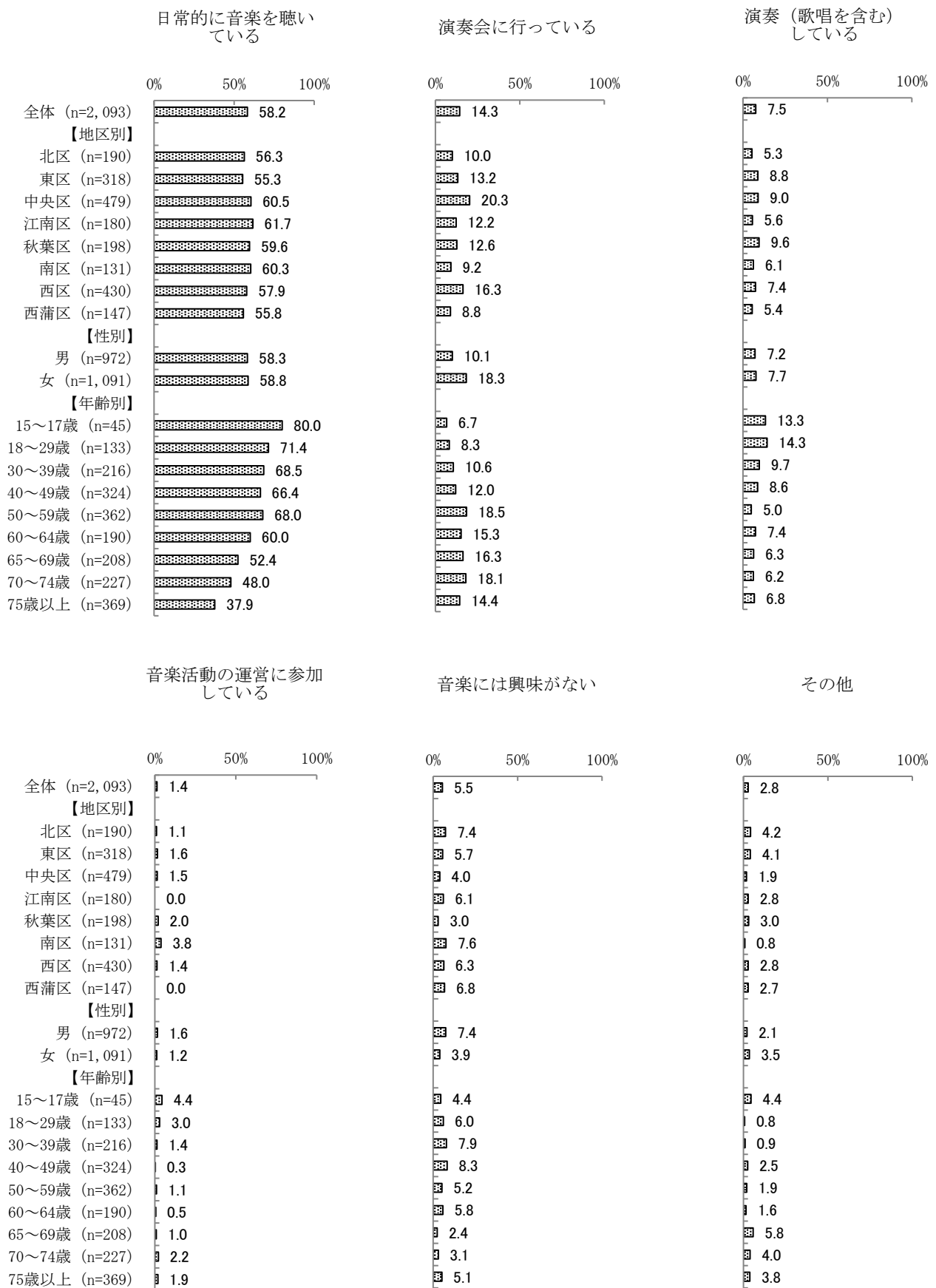
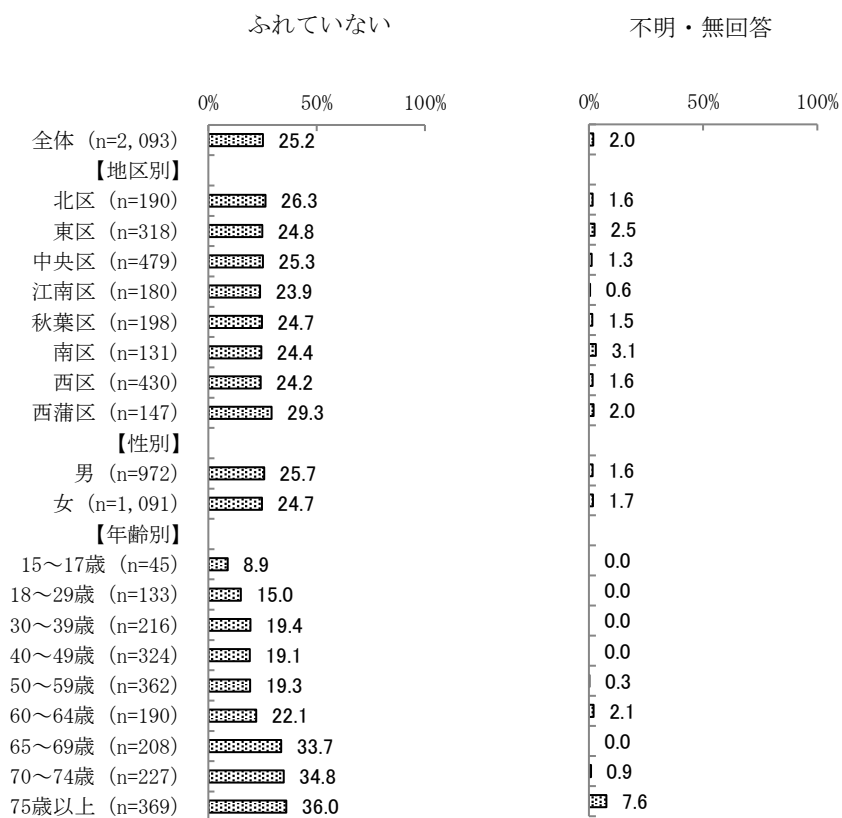


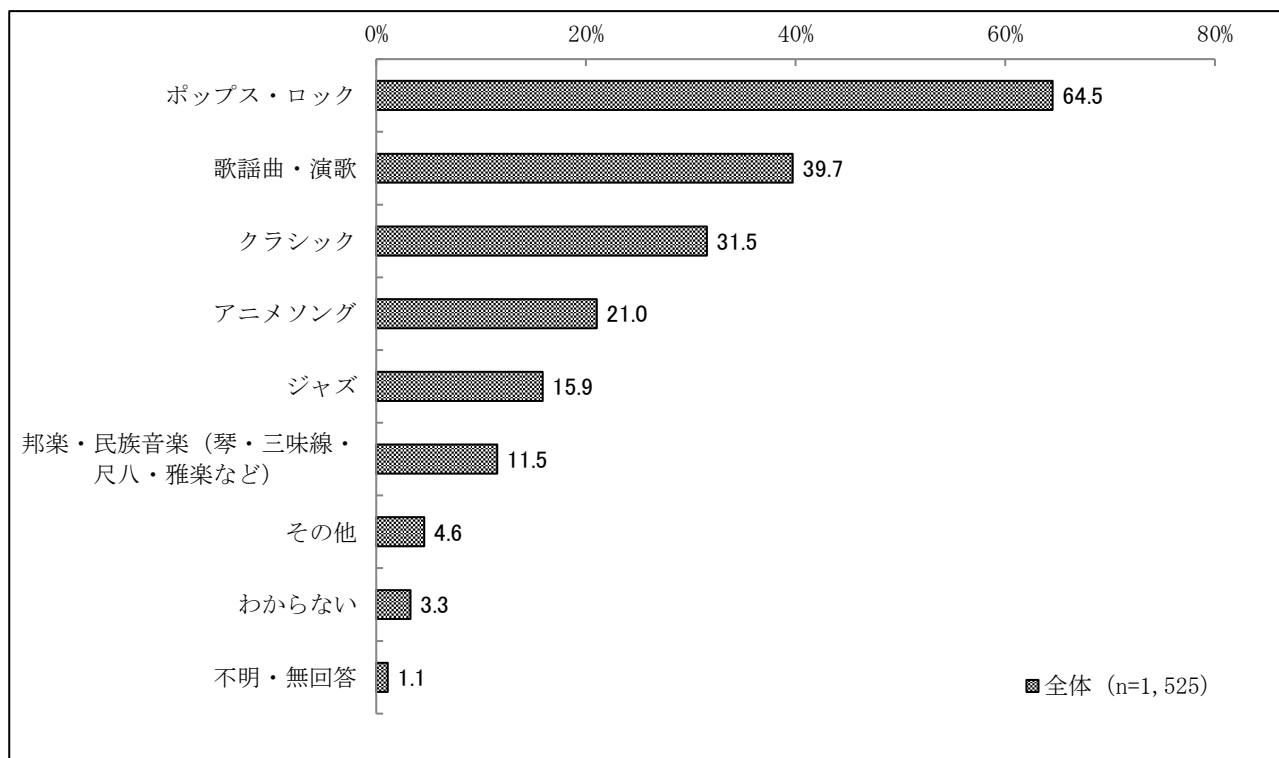


図 3-1 音楽とのふれあい（地区別/性別/年齢別） 2/2



## (2) ふれている音楽

問 1 1 どんな音楽にふれていますか (〇はいくつでも)



### — 「ポップス・ロック」が6割半ばでトップ —

#### 【全体結果】

「ポップス・ロック」(64.5%)の割合が最も高く、次いで「歌謡曲・演歌」(39.7%)、「クラシック」(31.5%)、「アニメソング」(21.0%)の順となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図 3-2 参照)

##### ① 地区別

「歌謡曲・演歌」は西区(33.9%)で最も割合が低く、他の地区と比べ差がみられた。

##### ② 性別

「クラシック」の割合は、男性(27.8%)と比較して女性(35.0%)で高く、「ジャズ」は女性(12.7%)と比較して男性(19.5%)で高かった。

##### ③ 年齢別

69歳以下では「ポップス・ロック」、70歳以上では「歌謡曲・演歌」の割合が最も高かった。「歌謡曲・演歌」、「クラシック」は年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向があり、逆に「ポップス・ロック」と「アニメソング」は年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられた。

図 3-2 ふれている音楽（地区別/性別/年齢別） 1/2

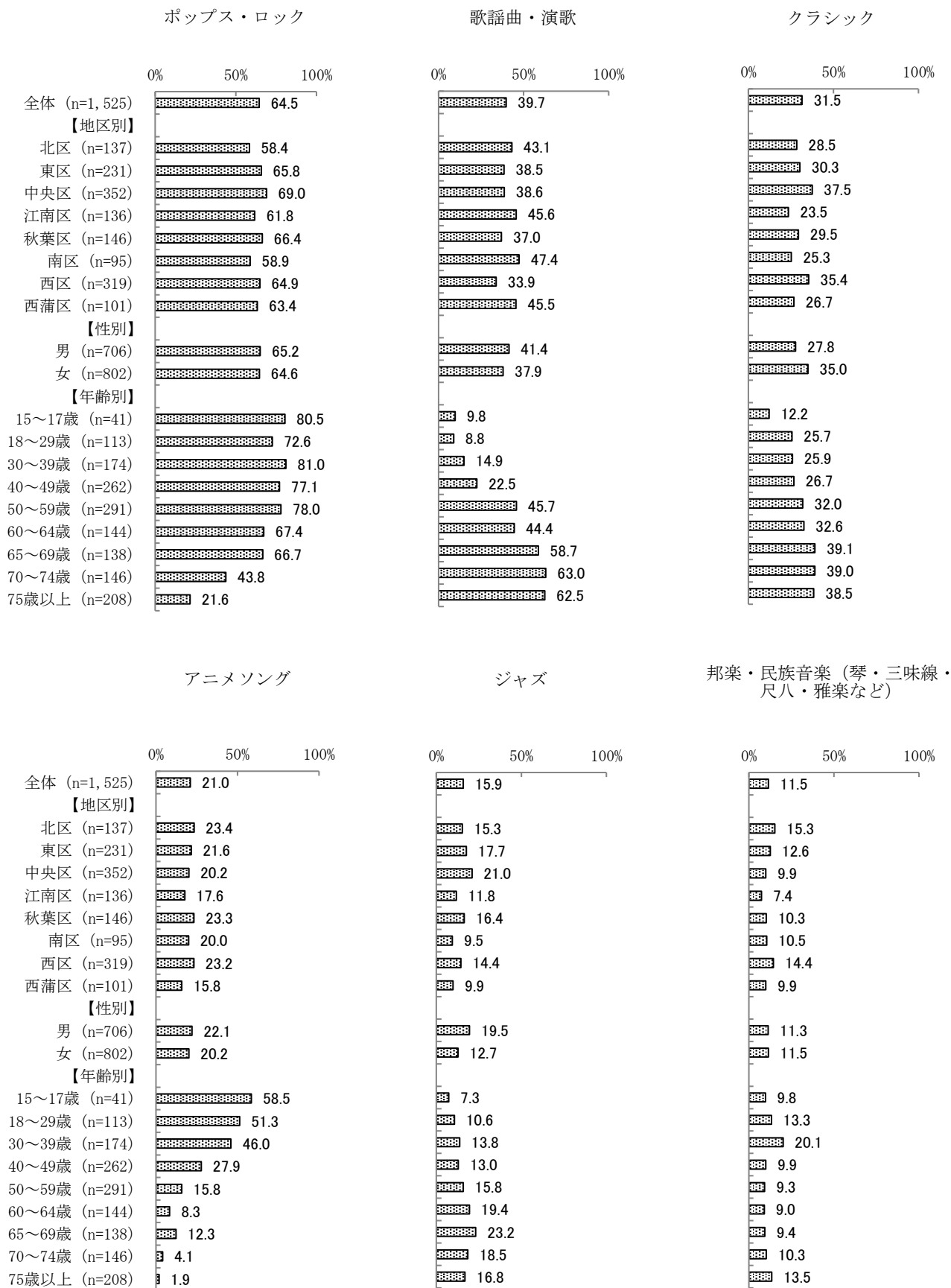
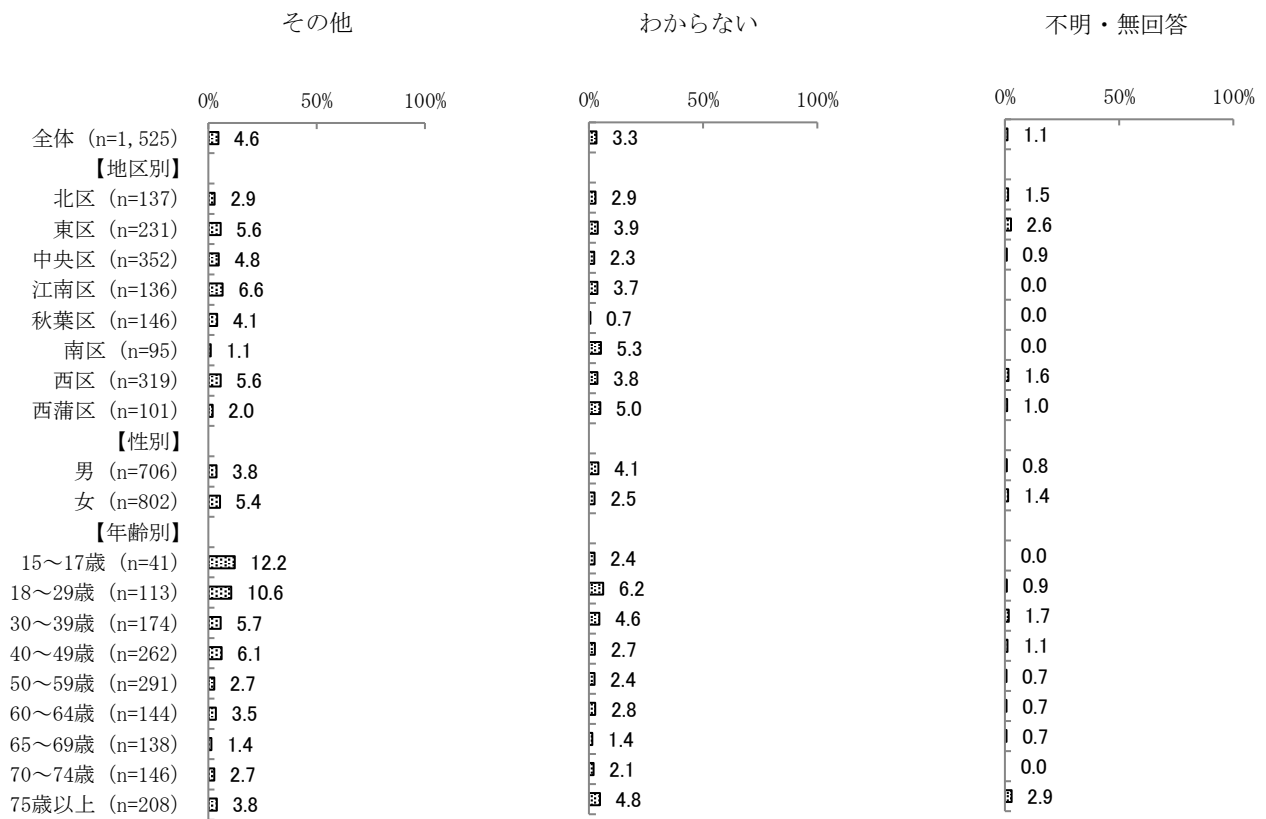
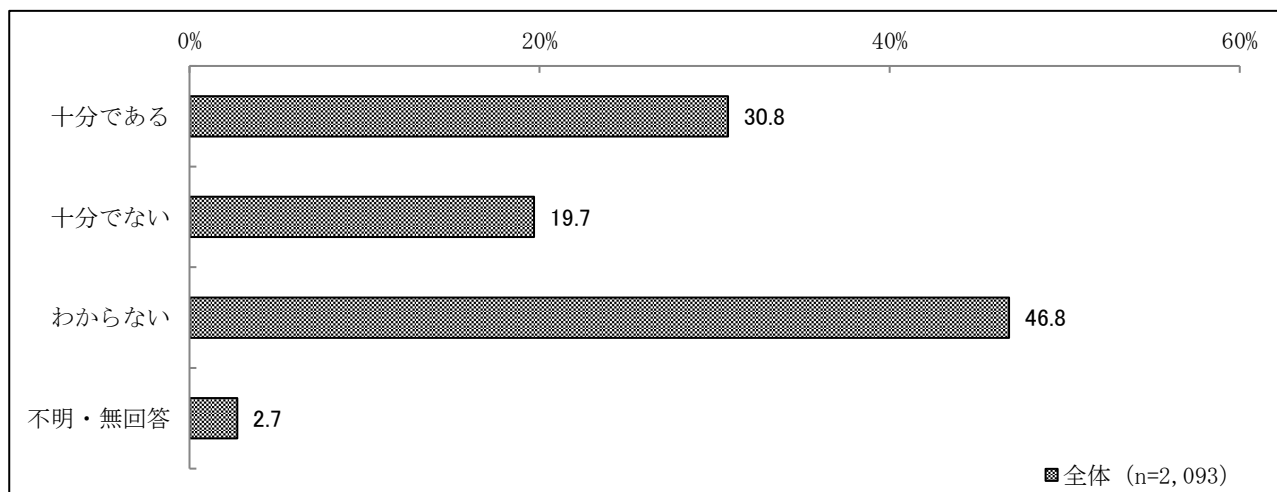


図 3-2 ふれている音楽（地区別/性別/年齢別） 2/2



### (3) 音楽に関する環境の充実度

問 1 2 市内には様々な文化施設があります。文化施設での公演により、音楽に関する環境が満たされていると感じますか。(○は1つだけ)



— 音楽に関する環境が「十分である」が約3割 —

#### 【全体結果】

「十分である」の割合は約3割となった。一方で、「わからない」の割合が5割弱となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図 3-3 参照)

##### ① 地区別

「十分である」の割合は、中央区 (37.2%)、西区 (33.0%)、北区 (31.6%) で高かった。一方、「十分でない」の割合は、秋葉区 (24.7%) で最も高かった。

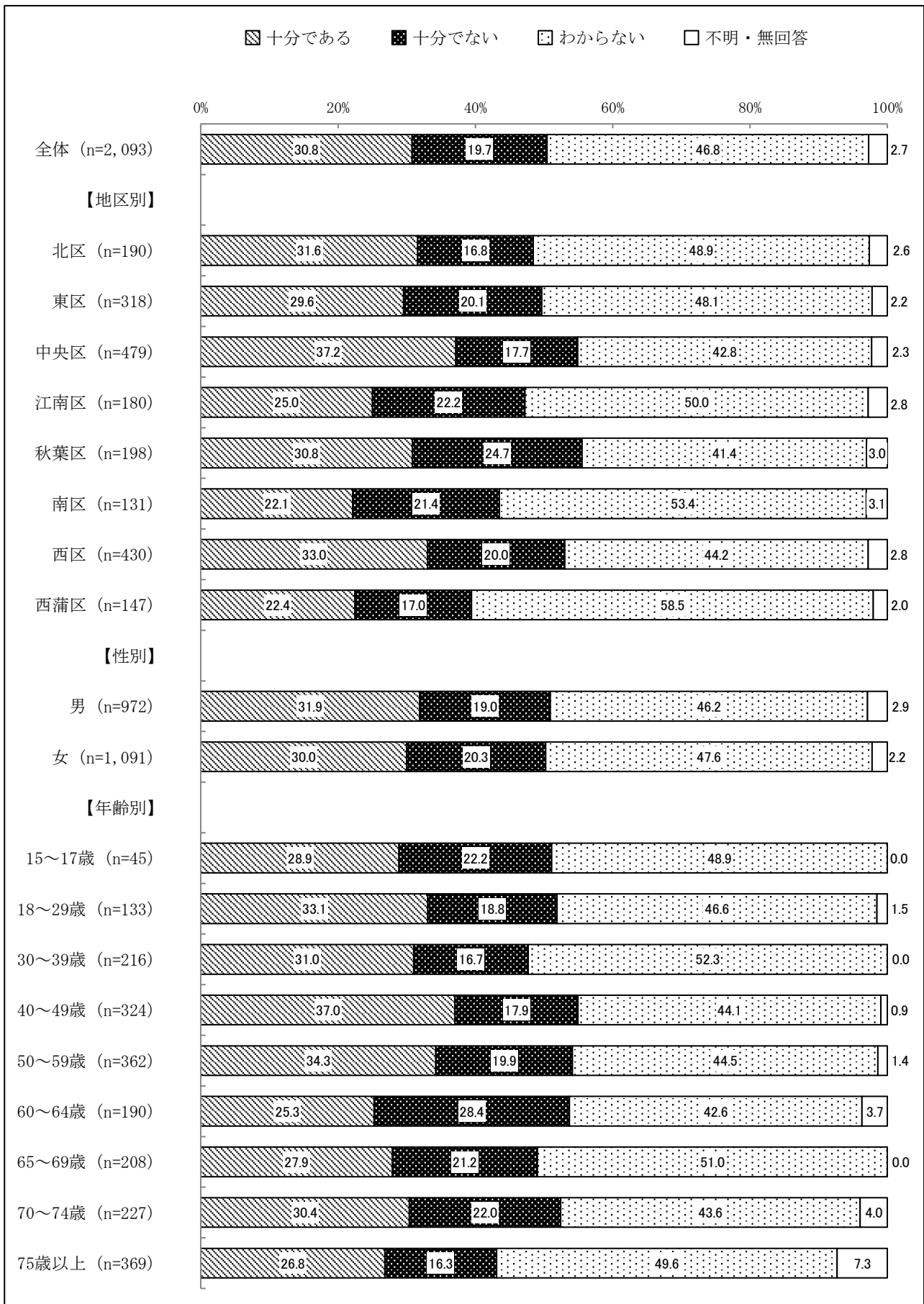
##### ② 性別

性別での大きな差はみられなかった。

##### ③ 年齢別

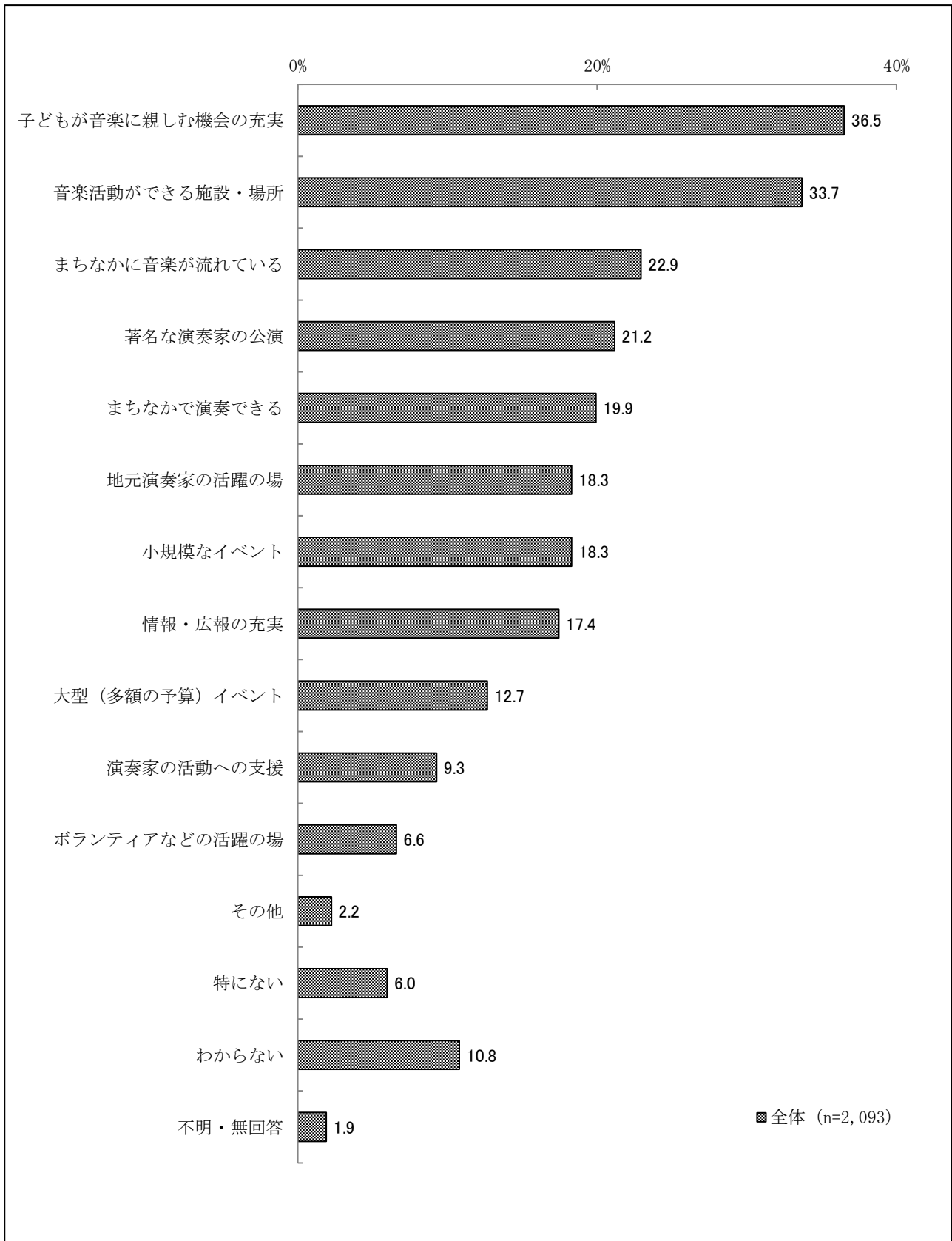
「十分である」の割合は、40～49歳 (37.0%) で最も高く、逆に最も低かったのは60～64歳 (25.3%) となった。

図 3-3 音楽に関する環境（地区別/性別/年齢別）



#### (4)「スポーツと音楽都市」として必要なもの

問13 「スポーツと音楽都市」として新潟市の音楽に関する環境を充実させるために、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



## — 「子どもが音楽に親しむ機会の充実」が3割半ばでトップ —

### 【全体結果】

「子どもが音楽に親しむ機会の充実」（36.5%）、「音楽活動ができる施設・場所」（33.7%）の割合が高く、3割半ばとなった。次いで、「まちなかに音楽が流れている」（22.9%）、「著名な演奏家の公演」（21.2%）の順となった。

### 【属性別結果】（次ページ図3-4参照）

#### ④ 地区別

中央区で「まちなかに音楽が流れている」（28.2%）と「まちなかで演奏できる」（26.5%）の割合が高く、他の地区と違いがみられた。

#### ⑤ 性別

「子どもが音楽に親しむ機会の充実」の割合は、男性（33.3%）と比較して女性（39.7%）で高かった。

#### ⑥ 年齢別

15～17歳で「大型（多額の予算）イベント」（44.4%）、「まちなかに音楽が流れている」（40.0%）の割合が高かった。この2つの項目は、年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられた。



図 3-4 「スポーツと音楽都市」として必要なもの（地区別/性別/年齢別） 1/3

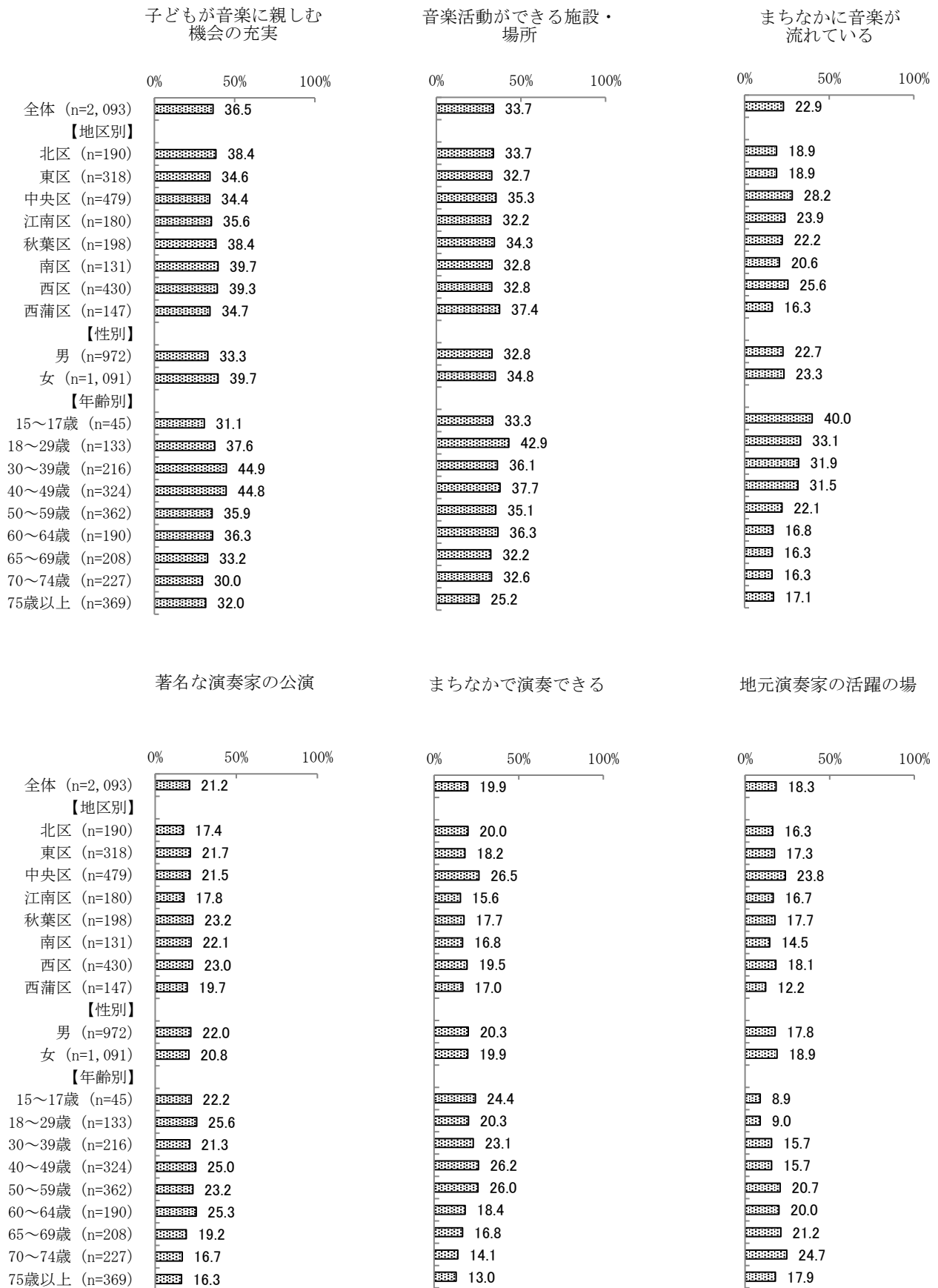


図 3-4 「スポーツと音楽都市」として必要なもの（地区別/性別/年齢別） 2/3

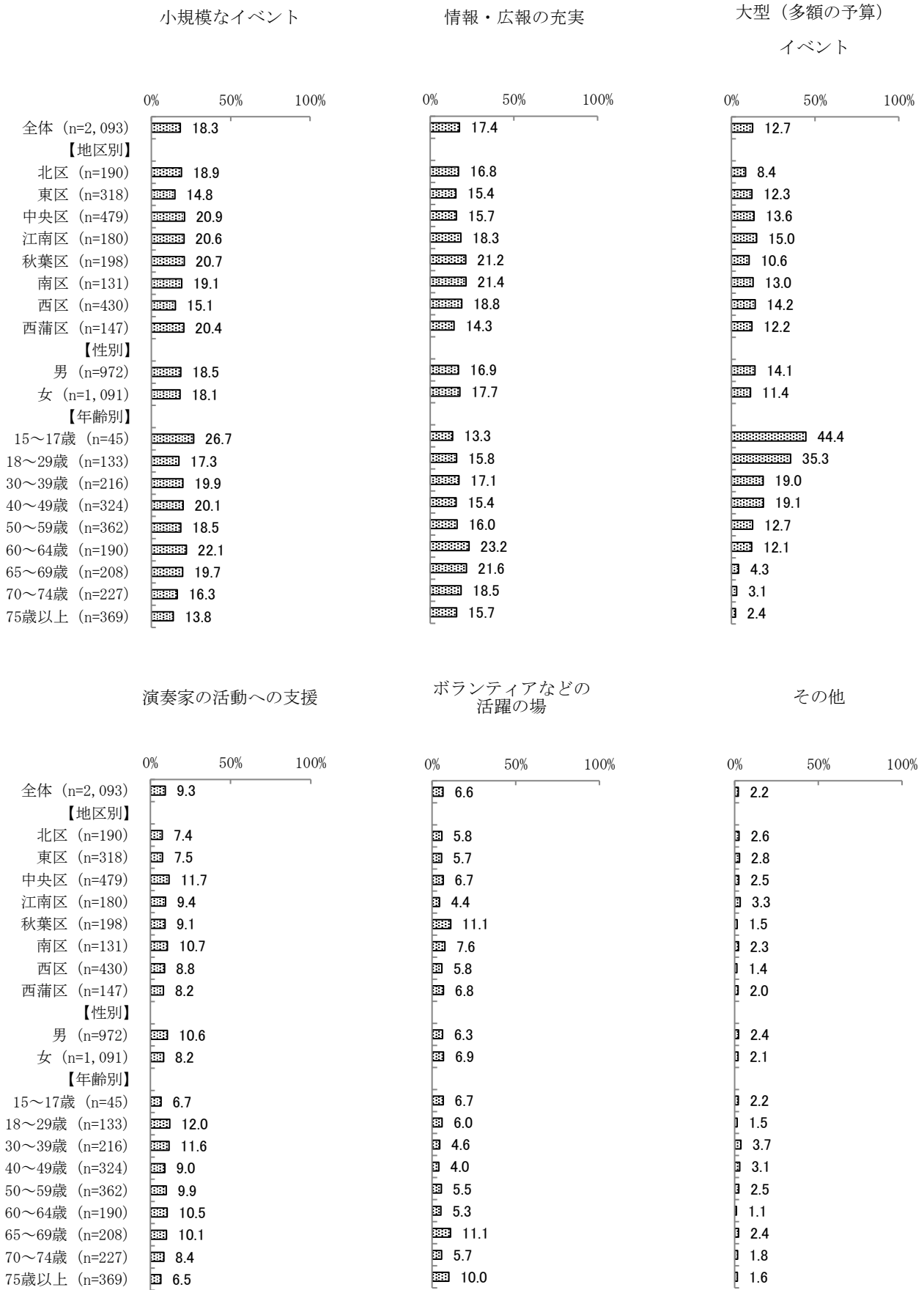
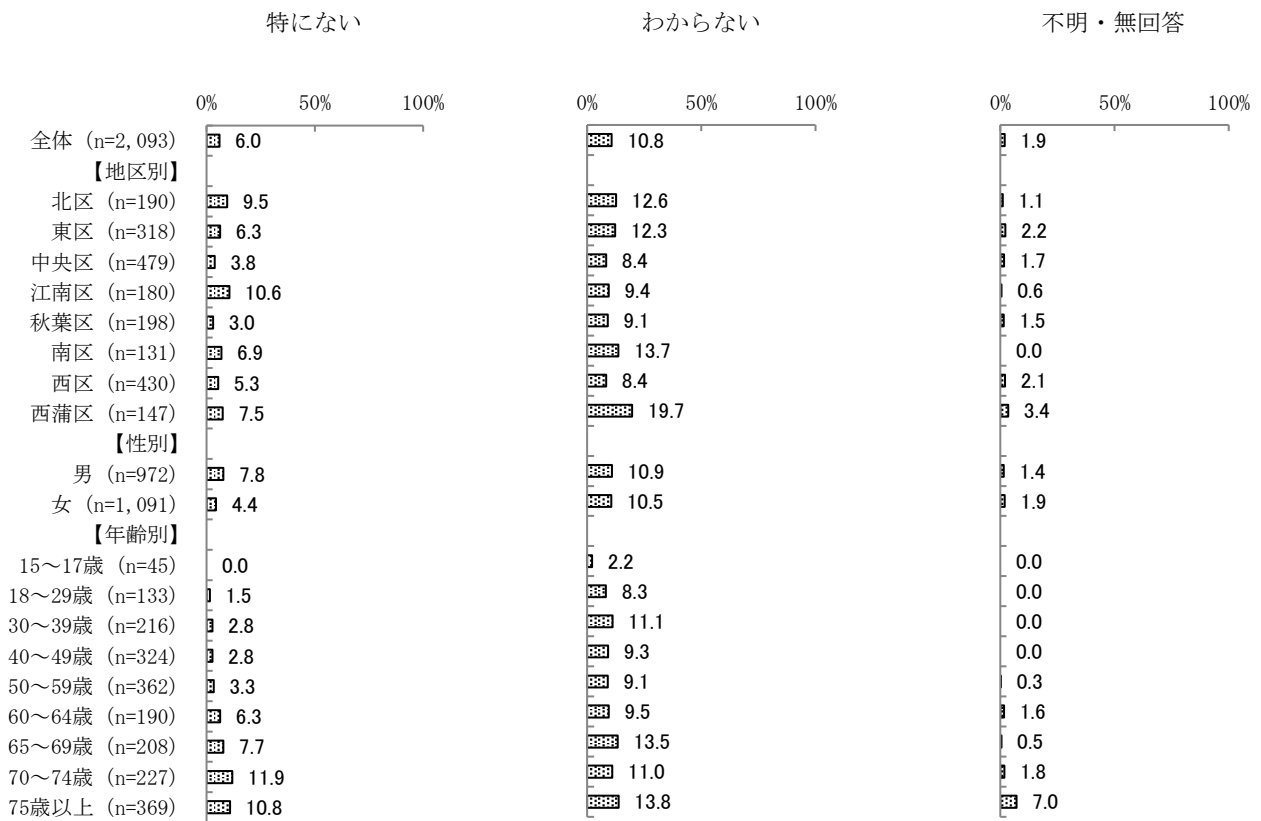
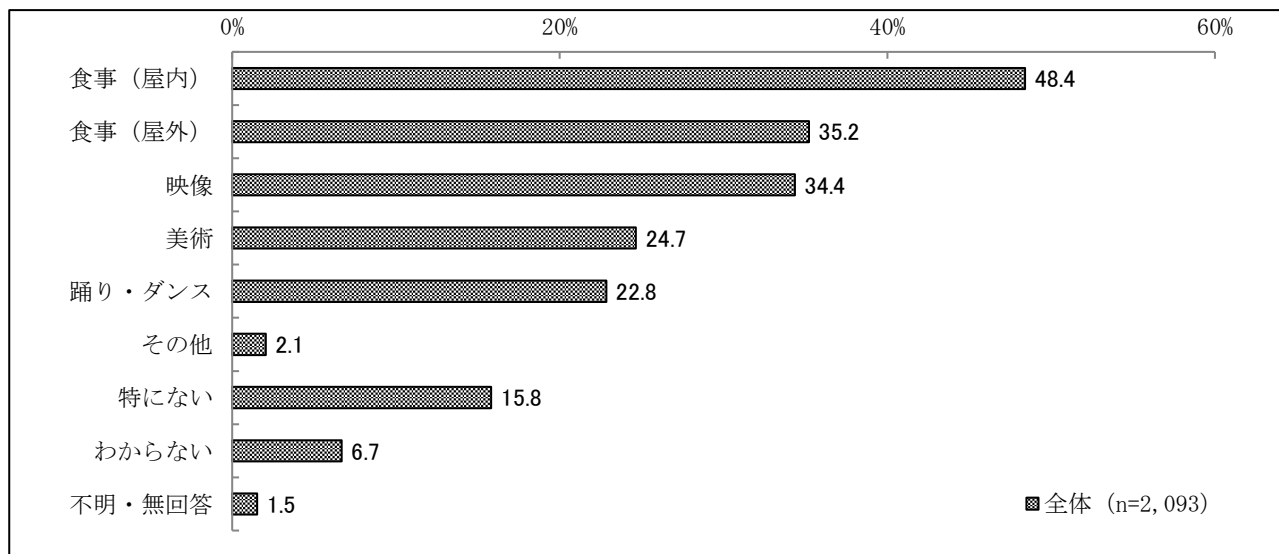


図 3-4 「スポーツと音楽都市」として必要なもの（地区別/性別/年齢別） 3/3



## (5) 音楽とともに楽しみたいもの

問14 音楽とともに楽しみたいものはありますか。(〇はいくつでも)



— 「食事(屋内)」を楽しみたいが約5割でトップ —

### 【全体結果】

「食事(屋内)」(48.4%)が最も割合が高く、約5割となった。次いで、「食事(屋外)」(35.2%)、「映像」(34.4%)が続く。

### 【属性別結果】(次ページ図3-5参照)

#### ① 地区別

秋葉区は「食事(屋内)」(53.5%)、「食事(屋外)」(39.4%)の割合が他の地区と比べ高かった。中央区は「美術」(30.9%)の割合が他の地区と比べ高かった。西蒲区と東区は「特にない」(西蒲区21.1%、東区20.4%)の割合が他の地区と比べ高く、2割以上となった。

#### ② 性別

「食事(屋内)」(男性46.0%、女性51.1%)と「踊り・ダンス」(男性16.8%、女性28.4%)の割合は、いずれも女性で高かった。

#### ③ 年齢別

「食事(屋内)」、「食事(屋外)」、「映像」、「踊り・ダンス」は、おおむね年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられ、逆に「特にない」の割合は年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられた。

図 3-5 音楽とともに楽しみたいもの（地区別/性別/年齢別） 1/2

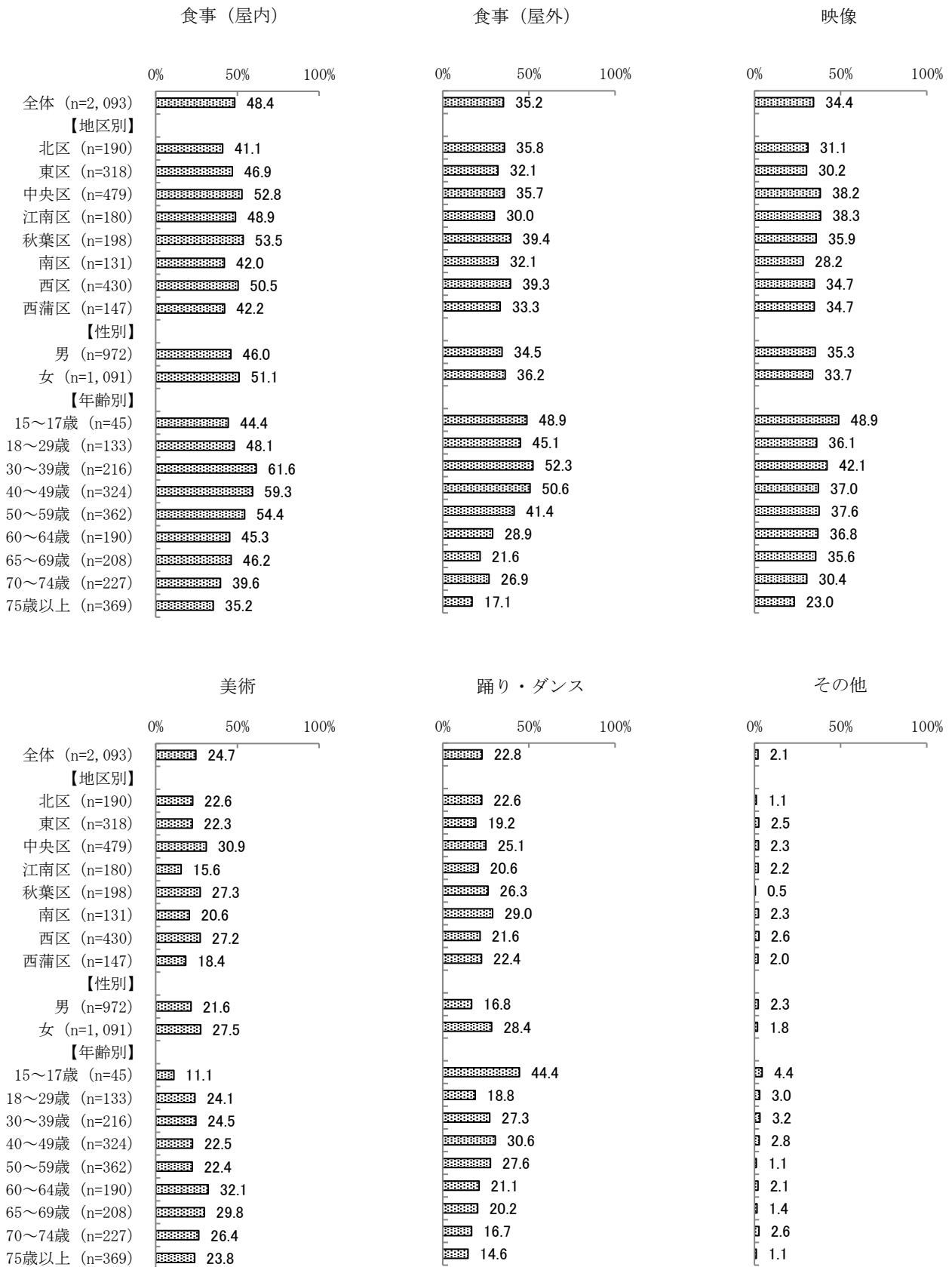
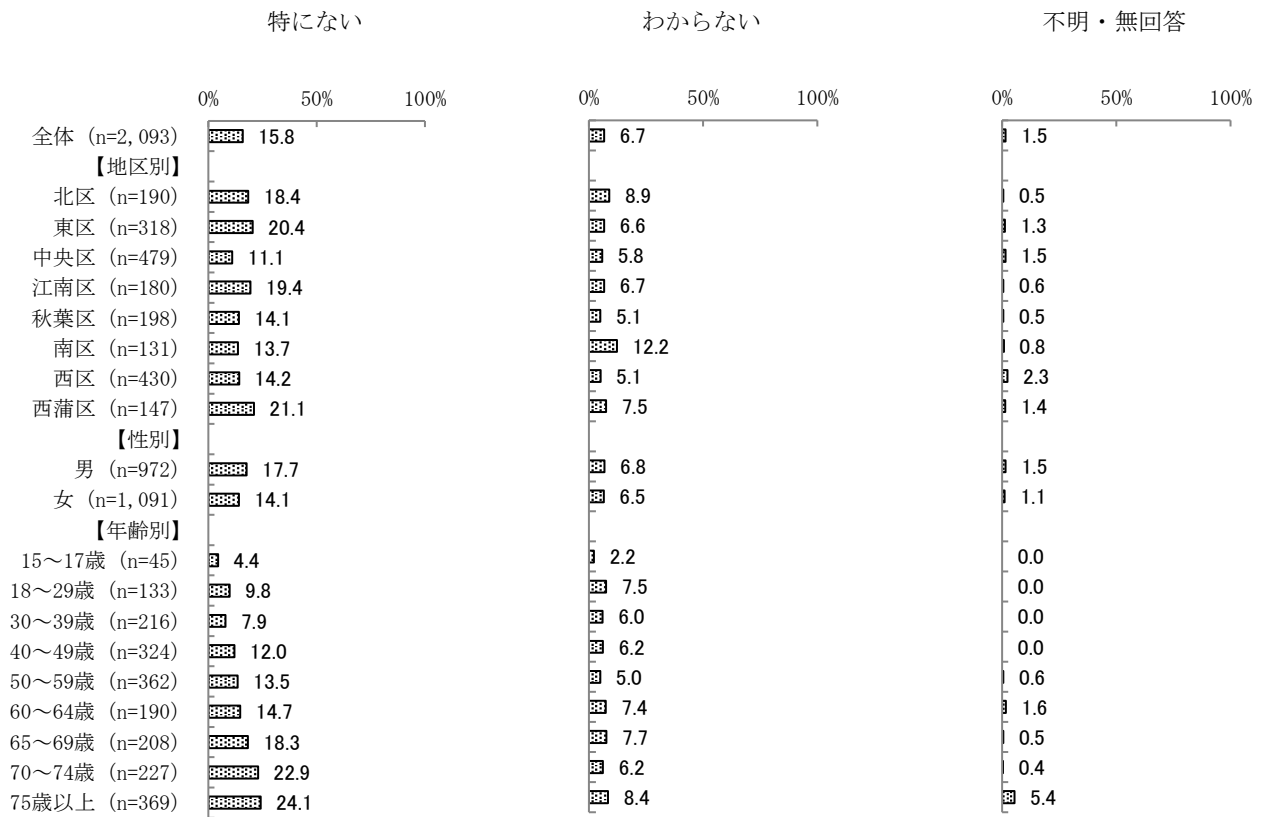


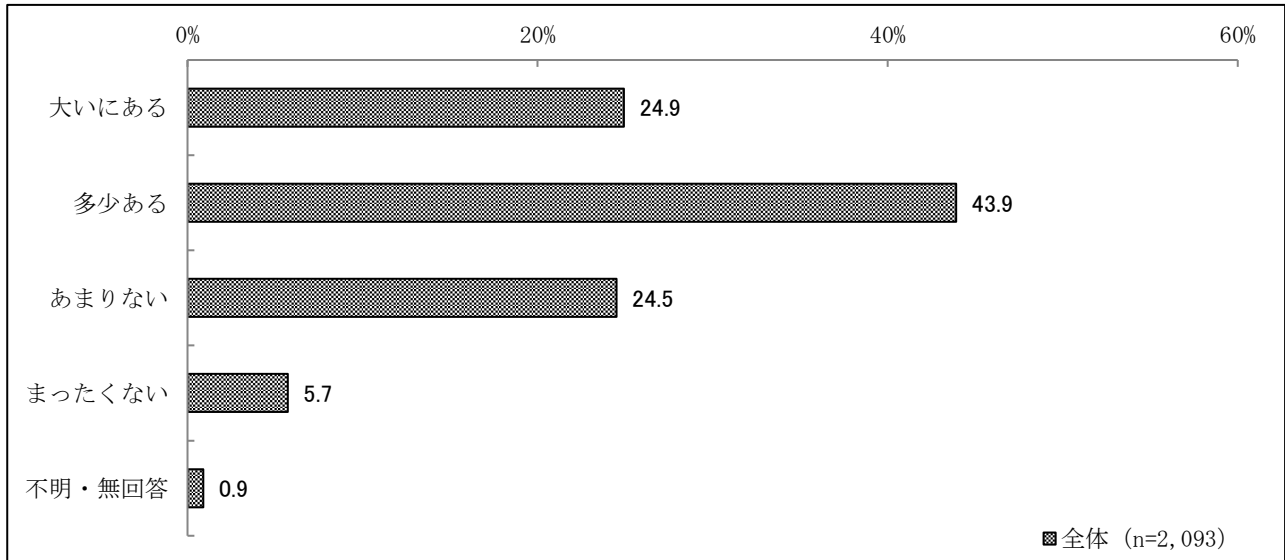
図 3-5 音楽とともに楽しみたいもの（地区別/性別/年齢別） 2/2



## 4. こころの健康について

### (1) 日常生活の悩みやストレス

問15 あなたは、この1ヶ月の間に、日常生活で悩みやストレスを感じたことがありましたか。  
(○は1つだけ)



— 合計で約7割がストレスを感じたことが『ある』 —

#### 【全体結果】

「多少ある」(43.9%)、「大いにある」(24.9%)を合わせた『ある』は68.8%で約7割となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図4-1参照)

##### ① 地区別

「大いにある」の割合は、江南区(32.8%)で最も高く、次いで西区(27.7%)、東区(26.4%)、中央区(26.1%)の順となっている。「大いにある」と「多少ある」を合わせた『ある』の割合が高いのは、中央区(72.2%)、北区(71.1%)、江南区(70.6%)の順となった。

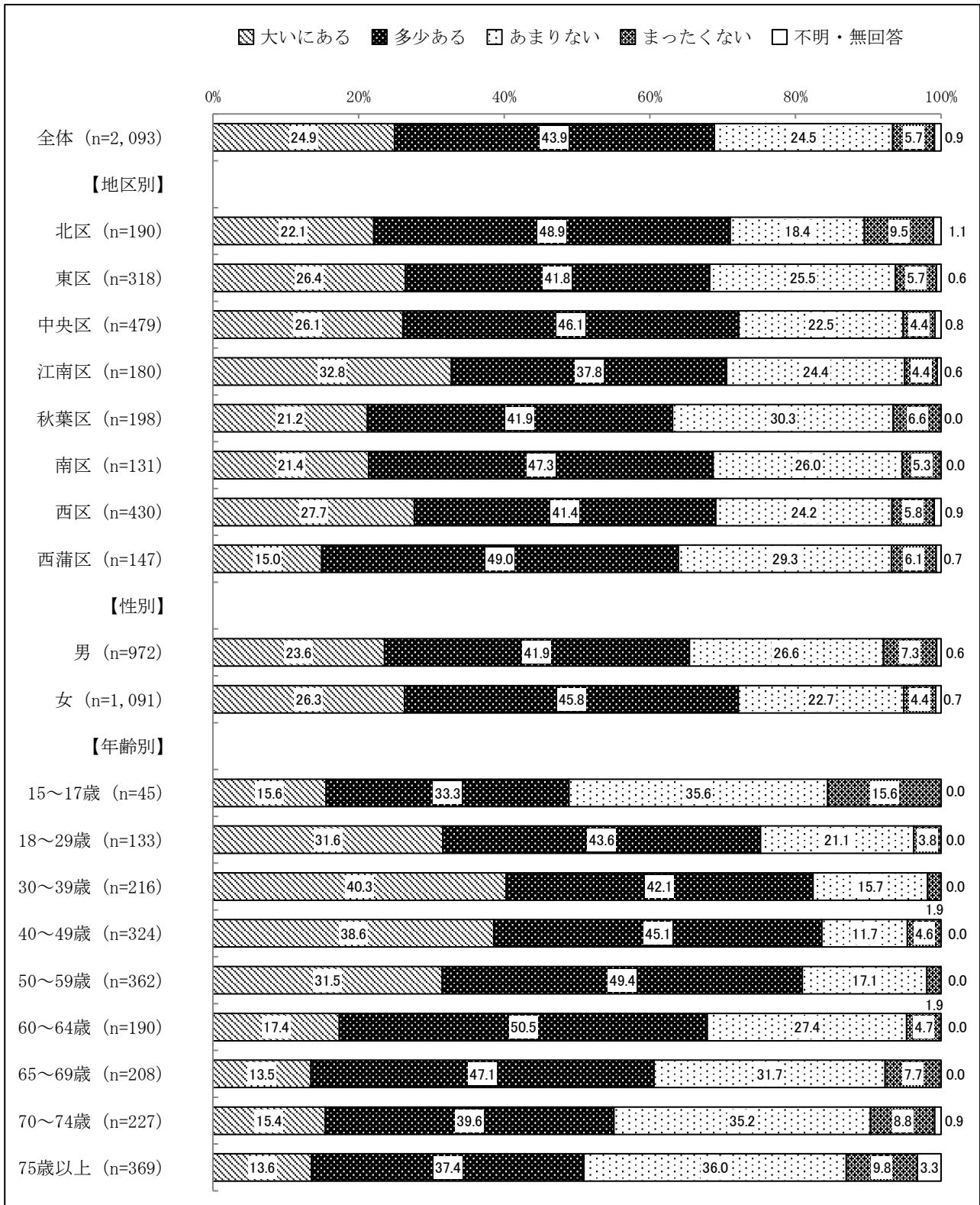
##### ② 性別

「大いにある」と「多少ある」を合わせた『ある』の割合は、男性(65.4%)と比較して女性(72.1%)で高かった。

##### ③ 年齢別

「大いにある」と「多少ある」を合わせた『ある』の割合は30~59歳で高く、いずれも8割を超えた。

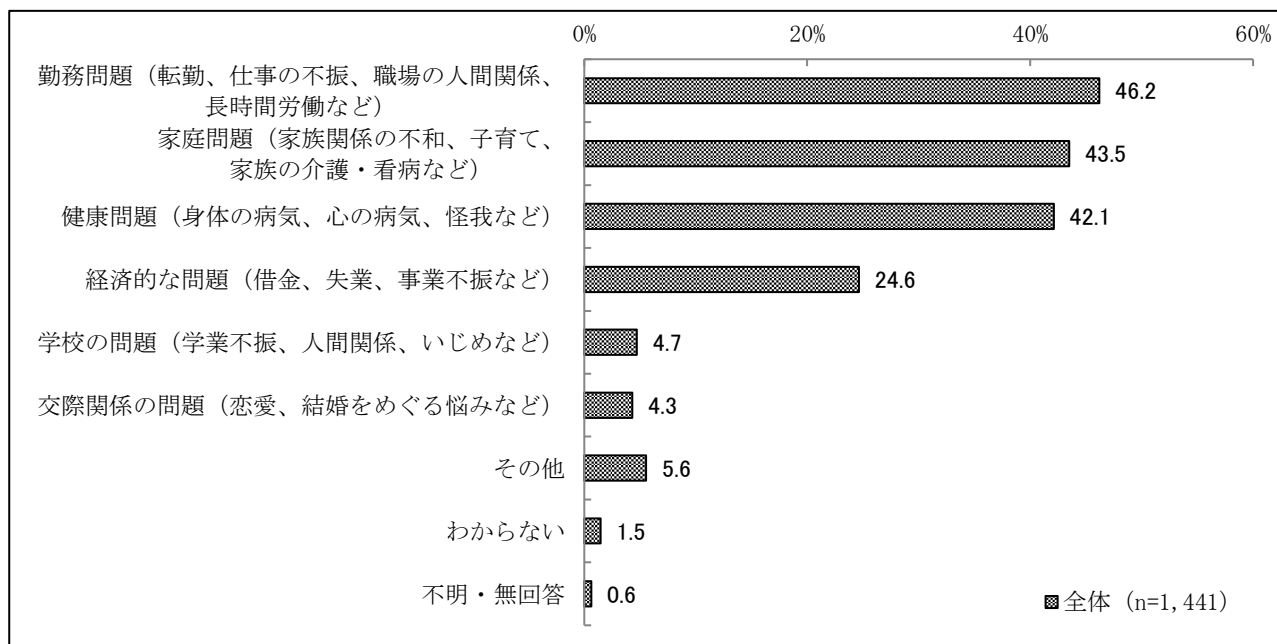
図 4-1 日常生活の悩みやストレス（地区別/性別/年齢別）





## (2) 悩みやストレスを感じる原因

問16 問15で「大いにある」、「多少ある」とお答えになった方にお聞きします。  
それは、どのような事が原因ですか。(〇はいくつでも)



— 「勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」が4割半ばでトップ —

### 【全体結果】

「勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」(46.2%) が最も高く4割半ばとなっており、次いで多いのが「家庭問題 (家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など)」(43.5%)、「健康問題 (身体の病気、心の病気、怪我など)」(42.1%) の順で、いずれも4割を超えている。

### 【属性別結果】(次ページ図4-2参照)

#### ① 地区別

北区では「健康問題 (身体の病気、心の病気、怪我など)」(54.8%) の割合が最も高く、他の地区と違いがみられた。

#### ② 性別

男性は「勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」(52.4%) の割合が最も高く、女性は「家庭問題 (家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など)」(48.0%) の割合が最も高かった。

#### ③ 年齢別

「勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」は、30~39歳(71.9%)で割合が最も高く、以降年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向がみられた。「健康問題 (身体の病気、心の病気、怪我など)」は年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられた。

図 4-2 悩みやストレスを感じる原因（地区別/性別/年齢別） 1/2

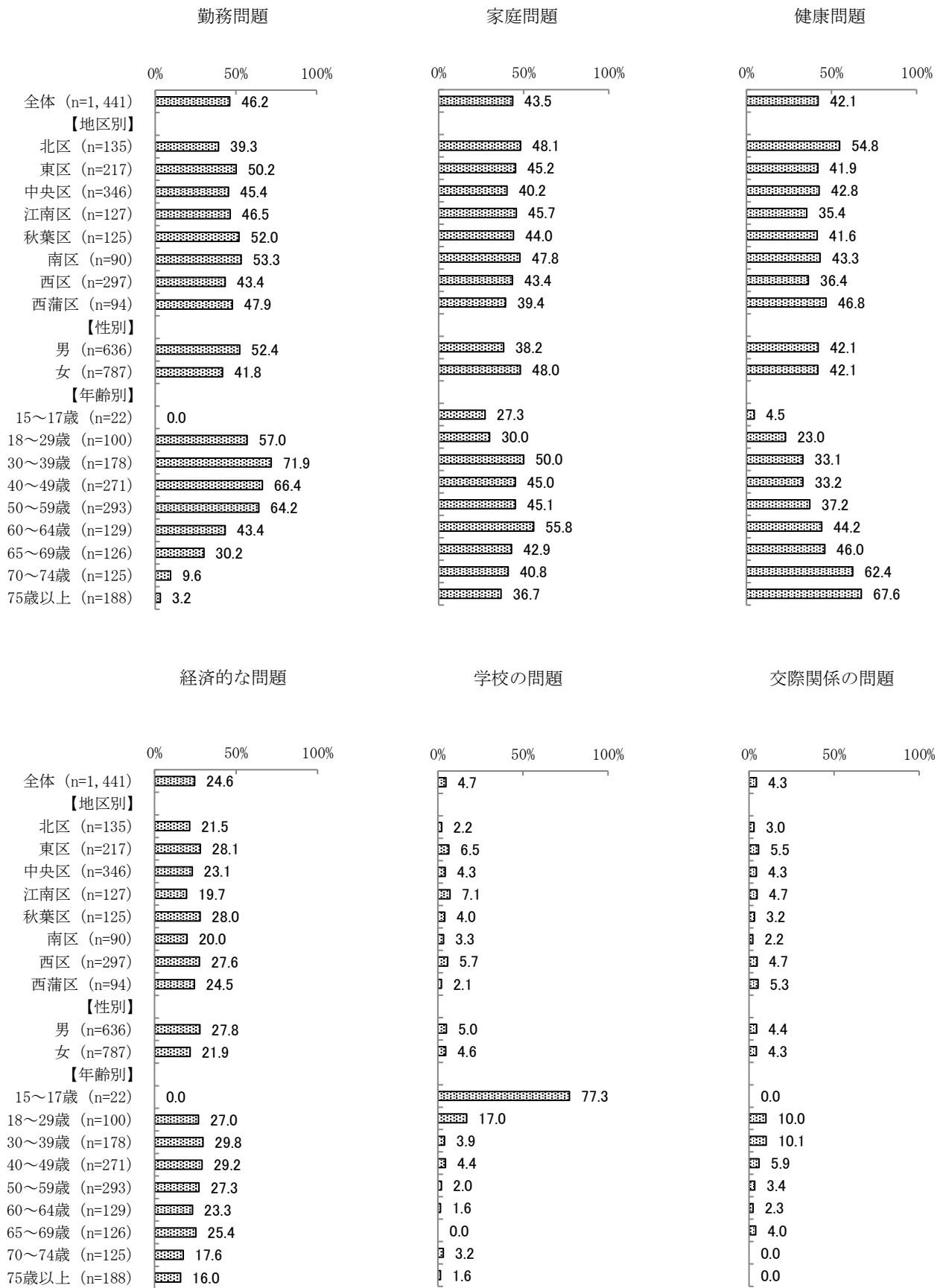
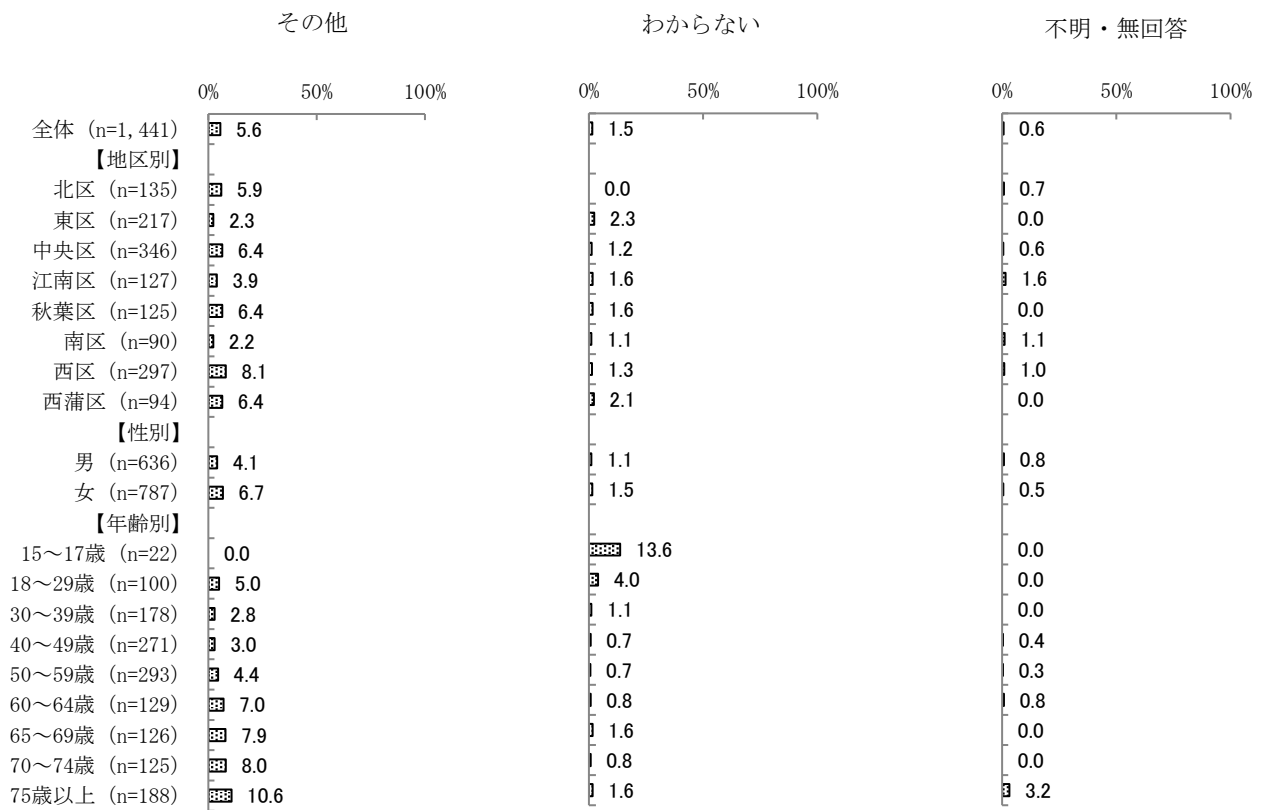
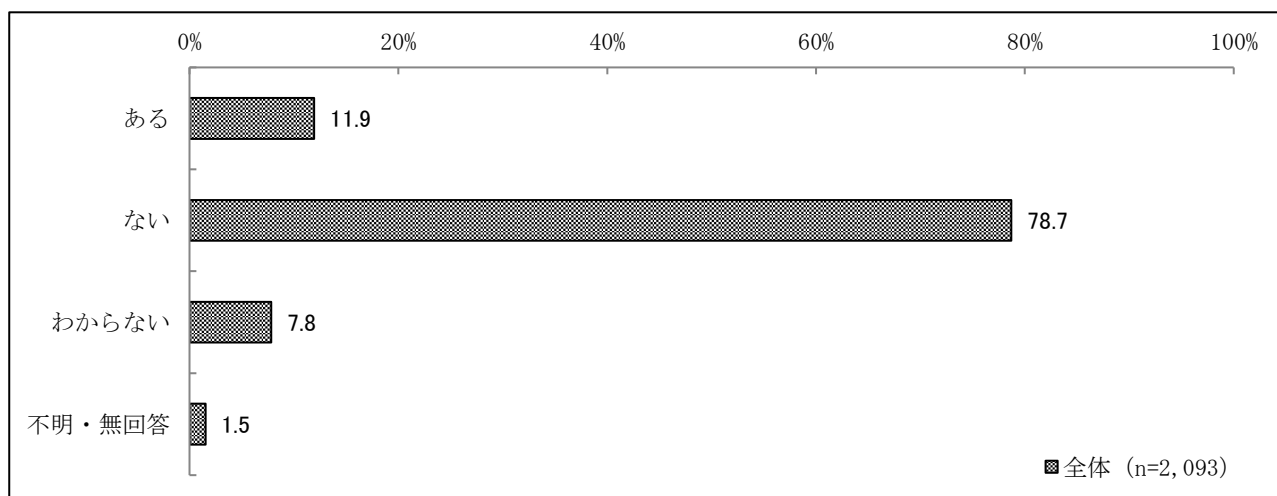


図 4-2 悩みやストレスを感じる原因（地区別/性別/年齢別） 2/2



### (3) 最近1年以内に死にたいと思ったこと

問17 あなたは、最近1年以内に、死にたいと思ったことがありますか。(○は1つだけ)



— 「ある」は1割強 —

#### 【全体結果】

「ある」(11.9%)の割合が1割強となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図4-3参照)

##### ① 地区別

「ある」は、北区(16.8%)、東区(16.4%)、西区(13.7%)、中央区(11.5%)の順で高く、いずれも1割を超えている。一方で、「ない」は江南区(85.6%)で最も高い割合となった。

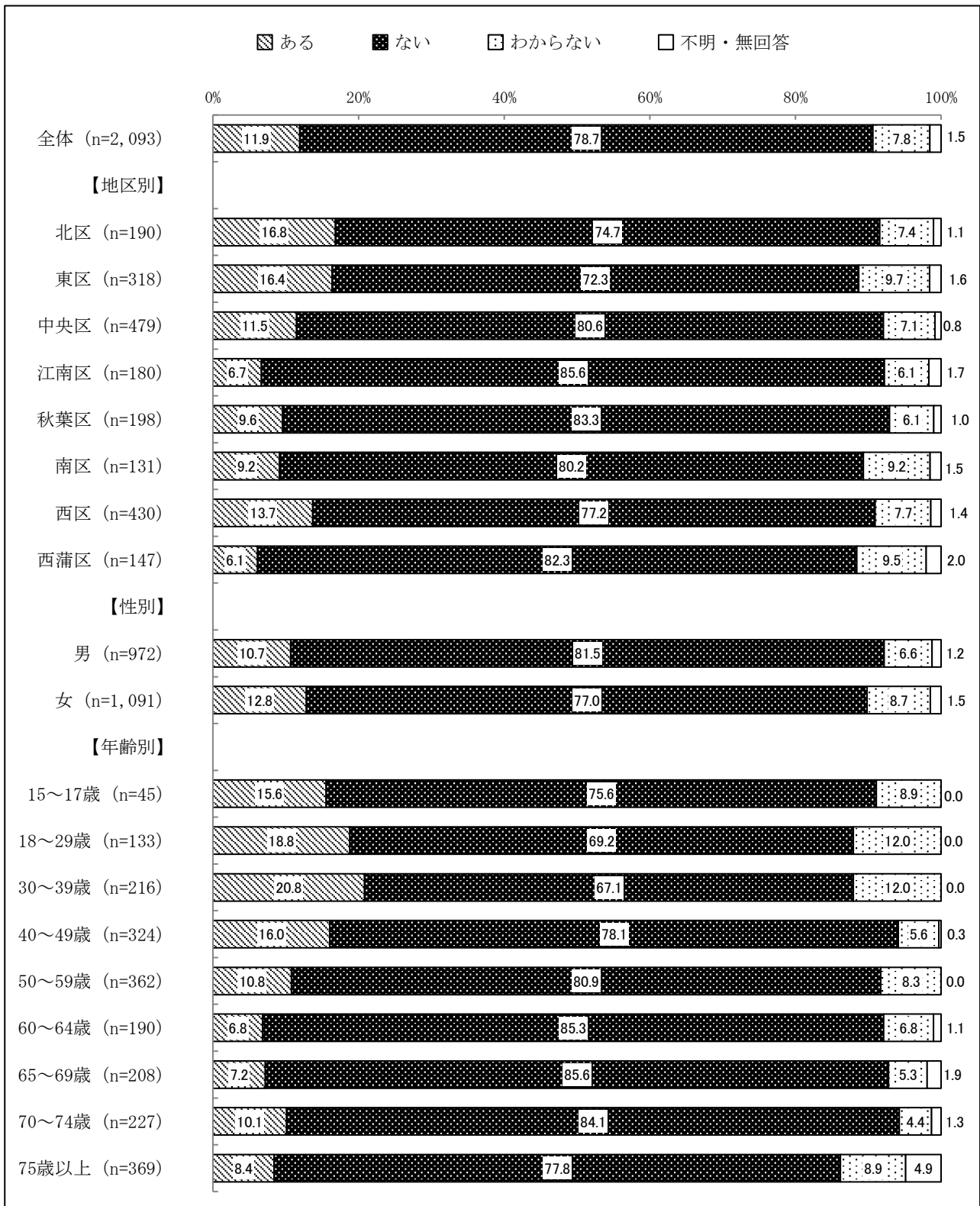
##### ② 性別

「ある」は、男性(10.7%)と比較して女性(12.8%)でわずかに割合が高かった。

##### ③ 年齢別

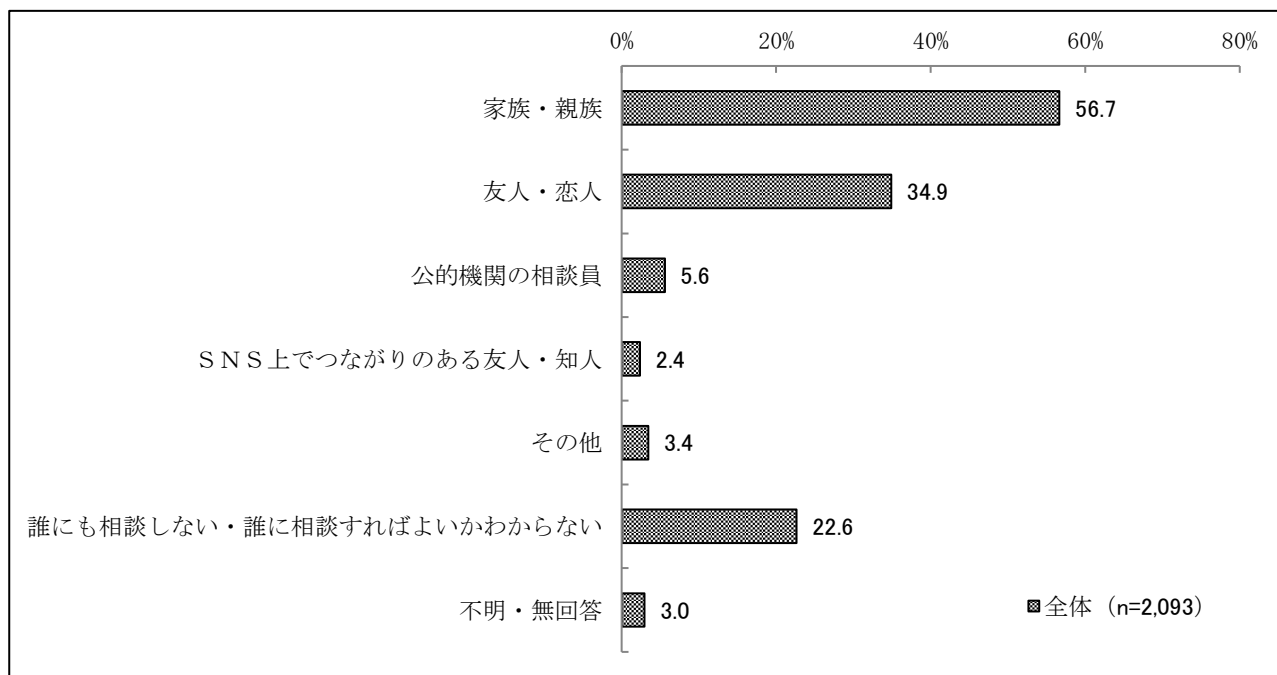
「ある」は、30~39歳(20.8%)で最も割合が高く、次いで18~29歳(18.8%)、15~17歳(15.6%)となっており、若い年齢で割合が高かった。

図 4-3 最近 1 年以内に死にたいと思ったこと（地区別/性別/年齢別）



#### (4) 悩みがあるときや死にたいと思ったときの相談相手

問18 あなたは、悩みがあるときや死にたいと思ったときなど、誰に相談しますか。  
(〇はいくつでも)



#### — 「家族・親族」が5割半ばでトップ —

##### 【全体結果】

「家族・親族」(56.7%)、「友人・恋人」(34.9%)、「誰にも相談しない・誰に相談すればよいかわからない」(22.6%)の順に高かった。

##### 【属性別結果】(次ページ図4-4参照)

##### ① 地区別

全ての地域で「家族・親族」の割合が高かった。「公的機関の相談員」の割合は江南区(9.4%)で最も高く、西蒲区(3.4%)で最も低かった。

##### ② 性別

「友人・恋人」の割合は、男性(26.7%)と比較して女性(42.5%)で高かった。

##### ③ 年齢別

「友人・恋人」、「SNS上でつながりのある友人・知人」の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられた。

図 4-4 悩みがあるときや死にたいと思ったときの相談相手（地区別/性別/年齢別）

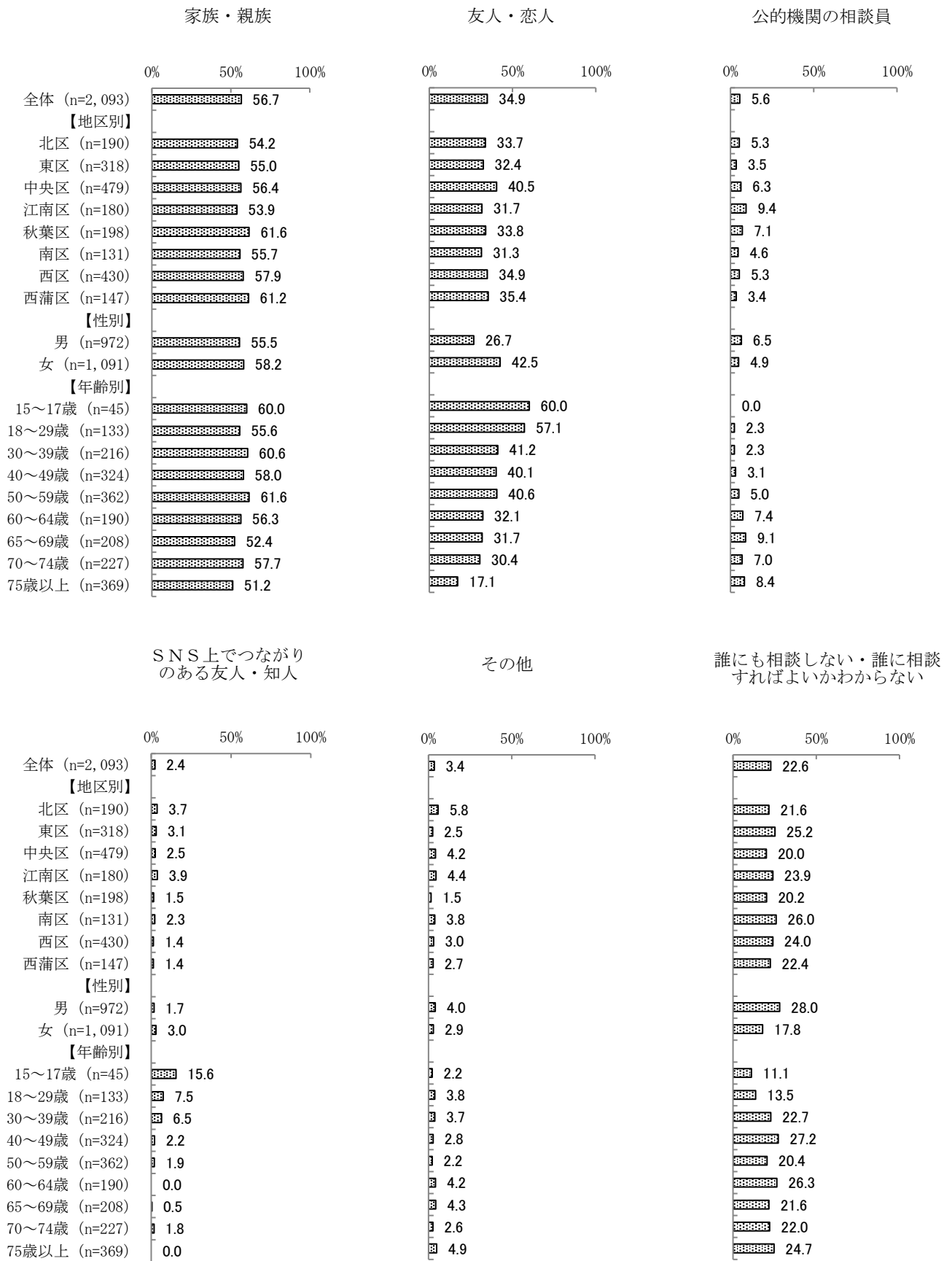


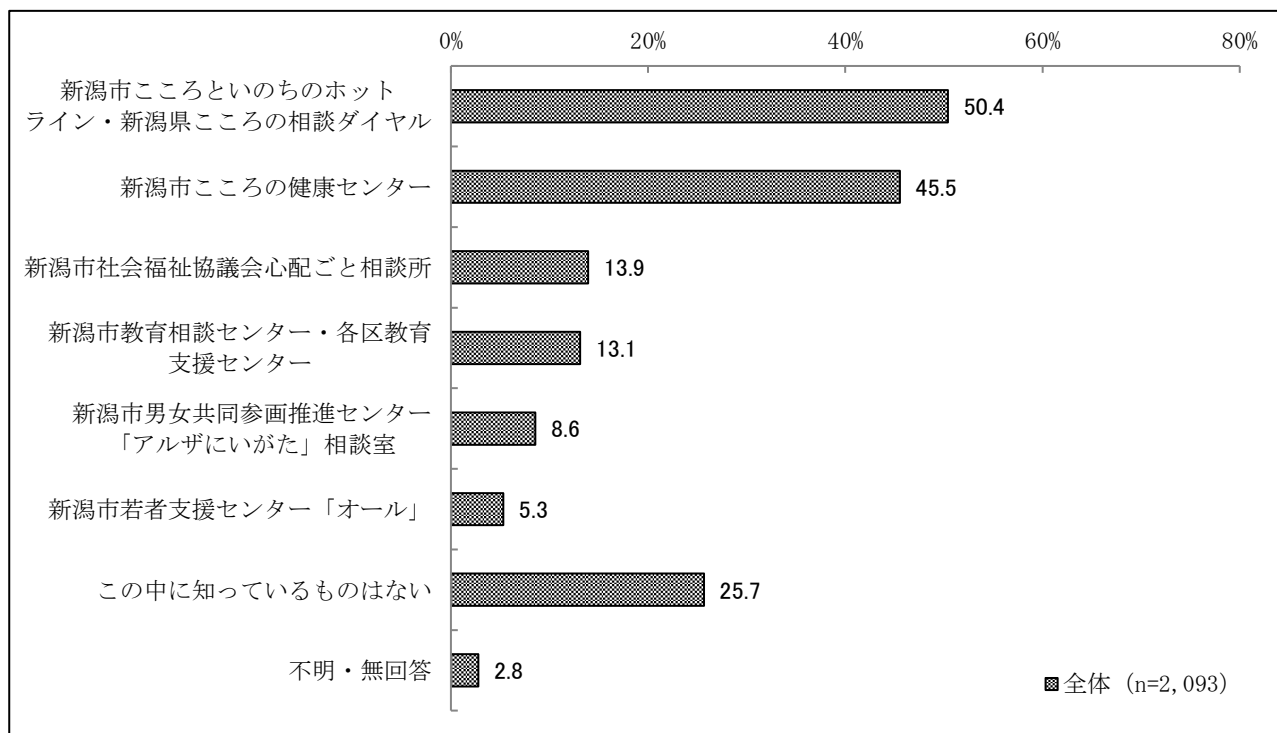
図 4-4 悩みがあるときや死にたいと思ったときの相談相手（地区別/性別/年齢別）





## (5) 相談機関の認知度

問19 あなたは、相談機関を知っていますか。知っている・聞いたことがある相談機関を選んでください。(〇はいくつでも)



— 「新潟市ころといのちのホットライン・新潟県ころの相談ダイヤル」が約5割でトップ —

### 【全体結果】

「新潟市ころといのちのホットライン・新潟県ころの相談ダイヤル」(50.4%)が最も高く、約5割となった。次いで、「新潟市ころの健康センター」(45.5%)が高かった。「この中に知っているものはない」は2割半ばとなった。

### 【属性別結果】(次ページ図4-5参照)

#### ① 地区別

「新潟市ころといのちのホットライン・新潟県ころの相談ダイヤル」の割合は、中央区(55.5%)で最も高く、秋葉区(44.9%)で最も低く差がみられた。「新潟市ころの健康センター」の割合は、中央区(49.1%)で最も高く、南区(35.9%)で最も低く差がみられた。

#### ② 性別

すべての機関で男性より女性の認知度が高かった。

#### ③ 年齢別

年齢が高くなるにつれて「新潟市社会福祉協議会心配ごと相談所」の割合が高くなっている。

図 4-5 相談機関の認知度（地区別/性別/年齢別） 1/2

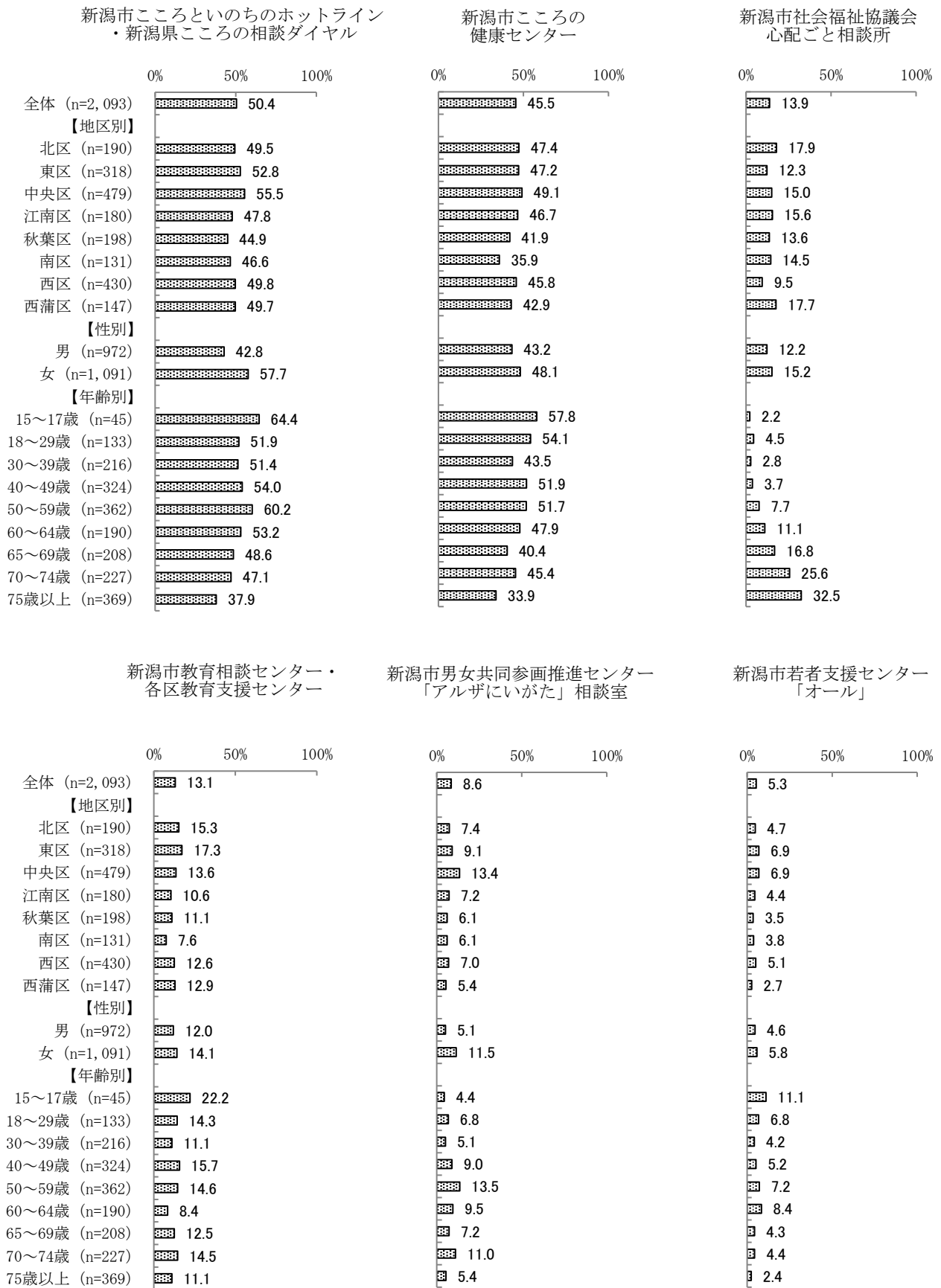
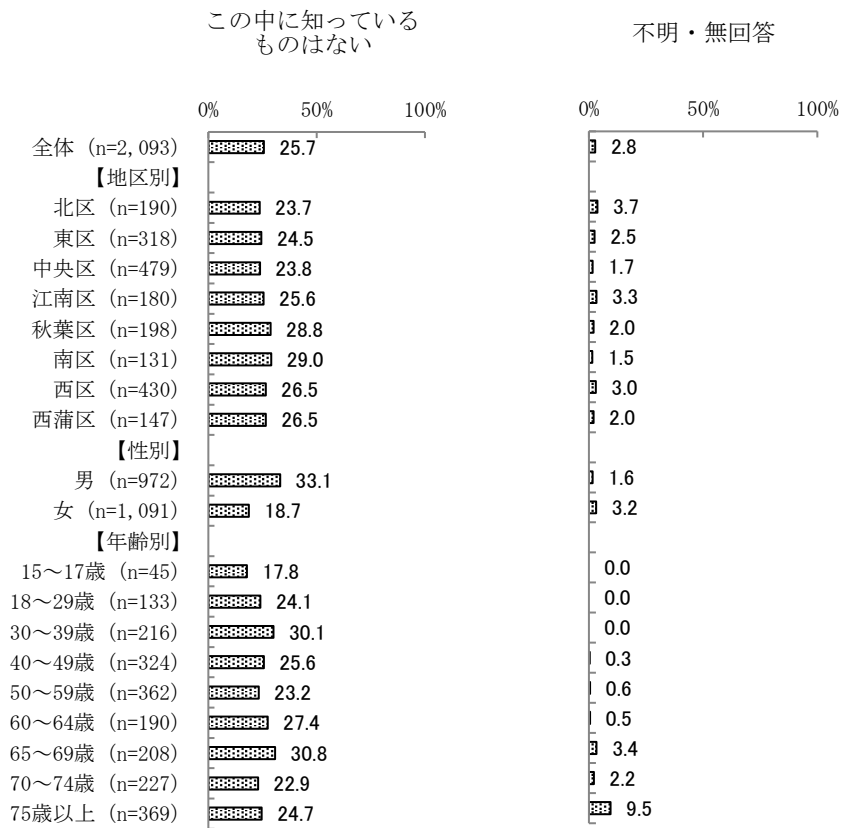


図 4-5 相談機関の認知度（地区別/性別/年齢別） 2/2

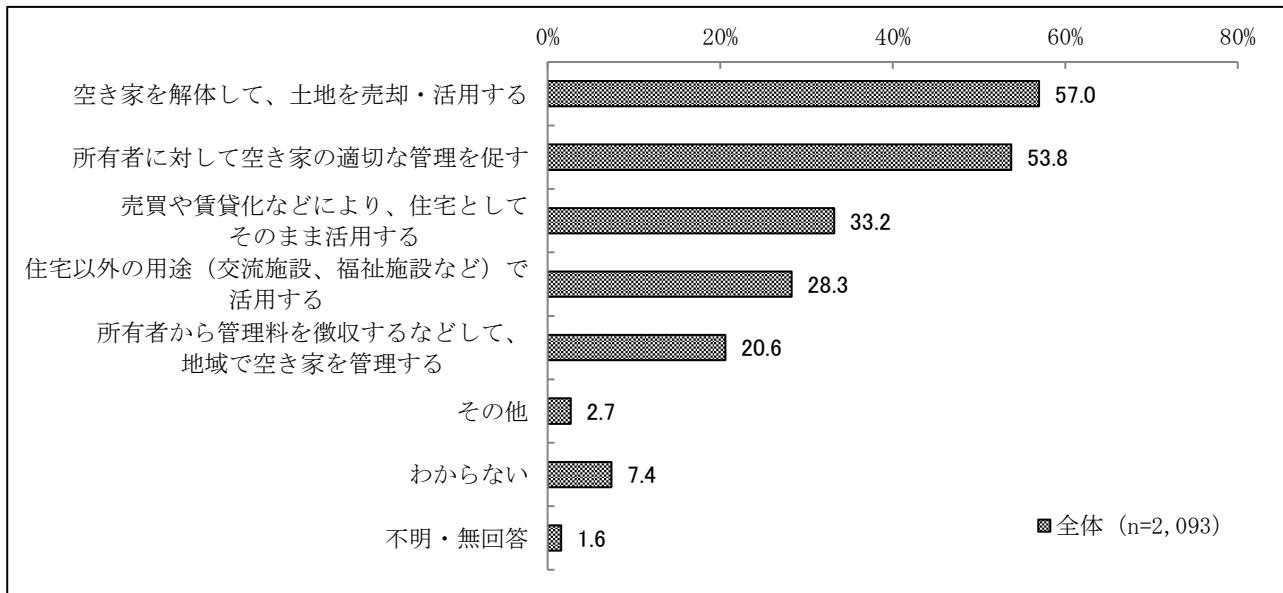


## 5. 空き家について

### (1) 地域の空き家の今後

問20 あなたは、地域の空き家を今後どうしていきべきだと思いますか。

(○はいくつでも)



— 「空き家を解体して、土地を売却・活用する」が6割弱でトップ —

#### 【全体結果】

「空き家を解体して、土地を売却・活用する」(57.0%)が最も高く、次いで高いのが「所有者に対して空き家の適切な管理を促す」(53.8%)となった。

#### 【属性別結果】(次ページ図5-1参照)

##### ① 地区別

「空き家を解体して、土地を売却・活用する」の割合が高いのは、江南区(63.9%)、中央区(60.3%)の順で6割を超えた。逆に、最も低いのは南区(50.4%)で差がみられた。「所有者に対して空き家の適切な管理を促す」の割合が高いのは、秋葉区(59.6%)、中央区(59.5%)の順で約6割となり、最も低いのは南区(37.4%)と差がみられた。

##### ② 性別

「空き家を解体して、土地を売却・活用する」は、女性(54.6%)と比較して男性(60.3%)で割合が高く、「住宅以外の用途(交流施設、福祉施設など)で活用する」は、男性(24.9%)と比較して女性(31.6%)で割合が高かった。

##### ③ 年齢別

年齢が高くなるにつれて「所有者に対して空き家の適切な管理を促す」の割合が高くなる傾向がみられた。

図 5-1 地域の空き家の今後（地区別/性別/年齢別） 1/2

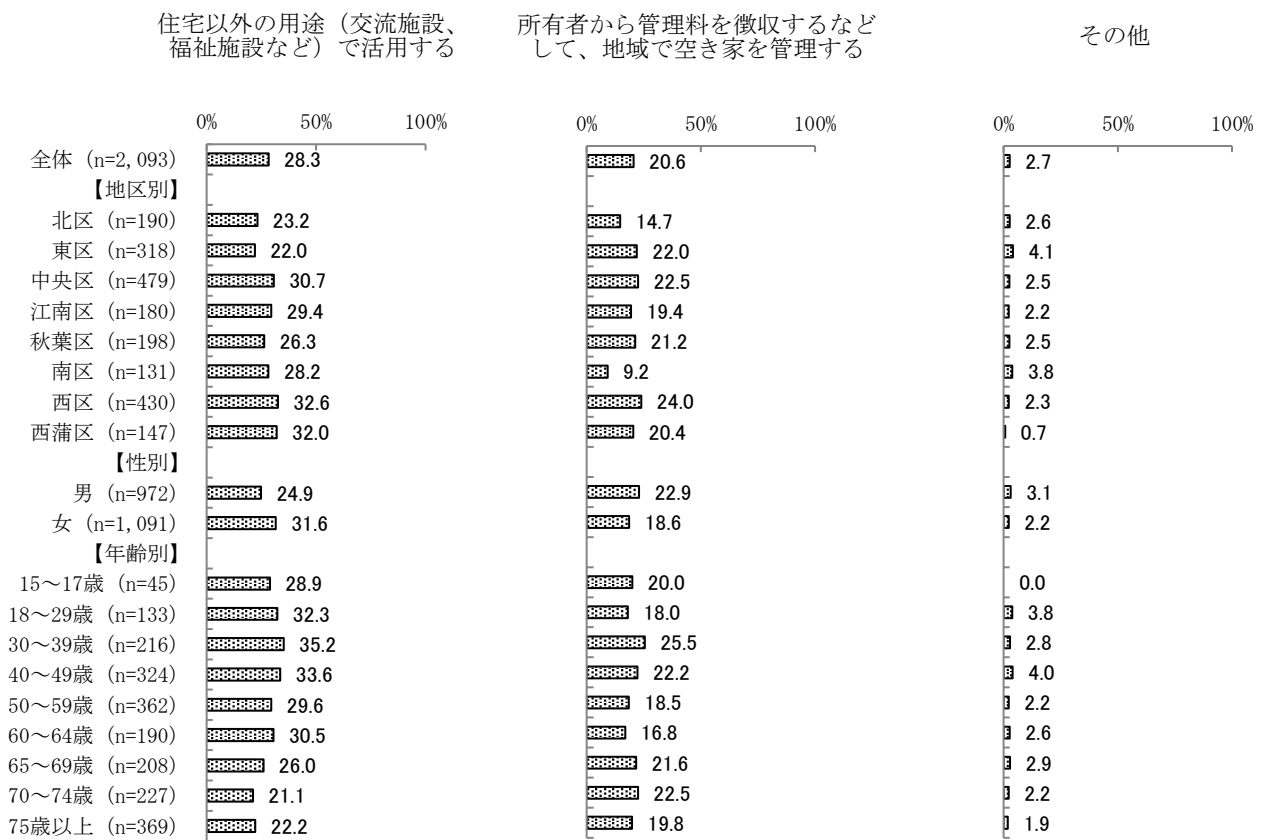
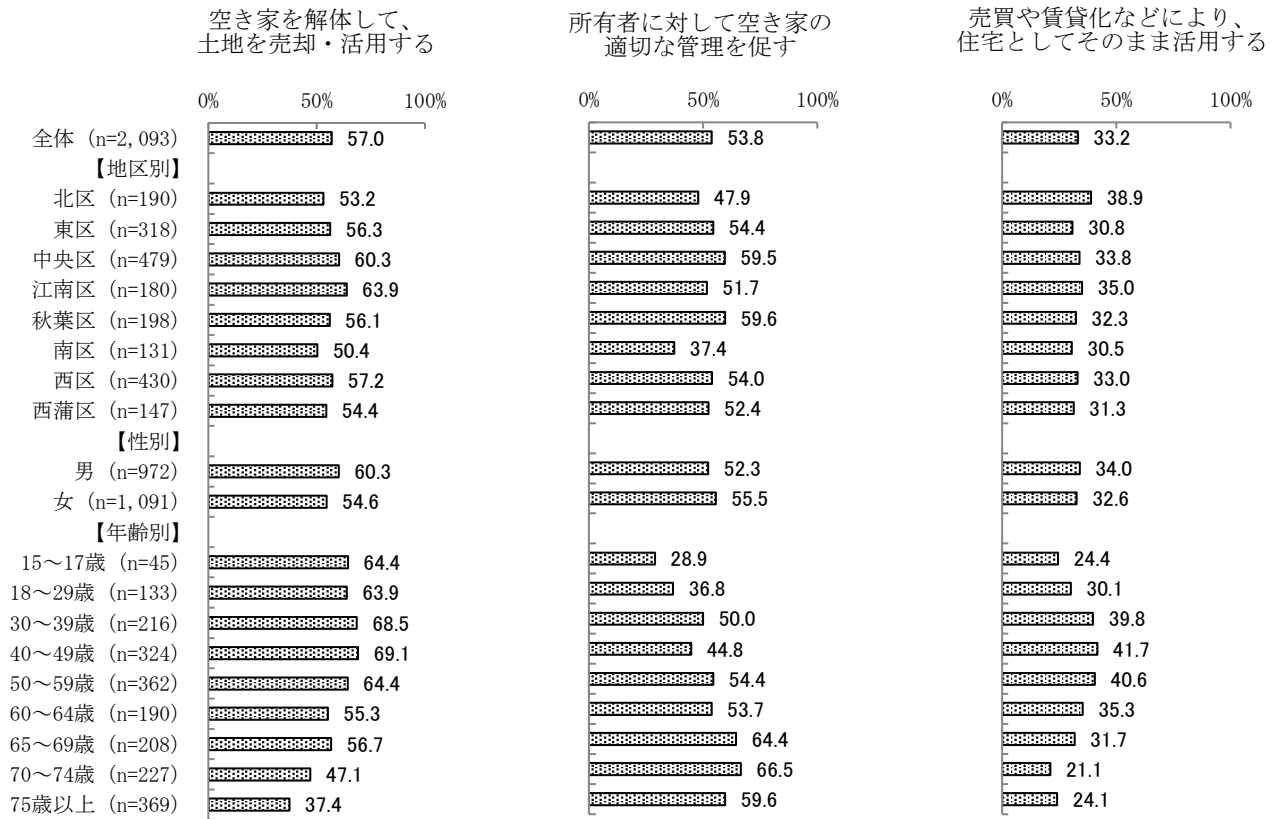
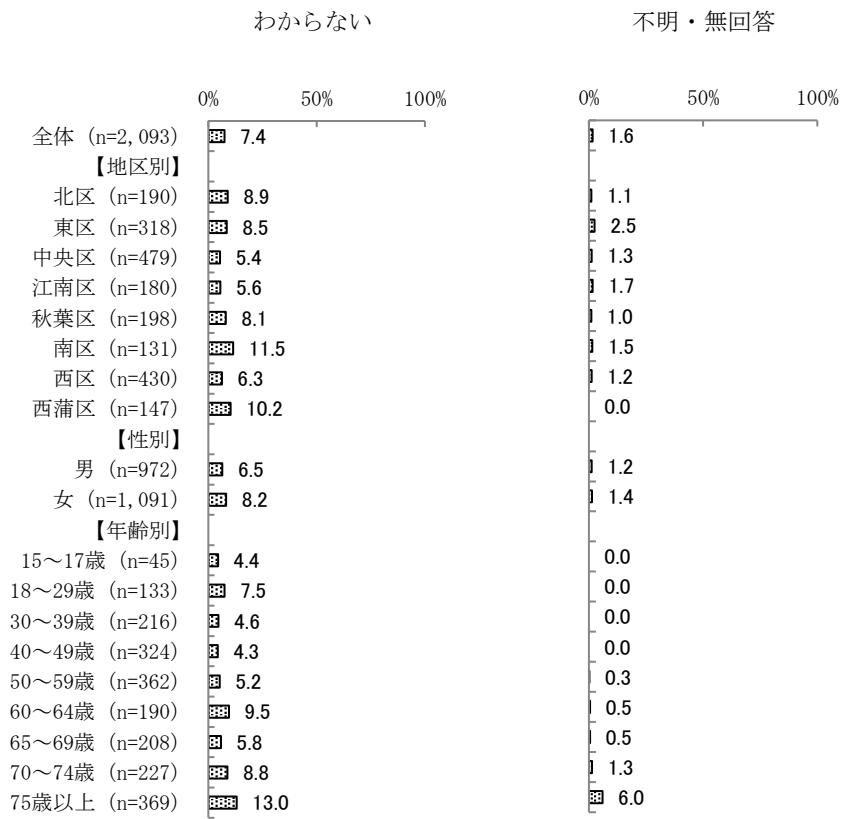
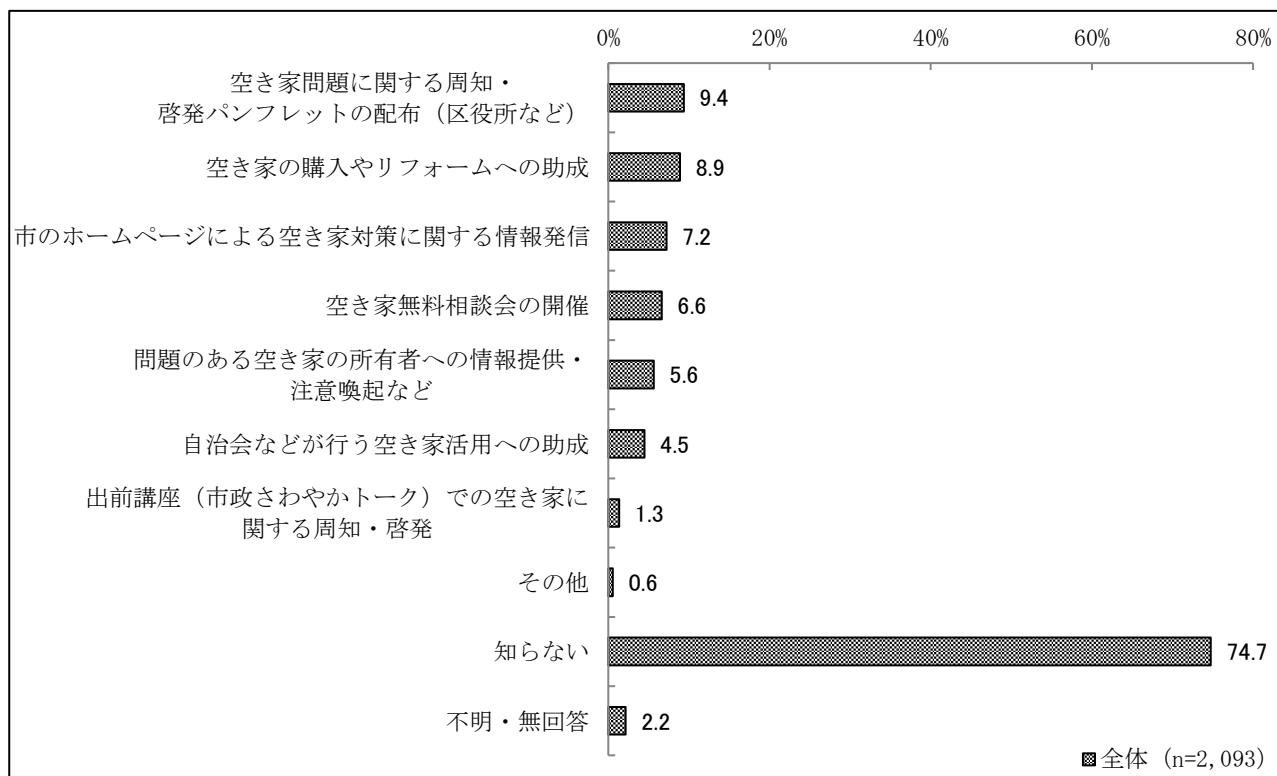


図 5-1 地域の空き家の今後（地区別/性別/年齢別） 2/2



## (2) 空き家対策の取り組みの認知状況

問 2 1 あなたは、市で行われている空き家対策の取り組みについて知っていますか。  
(○はいくつでも)



— 7割以上が『知らない』 —

### 【全体結果】

「知らない」(74.7%)の割合が最も高く、7割以上となった。「空き家問題に関する周知・啓発パンフレットの配布(区役所など)」(9.4%)、「空き家の購入やリフォームへの助成」(8.9%)の割合は1割弱であった。

### 【属性別結果】(次ページ図 5-2 参照)

#### ① 地区別

「空き家問題に関する周知・啓発パンフレットの配布(区役所など)」と「空き家の購入やリフォームへの助成」の割合は、中央区(各11.3%、13.4%)と秋葉区(各11.6%、10.1%)で高かった。

#### ② 性別

性別での大きな差はみられなかった。

#### ③ 年齢別

「空き家問題に関する周知・啓発パンフレットの配布(区役所など)」の割合は75歳以上(13.3%)、60~64歳(12.1%)、65~69歳(12.0%)の順で高く1割を超えている。年齢が低いほど「知らない」の割合が高くなる傾向がみられた。

図 5-2 空き家対策の取り組みの認知状況（地区別/性別/年齢別） 1/2

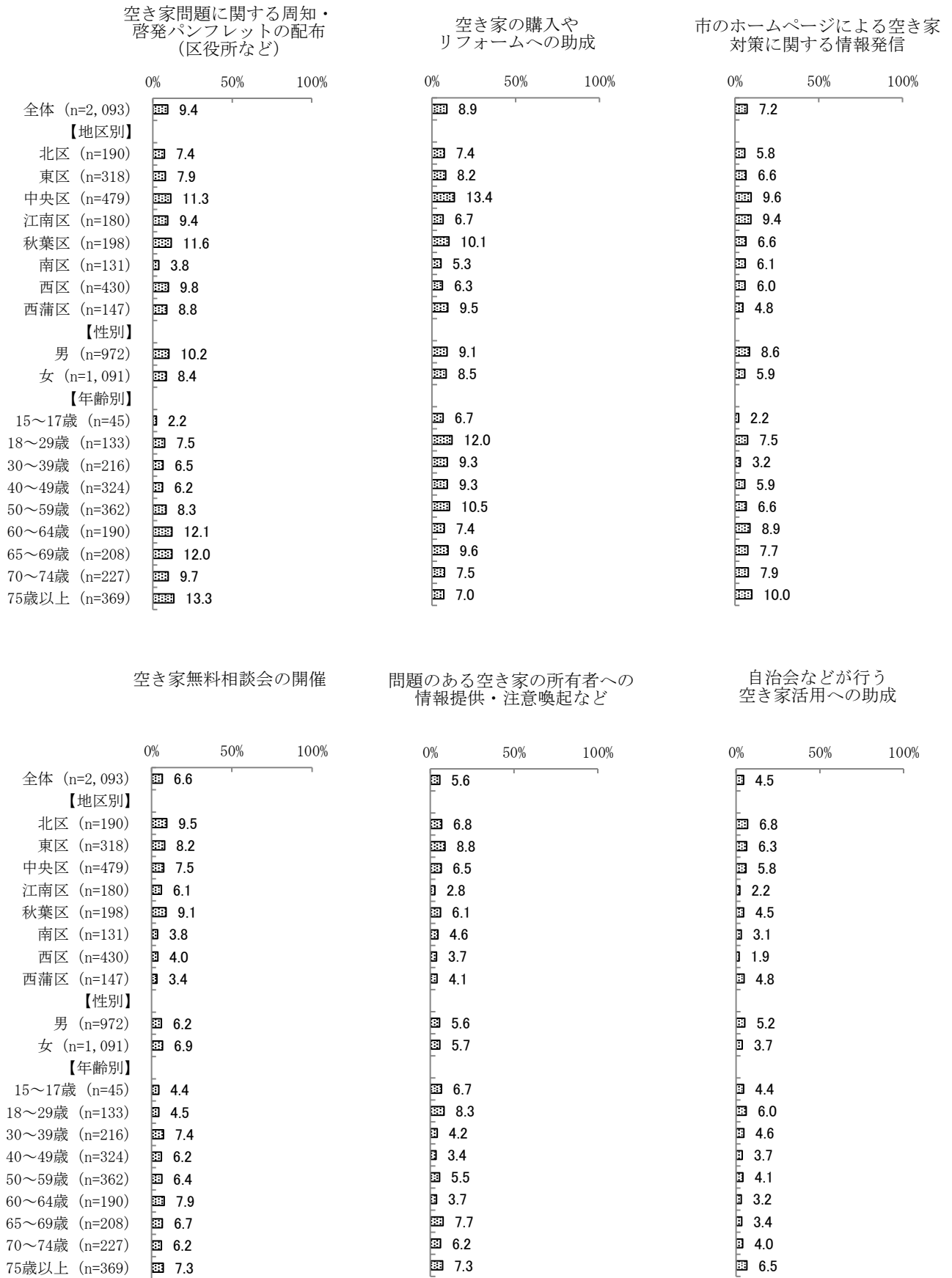
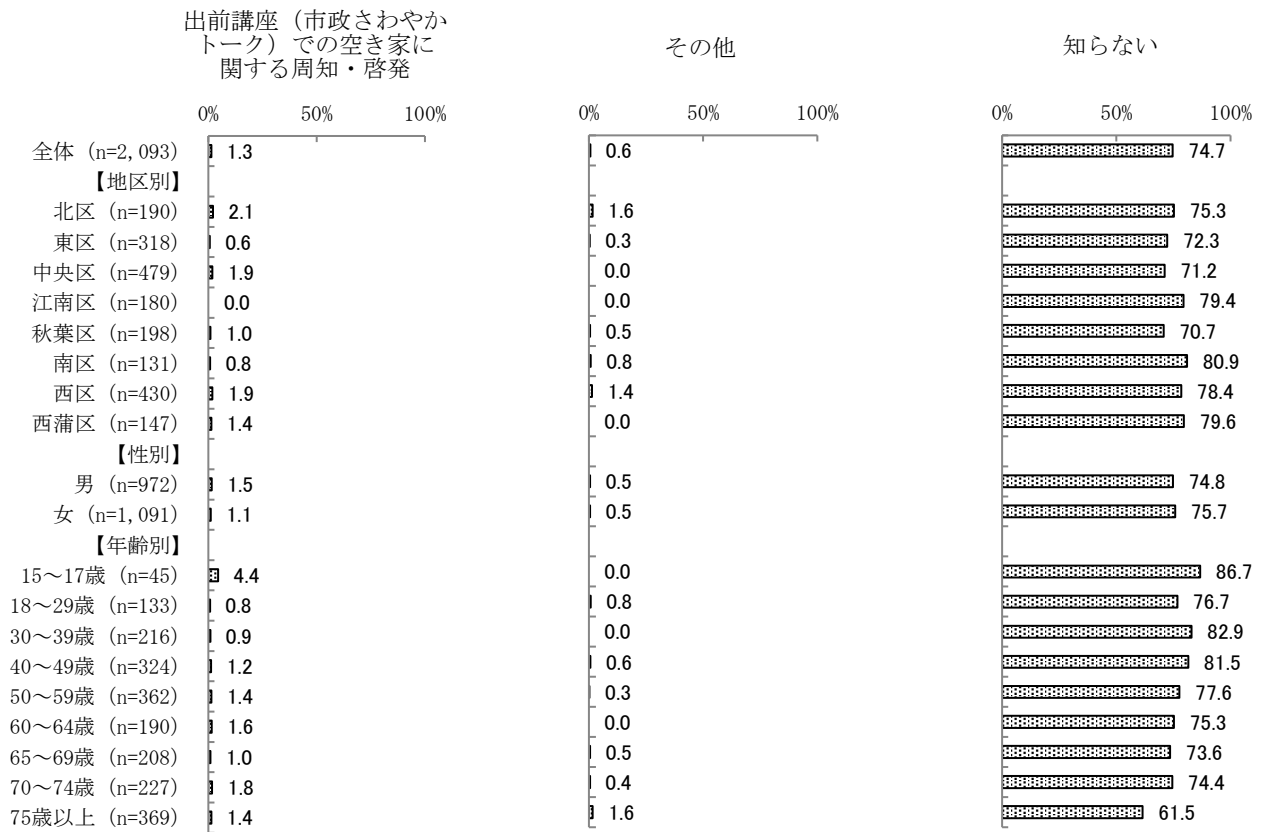




図 5-2 空き家対策の取り組みの認知状況（地区別/性別/年齢別） 2/2

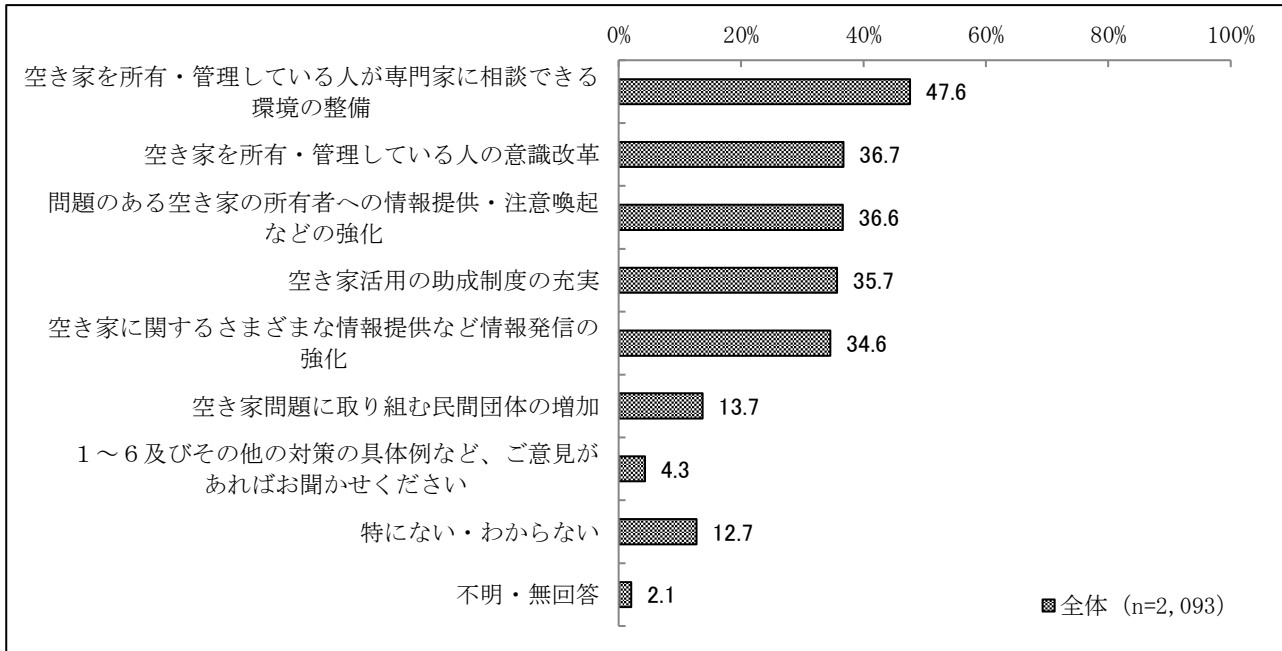


不明・無回答



### (3) 必要だと思う空き家対策

問 2 2 あなたは、空き家問題を解決するために、市の空き家対策としてどのようなことが必要であると思いますか。(〇はいくつでも)



— 「空き家を所有・管理している人が専門家に相談できる環境の整備」が 5 割弱でトップ —

#### 【全体結果】

「空き家を所有・管理している人が専門家に相談できる環境の整備」(47.6%) の割合が高く 5 割弱だった。次いで、「空き家を所有・管理している人の意識改革」(36.7%)、「問題のある空き家の所有者への情報提供・注意喚起などの強化」(36.6%)、「空き家活用の助成制度の充実」(35.7%)、「空き家に関するさまざまな情報提供など情報発信の強化」(34.6%) が 3 割で続いた。

#### 【属性別結果】(次ページ図 5-3 参照)

##### ① 地区別

南区では他の区と比較して「空き家を所有・管理している人の意識改革」(23.7%)、「空き家に関するさまざまな情報提供など情報発信の強化」(27.5%) の割合が低く、「特にない・わからない」(19.1%) の割合が高かった。

##### ② 性別

「空き家を所有・管理している人が専門家に相談できる環境の整備」は、男性(44.9%)と比較して女性(50.5%)で割合が高かった。

##### ③ 年齢別

「特にない・わからない」の割合は、「50～59 歳」(8.0%)、「40～49 歳」(9.0%) の順で低く、若い世代や高齢層で割合が高くなっている。

図 5-3 必要だと思う空き家対策（地区別/性別/年齢別） 1/2

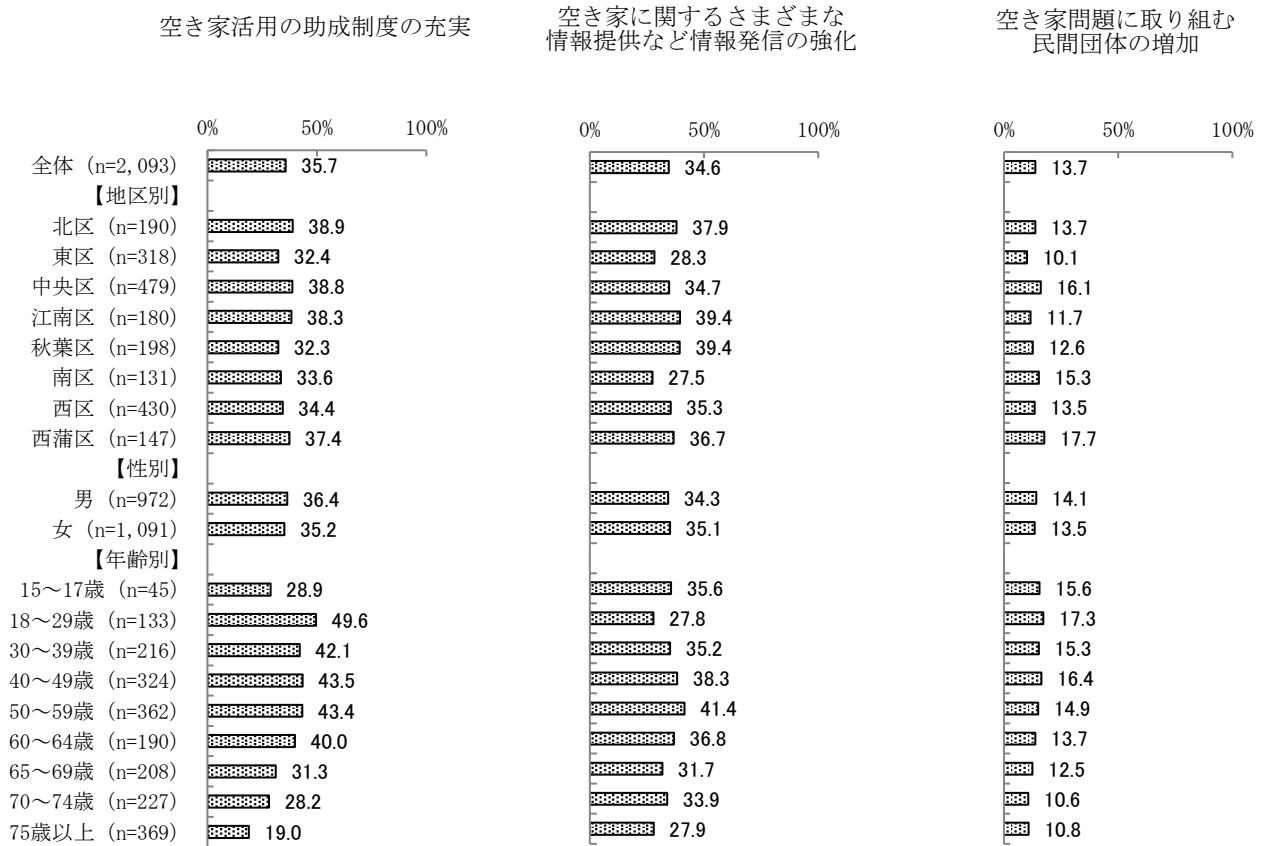
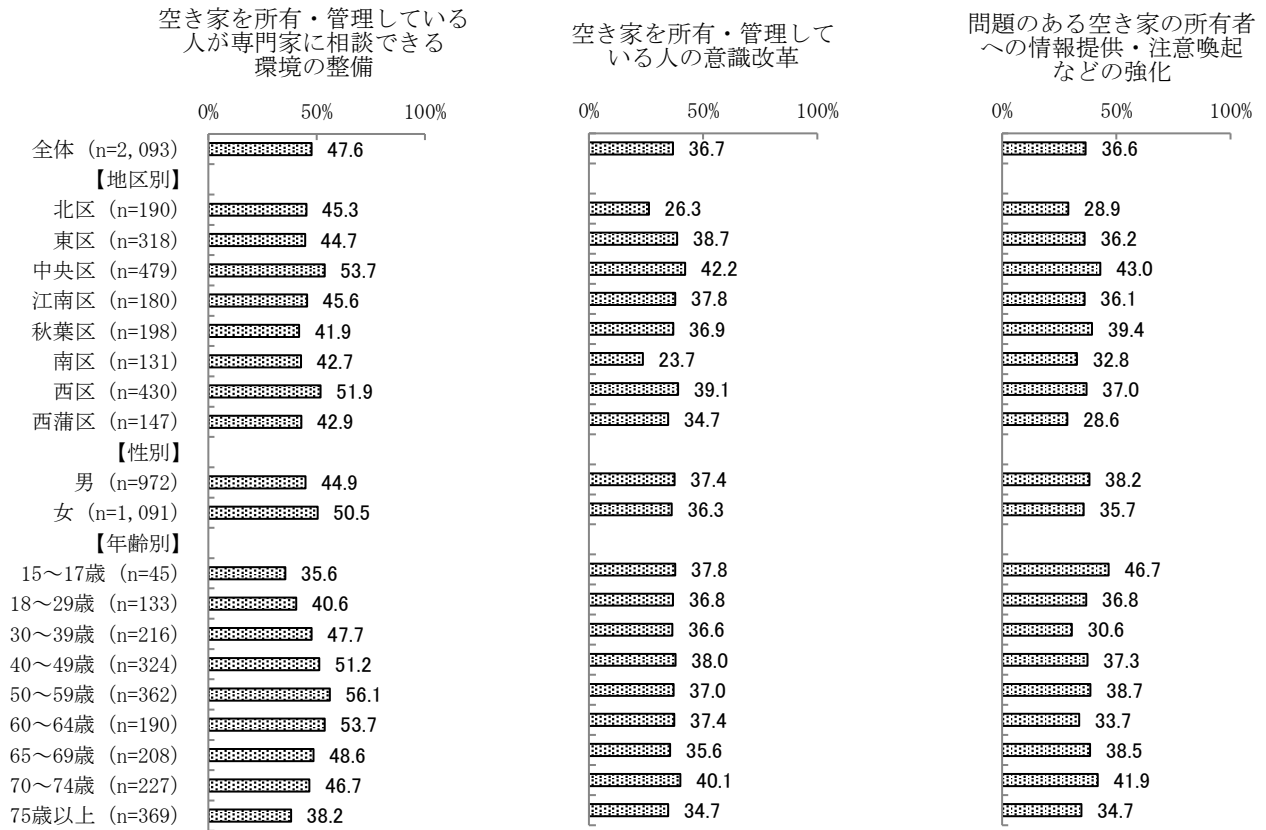
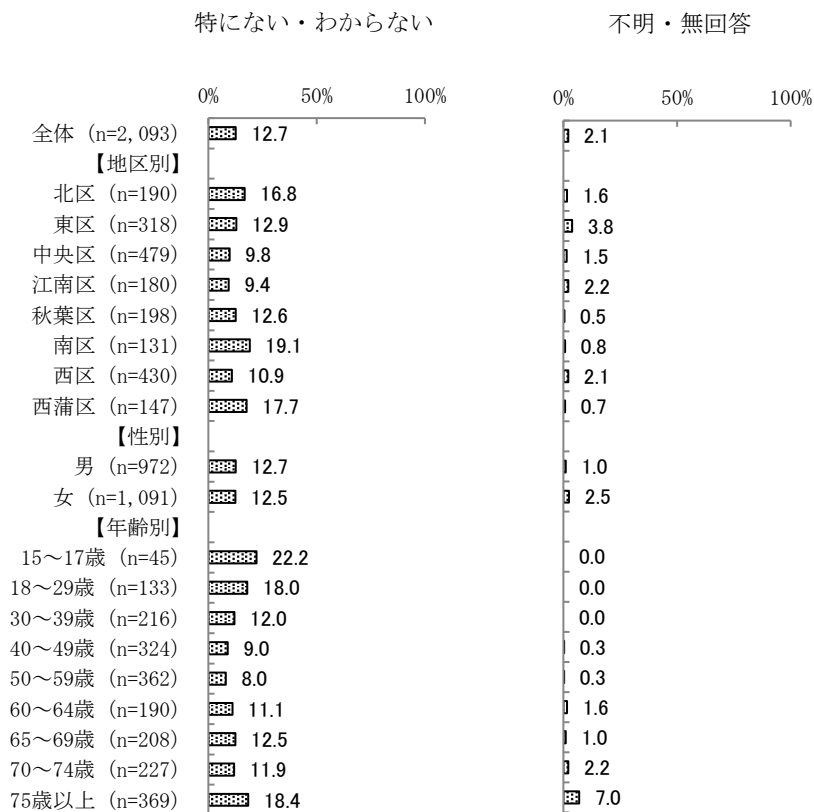
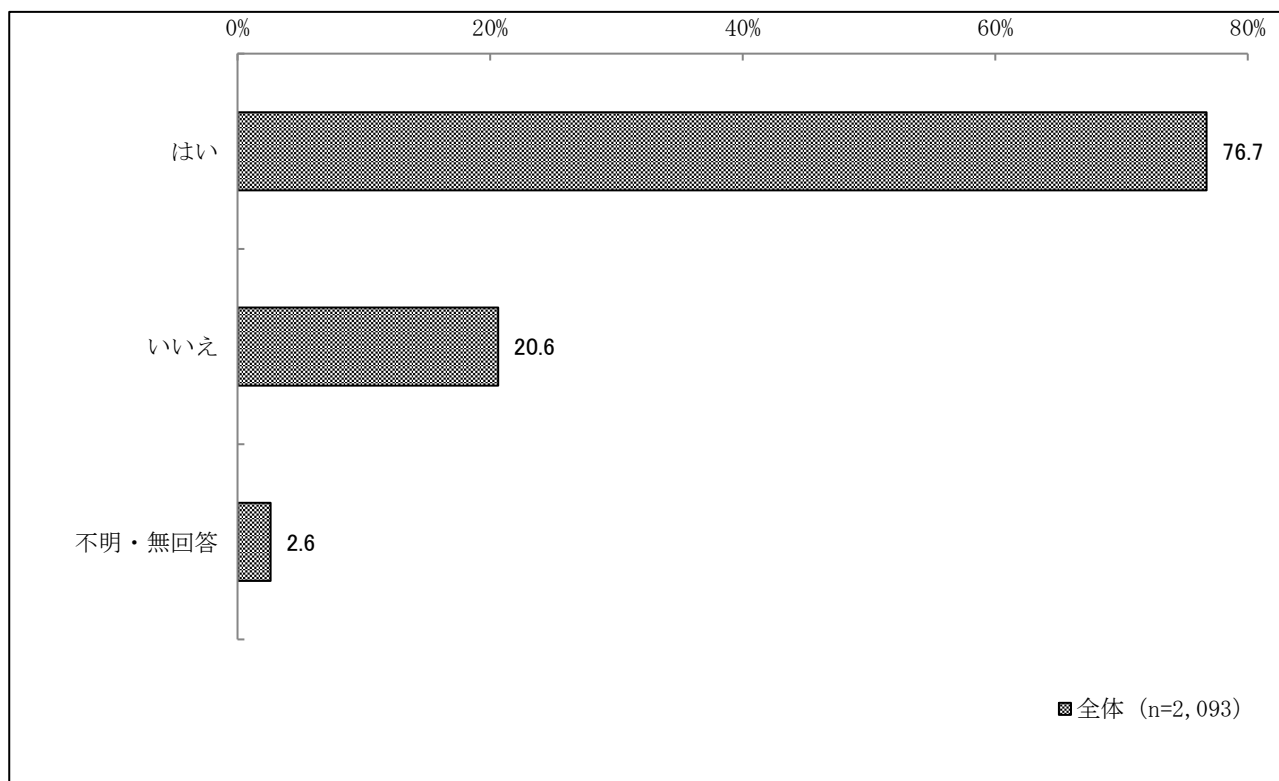


図 5-3 必要だと思う空き家対策（地区別/性別/年齢別） 2/2



#### (4) 空き家の所有者（管理者）になる可能性の認知度

問23 あなたは、様々な理由で誰もが空き家の所有者（管理者）になる可能性があることを知っていますか。  
(例. 親族からの相続や親の介護施設などへの入所に伴う実家の空き家化など)



— 『知っている』は8割弱 —

##### 【全体結果】

空き家の所有者（管理者）になる可能性があることを知っているかの問いに「はい」の割合は76.7%で8割弱が認識していた。

##### 【属性別結果】（次ページ図5-4参照）

###### ① 地区別

「はい」は、秋葉区（82.3%）、中央区（81.0%）の順で高く8割を超えた。逆に、南区（65.6%）で最も低く7割に満たなかった。

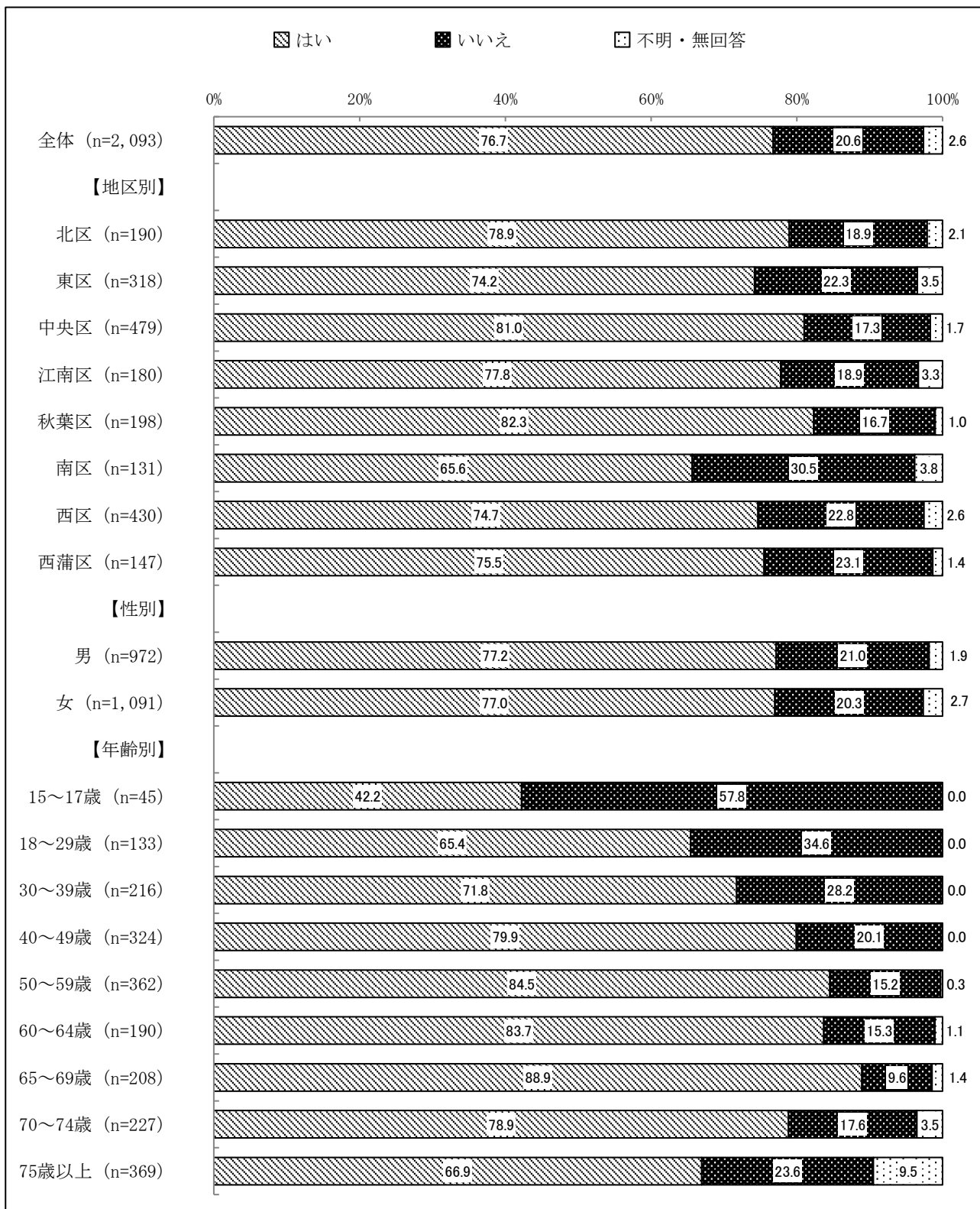
###### ② 性別

性別での大きな差はみられなかった。

###### ③ 年齢別

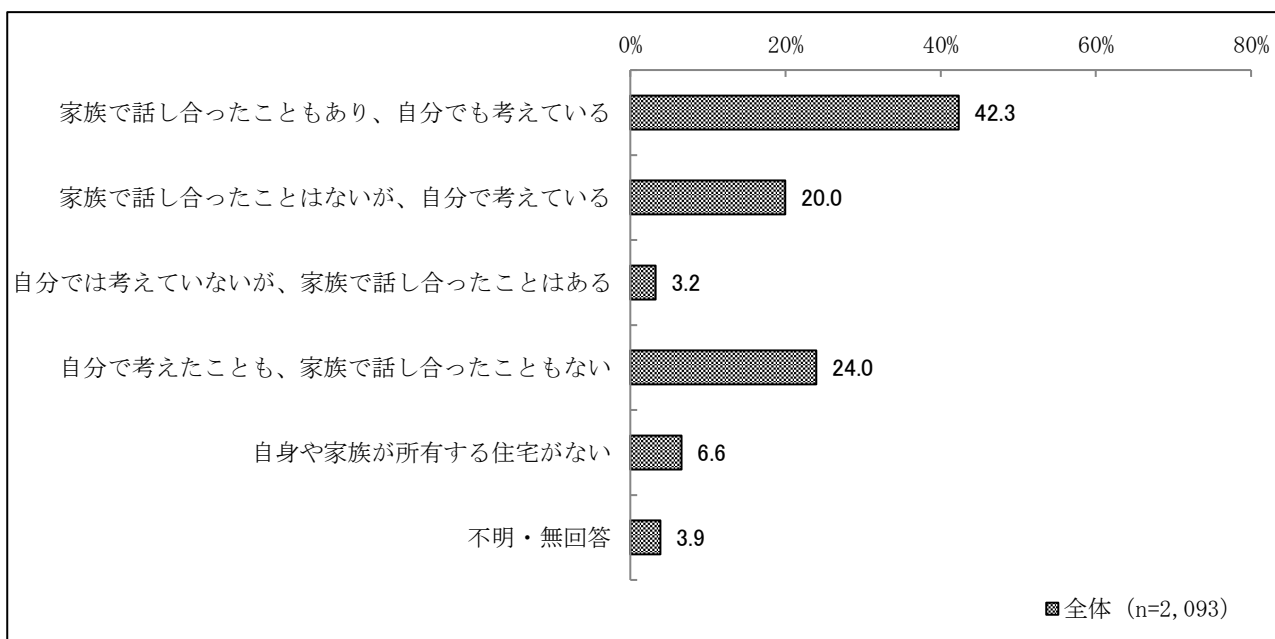
「はい」の割合は、65～69歳（88.9%）で最も高く、次いで50～59歳（84.5%）、60～64歳（83.7%）の順に高く8割を超えている。逆に最も低いのは、15～17歳（42.2%）で5割に満たなかった。

図 5-4 空き家の所有者（管理者）になる可能性の認知度（地区別/性別/年齢別）



## (5) 空き家にしないための話し合い

問24 ご自身やご家族が所有している住宅が、将来空き家にならないように家族と話し合ったり、ご自身で考えたりしたことがありますか。また、2～4を選んだ方は、家族で話し合ったり、自分で考えたりしていない理由をお答えください。(○は1つだけ)



— 『自分で考えている』は6割強 —

### 【全体結果】

「家族で話し合ったこともあり、自分でも考えている」(42.3%)の割合が最も高く、次いで、「自分で考えたことも、家族で話し合ったこともない」(24.0%)、「家族で話し合ったことはないが、自分で考えている」が2割となった。『家族で話し合ったことがある』の合計は45.5%、『自分で考えている』の合計は62.3%となった。

### 【属性別結果】(次ページ図5-5参照)

#### ④ 地区別

「家族で話し合ったこともあり、自分でも考えている」は、北区(50.5%)で最も高く5割となり、次いで秋葉区(45.5%)、西蒲区(44.2%)、南区(43.5%)、中央区(42.4%)、東区(41.5%)の順となり4割を超えた。「自分で考えたことも、家族で話し合ったこともない」の割合は南区(31.3%)、西区(29.1%)の順で高かった。

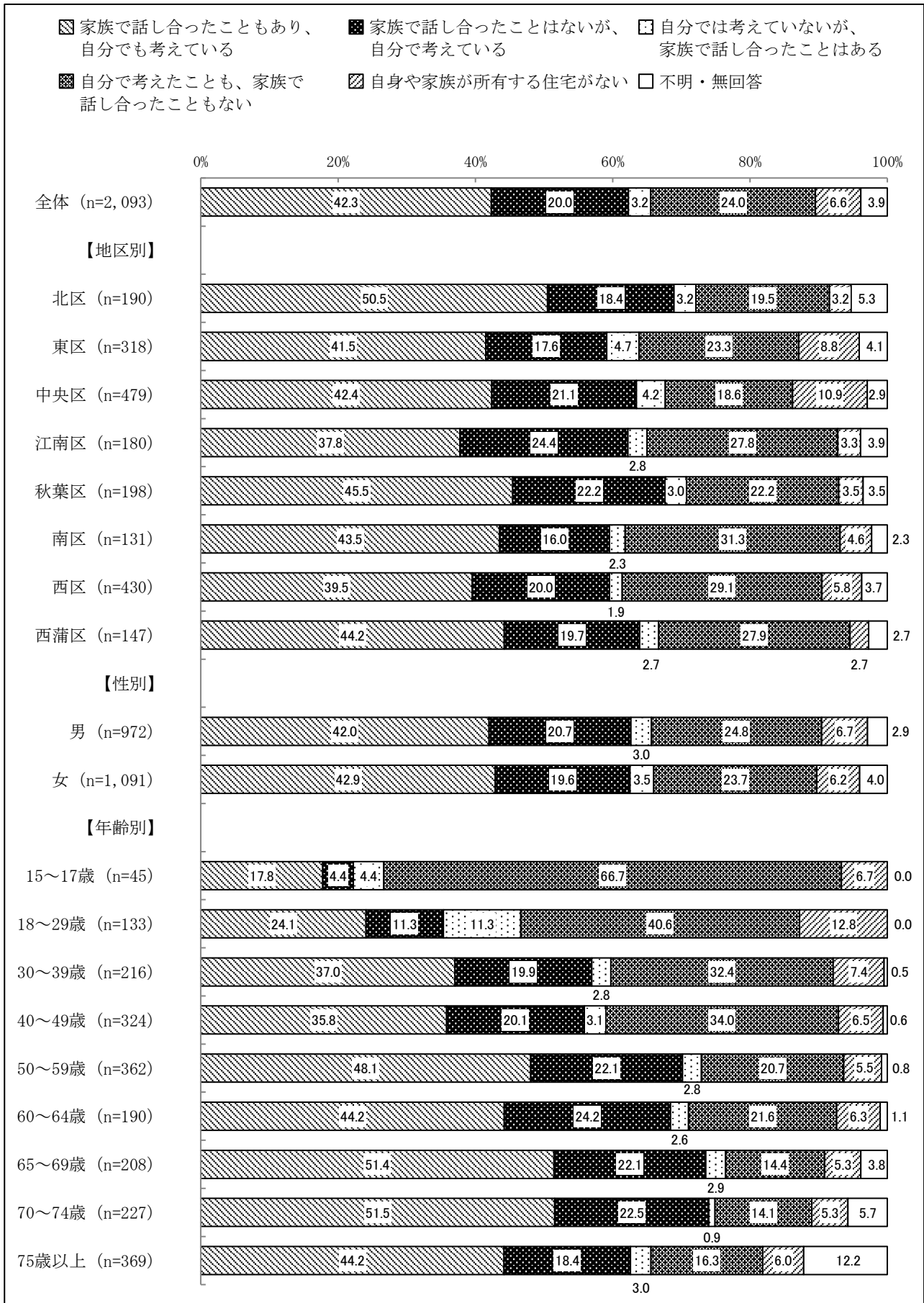
#### ⑤ 性別

性別での大きな差はみられなかった。

#### ⑥ 年齢別

「自分で考えたことも、家族で話し合ったこともない」の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向がみられた。

図 5-5 空き家にしないための話し合い（地区別/性別/年齢別）



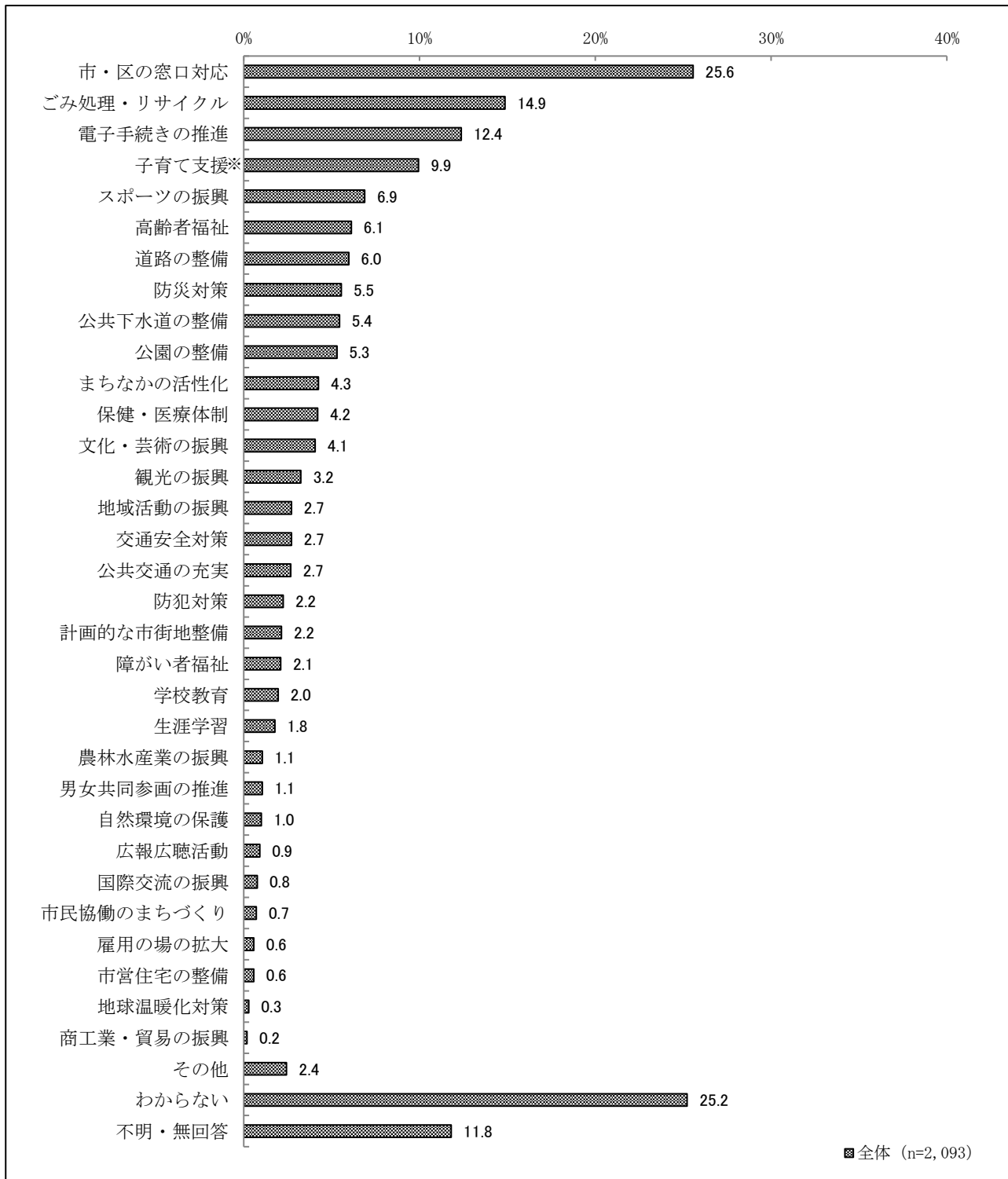


## 6. 市政全般と区政について

### (1) 新潟市として良くなっているもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

① 「新潟市として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号（1～34）をご記入ください。



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

— 新潟市として良くなっているものは「市・区の窓口対応」が2割半ばでトップ —

**【全体結果】**

新潟市として良くなっているものは、「市・区の窓口対応」(25.6%)の割合が最も高く、2割半ばとなった。次いで、「ごみ処理・リサイクル」(14.9%)、「電子手続きの推進」(12.4%)、「子育て支援」(9.9%)の順に高くなっている。

**【属性別結果】(次ページ図6-1参照)**

① 地区別

「市・区の窓口対応」については、中央区(28.8%)で割合が最も高く、次いで、北区(28.4%)、西区(27.7%)、東区(26.1%)の順で3割弱となった。割合が最も低いのは西蒲区(19.7%)となった。

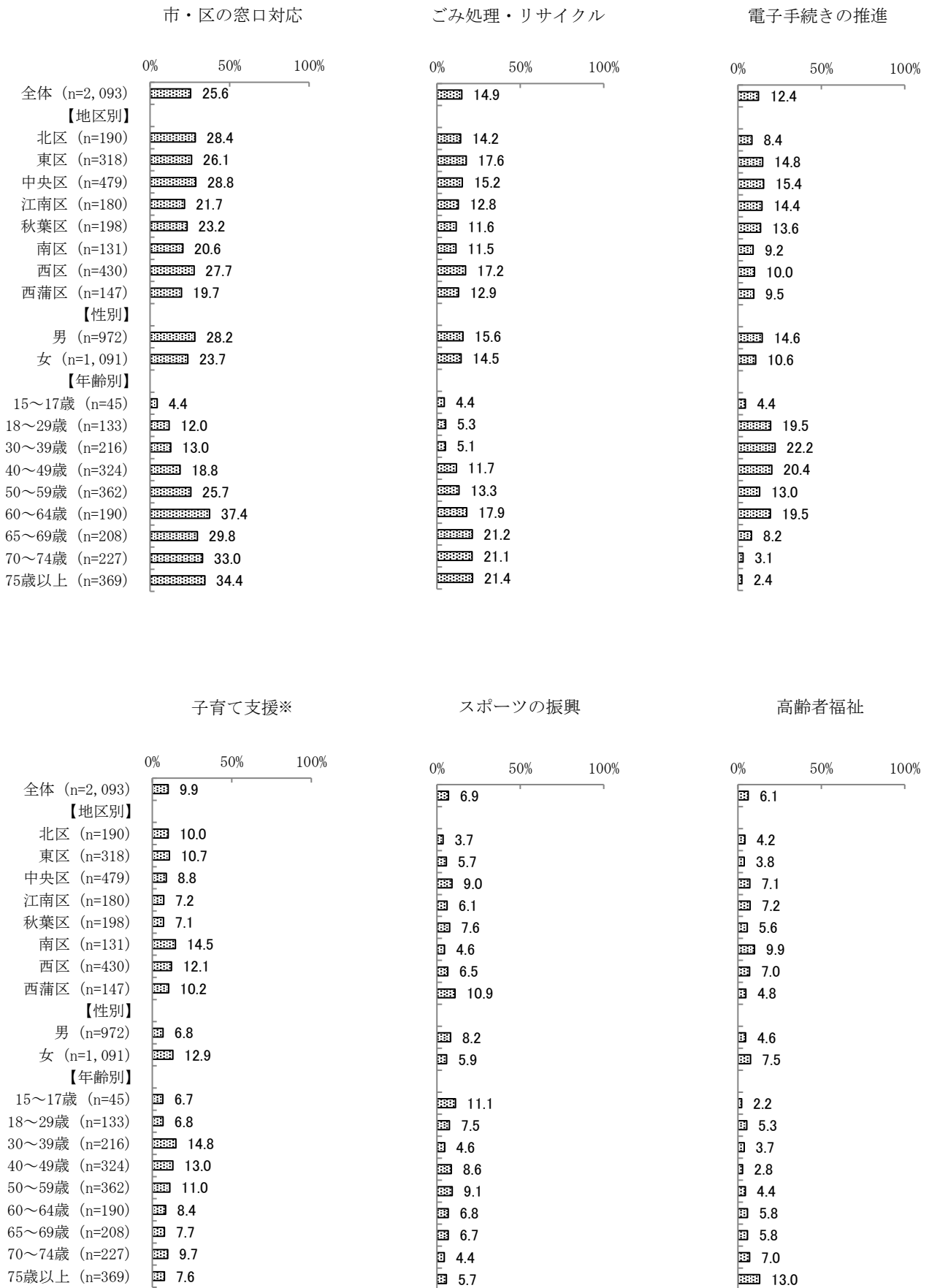
② 性別

「市・区の窓口対応」については、女性(23.7%)と比較して男性(28.2%)で割合が高く、「子育て支援」は男性(6.8%)と比較して女性(12.9%)で割合が高くなっている。

③ 年齢別

「市・区の窓口対応」、「ごみ処理・リサイクル」は、年齢が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられた。逆に、「わからない」の割合は年齢が低いほど高くなる傾向がみられた。

図 6-1 新潟市として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 1/6



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

図 6-1 新潟市として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 2/6

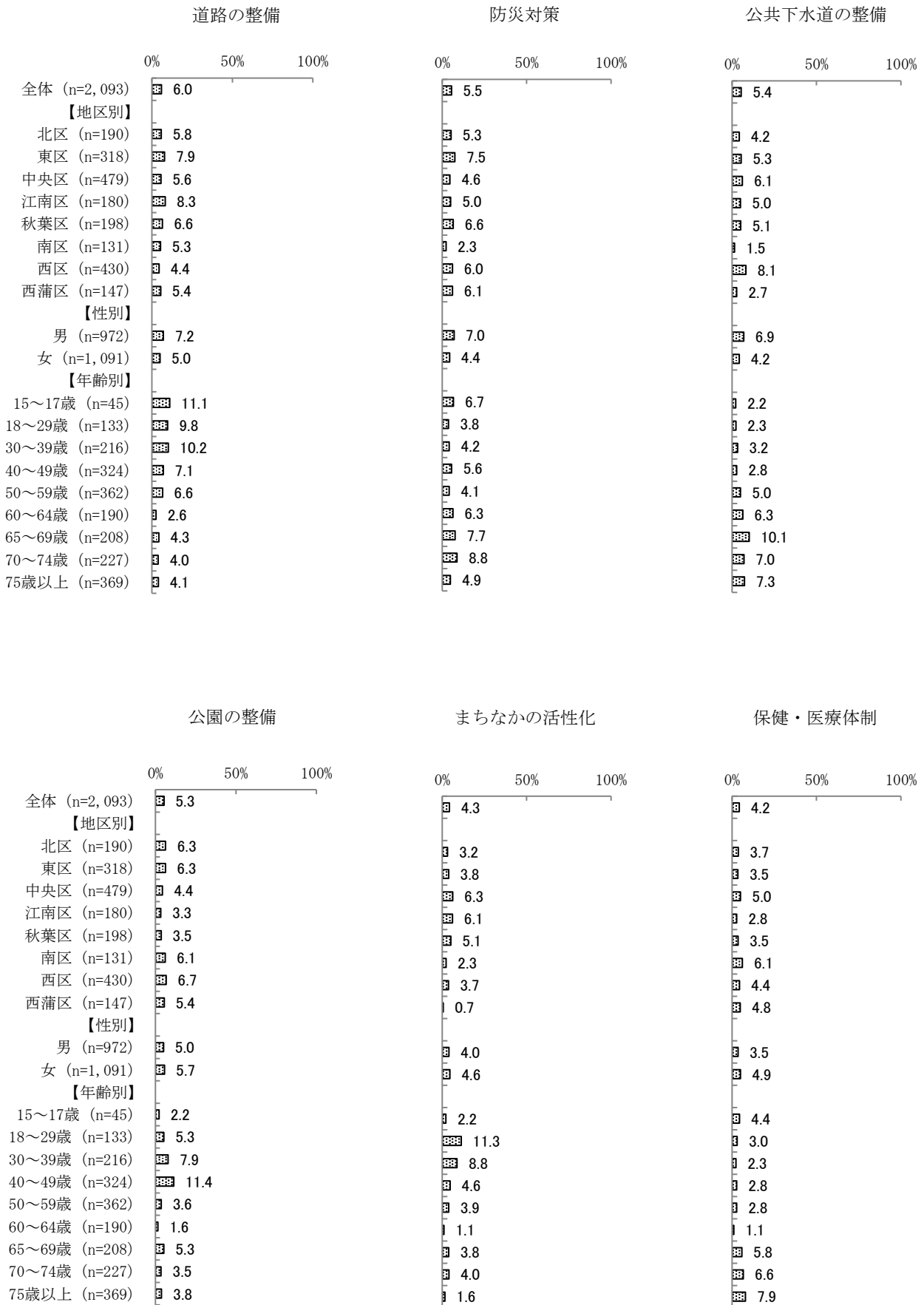


図 6-1 新潟市として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 3/6

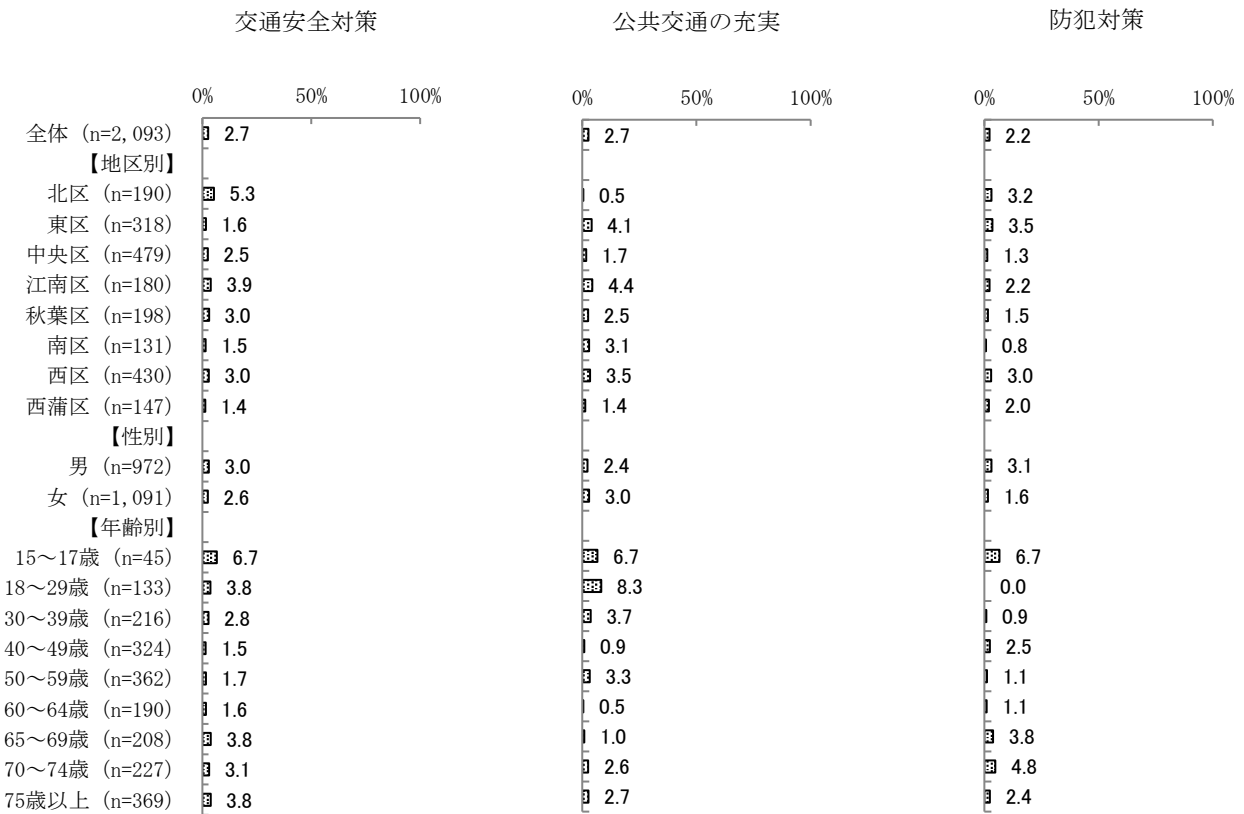
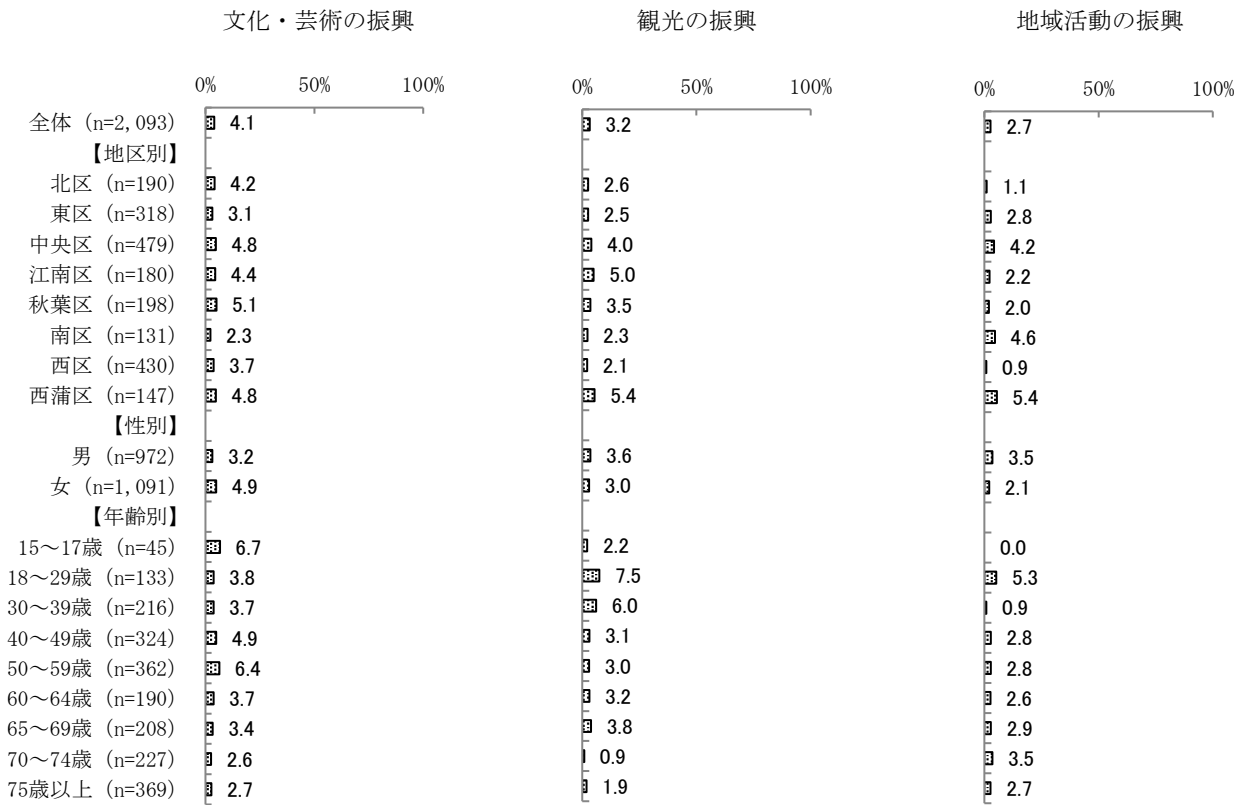


図 6-1 新潟市として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 4/6

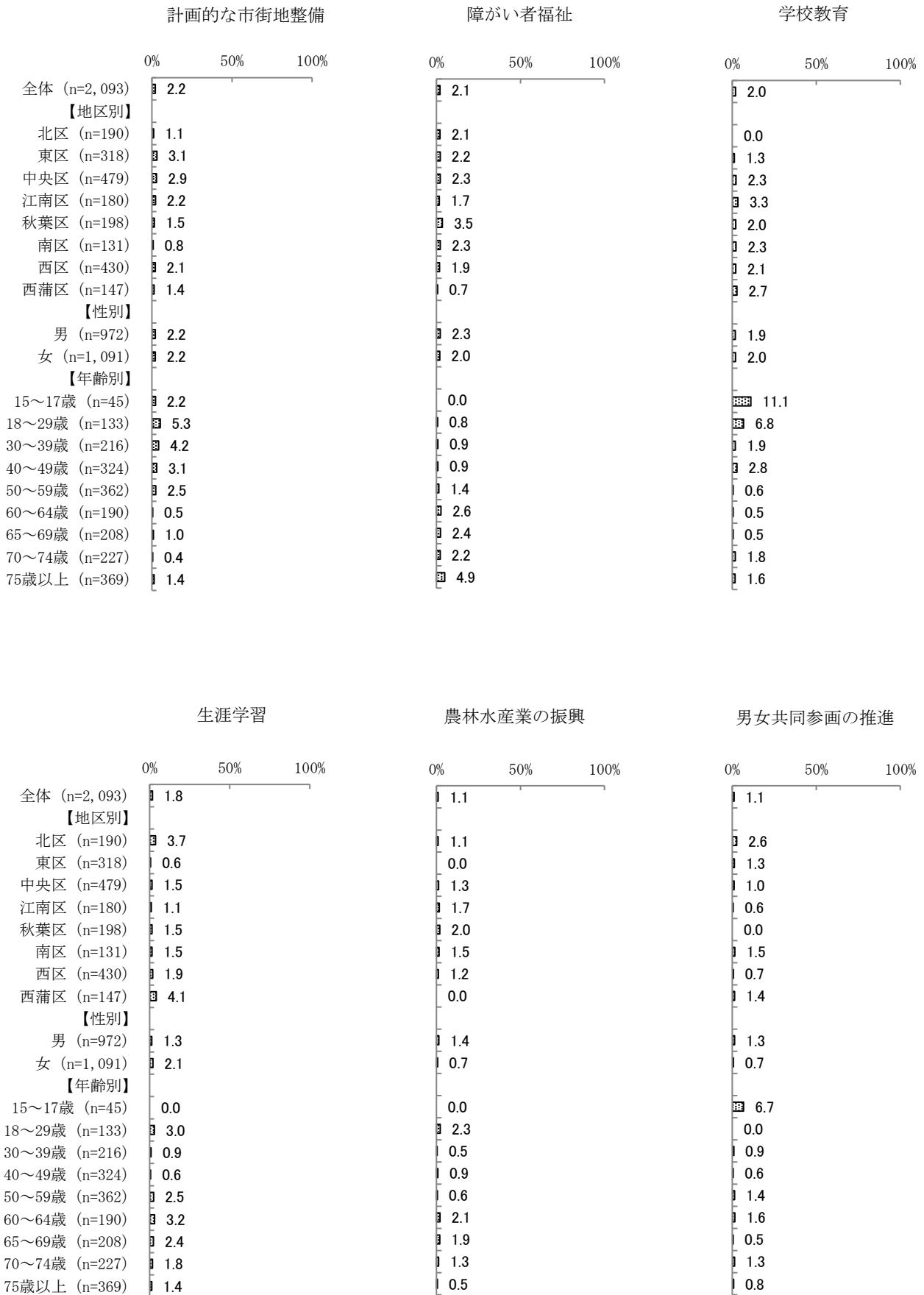


図 6-1 新潟市として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 5/6

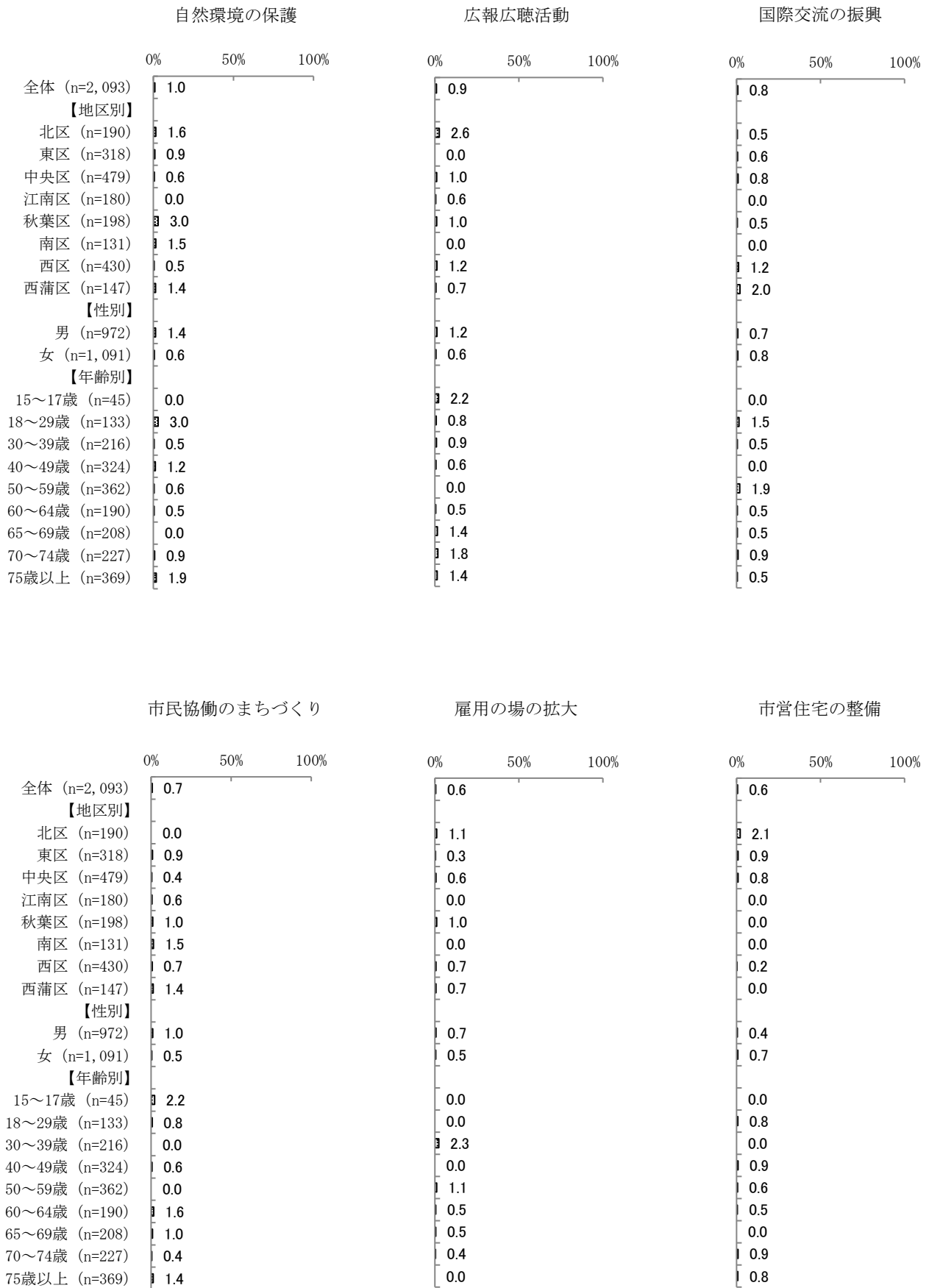
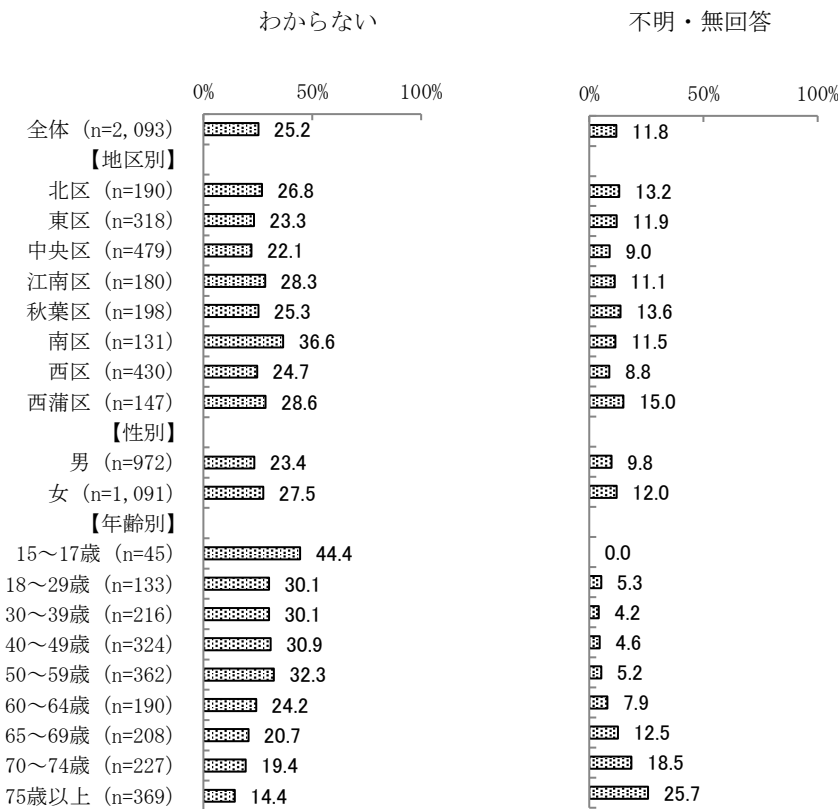
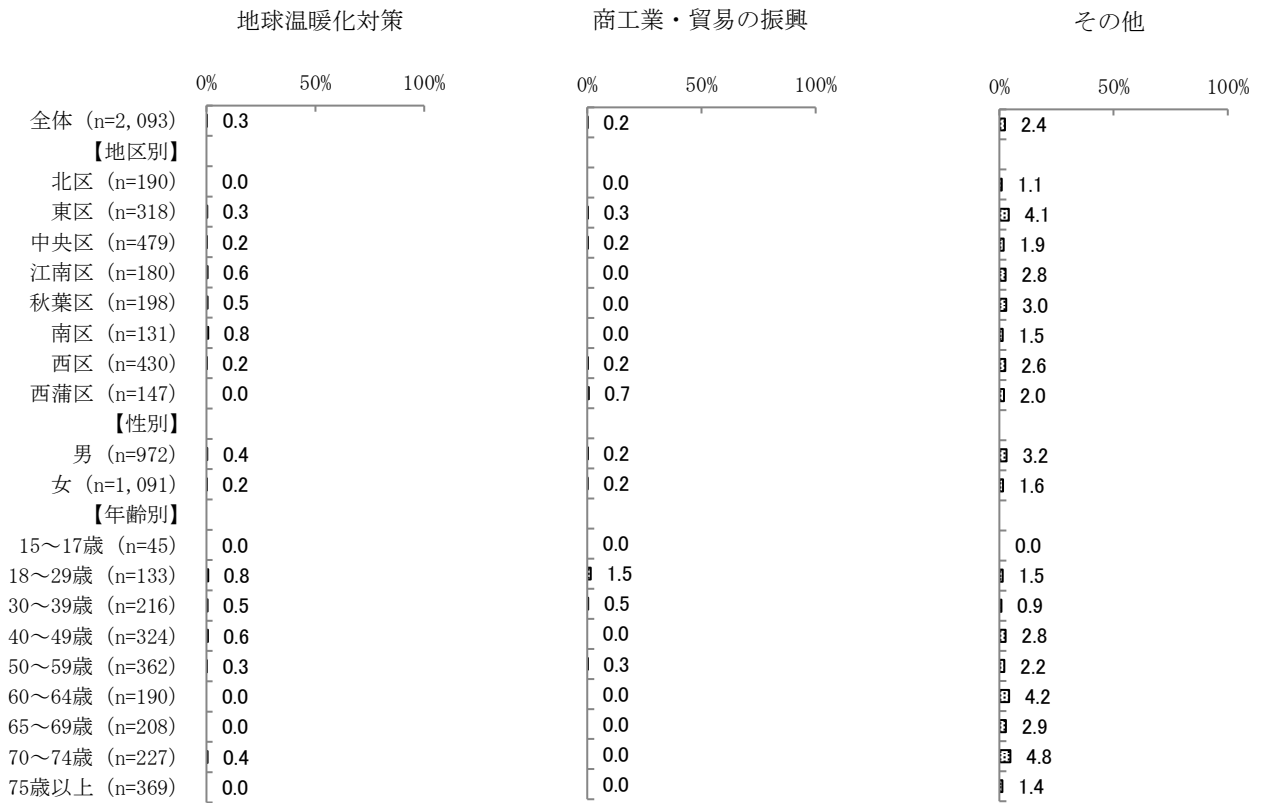


図 6-1 新潟市として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 6/6

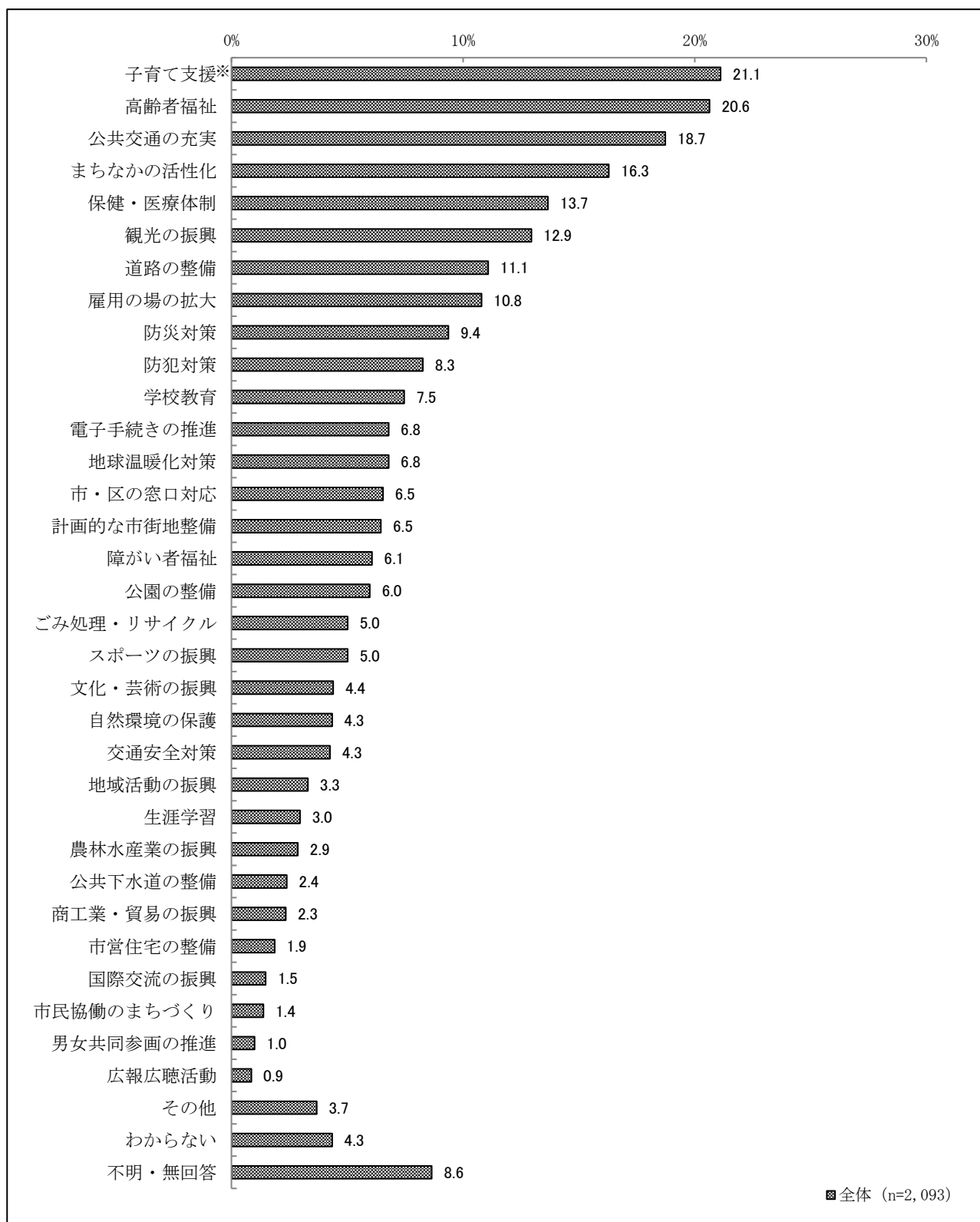




## (2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

② 「新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号(1~34)をご記入ください。



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

## — 「子育て支援」、「高齢者福祉」、「公共交通の充実」がトップ3 —

### 【全体結果】

新潟市として今後もっと力を入れてほしいものは、「子育て支援」(21.1%)が最も高かった。次いで「高齢者福祉」(20.6%)、「公共交通の充実」(18.7%)、「まちなかの活性化」(16.3%)の順に続いた。

### 【属性別結果】(次ページ図 6-2 参照)

#### ① 地区別

「公共交通の充実」は、中央区(24.4%)、西区(23.5%)、南区(21.4%)の順に高く2割を超えている。「防災対策」は北区(13.7%)、東区(10.4%)で割合が高く1割を超えた。

#### ② 性別

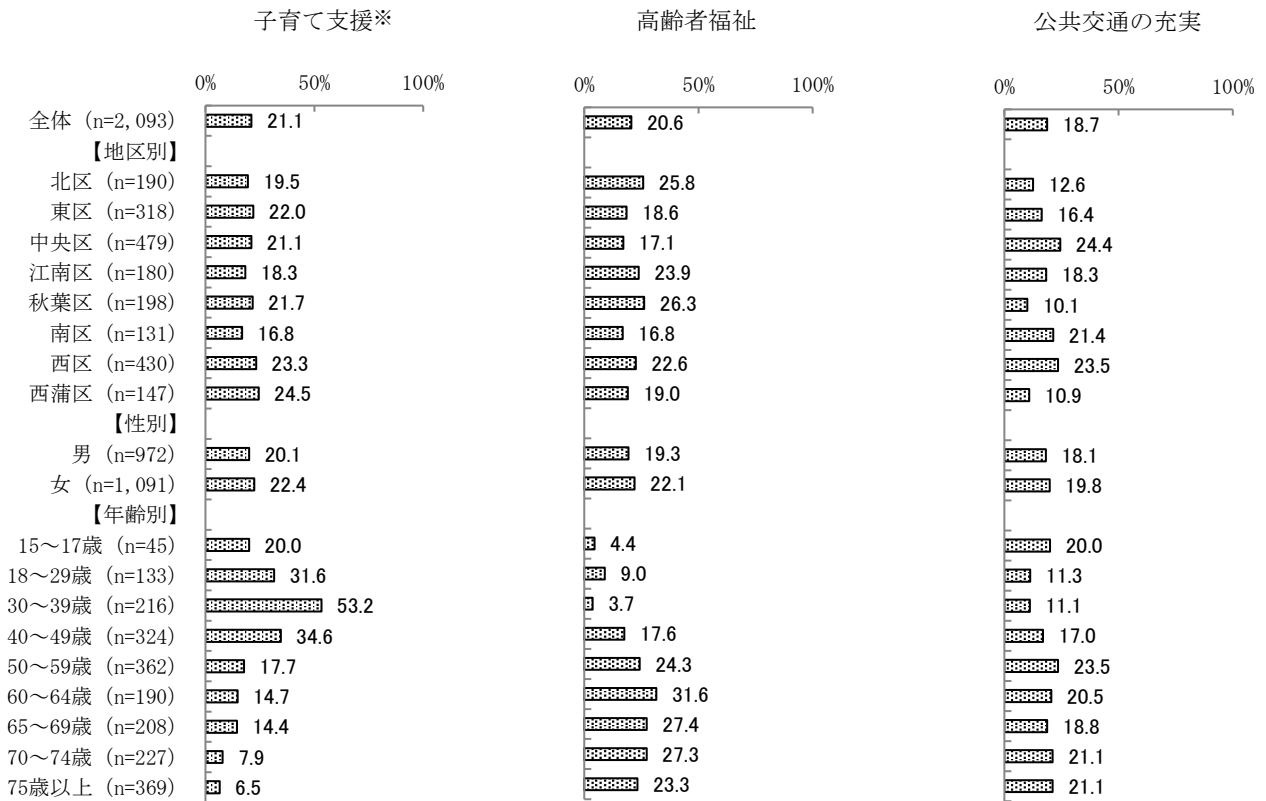
「道路の整備」は、女性(9.1%)と比較して男性(13.7%)で割合が高かった。

#### ③ 年齢別

「子育て支援」は、30～39歳(53.2%)で割合が最も高く、5割を超えた。「高齢者福祉」は60～64歳で最も割合が高く、以降年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向がみられた。「観光の振興」、「学校教育」、「電子手続きの推進」、「スポーツの振興」、「文化・芸術の振興」は若い年代ほど割合が高くなる傾向がみられた。

「防災対策」は、40～49歳(13.0%)で他の年代に比べて割合が高かった。

図 6-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 1/6



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

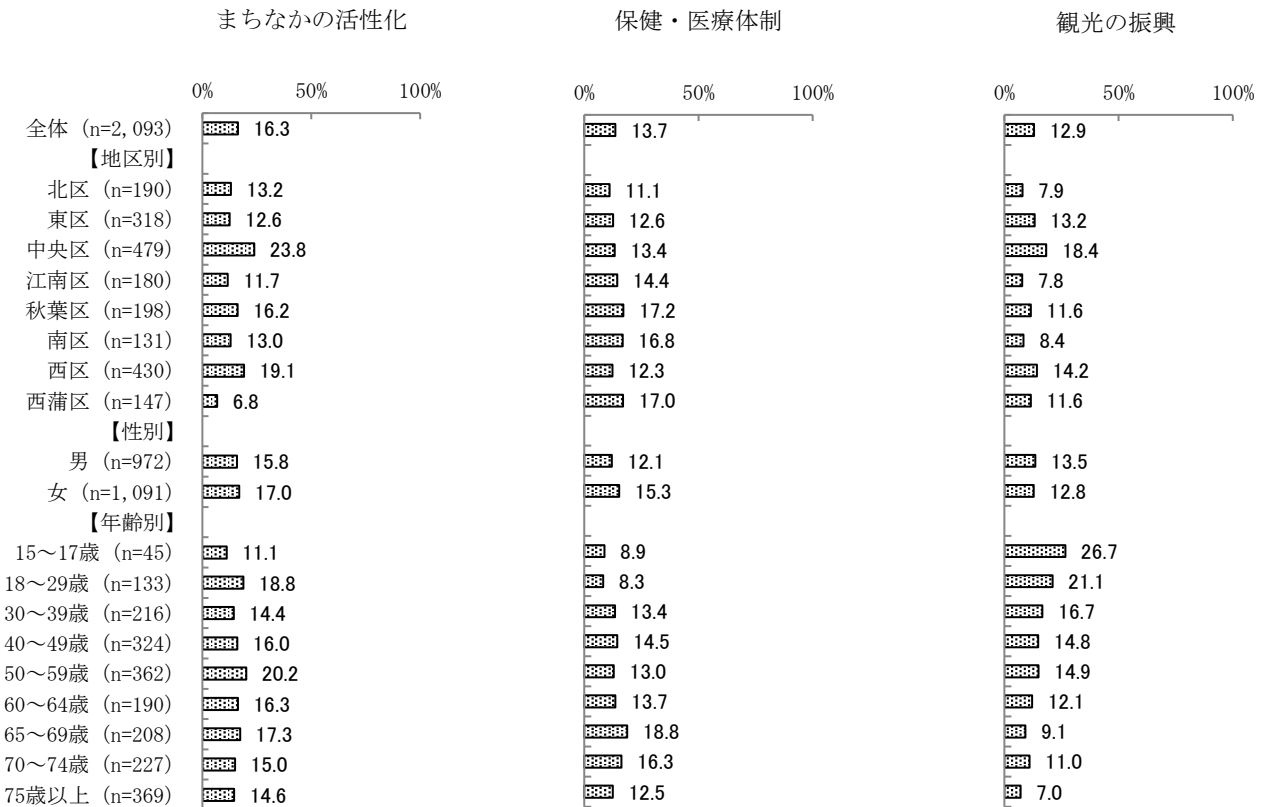


図 6-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 2/6

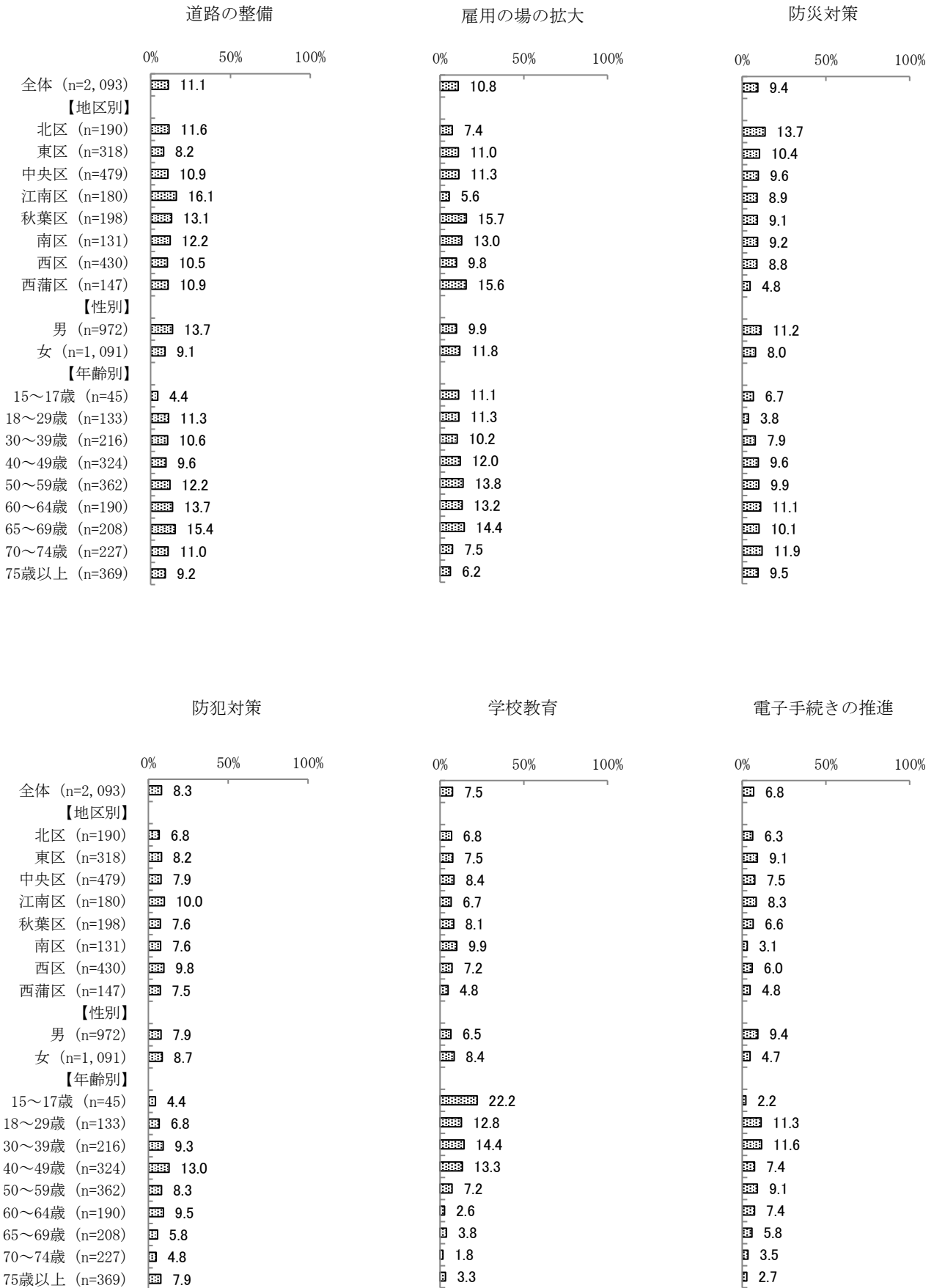


図 6-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 3/6

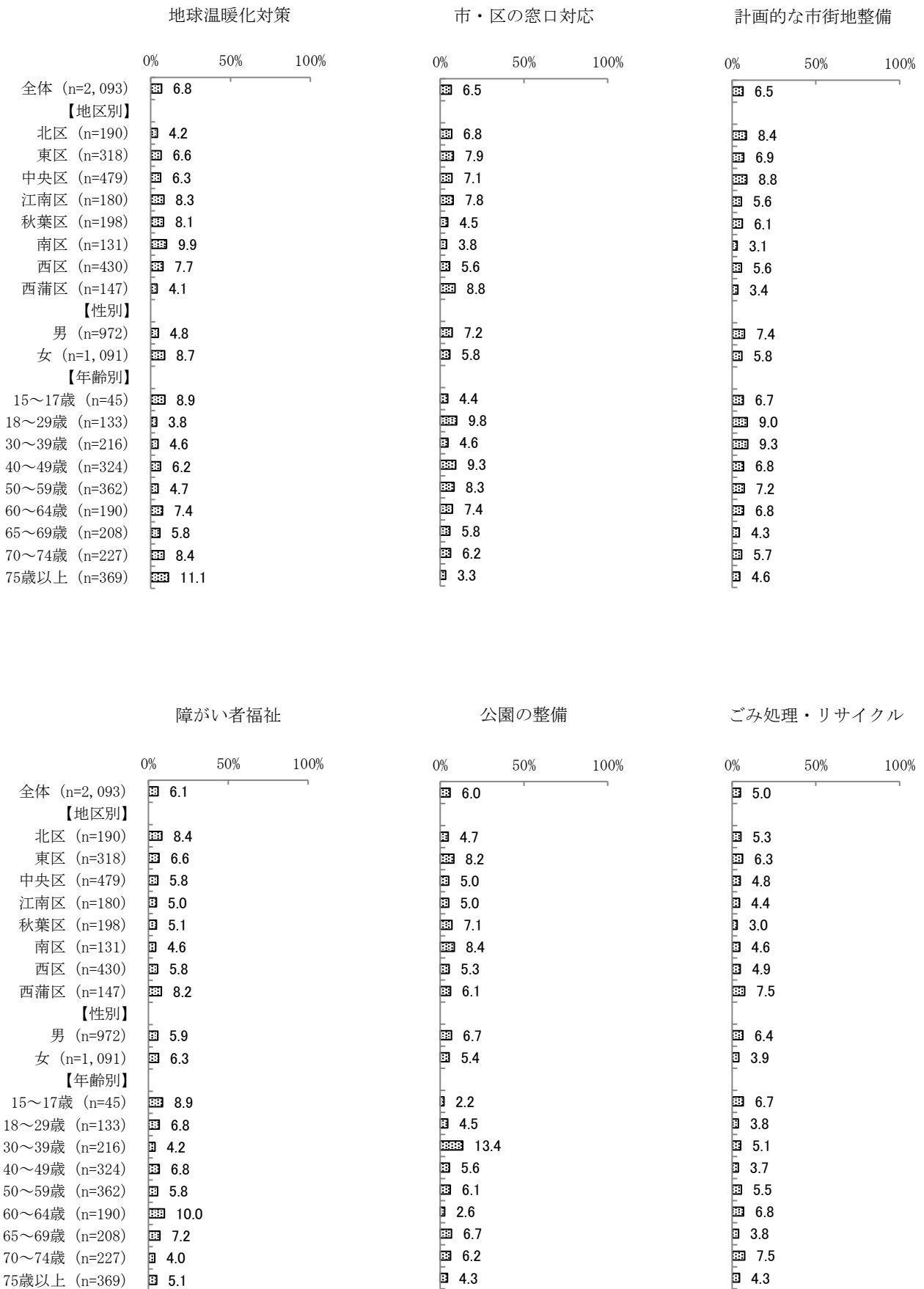


図 6-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 4/6

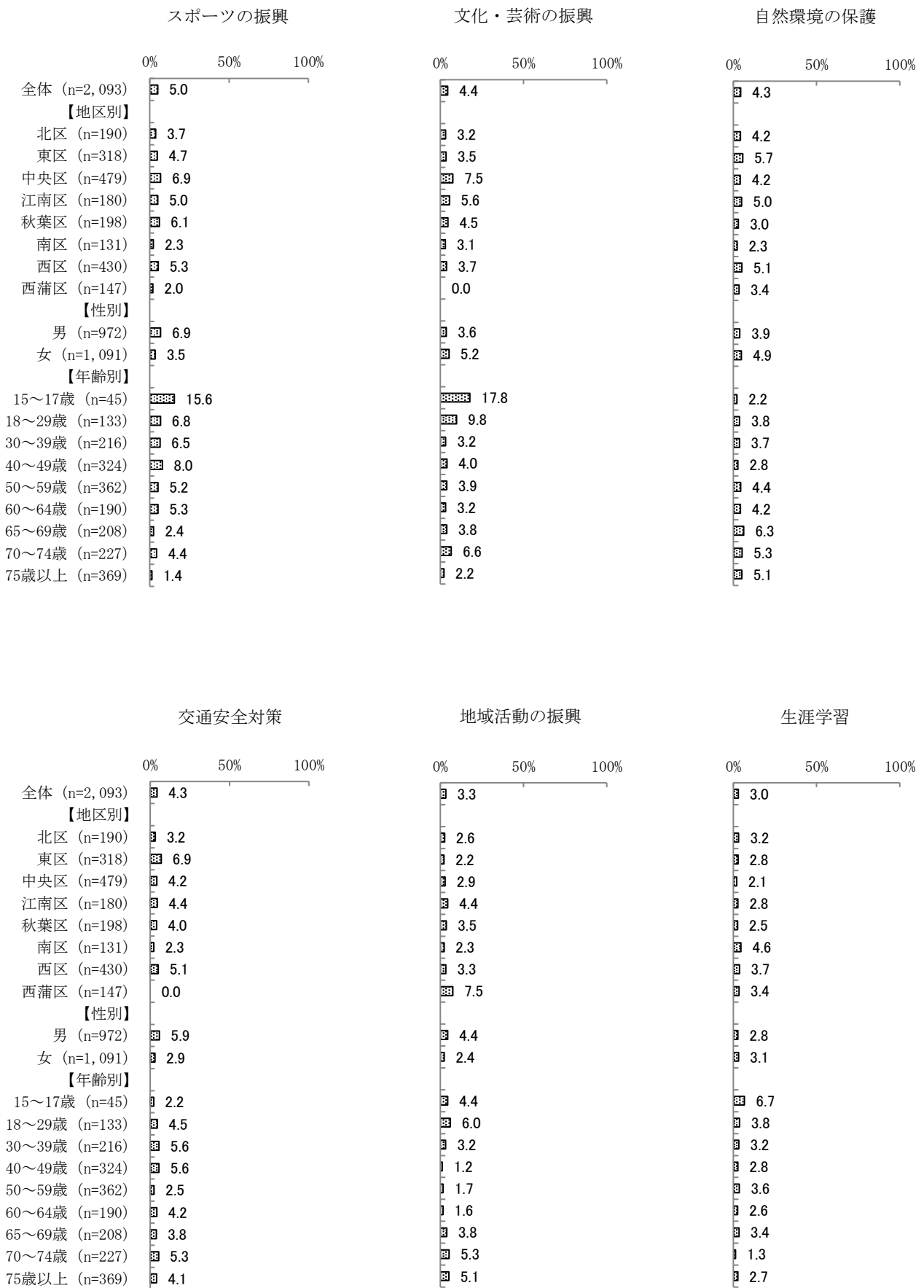


図 6-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 5/6

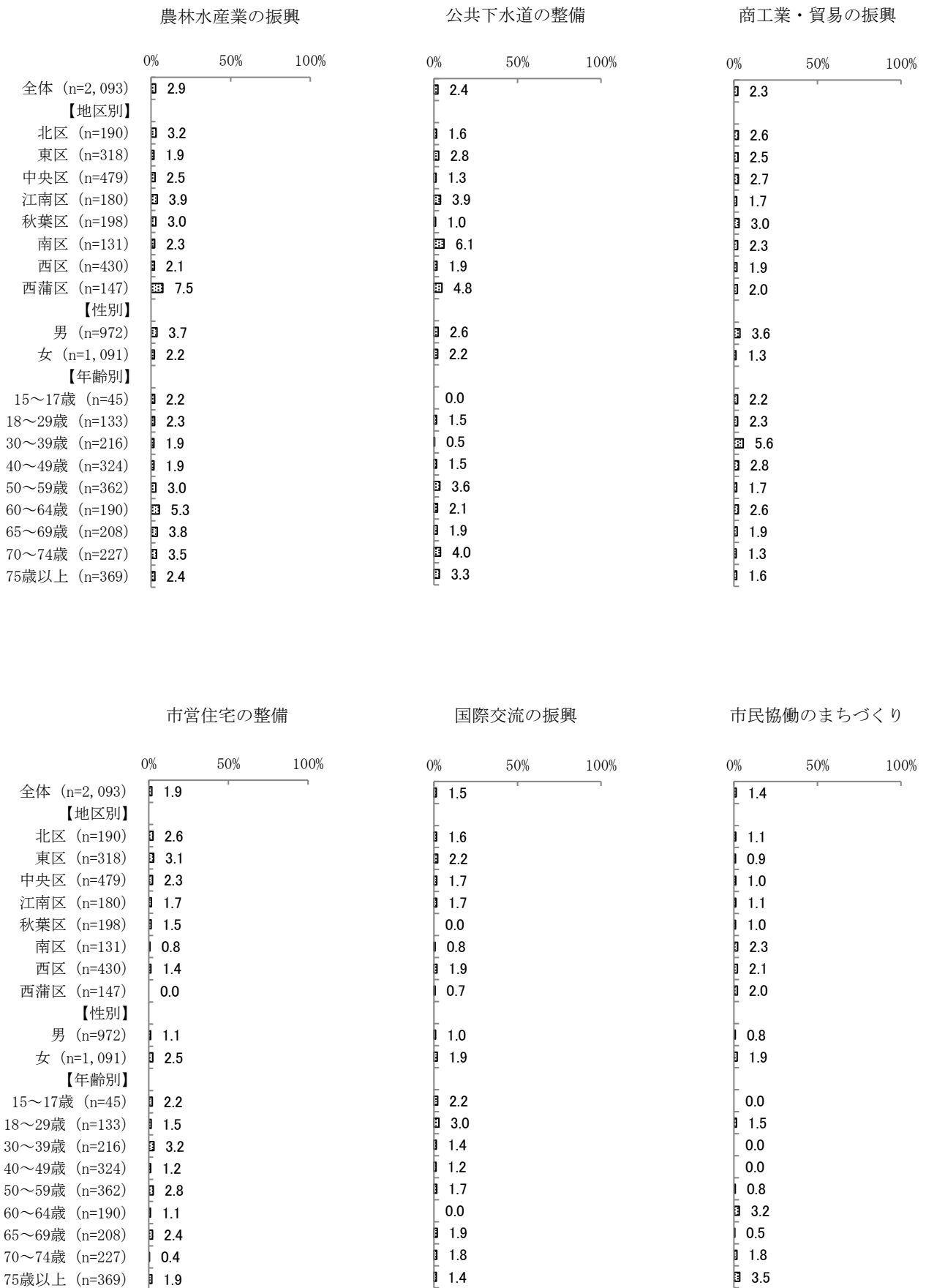
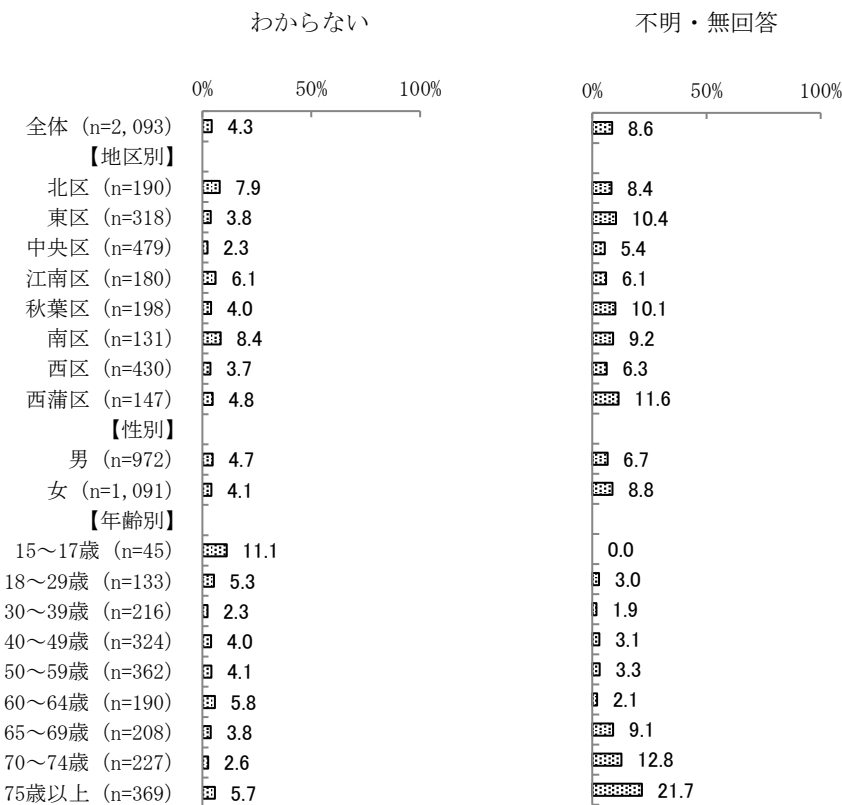
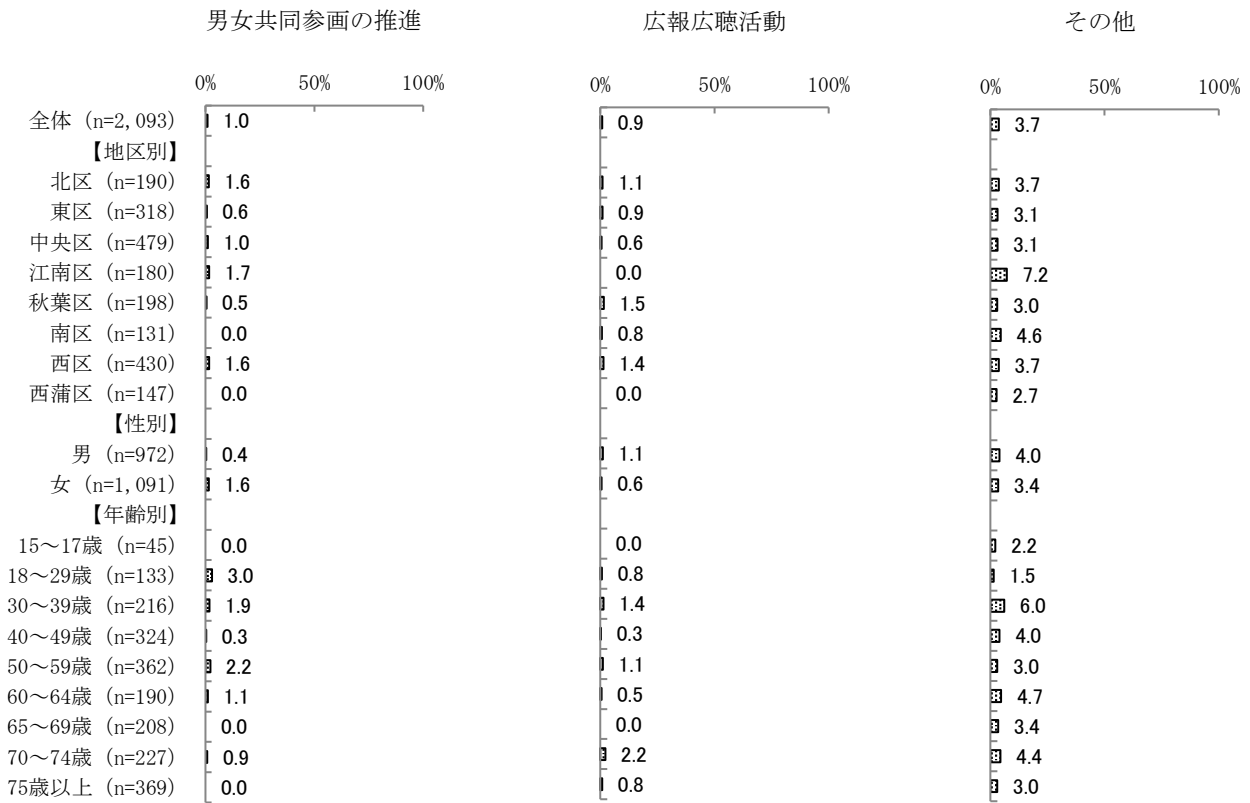


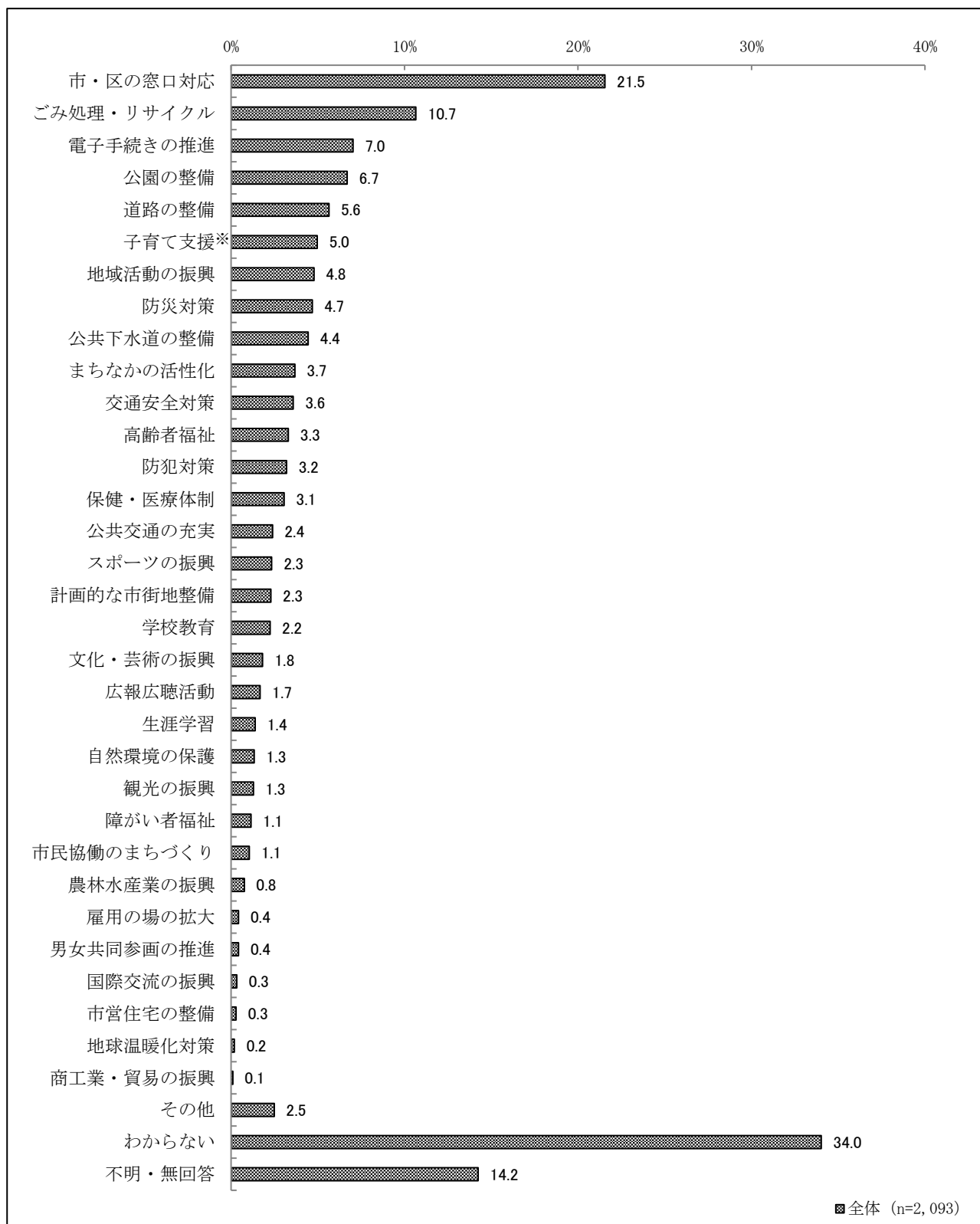
図 6-2 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 6/6





### (3) 区として良くなっているもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて  
 ③「区として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄  
 に番号(1~34)をご記入ください。



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

## — 「市・区の窓口対応」が約2割でトップ —

### 【全体結果】

区として良くなっているものは、「市・区の窓口対応」(21.5%)の割合が最も高く、「ごみ処理・リサイクル」(10.7%)、「電子手続きの推進」(7.0%)、「公園の整備」(6.7%)の順に続く。

### 【属性別結果】(次ページ図 6-3 参照)

#### ① 地区別

全体結果で割合が最も高かった「市・区の窓口対応」は北区(27.9%)で、南区(11.5%)、西蒲区(14.3%)で低かった。

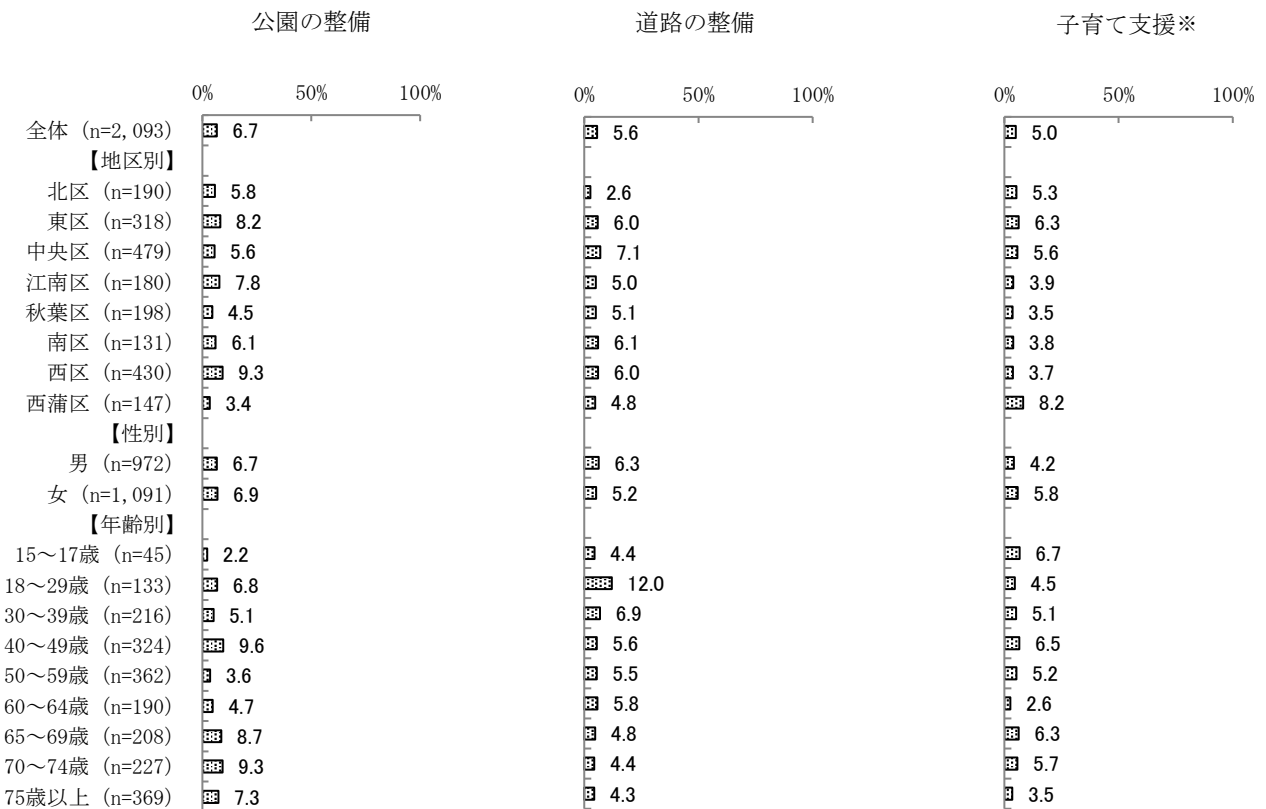
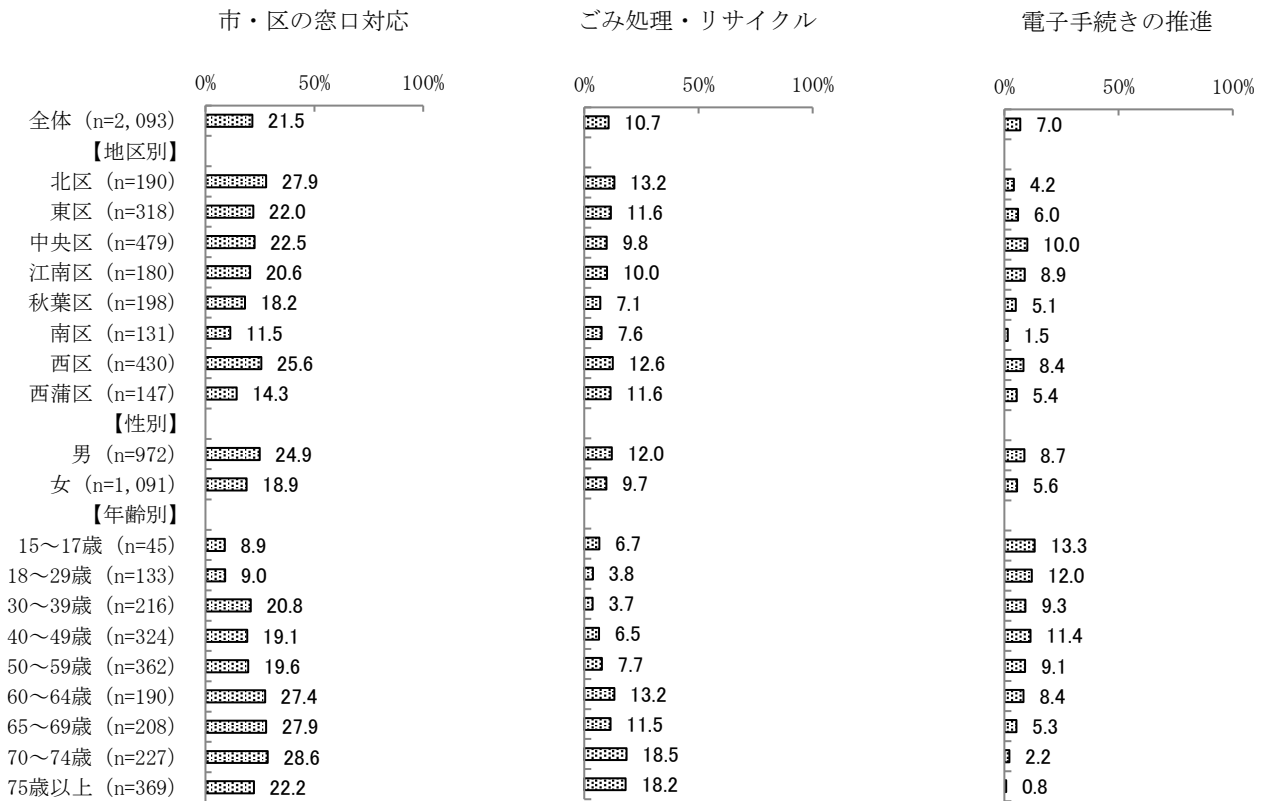
#### ② 性別

「市・区の窓口対応」は、女性(18.9%)と比較して男性(24.9%)で割合が高かった。「わからない」は、男性(31.7%)と比較して女性(36.9%)で割合が高かった。

#### ③ 年齢別

「わからない」の割合は、年齢が低いほど高くなる傾向がみられた。

図 6-3 区として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 1/6



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

図 6-3 区として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 2/6

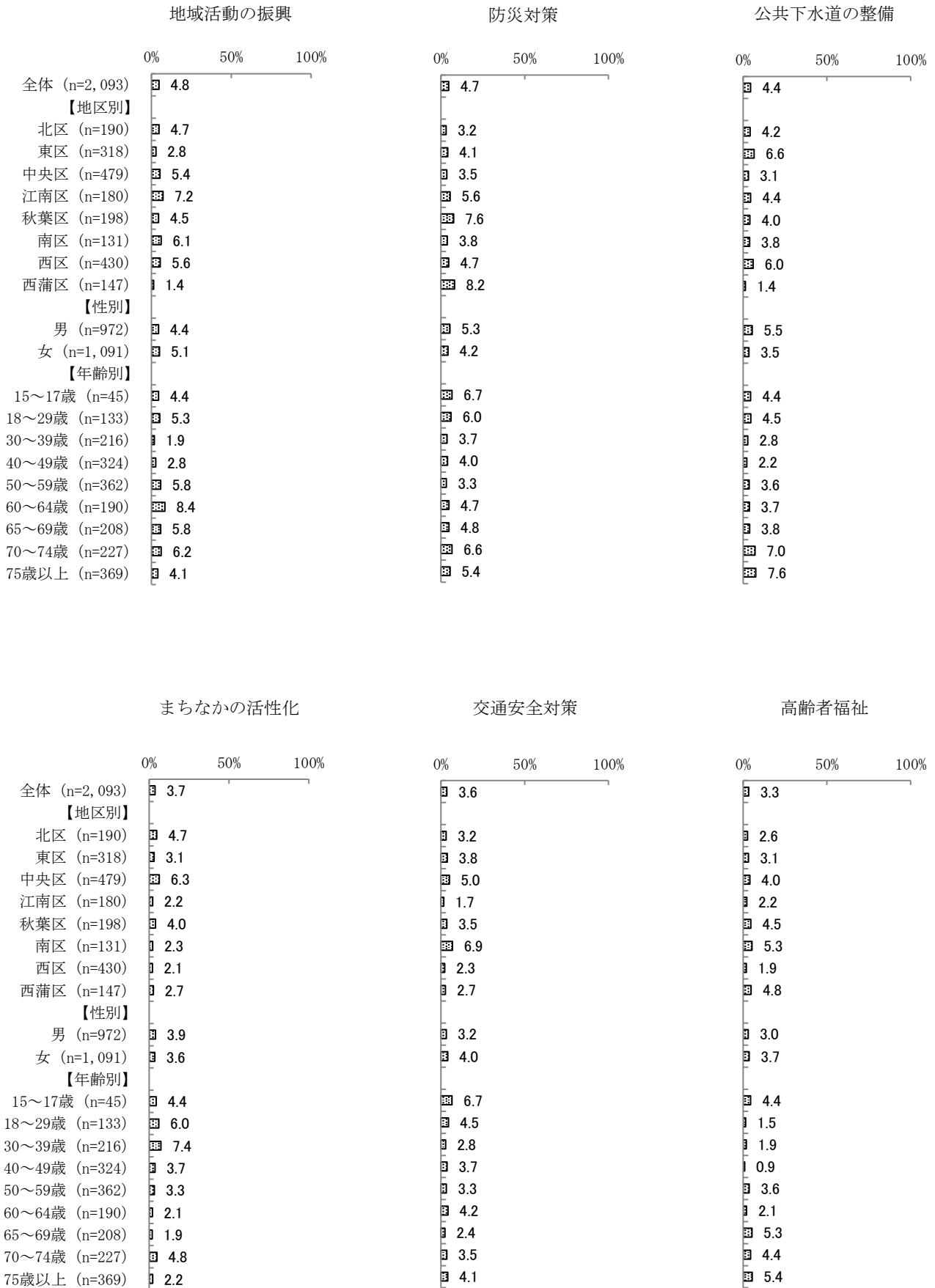


図 6-3 区として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 3/6

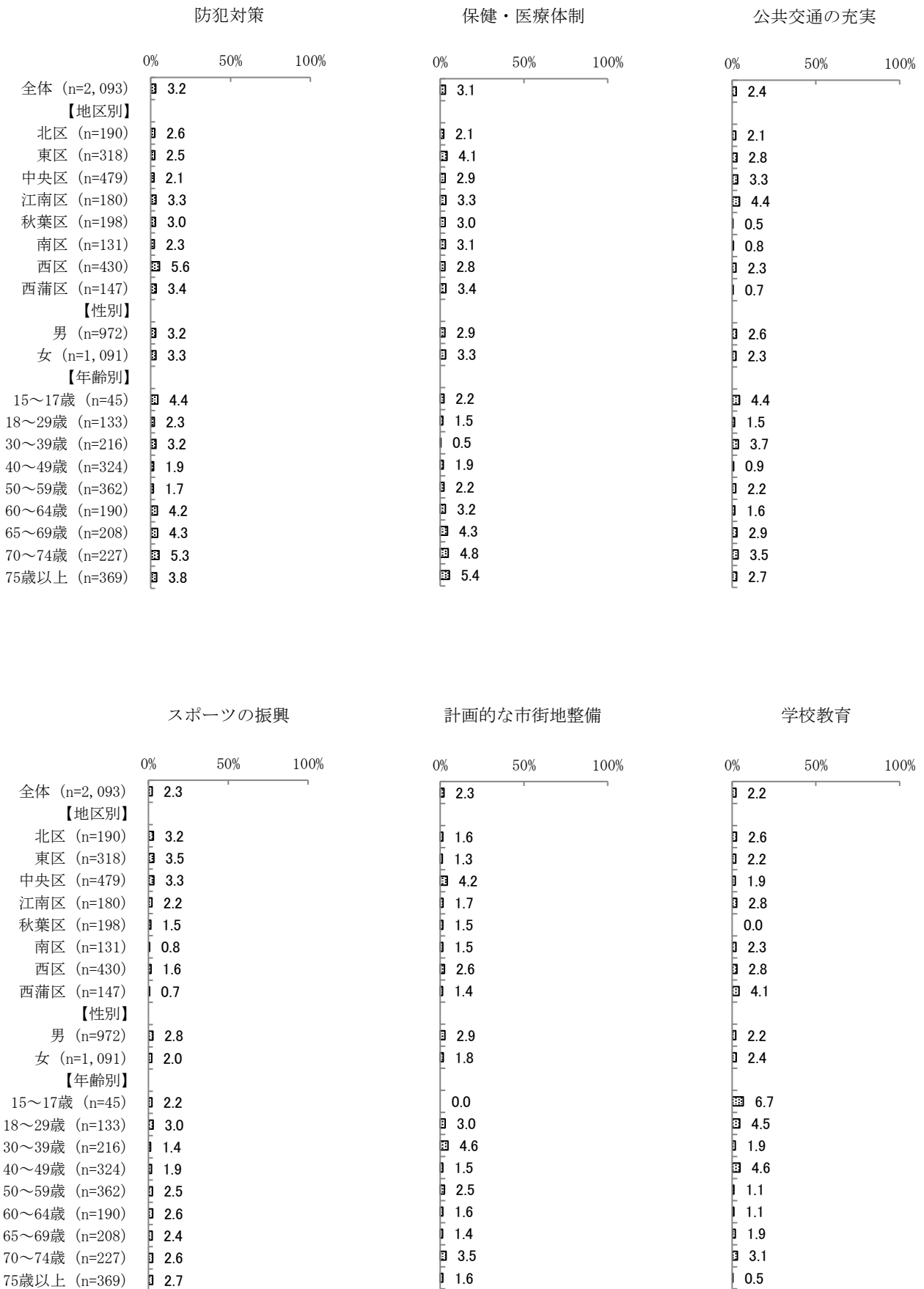


図 6-3 区として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 4/6

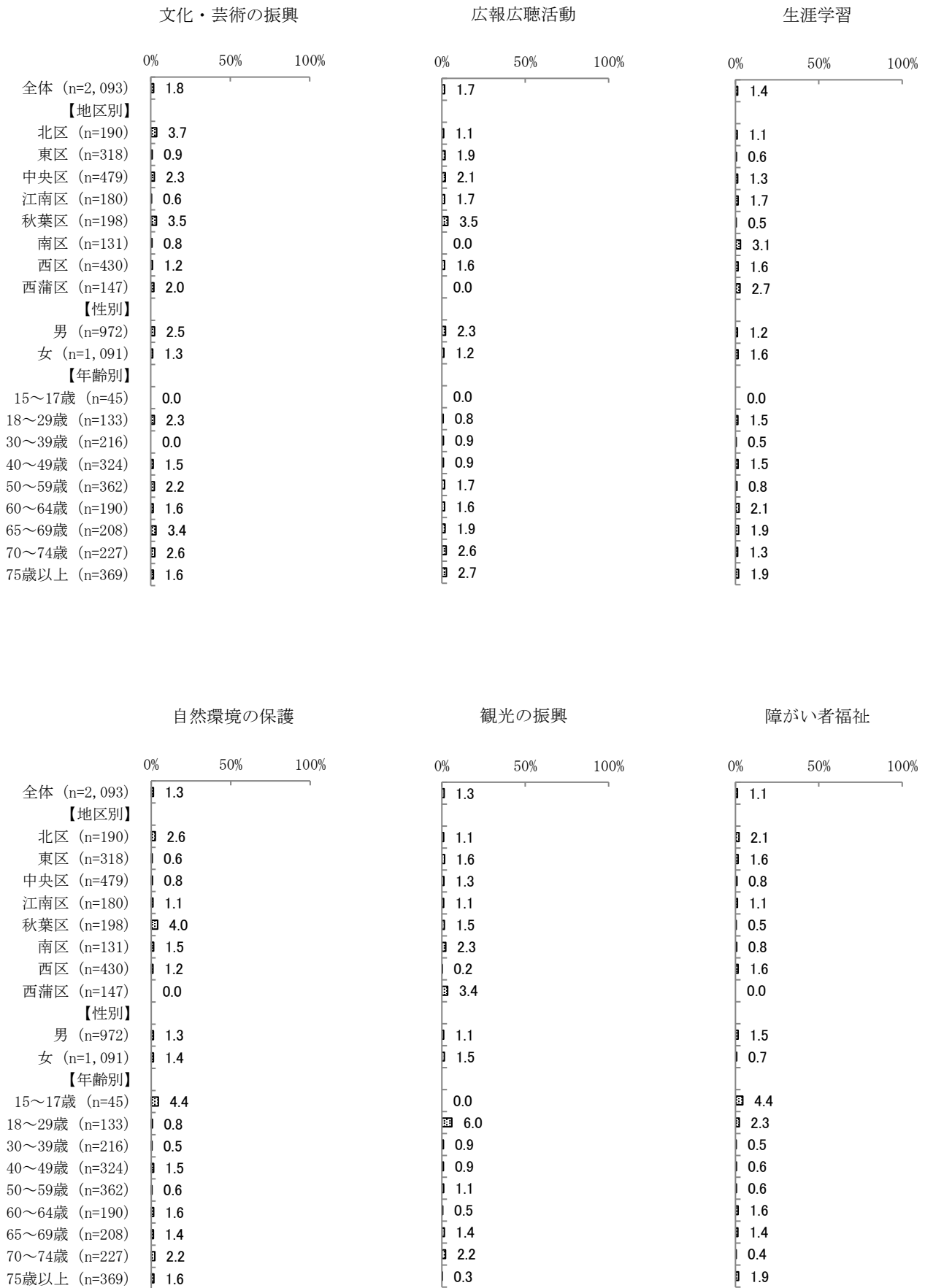


図 6-3 区として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 5/6

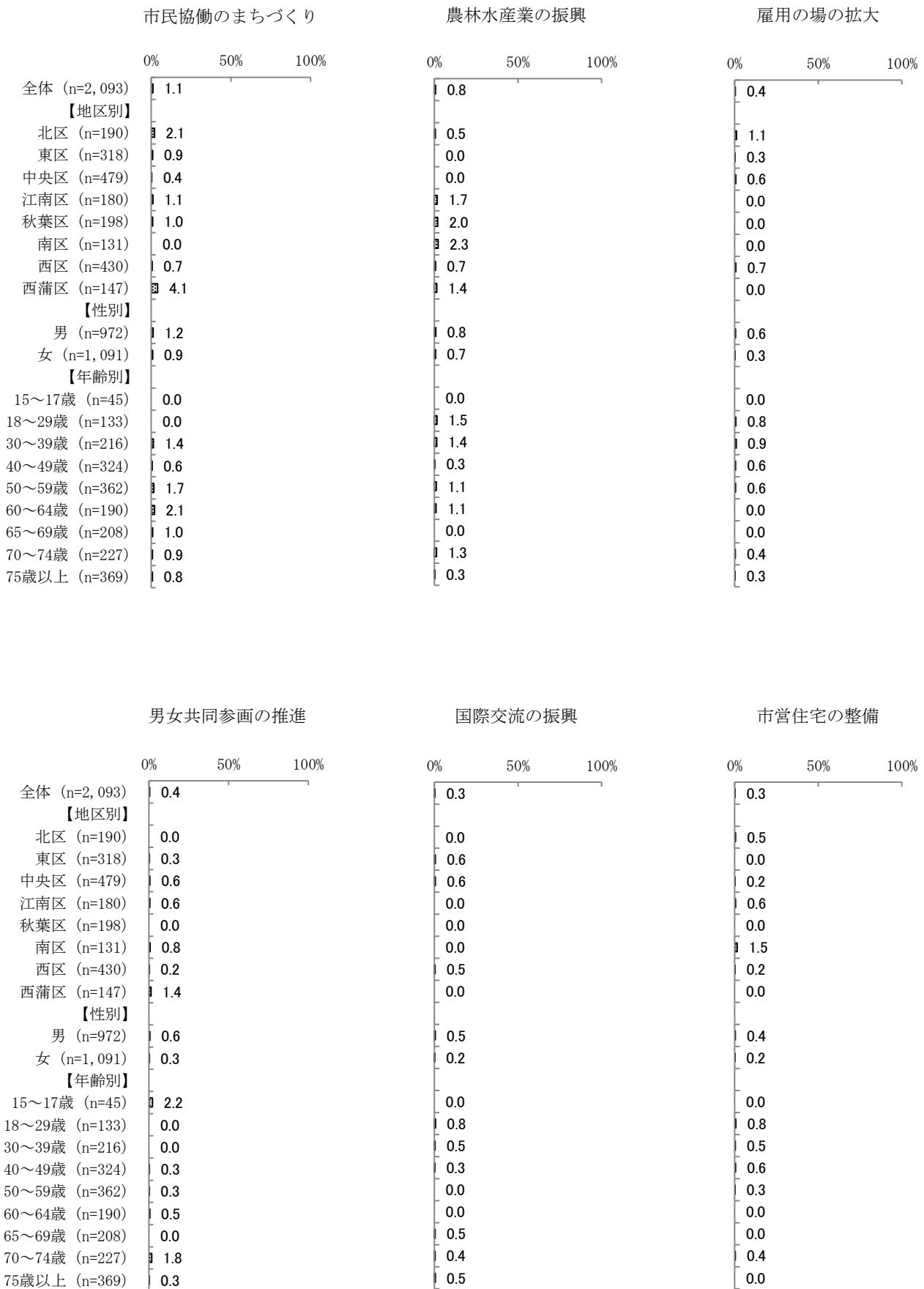
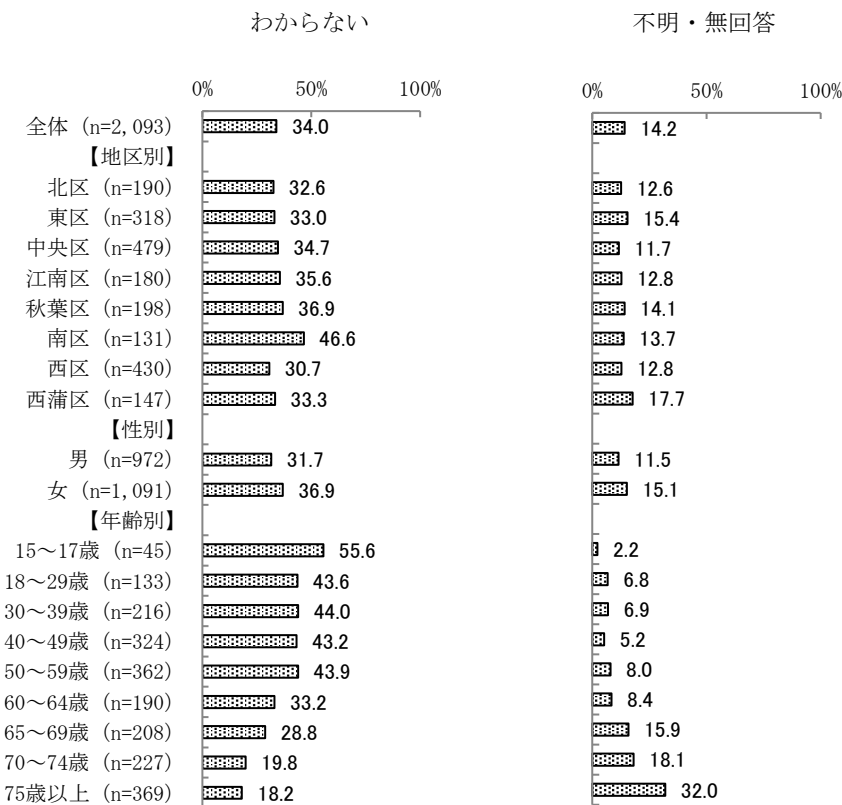
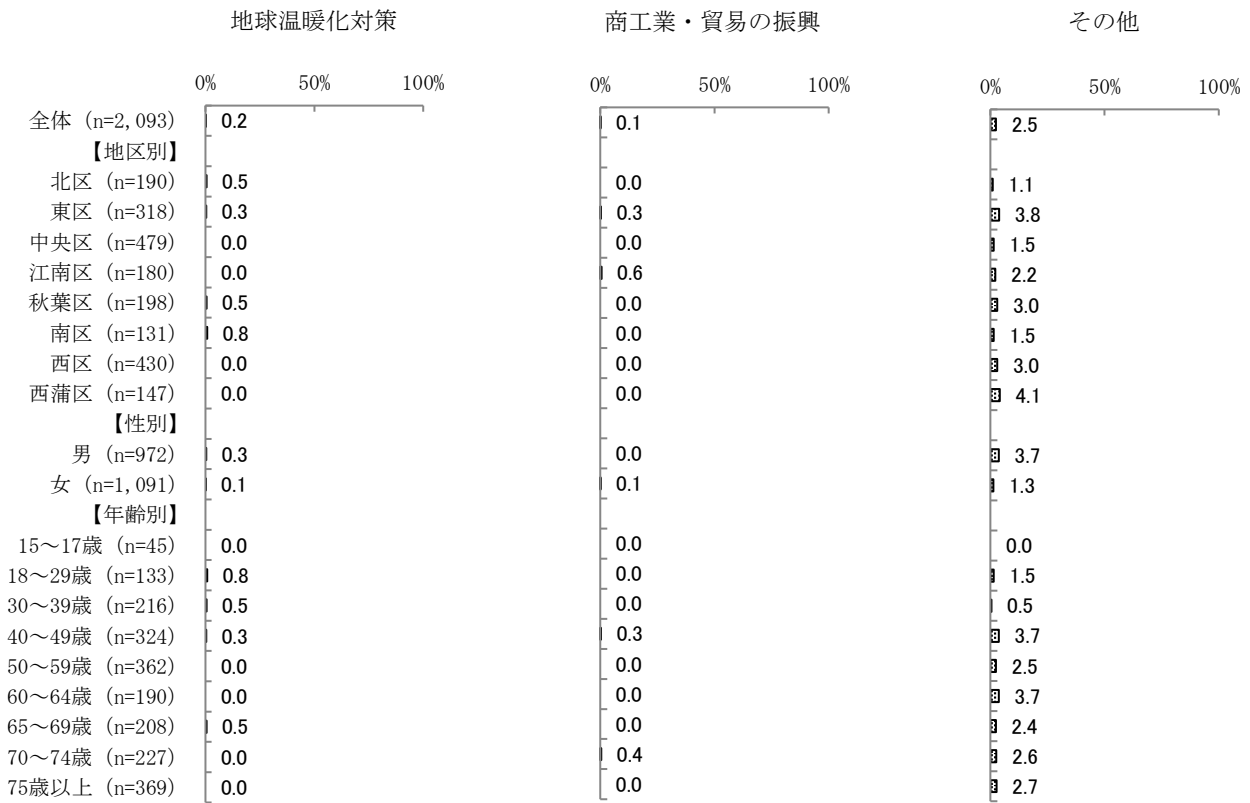


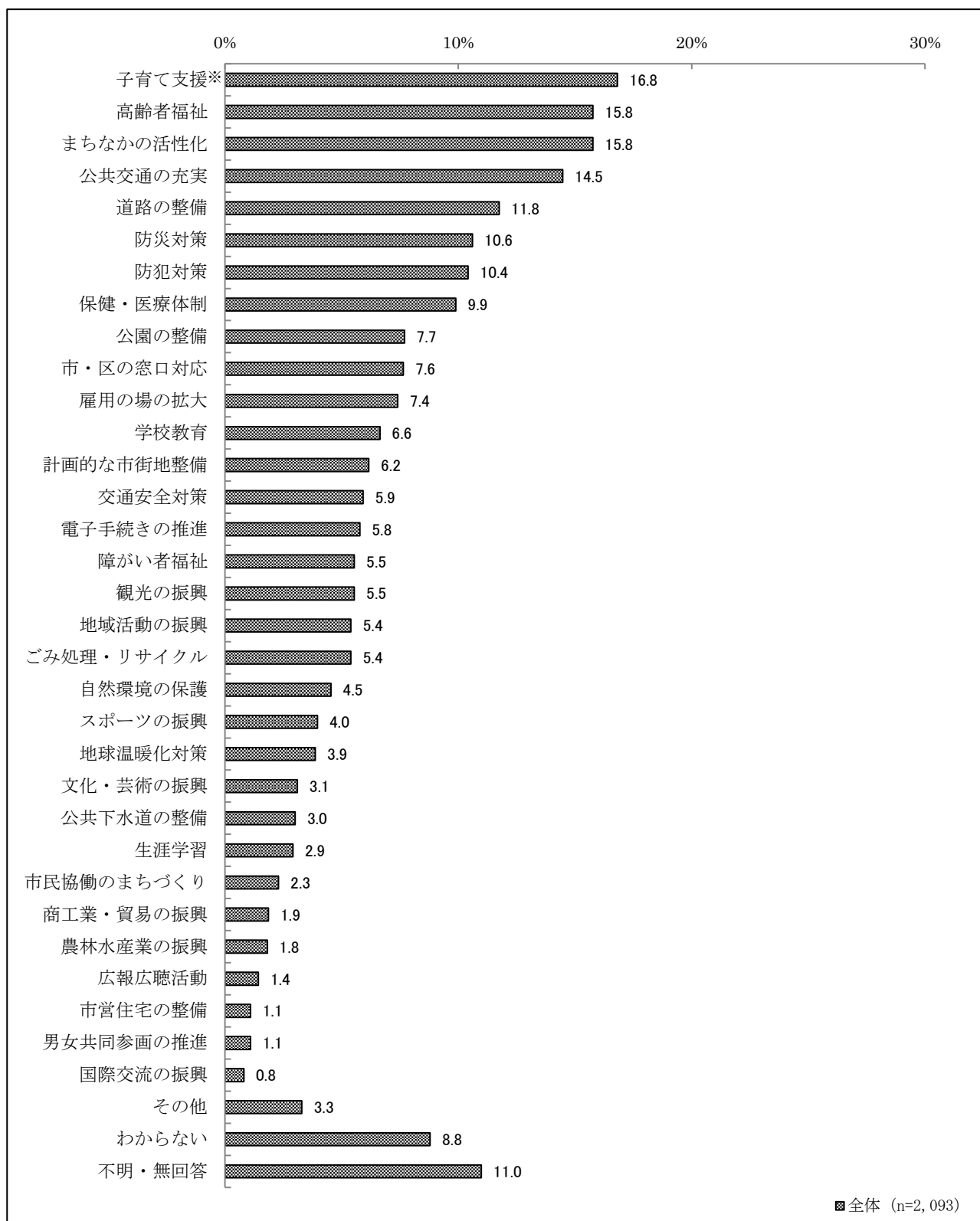
図 6-3 区として良くなっているもの（地区別/性別/年齢別） 6/6





#### (4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて  
 ④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号(1~34)をご記入ください。



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

## — 「子育て支援」、「高齢者福祉」、「まちなかの活性化」がトップ3 —

### 【全体結果】

区として今後もっと力を入れてほしいものは、「子育て支援」(16.8%)、次いで「高齢者福祉」(15.8%)、「まちなかの活性化」(15.8%)の順で続く。

### 【属性別結果】(次ページ図 6-4 参照)

#### ① 地区別

全体結果で割合が最も高かった「子育て支援」は、東区(20.8%)で割合が高く、2割を超えた。「まちなかの活性化」は、秋葉区(24.2%)、中央区(21.9%)で割合が高く2割を超えた。

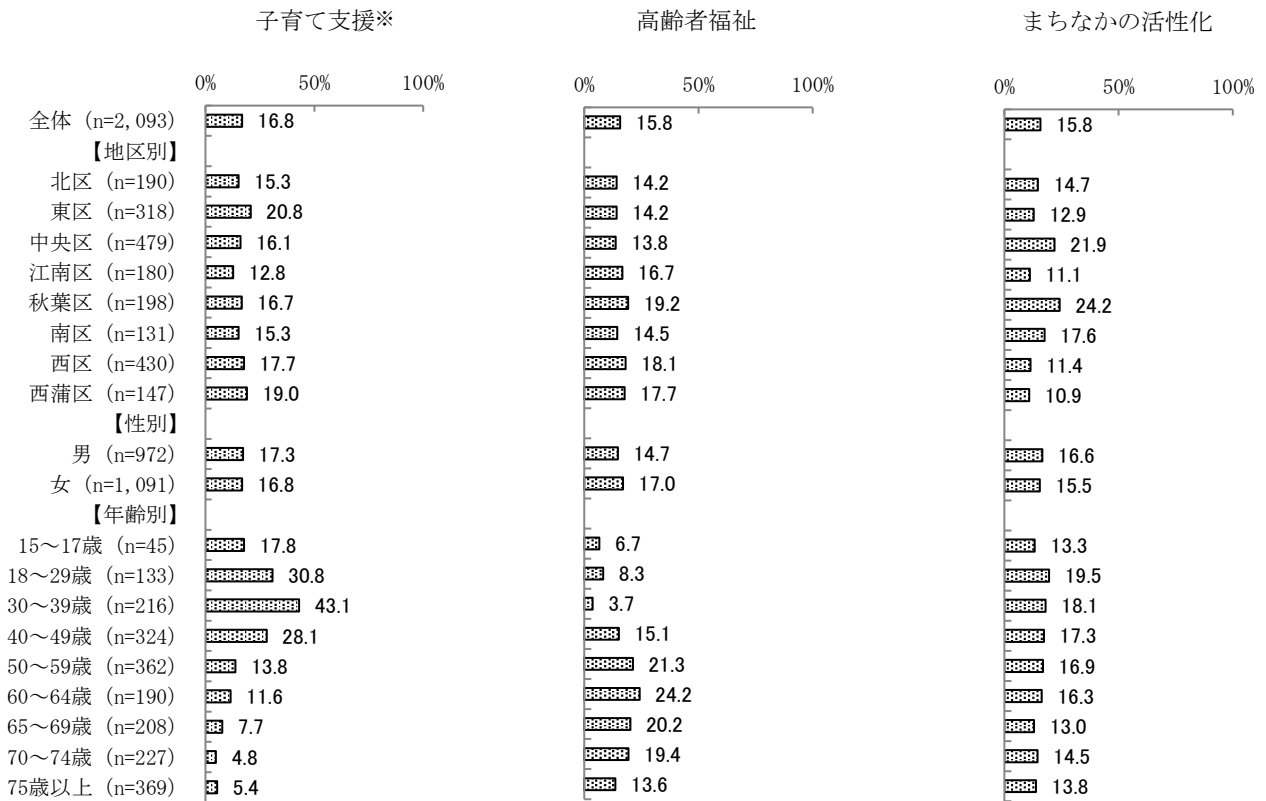
#### ② 性別

「道路の整備」は、女性(8.8%)と比較して男性(15.2%)で割合が高く差がみられた。

#### ③ 年齢別

「子育て支援」は、30～39歳(43.1%)で割合が最も高く、4割を超えた。「高齢者福祉」は60～64歳(24.2%)で最も割合が高く、次いで50～59歳(21.3%)、65～69歳(20.2%)の順で高く、いずれも2割を超えた。

図 6-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 1/6



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

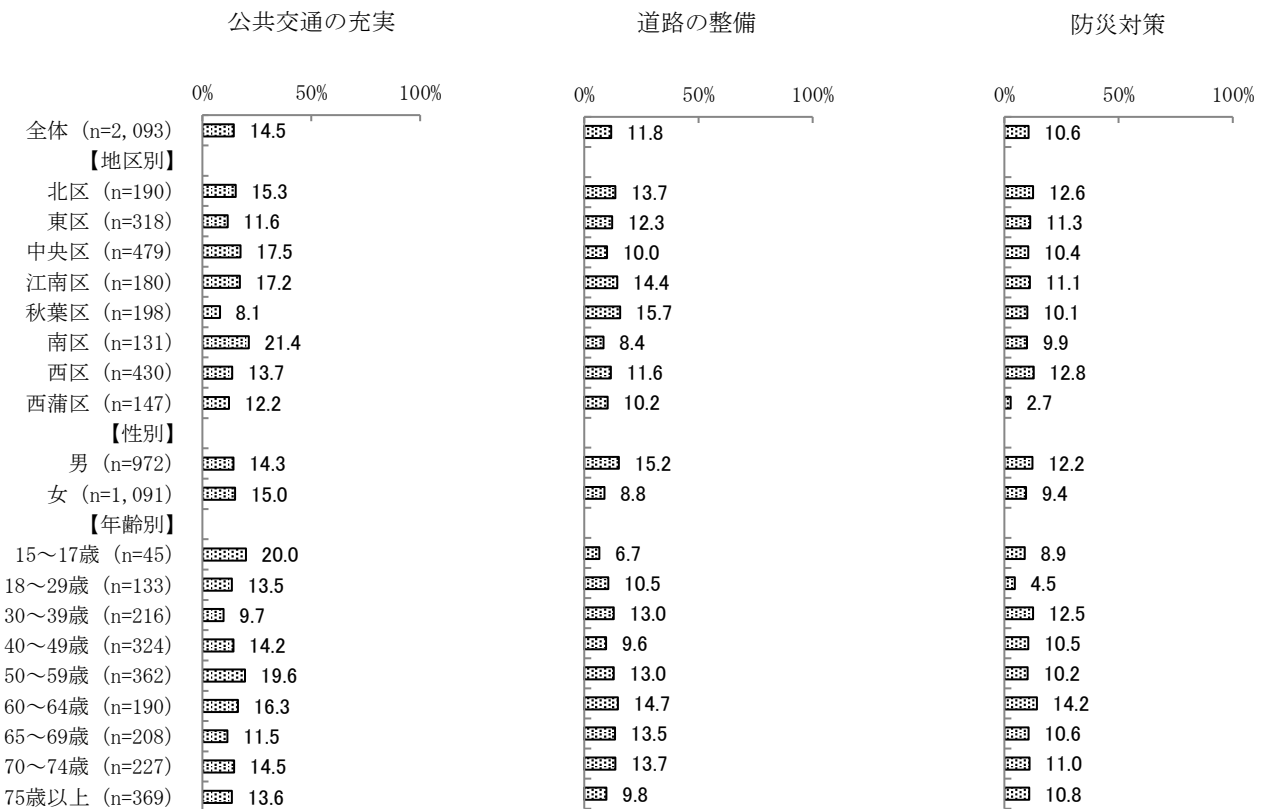


図 6-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 2/6

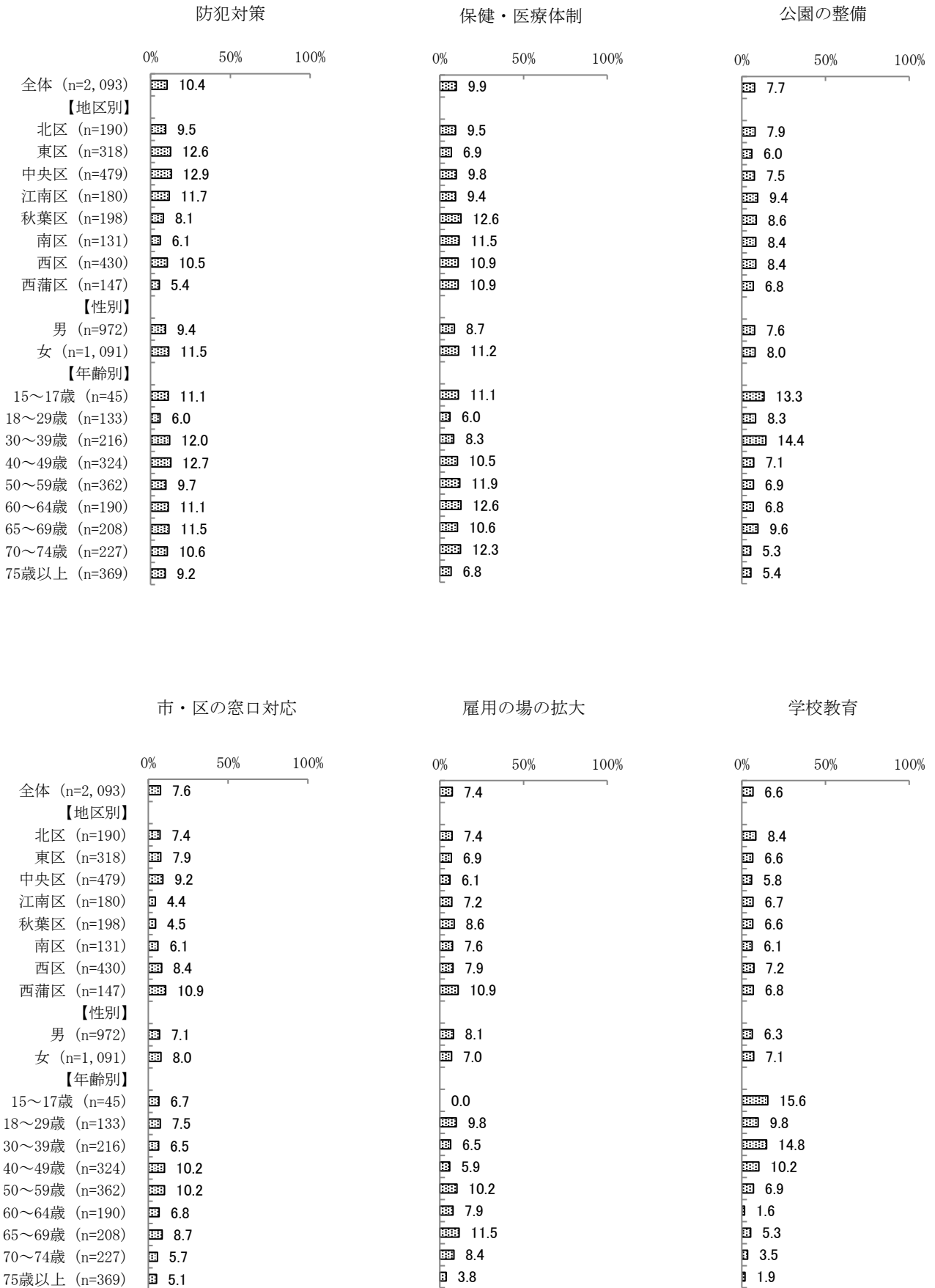


図 6-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 3/6

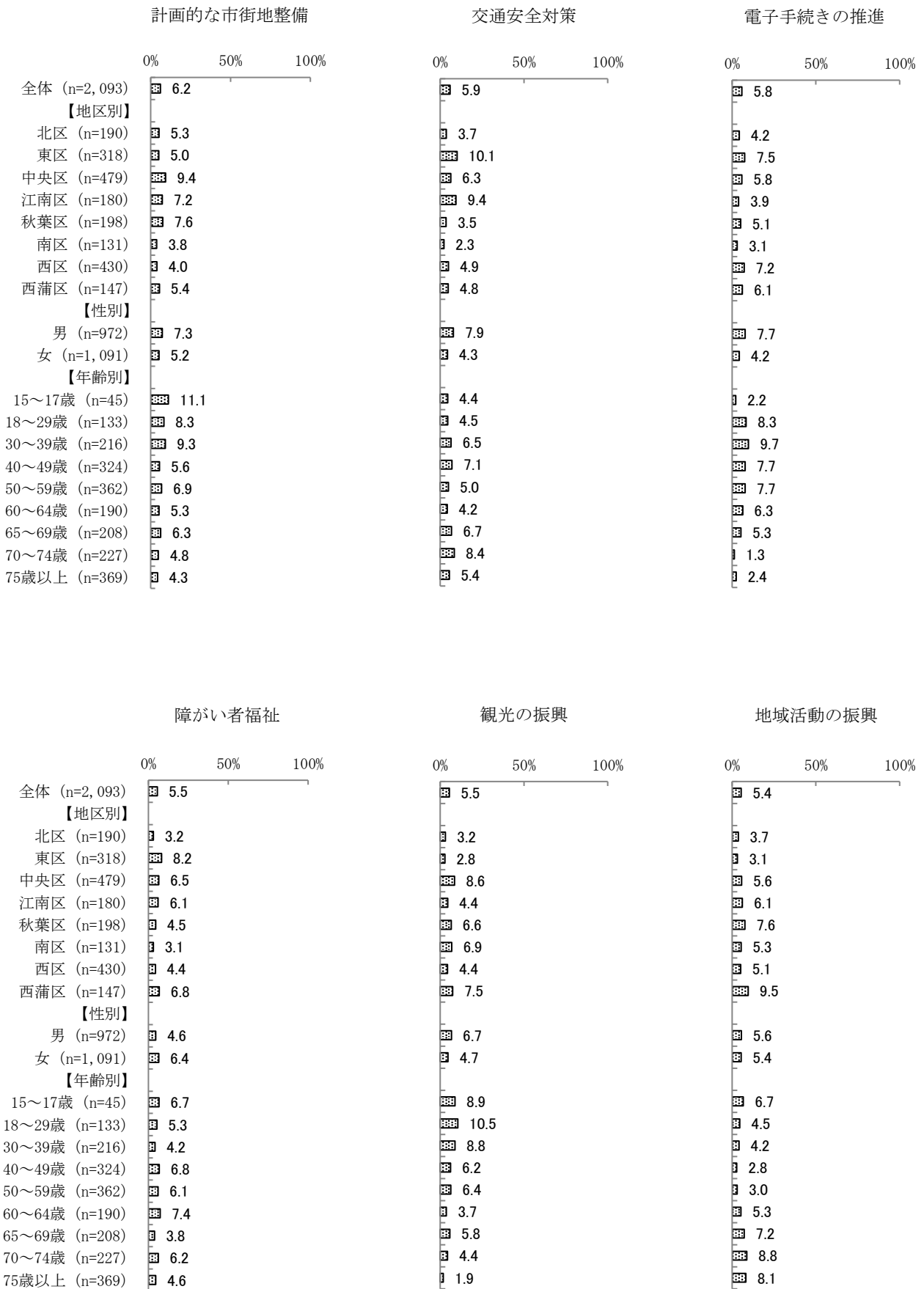


図 6-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 4/6

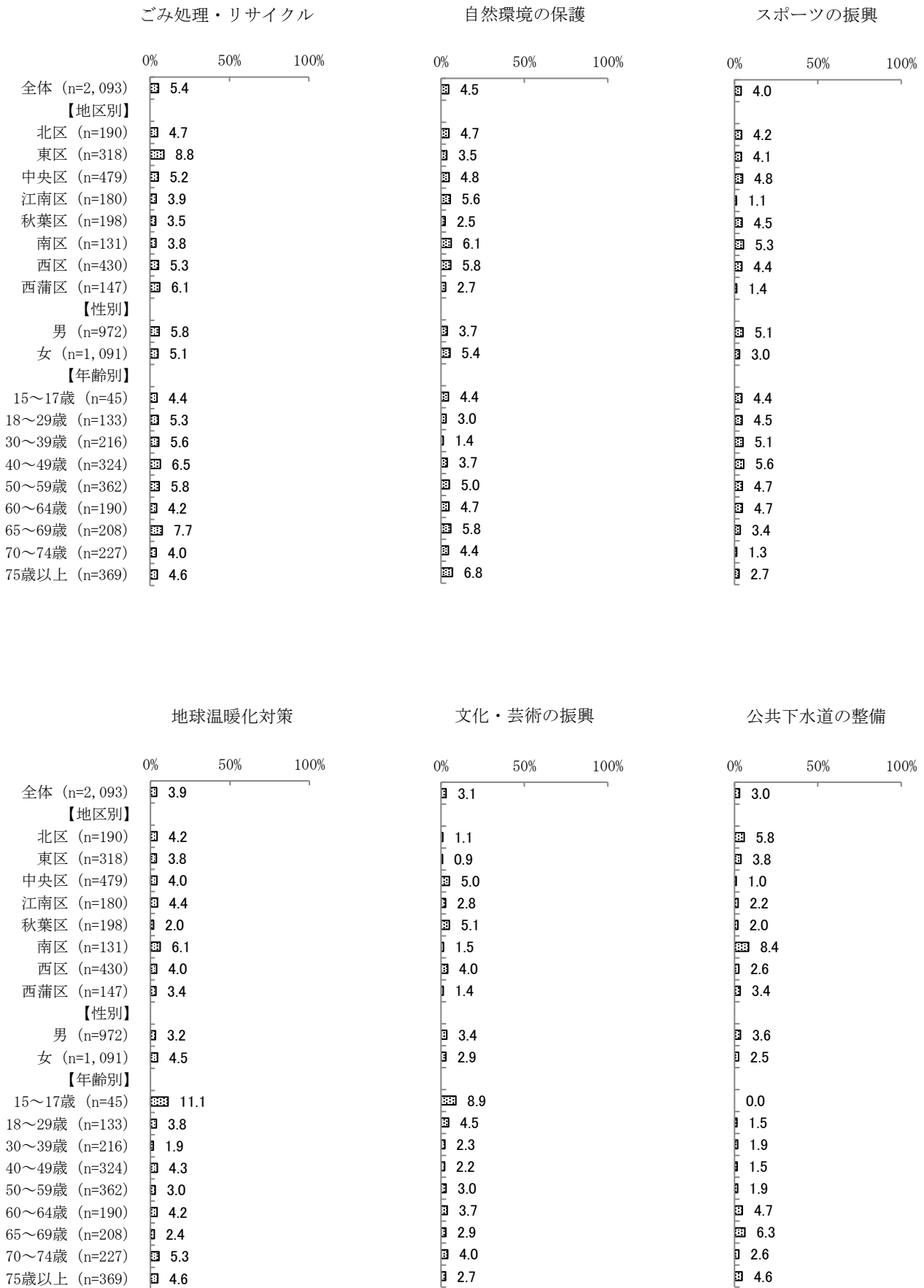


図 6-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 5/6

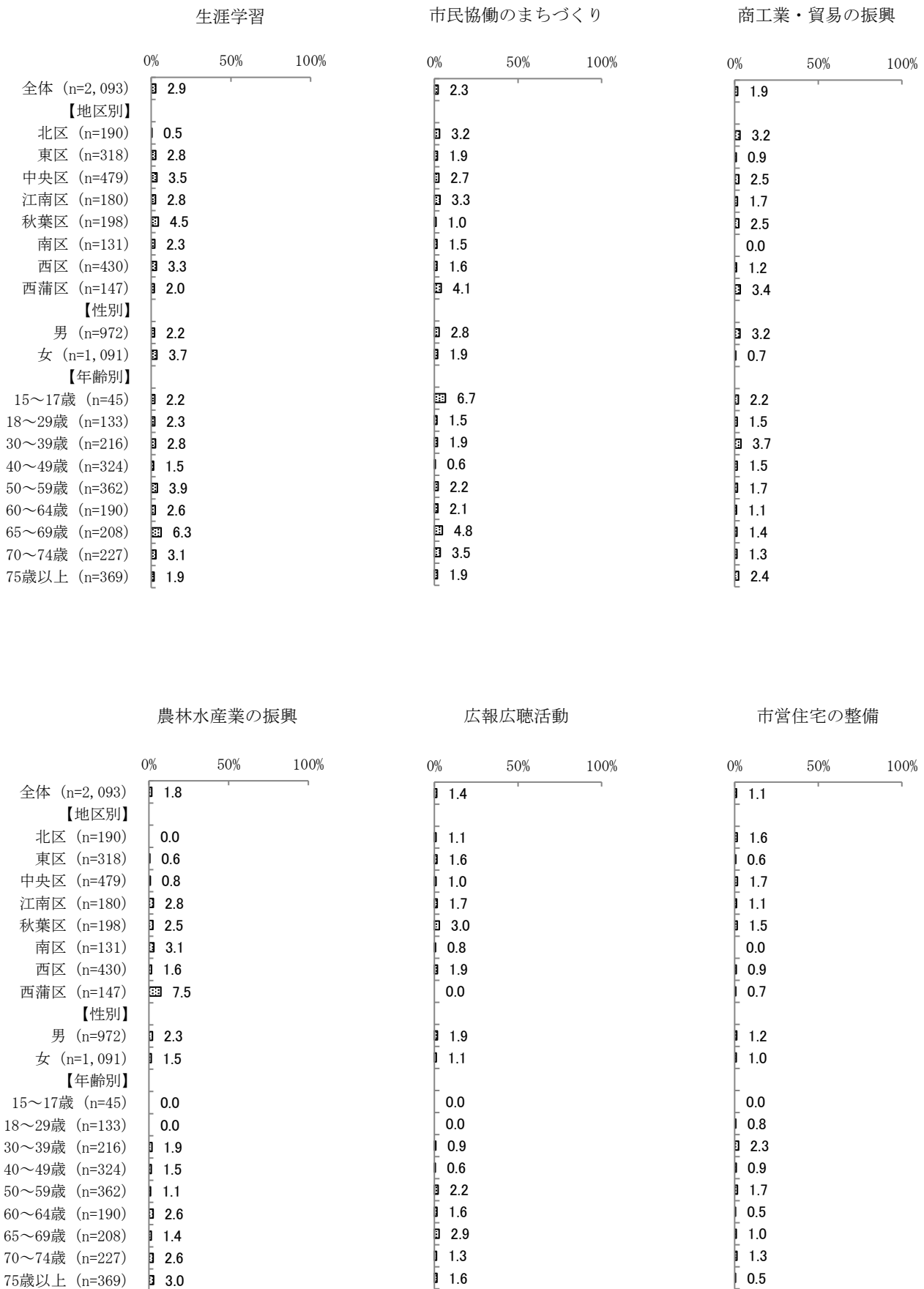
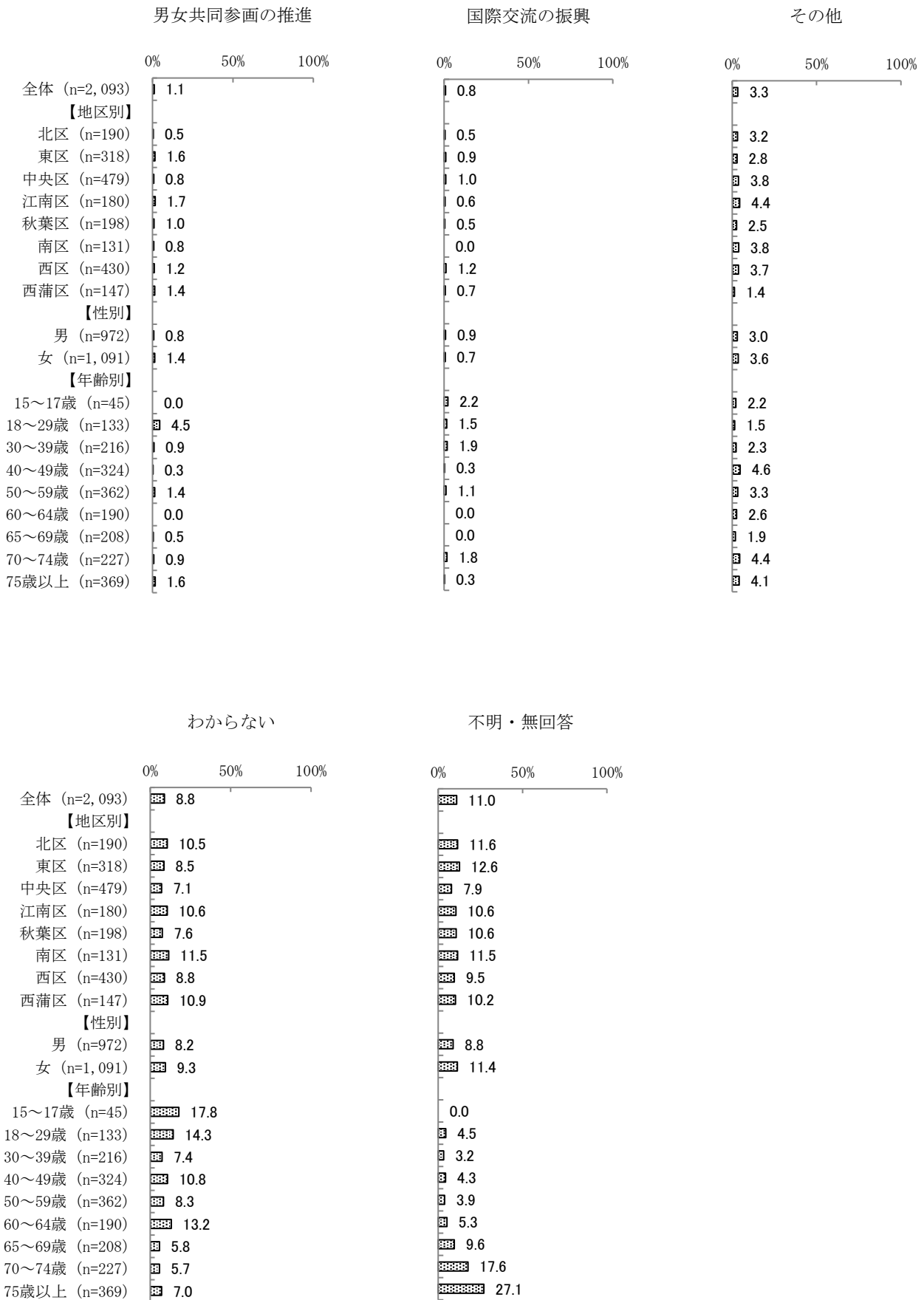


図 6-4 区として今後もっと力を入れてほしいもの（地区別/性別/年齢別） 6/6





### Ⅲ 調査票様式

# 令和5年度 第50回市政世論調査

## 「新潟市政に関する世論調査」ご協力のお願い

市民の皆さまには、日頃より市政に対してのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。  
新潟市では、市民の皆さまの市政に対する意識・満足度などをお聞きし、市政の参考としていくために「市政世論調査」を実施しております。

この調査は、新潟市内にお住まいの15歳以上の方の中から無作為に4,000人の方をお選びし、お願いすることになりました。

お答えいただいた結果は、統計的な数値として集計する以外には使用せず、個人のお名前が出ることや調査対象者の名簿、個人を特定できる回答内容が外部に漏れることはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、お答えいただきますようお願いいたします。

令和5年8月10日

新潟市長 中原 八一

### ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、あて名のご本人がご記入ください。  
(無記名式ですので、氏名・住所の記入の必要はありません。)
2. 特にことわりのない限り、全ての質問にお答えください。  
該当者にだけお答えいただく質問もあります。その場合は、案内が示してありますので、それに従ってお答えください。
3. 回答は、あてはまる項目の番号に○をつけてください。  
「その他」を選んだ場合には具体的な内容をご記入ください。
4. 質問文の後に(○は1つだけ)(○は3つまで)などのことわり書きがあります。これはお答えいただく数を意味します。
5. この調査は、回答者を無作為で抽出しているため、あて名のご本人の様子がわかりません。万一、ご病気などでお答えいただけない場合は、回答の必要はございません。
6. 調査内容で不明な点などがございましたら、以下にお問い合わせください。  
新潟市市民生活部 広聴相談課 電話025-226-2094(直通)

◎回答は令和5年8月31日(木)までにお願ひします。  
郵送の場合、切手は不要です。また、お名前を記入する必要もありません。

本アンケートは、インターネットでもご回答いただけます。

次のアドレスまたは、右のQRコードからアンケート画面へお入りください。

アドレス <https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/niigata/yoron/>

最初に表示される入力欄に以下のIDを入力してお答えください。

※このIDは、重複回答を防ぐためのものでランダムに設定されています。  
個人を特定するものではありません。



※インターネットからご回答いただく場合、本調査票の返信は不要です。

## 【新潟市子ども条例について】

新潟市は、令和4年4月より、子どもが持っている固有の権利を明確にし、これを守るおとなの責務を定めた「新潟市子ども条例」を施行し、「すべての子どもが豊かな子ども期を過ごすことができるまち」を目指し取組を進めています。そこで、あなたの考えをお聞きます。

問1 あなたは「新潟市子ども条例」を知っていますか。（○は1つだけ）

- 1 内容まで知っている
- 2 知っている（聞いたことがある）
- 3 知らない

問2 あなたのお子さんや周りのお子さん（18歳未満の方が回答する場合は「あなた自身」）について、日々の生活のなかで、以下の子どもの権利は守られていると思いますか。（○はいくつでも）

- 1 安心して生きる権利（いじめ、体罰、虐待などで心身を傷つけられない など）
- 2 豊かに生き、育つ権利（学び、遊び、自由な方法で表現する など）
- 3 自分らしく生きる権利（個人として尊重され、他者との違いが認められる など）
- 4 身近なおとなに思いや願いを受け止めてもらえる権利（自分の思いや願いを自由に表明できる など）
- 5 社会に参加する権利（自分の意見が活かされる機会を与えられる など）
- 6 守られているものはない
- 7 その他（ ）
- 8 わからない

問3 あなたのお子さんや周りのお子さんについて、お子さんの考えや意見を理解し、尊重して（18歳未満の方が回答する場合は、「あなた自身の考えや意見が、理解され、尊重されて」）いると思いますか。

「よく理解し（され）、尊重し（され）ている」を「5」とする5段階評価で、一番あてはまるものを1つだけ選択してください。

- |   |      |                     |
|---|------|---------------------|
| 5 | よく   | 理解し（され）、尊重し（され）ている  |
| 4 | まあまあ | 理解し（され）、尊重し（され）ている  |
| 3 | ふつうに | 理解し（され）、尊重し（され）ている  |
| 2 | あまり  | 理解し（され）、尊重し（され）ていない |
| 1 | ほとんど | 理解し（され）、尊重し（され）ていない |

問4 子どもを取り巻く課題として重要だと思うものは何ですか。  
(○はいくつでも)

- 1 子どもの自己肯定感
- 2 家庭環境
- 3 教育・進学
- 4 地域とのつながり
- 5 社会的自立
- 6 保護者への支援
- 7 SNSやインターネット、ゲーム
- 8 ひきこもり・不登校
- 9 いじめ
- 10 犯罪・非行
- 11 児童虐待
- 12 子どもの貧困・生活上の困難
- 13 重要なものはない
- 14 その他 ( )
- 15 わからない

問5 子どもの権利を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)

- 1 児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる
- 2 他人への思いやりの心をはぐくむ
- 3 子どものための相談や支援体制を充実させる
- 4 子どもに対する犯罪の取り締まりを強化する
- 5 親（保護者）や先生などまわりのおとなが、子どもの権利をよく理解する
- 6 子ども権利について、いろいろな場所で広報する
- 7 進路などで子どもの意思を大切にする
- 8 必要なものはない
- 9 その他 ( )
- 10 わからない

## 【新潟市の公共施設のこれからについて】

新潟市では、公共施設を、皆さまに利用しやすかつ、長期的に維持していくための見直しを行っています。そこで皆さまの公共施設の利用の仕方や、公共施設に対する考え方についてお聞きします。

問6 あなたは新潟市が所有する以下の公共施設について、最近1年間（R4.4～R5.3）にどのくらいの頻度で利用しましたか。また、利用する時は、主にどのような交通手段を使用しましたか。

施設種類	①年間の利用頻度 ※一番近いものに「○」を付けてください。				②主な交通手段 ※①で「4 利用していない」を選んだ場合は記入不要。			
	1 毎週	2 月に数回	3 年に数回	4 利用していない	1 車・バイク	2 徒歩・自転車	3 バス・電車	4 タクシー
A. ホール施設 新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ） 新潟勤労者総合福祉センター（新潟テルサ） 音楽文化会館、各区の文化会館 など	1	2	3	4	1	2	3	4
B. コミュニティ系施設 公民館、コミュニティセンター（ハウス） 市民会館、農村環境改善センター など	1	2	3	4	1	2	3	4
C. 美術館・博物館・資料館 新潟市美術館、新津美術館 歴史博物館、燕喜館、新津鉄道資料館 など	1	2	3	4	1	2	3	4
D. 生涯学習施設・図書館・図書室 生涯学習センター、新津地域学園 潟東ゆう学館、各地区図書館 など	1	2	3	4	1	2	3	4
E. スポーツ施設 体育館、プール、野球場、サッカー場 テニスコート、ゲートボール場 など	1	2	3	4	1	2	3	4
F. レク施設（観光・キャンプ場） 新潟市水族館（マリニピア日本海） 食育・花育センター、動物ふれあいセンター など	1	2	3	4	1	2	3	4
G. 子育て支援施設 児童館、地域子育て支援センター など	1	2	3	4	1	2	3	4
H. 高齢者福祉施設 老人憩の家、老人福祉センター など	1	2	3	4	1	2	3	4
I. 区役所・出張所（連絡所）	1	2	3	4	1	2	3	4

問7 あなたは、新潟市の公共施設に関する以下のことについて聞いたことがありますか。  
(○はいくつでも)

- 1 新潟市の人口が今後 30 年間で大幅に減少することが見込まれている
- 2 人口 1 人あたりの公共施設面積が政令指定都市で最大である（公営住宅を除く）
- 3 今後一斉に大規模改修や建て替えの時期を迎える
- 4 施設を現状のまま（施設数・規模）で改修や建て替えを行うには、多額の費用が見込まれる
- 5 公共施設は使用（利用）料金だけでは運営できない
- 6 人口規模や市民が求めるサービス機能に見合った施設に見直すことで、公共施設のコスト増加をなるべく少なくし、持続可能な公共施設運営を目指す取り組みを行っている
- 7 この中に聞いたことがあるものはない

【参考 HP】公共施設の課題や現状の詳細については、以下の HP でご覧いただけます。

国立社会保障・人口問題研究所：<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>

新潟市財産経営推進計画：<https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/zaisan/zaikeisuishin/suishinkeikaku.html>

新潟市財産白書：<https://www.city.niigata.lg.jp/shisei/zaisan/zaikeikisoshiryohakusyo.html>

問8 新潟市の公共施設を維持していくために、どのように取り組んでいくべきだと思いますか。  
A～Eの各取り組みに対して、どう思うかそれぞれ○をつけてください。

A 一つの施設で複数のサービスを提供する形にして、施設数を減らすことで改修などの費用を抑える。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

B 施設数は現状のまま維持し、施設の規模を利用状況にあわせて小規模に見直すことで、改修などの費用を抑える。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

C 使用（利用）料金を上げるなど収入を増やし、改修費などに充てることで今ある施設を維持する。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

D 利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

E 今ある施設は、他の予算を削ってでも、そのままの規模で維持していく。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

問9 あなたが以下の目的で公共施設を利用する場合に、自宅からどのくらいの範囲までならその施設を利用しますか。A～Eについて、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

利用目的	小学校区内	中学校区内	各区内 (例：東区)	新潟市内	市外
A. サークル活動・自己啓発 (趣味、セミナー、読書など)	1	2	3	4	5
B. 芸術・音楽鑑賞	1	2	3	4	5
C. スポーツ・運動	1	2	3	4	5
D. 友人・知人との居場所	1	2	3	4	5
E. 親子（主に乳幼児）の居場所	1	2	3	4	5



## 【音楽とのかかわりについて】

新潟市は「スポーツと音楽都市」として、これからの様々な音楽の取り組みについて検討しています。そこであなたの音楽とのかかわりなどについてお聞きします。

問10 あなたは、音楽にふれていますか（〇はいくつでも）

- 1 演奏（歌唱を含む）している
- 2 演奏会に行っている
- 3 日常的に音楽を聴いている
- 4 音楽活動の運営に参加している
- 5 音楽には興味がない
- 6 その他（ ）
- 7 ふれていない ※7を選んだ方は問12へ

問11 どんな音楽にふれていますか（〇はいくつでも）

- 1 クラシック
- 2 ポップス・ロック
- 3 ジャズ
- 4 歌謡曲・演歌
- 5 アニメソング
- 6 邦楽・民族音楽（琴・三味線・尺八・雅楽など）
- 7 その他（ ）
- 8 わからない

問12 市内には様々な文化施設があります。文化施設での公演により、音楽に関する環境が満たされていると感じますか。（〇は1つだけ）

- 1 十分である
- 2 十分でない
- 3 わからない

問13 「スポーツと音楽都市」として新潟市の音楽に関する環境を充実させるために、何が  
必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 まちなかに音楽が流れている
- 2 まちなかで演奏できる
- 3 音楽活動ができる施設・場所
- 4 子どもが音楽に親しむ機会の充実
- 5 演奏家の活動への支援
- 6 地元演奏家の活躍の場
- 7 著名な演奏家の公演
- 8 情報・広報の充実
- 9 大型(多額の予算)イベント
- 10 小規模なイベント
- 11 ボランティアなどの活躍の場
- 12 その他( )
- 13 特にない
- 14 わからない

問14 音楽とともに楽しみたいものはありますか。(○はいくつでも)

- 1 美術
- 2 食事(屋内)
- 3 食事(屋外)
- 4 踊り・ダンス
- 5 映像
- 6 その他( )
- 7 特にない
- 8 わからない

## 【こころの健康について】

新潟市では、「新潟市自殺総合対策行動計画」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指した取組を進めています。そこで、日頃の不安や悩みなどについて感じていることをお聞きします。

問15 あなたは、この1ヶ月の間に、日常生活で悩みやストレスを感じたことがありましたか。  
(○は1つだけ)

- 1 大いにある
- 2 多少ある
- 3 あまりない
- 4 まったくない

問16 問15で「大いにある」、「多少ある」とお答えになった方にお聞きします。  
それは、どのような事が原因ですか。(○はいくつでも)

- 1 家庭問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など）
- 2 勤務問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など）
- 3 健康問題（身体の病気、心の病気、怪我など）
- 4 経済的な問題（借金、失業、事業不振など）
- 5 交際関係の問題（恋愛、結婚をめぐる悩みなど）
- 6 学校の問題（学業不振、人間関係、いじめなど）
- 7 その他（）
- 8 わからない

問17 あなたは、最近1年以内に、死にたいと思ったことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

問18 あなたは、悩みがあるときや死にたいと思ったときなど、誰に相談しますか。  
(○はいくつでも)

- 1 家族・親族
- 2 友人・恋人
- 3 SNS上でつながりのある友人・知人
- 4 公的機関の相談員
- 5 その他 ( )
- 6 誰にも相談しない・誰に相談すればよいかわからない

問19 あなたは、相談機関を知っていますか。知っている・聞いたことがある相談機関を選んでください。(○はいくつでも)

- 1 新潟市こころの健康センター
- 2 新潟市教育相談センター・各区教育支援センター
- 3 新潟市若者支援センター「オール」
- 4 新潟市こころといのちのホットライン・新潟県こころの相談ダイヤル
- 5 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」相談室
- 6 新潟市社会福祉協議会心配ごと相談所
- 7 この中に知っているものはない

## 【空き家について】

人口減少や少子高齢化などを背景に全国的に空き家が増加しています。空き家が老朽化した場合、倒壊や部材の飛散などの危険性が高まるほか、草木の繁茂や動物の棲みつきなど衛生的な環境悪化や景観の悪化につながるおそれがあります。そこであなたの考えをお聞きします。

問20 あなたは、地域の空き家を今後どうしていくべきだと思いますか。  
(○はいくつでも)

- 1 所有者に対して空き家の適切な管理を促す
- 2 売買や賃貸化などにより、住宅としてそのまま活用する
- 3 空き家を解体して、土地を売却・活用する
- 4 住宅以外の用途（交流施設、福祉施設など）で活用する
- 5 所有者から管理料を徴収するなどして、地域で空き家を管理する
- 6 その他（ )
- 7 わからない

問21 あなたは、市で行われている空き家対策の取り組みについて知っていますか。  
(○はいくつでも)

- 1 空き家問題に関する周知・啓発パンフレットの配布（区役所など）
- 2 市のホームページによる空き家対策に関する情報発信
- 3 出前講座（市政さわやかトーク）での空き家に関する周知・啓発
- 4 空き家無料相談会の開催
- 5 空き家の購入やリフォームへの助成
- 6 自治会などが行う空き家活用への助成
- 7 問題のある空き家の所有者への情報提供・注意喚起など
- 8 その他（ )
- 9 知らない

問22 あなたは、空き家問題を解決するために、市の空き家対策としてどのようなことが必要であると思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 空き家に関するさまざまな情報提供など情報発信の強化
- 2 空き家を所有・管理している人の意識改革
- 3 空き家を所有・管理している人が専門家に相談できる環境の整備
- 4 空き家活用の助成制度の充実
- 5 空き家問題に取り組む民間団体の増加
- 6 問題のある空き家の所有者への情報提供・注意喚起などの強化
- 7 1～6及びその他の対策の具体例など、ご意見があればお聞かせください  
( )
- 8 特にない・わからない

問23 あなたは、様々な理由で誰もが空き家の所有者(管理者)になる可能性があることを知っていますか。  
(例. 親族からの相続や親の介護施設などへの入所に伴う実家の空き家化など)

- 1 はい
- 2 いいえ

問24 ご自身やご家族が所有している住宅が、将来空き家にならないように家族と話し合ったり、ご自身で考えたりしたことがありますか。また、2～4を選んだ方は、家族で話し合ったり、自分で考えたりしていない理由をお答えください。(〇は1つだけ)

- 1 家族で話し合ったこともあり、自分でも考えている
- 2 家族で話し合ったことはないが、自分でも考えている
- 3 自分では考えていないが、家族で話し合ったことはある
- 4 自分で考えたことも、家族で話し合ったこともない
- 5 自身や家族が所有する住宅がない

≪上記の2～4を選んだ方≫

家族で話し合ったり、自分で考えたりしていない理由は何ですか。

## 【市政全般と区政について】

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

- ①「新潟市として良くなっているもの」
- ②「新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの」
- ③「区として良くなっているもの」
- ④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」

を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号（1～34）をご記入ください。

1 市・区の窓口対応	13 スポーツの振興	25 交通安全対策
2 電子手続きの推進	14 文化・芸術の振興	26 学校教育
3 地域活動の振興	15 農林水産業の振興	27 生涯学習
4 防災対策	16 商工業・貿易の振興	28 市営住宅の整備
5 防犯対策	17 雇用の場の拡大	29 広報広聴活動
6 子育て支援	18 観光の振興	30 国際交流の振興
7 高齢者福祉	19 まちなかの活性化	31 市民協働のまちづくり
8 障がい者福祉	20 公共交通の充実	32 男女共同参画の推進
9 保健・医療体制	21 計画的な市街地整備	33 その他
10 ごみ処理・リサイクル	22 公園の整備	34 わからない
11 地球温暖化対策	23 道路の整備	
12 自然環境の保護	24 公共下水道の整備	

回答欄（1～34までの番号を記入してください）

① 新潟市として良くなっているもの	1～34までの番号を3つまで記入してください		
「33（その他）」にご回答された方は具体的に内容をお聞かせください			
② 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの	1～34までの番号を3つまで記入してください		
「33（その他）」にご回答された方は具体的に内容をお聞かせください			
③ 区として良くなっているもの	1～34までの番号を3つまで記入してください		
「33（その他）」にご回答された方は具体的に内容をお聞かせください			
④ 区として今後もっと力を入れてほしいもの	1～34までの番号を3つまで記入してください		
「33（その他）」にご回答された方は具体的に内容をお聞かせください			

## 【ご自身のことについて】

調査結果を統計的に分析するために必要なことをお聞きします。

F 1 あなたのお住まいは何区ですか。

- 1 北区
- 2 東区
- 3 中央区
- 4 江南区
- 5 秋葉区
- 6 南区
- 7 西区
- 8 西蒲区

F 2 あなたの性別を教えてください。

- 1 男
- 2 女
- 3 その他

F 3 あなたの年齢を教えてください。

- 1 15～17歳
- 2 18～29歳
- 3 30～39歳
- 4 40～49歳
- 5 50～59歳
- 6 60～64歳
- 7 65～69歳
- 8 70～74歳
- 9 75歳以上



F4 あなたのご職業を教えてください。  
※複数のご職業をお持ちの方は、主なものを1つだけお選びください。

- 1 勤め人（パートも含む）
- 2 自営業（農林水産業を含む）
- 3 会社役員（団体役員などを含む）
- 4 学生（高校・専修学校などを含む）
- 5 家事専業
- 6 無職（学生、家事専業を除く）
- 7 その他（ )

F5 あなたの世帯の家族構成は、次のうちどれにあたりますか。

- 1 単身
- 2 夫婦のみ
- 3 2世代世帯（親と子）
- 4 3世代世帯（親と子と孫）
- 5 その他（ )



調査は以上で終了です  
ご協力ありがとうございました



◎郵送の場合は、同封の返信用封筒に入れて令和5年8月31日（木）までに、郵便ポストへご投函ください。切手は不要です。また、お名前を記入する必要もありません。ご協力のほどよろしくお願いたします。

**第50回 市政世論調査**

**(令和5年度)**

発行：令和5年10月

発行者：新潟市市民生活部広聴相談課

〒951-8550

新潟県新潟市中央区学校町通1番町602番地1

電話：025-226-2094